

お客様各位

カタログ等資料中の旧社名の扱いについて

2010年4月1日を以ってNECエレクトロニクス株式会社及び株式会社ルネサステクノロジが合併し、両社の全ての事業が当社に承継されております。従いまして、本資料中には旧社名での表記が残っておりますが、当社の資料として有効ですので、ご理解の程宜しくお願ひ申し上げます。

ルネサスエレクトロニクス ホームページ (<http://www.renesas.com>)

2010年4月1日
ルネサスエレクトロニクス株式会社

【発行】ルネサスエレクトロニクス株式会社 (<http://www.renesas.com>)

【問い合わせ先】<http://japan.renesas.com/inquiry>

ご注意書き

1. 本資料に記載されている内容は本資料発行時点のものであり、予告なく変更することがあります。当社製品のご購入およびご使用にあたりましては、事前に当社営業窓口で最新の情報をご確認いただきますとともに、当社ホームページなどを通じて公開される情報に常にご注意ください。
2. 本資料に記載された当社製品および技術情報の使用に関連し発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権の侵害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
3. 当社製品を改造、改変、複製等しないでください。
4. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。お客様の機器の設計において、回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因しお客様または第三者に生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
5. 輸出に際しては、「外国為替及び外国貿易法」その他輸出関連法令を遵守し、かかる法令の定めるところにより必要な手続を行ってください。本資料に記載されている当社製品および技術を大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的その他軍事用途の目的で使用しないでください。また、当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器に使用することができません。
6. 本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したのですが、誤りがないことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。
7. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」、「高品質水準」および「特定水準」に分類しております。また、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使われることを意図しておりますので、当社製品の品質水準をご確認ください。お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途に当社製品を使用することができません。また、お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、意図されていない用途に当社製品を使用することができません。当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途または意図されていない用途に当社製品を使用したことによりお客様または第三者に生じた損害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。なお、当社製品のデータ・シート、データ・ブック等の資料で特に品質水準の表示がない場合は、標準水準製品であることを表します。
標準水準： コンピュータ、OA 機器、通信機器、計測機器、AV 機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット
高品質水準： 輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通用信号機器、防災・防犯装置、各種安全装置、生命維持を目的として設計されていない医療機器（厚生労働省定義の管理医療機器に相当）
特定水準： 航空機器、航空宇宙機器、海底中継機器、原子力制御システム、生命維持のための医療機器（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの、治療行為（患部切り出し等）を行うもの、その他直接人命に影響を与えるもの）（厚生労働省定義の高度管理医療機器に相当）またはシステム等
8. 本資料に記載された当社製品のご使用につき、特に、最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他諸条件につきましては、当社保証範囲内でご使用ください。当社保証範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
9. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めておりますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は耐放射線設計については行っておりません。当社製品の故障または誤動作が生じた場合も、人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせないようお客様の責任において冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、機器またはシステムとしての出荷保証をお願いいたします。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様が製造された最終の機器・システムとしての安全検証をお願いいたします。
10. 当社製品の環境適合性等、詳細につきましては製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
11. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを固くお断りいたします。
12. 本資料に関する詳細についてのお問い合わせその他お気付きの点等がございましたら当社営業窓口までご照会ください。

注 1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサスエレクトロニクス株式会社およびルネサスエレクトロニクス株式会社とその総株主の議決権の過半数を直接または間接に保有する会社をいいます。

注 2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注 1 において定義された当社の開発、製造製品をいいます。



ユーザース・マニュアル

SM plus Ver.1.00

システム・シミュレータ

操作編

対象デバイス
V850シリーズ

資料番号 U16906JJ1V0UM00 (第1版)

発行年月 November 2003 NS CP(K)

© NEC Electronics Corporation 2003

(メモ)

目次要約

第1章	概 要	...	19
第2章	インストラクション	...	23
第3章	起動と終了	...	24
第4章	PM plusとの連携	...	26
第5章	デバッグ機能	...	31
第6章	シミュレーション機能	...	78
第7章	ウィンドウ・レファレンス	...	102
第8章	コマンド・レファレンス	...	380
付録A	拡張ウィンドウ	...	421
付録B	入力規約	...	429
付録C	キー機能一覧	...	434
付録D	メッセージ	...	437
付録E	総合索引	...	473

WindowsおよびWindowsNTは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Pentiumは米国Intel Corp. の商標です。

- 本資料に記載されている内容は2003年11月現在のものです、今後、予告なく変更することがあります。量産設計の際には最新の個別データ・シート等をご参照ください。
- 文書による当社の事前の承諾なしに本資料の転載複製を禁じます。当社は、本資料の誤りに関し、一切その責を負いません。
- 当社は、本資料に記載された当社製品の使用に関連し発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権の侵害等に関し、一切その責を負いません。当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
- 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。お客様の機器の設計において、回路、ソフトウェアおよびこれらに関する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因しお客様または第三者に生じた損害に関し、当社は、一切その責を負いません。
- 当社は、当社製品の品質、信頼性の向上に努めておりますが、当社製品の不具合が完全に発生しないことを保証するものではありません。当社製品の不具合により生じた生命、身体および財産に対する損害の危険を最小限度にするために、冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等安全設計を行ってください。
- 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」、「特別水準」およびお客様に品質保証プログラムを指定していただく「特定水準」に分類しております。また、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使われることを意図しておりますので、当社製品の品質水準をご確認ください。

標準水準：コンピュータ、OA機器、通信機器、計測機器、AV機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット

特別水準：輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通用信号機器、防災・防犯装置、各種安全装置、生命維持を目的として設計されていない医療機器

特定水準：航空機器、航空宇宙機器、海底中継機器、原子力制御システム、生命維持のための医療機器、生命維持のための装置またはシステム等

当社製品のデータ・シート、データ・ブック等の資料で特に品質水準の表示がない場合は、標準水準製品であることを表します。意図されていない用途で当社製品の使用をお客様が希望する場合には、事前に当社販売窓口までお問い合わせください。

(注)

- (1) 本事項において使用されている「当社」とは、NECエレクトロニクス株式会社およびNECエレクトロニクス株式会社がその総株主の議決権の過半数を直接または間接に保有する会社をいう。
- (2) 本事項において使用されている「当社製品」とは、(1)において定義された当社の開発、製造製品をいう。

[メモ]

はじめに

対象者 このマニュアルはV850シリーズの各製品の応用システムを設計、開発するユーザを対象としています。

目的 このマニュアルは、次の構成に示すSM plusの機能をユーザに理解していただくことを目的としています。

構成 このマニュアルは、次の内容で構成されています。

- ・概要
- ・インストレーション
- ・起動と終了
- ・PM plus との連携
- ・デバッグ機能
- ・シミュレーション機能
- ・ウィンドウ・レファレンス
- ・コマンド・レファレンス

読み方 このマニュアルの読者には、電気、論理回路、マイクロコンピュータ、C 言語、アセンブラに関する一般知識を必要とします。

ウィンドウ/ダイアログの機能詳細について知りたいとき

第7章 ウィンドウ・レファレンスをお読みください。

コマンドの機能詳細について知りたいとき

第8章 コマンド・レファレンスをお読みください。

メッセージの意味、原因などを知りたいとき

付録D メッセージをお読みください。

関連資料 このマニュアルを使用する場合は、次の資料もあわせてご覧ください。

関連資料は暫定版の場合がありますが、この資料では「暫定」の表示をしておりません。あらかじめご了承ください。

(1/2)

資料名	資料番号	
	和文	英文
IE-703002-MC (V853TM, V850/SA1TM, V850/SB1TM, V850/SB2TM, V850/SC1TM, V850/SC2TM, V850/SC3TM, V850/SF1TM, V850/SV1TM 用インサーキット・エミュレータ)	U11595J	U11595E
IE-V850E-MC (V850E/IA1TM, V850E/IA2TM 用インサーキット・エミュレータ), IE-V850E-MC-A (V850E/MA1TM, V850E/MA2TM 用インサーキット・エミュレータ)	U14487J	U14487E
IE-703003-MC-EM1 (V853 用インサーキット・エミュレータ・オプション・ボード)	U11596J	U11596E
IE-703017-MC-EM1 (V850/SA1 用インサーキット・エミュレータ・オプション・ボード)	U12898J	U12898E
IE-703037-MC-EM1 (V850/SB1, V850/SB2 用インサーキット・エミュレータ・オプション・ボード)	U14151J	U14151E
IE-703040-MC-EM1 (V850/SV1 用インサーキット・エミュレータ・オプション・ボード)	U14337J	U14337E

資料名	資料番号		
	和文	英文	
IE-703079-MC-EM1 (V850/SF1 用インサーキット・エミュレータ・オプション・ボード)	U15447J	U15447E	
IE-703089-MC-EM1 (V850/SC1,V850/SC2,V850/SC3用インサーキット・エミュレータ・オプション・ボード)	U15776J	U15776E	
IE-703102-MC (V850E/MS1TM, V850E/MS2TM 用インサーキット・エミュレータ)	U13875J	U13875E	
IE-703102-MC-EM1, IE-703102-MC-EM1-A (V850E/MS1, V850E/MS2 用インサーキット・エミュレータ・オプション・ボード)	U13876J	U13876E	
IE-703107-MC-EM1 (V850E/MA1 用インサーキット・エミュレータ・オプション・ボード)	U14481J	U14481E	
IE-703114-MC-EM1 (V850E/IA2用インサーキット・エミュレータ・オプション・ボード)	U16533J	U16533E	
IE-703116-MC-EM1 (V850E/IA1 用インサーキット・エミュレータ・オプション・ボード)	U14700J	U14700E	
IE-V850ES-G1 (850ES用インサーキット・エミュレータ)	U16313J	U16313E	
IE-703217-G1-EM1 (850ES/KF1, V850ES/KG1, V850ES/KJ1用インサーキット・エミュレータ・エミュレーション・ボード)	U16594J	U16594E	
IE-703204-G1-EM1 (850ES/SA2, V850ES/SA3用インサーキット・エミュレータ・エミュレーション・ボード)	U16622J	U16622E	
IE-703228-G1-EM1 (850ES/PM1用インサーキット・エミュレータ・エミュレーション・ボード)	U16879J	U16879E	
CA850 Ver.2.50 C コンパイラ・パッケージ	操作編 C 言語編 アセンブリ言語編	U16053J U16054J U16042J	U16053E U16054E U16042E
PM plus Ver.5.10		U16569J	U16569E
ID850 Ver.2.50 統合ディバッガ	操作編	U16217J	U16217E
ID850NW Ver.2.51 統合ディバッガ	操作編	U16454J	U16454E
ID850NWC Ver.2.51 統合ディバッガ	操作編	U16525J	U16525E
SM plus Ver.1.00 システム・シミュレータ	操作編	本マニュアル	U16906E
SM plus Ver.1.00 システム・シミュレータ	ユーザ・オープン・インタフェース編	U16907J	U16907E
SM850 Ver.2.50 システム・シミュレータ	操作編	U16218J	U16218E
SM850 Ver.2.00以上 システム・シミュレータ	外部部品ユーザ・オープン・インタフェース仕様編	U14873J	U14873E
RX850 Ver.3.13以上 リアルタイムOS	基礎編 インストレーション編 テクニカル編	U13430J U13410J U13431J	U13430E U13410E U13431E
RX850 Pro Ver.3.13 リアルタイムOS	基礎編 インストレーション編 テクニカル編	U13773J U13774J U13772J	U13773E U13774E U13772E
RX-NET ネットワーク・ライブラリ (TCP/IP)		U15083J	-
RX-NET ネットワーク・ライブラリ (PPP)		U15303J	-
RX-NET ネットワーク・ライブラリ (DNS)		U15304J	-
RX-NET ネットワーク・ライブラリ (DHCP)		U15382J	-
RX-NET ネットワーク・ライブラリ (SMTP)		U15505J	-
RX-NET ネットワーク・ライブラリ (POP)		U15539J	-
RX-NET Ver.1.00 ネットワーク・ライブラリ (telnet)		U16085J	-
RD850 Ver.3.01 タスク・ディバッガ		U13737J	U13737E
RD850 Pro Ver.3.01 タスク・ディバッガ		U13916J	U13916E
AZ850 Ver.3.10 システム・パフォーマンス・アナライザ		U14410J	U14410E
TW Ver.1.00		U16104J	U16104E
PG-FP4 フラッシュ・メモリ・プログラマ		U15260J	U15260E

目次

第 1 章 概要 ...	19
1.1 特長 ...	20
1.2 システム構成 ...	21
1.2.1 システム構成例 ...	21
1.2.2 内部構成 ...	21
1.3 動作環境 ...	22
1.3.1 ハードウェア環境 ...	22
1.3.2 ソフトウェア環境 ...	22
1.4 ソース・レベルのデバッグを行う場合の注意事項 ...	22
第 2 章 インストール ...	23
2.1 インストール ...	23
2.2 アンインストール ...	23
第 3 章 起動と終了 ...	24
3.1 起動方法 ...	24
3.2 終了方法 ...	25
第 4 章 PM plus との連携 ...	26
4.1 ビルド・モードの設定 ...	27
4.2 PM plus プロジェクトへのデバッグ登録 ...	27
4.2.1 デバッグ選択 ...	27
4.2.2 複数のロード・モジュール・ファイルをダウンロードするには ...	28
4.3 PM plus から SM plus を起動するには ...	29
4.3.1 デバッグ環境の再現 ...	29
4.4 オートロード ...	30
4.4.1 ソース修正によるオートロード ...	30
4.4.2 デバッグ起動によるオートロード ...	30
第 5 章 デバッグ機能 ...	31
5.1 デバッグ環境の設定 ...	32
5.1.1 動作環境の設定 ...	32
5.1.2 オプションの設定 ...	32
5.1.3 マッピング設定 ...	33
5.2 ダウンロード / アップロード機能 ...	34
5.3 ソース表示, 逆アセンブル表示機能 ...	35
5.3.1 ソース表示 ...	35
5.3.2 逆アセンブル表示 ...	35
5.3.3 混合表示モード (ソース・テキスト・ウィンドウ) ...	36
5.3.4 シンボル変換 ...	36
5.4 ブレーク機能 ...	37
5.4.1 ブレークの種類 ...	37
5.4.2 ブレーク・ポイントの設定 ...	38
5.4.3 変数へのブレーク設定 ...	39
5.5 プログラム実行機能 ...	40
5.6 ウォッチ機能 ...	42
5.6.1 データ値の表示, 変更 ...	42
5.6.2 ローカル変数値の表示, 変更 ...	43
5.6.3 ウォッチ・データの登録, 削除 ...	43
5.6.4 ウォッチ・データの変更 ...	44
5.6.5 データ値の一時的表示, 変更 ...	44
5.6.6 バルーン・ウォッチ機能 ...	44
5.7 メモリ操作機能 ...	45
5.7.1 メモリ内容の表示, 変更 ...	45
5.7.2 メモリ内容の初期化, コピー, 比較 ...	45
5.7.3 メモリ内容の書き替え (DMM 機能) ...	46
5.8 レジスタ操作機能 ...	47

5.8.1	レジスタ内容の表示, 変更 ...	47
5.8.2	周辺 I/O レジスタ内容の表示, 変更 ...	48
5.8.3	I/O ポート内容の表示, 変更 ...	48
5.9	スタック・トレース表示機能 ...	49
5.9.1	スタック・フレーム番号 ...	49
5.10	タイマ機能 ...	50
5.10.1	タイマ・イベント条件 ...	50
5.10.2	Run-Break イベント ...	51
5.10.3	測定可能時間 ...	51
5.11	トレース機能 ...	52
5.11.1	トレース・メモリ ...	52
5.11.2	トレース・データの確認 ...	52
5.11.3	混合表示モード (トレース・ウィンドウ) ...	53
5.11.4	トレーサの動作 ...	53
5.11.5	条件トレースの設定 ...	55
5.12	カバレッジ測定機能 ...	56
5.12.1	カバレッジ測定 ...	56
5.12.2	カバレッジ範囲の選択 ...	56
5.12.3	カバレッジ結果の表示 ...	57
5.12.4	カバレッジ効率の測定, 表示 ...	57
5.13	イベント機能 ...	59
5.13.1	イベント機能の利用 ...	59
5.13.2	イベントの作成 ...	60
5.13.3	各種イベント条件の設定 ...	60
5.13.4	各種イベント条件の有効イベント数 ...	62
5.13.5	イベントの管理 ...	63
5.14	スナップ・ショット機能 ...	64
5.14.1	スナップ・ショット・イベント条件 ...	64
5.14.2	スナップ・データ ...	64
5.15	スタブ機能 ...	65
5.15.1	スタブ・イベント条件の設定 ...	65
5.15.2	スタブ機能の流れ ...	66
5.16	RAM サンプリング機能 ...	67
5.17	ロード/セーブ機能 ...	68
5.17.1	デバッグ環境 (プロジェクト・ファイル) ...	68
5.17.2	ウィンドウの表示情報 (表示ファイル) ...	71
5.17.3	ウィンドウの設定情報 (設定ファイル) ...	72
5.18	ウィンドウ共通機能 ...	73
5.18.1	アクティブ状態とスタティック状態 ...	73
5.18.2	ジャンプ機能 ...	74
5.18.3	トレース結果とウィンドウの連結機能 ...	75
5.18.4	ドラッグ & ドロップ機能 ...	76
第 6 章 シミュレーション機能 ... 78		
6.1	端子入出力機能 ...	79
6.1.1	端子入力 ...	79
6.1.2	端子出力 ...	80
6.1.3	端子選択 ...	80
6.1.4	データ検索 ...	81
6.1.5	信号データ・ファイル (*.wvi, *.wvo) ...	81
6.2	標準入出力機能 ...	85
6.2.1	機能利用方法 ...	86
6.3	シリアル入出力機能 ...	90
6.3.1	フォーマット設定 ...	90
6.3.2	シリアル・ログデータ・ファイル (*.log) ...	91
6.3.3	シリアル送信データ・ファイル (*.ser) ...	93
6.4	パネル機能 ...	98
6.4.1	接続部品の種類 ...	99
6.4.2	新規作成, 接続情報の設定 ...	100
6.4.3	入力シミュレーション ...	100
6.4.4	接続情報の一覧表示 ...	100
6.4.5	CPU リセット時の動作 ...	101

第7章 ウィンドウ・レファレンス ...	102
7.1 ウィンドウ一覧 ...	102
7.2 各ウィンドウの説明 ...	106
メイン・ウィンドウ ...	107
コンフィグレーション・ダイアログ ...	122
拡張オプション設定ダイアログ ...	127
デバッグ・オプション設定ダイアログ ...	130
プロジェクト・ファイル・セーブ・ダイアログ ...	137
プロジェクト・ファイル・ロード・ダイアログ ...	139
ダウンロード・ダイアログ ...	141
アップロード・ダイアログ ...	144
ロード・モジュール一覧ダイアログ ...	146
ソース・テキスト・ウィンドウ ...	148
ソース・サーチ・ダイアログ ...	153
ソース指定ダイアログ ...	155
フォント選択ダイアログ ...	157
逆アセンブル・ウィンドウ ...	159
逆アセンブル・サーチ・ダイアログ ...	163
アドレス指定ダイアログ ...	165
シンボル変換ダイアログ ...	166
ウォッチ・ウィンドウ ...	169
クイック・ウォッチ・ダイアログ ...	174
ウォッチ登録ダイアログ ...	177
ウォッチ変更ダイアログ ...	180
ローカル変数ウィンドウ ...	181
メモリ・ウィンドウ ...	184
メモリ・サーチ・ダイアログ ...	188
メモリ・フィル・ダイアログ ...	191
メモリ・コピー・ダイアログ ...	193
メモリ比較ダイアログ ...	195
メモリ比較結果ダイアログ ...	197
DMM ダイアログ ...	199
レジスタ・ウィンドウ ...	201
レジスタ選択ダイアログ ...	204
周辺 I/O レジスタ・ウィンドウ ...	206
周辺 I/O レジスタ選択ダイアログ ...	210
I/O ポート追加ダイアログ ...	213
スタック・トレース・ウィンドウ ...	216
タイマ・ダイアログ ...	220
タイマ測定結果ダイアログ ...	223
トレース・ウィンドウ ...	224
トレース・サーチ・ダイアログ ...	231
トレース表示選択ダイアログ ...	236
フレーム指定ダイアログ ...	239
トレース・ダイアログ ...	241
ディレイ・カウント設定ダイアログ ...	244
カバレッジ・ウィンドウ ...	245
カバレッジ・サーチ・ダイアログ ...	249
カバレッジ・クリア・ダイアログ ...	252
カバレッジ範囲選択ダイアログ ...	253
カバレッジ条件設定ダイアログ ...	254
カバレッジ効率表示ダイアログ ...	256
イベント・マネージャ ...	258
イベント・ダイアログ ...	264
イベント・リンク・ダイアログ ...	271
ブレーク・ダイアログ ...	274
スナップ・ショット・ダイアログ ...	276
スタブ・ダイアログ ...	281
表示ファイル・セーブ・ダイアログ ...	283
表示ファイル・ロード・ダイアログ ...	285
環境設定ファイル・セーブ・ダイアログ ...	287
環境設定ファイル・ロード・ダイアログ ...	289
リセット確認ダイアログ ...	291

終了確認ダイアログ ...	293
バージョン表示ダイアログ ...	295
コンソール・ウィンドウ ...	296
ソース・ファイル選択ダイアログ ...	297
信号データ・エディタ・ウィンドウ ...	299
ループ設定ダイアログ ...	306
タイミング・チャート・ウィンドウ ...	308
端子選択ダイアログ ...	314
データ検索ダイアログ ...	316
標準入出力ウィンドウ ...	318
標準入出力バッファサイズ変更ダイアログ ...	321
シミュレータ・オプション・ダイアログ ...	322
シリアル・ウィンドウ ...	324
フォーマット設定ダイアログ (UART) ...	329
フォーマット設定ダイアログ (CSI) ...	331
入出力パネル・ウィンドウ ...	333
ボタン端子接続ダイアログ ...	341
キーマトリクス端子接続ダイアログ ...	346
レベルゲージ端子接続ダイアログ ...	349
LED 端子接続ダイアログ ...	353
セグメント LED 端子接続ダイアログ ...	355
マトリクス LED 端子接続ダイアログ ...	359
ブザー端子接続ダイアログ ...	362
プルアップ / プルダウン設定ダイアログ ...	365
端子接続ダイアログ ...	367
オブジェクト一覧ダイアログ ...	371
ビットマップの追加ダイアログ ...	373
色の設定ダイアログ ...	374
ウィンドウの書式設定ダイアログ ...	375
フォントの指定ダイアログ ...	377
ファイルを開くダイアログ ...	378
名前を付けて保存ダイアログ ...	379

第 8 章 コマンド・レファレンス ...	380
8.1 コマンド・ライン規約 ...	380
8.2 コマンド一覧 ...	381
8.3 変数一覧 ...	383
8.4 パッケージ一覧 ...	383
8.5 キー・バインド ...	383
8.6 拡張ウィンドウ ...	384
8.7 コールバック・プロシジャ ...	384
8.8 フック・プロシジャ ...	385
8.9 関連ファイル ...	386
8.10 注意事項 ...	386
8.11 コマンドの説明 ...	386
address ...	388
assemble ...	389
batch ...	390
breakpoint ...	391
dbgexit ...	393
download ...	394
extwin ...	395
finish ...	396
go ...	397
help ...	398
hook ...	399
jump ...	400
map ...	401
mdi ...	402
memory ...	403
module ...	404
next ...	405
refresh ...	406

register ...	407
reset ...	408
run ...	409
step ...	410
stop ...	411
upload ...	412
version ...	413
watch ...	414
where ...	415
wish ...	416
xcoverage ...	417
xtime ...	418
xtrace ...	419
8.12 サンプル (電卓スクリプト) ...	420
付録 A 拡張ウィンドウ ...	421
A.1 拡張ウィンドウ概要 ...	421
A.2 サンプル・ウィンドウ一覧 ...	421
A.3 サンプル・ウィンドウの起動 ...	421
A.4 各サンプルウィンドウの説明 ...	421
List ウィンドウ ...	422
Grep ウィンドウ ...	423
RRM ウィンドウ ...	424
Hook ウィンドウ ...	425
Memory Mapped I/O ウィンドウ ...	427
Memory Mapped I/O 入力ダイアログ ...	428
付録 B 入力規約 ...	429
B.1 使用可能文字一覧 ...	429
B.2 シンボル規定 ...	430
B.3 数値規定 ...	431
B.4 式と演算子に関する規定 ...	431
付録 C キー機能一覧 ...	434
付録 D メッセージ ...	437
D.1 メッセージ表示形式 ...	437
D.2 メッセージの種類 ...	437
D.3 メッセージ一覧 ...	438
付録 E 総合索引 ...	473

図の目次

図番号 タイトル ページ

1 - 1	システム構成例 ...	21
3 - 1	コンフィグレーション・ダイアログ ...	24
3 - 2	メイン・ウィンドウ (起動時) ...	25
3 - 3	終了確認ダイアログ ...	25
4 - 1	[ディバग्ガの設定]ダイアログ (PM plus) ...	28
5 - 1	コンフィグレーション・ダイアログ ...	32
5 - 2	SM plus 管理のメモリ空間 (μ PD703000 の場合) ...	33
5 - 3	ブレーク・ポイントの設定 ...	38
5 - 4	変数へのブレーク設定 ...	39
5 - 5	実行ボタン ...	40
5 - 6	[実行]メニュー ...	40
5 - 7	ウォッチ・ウィンドウ ...	42
5 - 8	ウォッチ表示形式の指定 (ディバग्ガ・オプション設定ダイアログ) ...	42
5 - 9	ローカル変数ウィンドウ ...	43
5 - 10	ウォッチ変更ダイアログ ...	44
5 - 11	クイック・ウォッチ・ダイアログ ...	44
5 - 12	メモリ内容の表示, 変更 ...	45
5 - 13	メモリ内容の書き替え (DMM ダイアログ) ...	46
5 - 14	レジスタ内容の表示, 変更 (レジスタ・ウィンドウ) ...	47
5 - 15	絶対名/機能名の切り替え (ディバग्ガ・オプション設定ダイアログ) ...	47
5 - 16	周辺 I/O レジスタ内容の表示, 変更 (周辺 I/O レジスタ・ウィンドウ) ...	48
5 - 17	I/O ポートの登録 (I/O ポート追加ダイアログ) ...	48
5 - 18	スタック・トレース表示 ...	49
5 - 19	タイマ・イベントの設定, 表示 (タイマ・ダイアログ) ...	50
5 - 20	カバレッジ結果の表示 (カバレッジ・ウィンドウ) ...	57
5 - 21	カバレッジ効率の測定 (カバレッジ条件設定ダイアログ) ...	57
5 - 22	カバレッジ効率の表示 ...	58
5 - 23	各種イベント条件の設定方法 ...	60
5 - 24	イベントの管理 (イベント・マネージャ) ...	63
5 - 25	スナップ・ショット・ダイアログ ...	64
5 - 26	スタブ・イベント条件の設定 ...	65
5 - 27	スタブ機能の流れ ...	66
5 - 28	プロジェクト・ファイルの自動セーブ/自動ロードの設定 ...	68
6 - 1	端子入力データの作成 (信号データ・エディタ・ウィンドウ) ...	79
6 - 2	端子出力データの表示 (タイミング・チャート・ウィンドウ) ...	80
6 - 3	端子選択 (端子選択ダイアログ) ...	80
6 - 4	データ詳細検索 (データ検索ダイアログ) ...	81
6 - 5	信号データ・ファイル概要 ...	82
6 - 6	記述例 (信号データ・ファイル) ...	84
6 - 7	標準入出力機能 (標準入出力ウィンドウ) ...	85
6 - 8	標準入出力とファイル入出力の利用手順 ...	86
6 - 9	ロード・モジュール作成手順 (CA850) ...	86
6 - 10	シリアル入出力機能 (シリアル・ウィンドウ) ...	90
6 - 11	シリアル・ログデータ・ファイル概要 ...	91
6 - 12	保存例 (シリアル・ログデータ・ファイル) ...	92
6 - 13	シリアル送信データ・ファイルの概要: UART 系 ...	93
6 - 14	シリアル送信データ・ファイルの概要: CSI 系 ...	93
6 - 15	記述例 (シリアル送信データ・ファイル) ...	97
6 - 16	入出力パネル・ウィンドウ ...	98
6 - 17	接続部品情報の一覧表示 (オブジェクト一覧ダイアログ) ...	100
7 - 1	メイン・ウィンドウ ...	107
7 - 2	ツールバー (デフォルト) ...	118
7 - 3	ツールバー (グラフィック + 文字) ...	118
7 - 4	ツールバー (シミュレータ部) ...	118
7 - 5	ステータス・バー ...	120
7 - 6	コンフィグレーション・ダイアログ ...	122

- 7 - 7 拡張オプション設定ダイアログ ... 127
- 7 - 8 デバッグ・オプション設定ダイアログ ... 130
- 7 - 9 ソース・パス選択ダイアログ ... 131
- 7 - 10 プロジェクト・ファイル・セーブ・ダイアログ ... 137
- 7 - 11 プロジェクト・ファイル・ロード・ダイアログ ... 139
- 7 - 12 ダウンロード・ダイアログ ... 141
- 7 - 13 ダウンロード・ダイアログ (ダウンロード中)... 141
- 7 - 14 アップロード・ダイアログ ... 144
- 7 - 15 ロード・モジュール一覧ダイアログ ... 146
- 7 - 16 ソース・テキスト・ウィンドウ ... 148
- 7 - 17 ソース・サーチ・ダイアログ ... 153
- 7 - 18 ソース指定ダイアログ ... 155
- 7 - 19 フォント選択ダイアログ ... 157
- 7 - 20 逆アセンブル・ウィンドウ ... 159
- 7 - 21 逆アセンブル・サーチ・ダイアログ ... 163
- 7 - 22 アドレス指定ダイアログ (例: メモリ・ウィンドウ)... 165
- 7 - 23 シンボル変換ダイアログ ... 166
- 7 - 24 ウォッチ・ウィンドウ ... 169
- 7 - 25 クイック・ウォッチ・ダイアログ ... 174
- 7 - 26 ウォッチ登録ダイアログ ... 177
- 7 - 27 ウォッチ変更ダイアログ ... 180
- 7 - 28 ローカル変数ウィンドウ ... 181
- 7 - 29 メモリ・ウィンドウ ... 184
- 7 - 30 メモリ・サーチ・ダイアログ ... 188
- 7 - 31 メモリ・フィル・ダイアログ ... 191
- 7 - 32 メモリ・コピー・ダイアログ ... 193
- 7 - 33 メモリ比較ダイアログ ... 195
- 7 - 34 メモリ比較結果ダイアログ ... 197
- 7 - 35 DMM ダイアログ ... 199
- 7 - 36 レジスタ・ウィンドウ ... 201
- 7 - 37 レジスタ選択ダイアログ ... 204
- 7 - 38 周辺 I/O レジスタ・ウィンドウ ... 206
- 7 - 39 周辺 I/O レジスタ選択ダイアログ ... 210
- 7 - 40 I/O ポート追加ダイアログ ... 213
- 7 - 41 スタック・トレース・ウィンドウ ... 216
- 7 - 42 タイマ・ダイアログ ... 220
- 7 - 43 タイマ測定結果ダイアログ ... 223
- 7 - 44 トレース・ウィンドウ ... 224
- 7 - 45 トレース・サーチ・ダイアログ ... 231
- 7 - 46 トレース表示選択ダイアログ ... 236
- 7 - 47 フレーム指定ダイアログ ... 239
- 7 - 48 トレース・ダイアログ ... 241
- 7 - 49 ディレイ・カウント設定ダイアログ ... 244
- 7 - 50 カバレッジ・ウィンドウ ... 245
- 7 - 51 カバレッジ・サーチ・ダイアログ ... 249
- 7 - 52 カバレッジ・クリア・ダイアログ ... 252
- 7 - 53 カバレッジ範囲選択ダイアログ ... 253
- 7 - 54 カバレッジ条件設定ダイアログ ... 254
- 7 - 55 カバレッジ効率表示ダイアログ ... 256
- 7 - 56 イベント・マネージャ ... 258
- 7 - 57 表示情報選択ダイアログ ... 263
- 7 - 58 イベント・ダイアログ ... 264
- 7 - 59 イベント・リンク・ダイアログ ... 271
- 7 - 60 ブレーク・ダイアログ ... 274
- 7 - 61 スナップ・ショット・ダイアログ (Register 選択時)... 276
- 7 - 62 スタブ・ダイアログ ... 281
- 7 - 63 表示ファイル・セーブ・ダイアログ (例: 逆アセンブル・ウィンドウを保存する場合)... 283
- 7 - 64 表示ファイル・ロード・ダイアログ ... 285
- 7 - 65 環境設定ファイル・セーブ・ダイアログ ... 287
- 7 - 66 環境設定ファイル・ロード・ダイアログ ... 289
- 7 - 67 リセット確認ダイアログ ... 291
- 7 - 68 終了確認ダイアログ ... 293
- 7 - 69 バージョン表示ダイアログ ... 295

7 - 70	コンソール・ウィンドウ ...	296
7 - 71	ソース・ファイル選択ダイアログ ...	297
7 - 72	信号データ・エディタ・ウィンドウ ...	299
7 - 73	ループ設定ダイアログ ...	306
7 - 74	タイミング・チャート・ウィンドウ ...	308
7 - 75	マーカ A, B ...	312
7 - 76	端子選択ダイアログ ...	314
7 - 77	データ検索ダイアログ ...	316
7 - 78	標準入出力ウィンドウ ...	318
7 - 79	標準入出力バッファサイズ変更ダイアログ ...	321
7 - 80	シミュレータ・オプション・ダイアログ ([標準ライブラリインタフェース]タブ選択時) ...	322
7 - 81	シリアル・ウィンドウ ...	324
7 - 82	フォーマット設定ダイアログ (UART) ...	329
7 - 83	フォーマット設定ダイアログ (CSI) ...	331
7 - 84	入出力パネル・ウィンドウ ...	333
7 - 85	ボタン端子接続ダイアログ ([ボタン端子接続]タブ選択時) ...	341
7 - 86	ボタン端子接続ダイアログ ([スタイル]タブ選択時 (標準)) ...	341
7 - 87	接続部品表示例 (ボタン) ...	345
7 - 88	キーマトリックス端子接続ダイアログ ([キーマトリックス端子接続]タブ選択時) ...	346
7 - 89	接続部品表示例 (キーマトリックス) ...	348
7 - 90	レベルゲージ端子接続ダイアログ ([レベルゲージ端子接続]タブ選択時) ...	349
7 - 91	レベルゲージ端子接続ダイアログ ([スタイル]タブ選択時) ...	349
7 - 92	接続部品表示例 (レベルゲージ) ...	352
7 - 93	LED 端子接続ダイアログ ([LED 端子接続]タブ選択時) ...	353
7 - 94	接続部品表示例 (LED) ...	354
7 - 95	セグメント LED 端子接続ダイアログ ([セグメント LED 端子接続]タブ選択時) ...	355
7 - 96	セグメント LED 端子接続ダイアログ ([スタイル]タブ選択時) ...	355
7 - 97	接続部品表示例 (7セグメント LED) ...	358
7 - 98	マトリクス LED 端子接続ダイアログ ([マトリクス LED 端子接続]タブ選択時) ...	359
7 - 99	接続部品表示例 (マトリクス LED) ...	361
7 - 100	ブザー端子接続ダイアログ ([ブザー端子接続]タブ選択時) ...	362
7 - 101	接続部品表示例 (ブザー) ...	364
7 - 102	プルアップ/プルダウン設定ダイアログ ...	365
7 - 103	端子接続ダイアログ ([端子接続]タブ選択時) ...	367
7 - 104	端子接続ダイアログ ([スタイル]タブ選択時) ...	367
7 - 105	オブジェクト一覧ダイアログ ...	371
7 - 106	ビットマップの追加ダイアログ ...	373
7 - 107	色の設定ダイアログ ...	374
7 - 108	ウィンドウの書式設定ダイアログ ([色]タブ選択時) ...	375
7 - 109	ウィンドウの書式設定ダイアログ ([フォント]タブ選択時) ...	375
7 - 110	フォントの指定ダイアログ ...	377
7 - 111	ファイルを開くダイアログ ...	378
7 - 112	名前を付けて保存ダイアログ ...	379
8 - 1	実行画面 ...	420
A - 1	List ウィンドウ ...	422
A - 2	Grep ウィンドウ ...	423
A - 3	RRM ウィンドウ ...	424
A - 4	Hook ウィンドウ ...	425
A - 5	Memory Mapped I/O ウィンドウ ...	427
A - 6	Memory Mapped I/O 入力ダイアログ ...	428
D - 1	エラー/ワーニング・メッセージ ...	437

表の目次

表番号	タイトル	ページ
5 - 1	ディバグ機能一覧 (ディバグ操作の流れ)...	31
5 - 2	ダウンロード/アップロードできるファイルの種類 ...	34
5 - 3	ブレークの種類 ...	37
5 - 4	実行の種類 ...	40
5 - 5	測定可能値 ...	51
5 - 6	トレース・メモリ・サイズ ...	52
5 - 7	トレース・モードの種類 ...	53
5 - 8	トレーサ制御モードの種類 ...	54
5 - 9	条件トレースの種類 ...	55
5 - 10	カバレッジ測定範囲 ...	56
5 - 11	各種イベント条件 ...	59
5 - 12	各種イベント条件における有効イベント数 ...	62
5 - 13	イベント・アイコン ...	63
5 - 14	実行関数の先頭アドレス (スタブ機能)...	65
5 - 15	リアルタイム内部 RAM サンプルング機能の表示範囲 ...	67
5 - 16	アドレス対象領域と有効サイズ ...	67
5 - 17	プロジェクト・ファイルの保存内容 (ディバッガ部)...	69
5 - 18	プロジェクト・ファイルの保存内容 (シミュレータ部)...	70
5 - 19	表示ファイルの種類 ...	71
5 - 20	設定ファイルの種類 ...	72
5 - 21	ドラッグ & ドロップ機能の詳細 (行/アドレスの場合)...	76
5 - 22	ドラッグ & ドロップ機能の詳細 (文字列の場合)...	77
6 - 1	シミュレーション機能一覧 ...	78
6 - 2	ファイル・フォーマット詳細 (信号データ・ファイル)...	82
6 - 3	関数仕様 (標準入出力, ファイル入出力関連)...	88
6 - 4	ファイル・フォーマット詳細 (シリアル・ログデータ・ファイル)...	91
6 - 5	ファイル・フォーマット (シリアル送信データ・ファイル)...	94
6 - 6	接続部品 ...	99
6 - 7	CPU リセット時の接続部品の動作 ...	101
7 - 1	ウィンドウ/ダイアログ一覧 ...	102
7 - 2	CPU ステータス ...	121
7 - 3	IE ステータス ...	121
7 - 4	ブレーク要因 ...	121
7 - 5	内部 ROM/RAM として設定できる値 ...	123
7 - 6	内部 RAM サイズと先頭アドレス ...	124
7 - 7	マッピング属性 ...	126
7 - 8	マッピング単位 ...	126
7 - 9	イベント設定状態 ...	149
7 - 10	シンボルでの指定方法 ...	167
7 - 11	ウォッチ・ウィンドウ表示形式 (シンボル)...	170
7 - 12	ウォッチ・ウィンドウ表示形式 (データ)...	171
7 - 13	スコープで指定した場合の変数の扱い ...	178
7 - 14	トレーサ停止要因 ...	225
7 - 15	クロック数とタイムタグ値 ...	226
7 - 16	アドレス条件の設定範囲 (トレース)...	233
7 - 17	フレーム番号の指定形式 ...	240
7 - 18	カバレッジ・データのステータス一覧 ...	246
7 - 19	イベント詳細表示時のセパレータ ...	259
7 - 20	ステータス条件 ...	266
7 - 21	アドレス条件の設定範囲 (イベント)...	268
7 - 22	データ条件の設定範囲 ...	269
7 - 23	イベント・リンク条件の設定可能な各種イベント条件 ...	271
7 - 24	イベント・リンク・ダイアログでのイベント設定数 ...	273
7 - 25	スナップ・データ表示形式 ...	279
7 - 26	ソース・ファイル選択ダイアログで表示できるファイルの種類 ...	298
8 - 1	SM plus 制御コマンド一覧 ...	381

8 - 2	コンソール / Tcl コマンド一覧 ...	382
8 - 3	メッセージ ID ...	384
A - 1	拡張ウィンドウのサンプル一覧 ...	421
B - 1	使用文字セット一覧 ...	429
B - 2	使用特殊文字一覧 ...	429
B - 3	数値の入力形式 ...	431
B - 4	演算子一覧 ...	432
B - 5	演算子の優先順位 ...	433
B - 6	進数の範囲 ...	433
C - 1	キー機能一覧 ...	434
D - 1	メッセージの種類 ...	437

第 1 章 概要

システム・シミュレータ SM plus (以降, SM plus と省略) は NEC エレクトロニクス製の組み込み制御向け 32 ビット・マイクロコンピュータ V850 シリーズ用に開発されたユーザ・プログラムを, 効率良くディバグ, シミュレーションするためのソフトウェア・ツールです。

SM plus は, ロード・モジュール形式のオブジェクト・ファイルをシミュレータの持つターゲット・メモリ領域にダウンロードすることにより, シミュレーションによるディバグを可能にします。

この章では, SM plus の概要に関する以下の項目について解説します。

- 特長
- システム構成
- 動作環境
- ソース・レベルのディバグを行う場合の注意事項

1.1 特長

(1) ターゲット・レスの評価が可能

CPU 自体の動作に加え、内蔵周辺ユニットや割り込み処理などを含めたターゲット・デバイスの動作をシミュレーションすることにより、インサーキット・エミュレータなしで早期にユーザ・プログラムの論理デバッグが可能です。

(2) 統合化デバッグ環境をサポート

NEC エレクトロニクス製統合デバッグ (ID シリーズ) と同一な操作性を保っています。

(3) さまざまなシミュレーション機能を提供

(a) 信号データ表示機能

タイミング・チャート・ウィンドウにより、指定した端子の信号データの波形表示が可能です。

(b) 信号データ入力機能

信号データ・エディタ・ウィンドウにより、作成したタイミング情報付き信号データのシミュレーション中の入力が可能です。

(c) パネル機能

入出力パネル・ウィンドウ上では、ターゲット・システムの擬似的な構築が可能です。

SM plus では、入出力デバイスとしてボタン、LED、キー・マトリクスなどの標準的な表示、操作部品を提供しており、これらを配置することにより簡単に構築が可能です。

(d) ユーザ・ターゲット・システムの構築

ターゲット・システム中のユーザ・ロジック部は、ユーザ・オープン・インタフェース^注を利用することでユーザ・プログラミングによる構築が可能です。

注 「SM plus ユーザ・オープン・インタフェース編」(別冊)を参照してください。

(4) ソース・デバッグ可能

C ソース・プログラム、およびアセンブリ言語プログラムでのソース・デバッグが可能です。

(5) 実行停止時の表示自動更新機能

ユーザ・プログラムの実行が停止した際、画面に表示されているウィンドウの値を自動的に更新します。

(6) デバッグ環境の保管 / 復元

ブレーク・ポイントやイベントの設定情報、ファイルのダウンロード情報、ウィンドウの表示状態、位置などのデバッグ環境を、ファイル (プロジェクト・ファイル) に保存することができます。

プロジェクト・ファイルをロードすることにより、デバッグ環境の復元が可能です。

(7) コマンドによるバッチ実行とカスタム・ウィンドウの作成

コンソール・ウィンドウの追加により、コマンド・ラインでのバッチ処理やユーザ独自のカスタム・ウィンドウの作成が可能です (「付録 A 拡張ウィンドウ」参照)。

(8) ToolLink による機能拡張

ToolLink に対応した NEC エレクトロニクス製マイコン・ツールと連携することにより、機能拡張が可能です。

1.2 システム構成

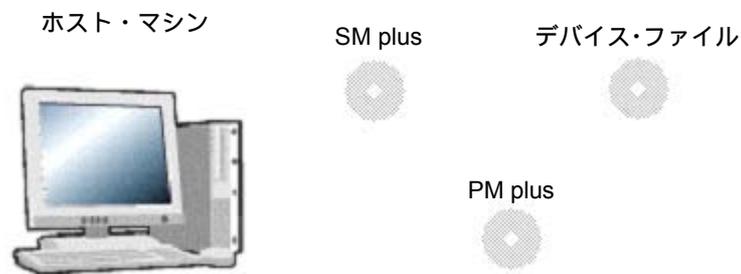
SM plus の起動には、デバイス・ファイルが必要です。また、SM plus は、Windows 上でのプログラム統合開発環境を提供するプロジェクト・マネージャ（PM plus：NEC エレクトロニクス製）との連携により、より良い開発環境の実現が可能になります。

- [システム構成例](#)
- [内部構成](#)

1.2.1 システム構成例

次図に SM plus のシステム構成例を示します。

図 1 - 1 システム構成例



1.2.2 内部構成

SM plus は、次の 2 つの部分から構成されています。

- **ディバッガ部**
ID シリーズと同等のディバグ機能を持つ（「[第 5 章 ディバグ機能](#)」参照）。
- **シミュレータ部**
ターゲット・デバイスの動作シミュレーションを行う（「[第 6 章 シミュレーション機能](#)」参照）。

1.3 動作環境

この節では、動作環境に関する以下の項目について解説します。

- ハードウェア環境
- ソフトウェア環境

1.3.1 ハードウェア環境

(1) ホスト・マシン

対象 OS が動作するマシン

(2) CPU

Pentium II™ 300MHz 以上 (450MHz 以上を推奨)

(3) メモリ

RAM : 128M バイト以上 (256M バイト以上を推奨)

1.3.2 ソフトウェア環境

(1) OS (下記のいずれか)

Windows98 , Windows2000 , Windows NT4.0 (Service Pack6 以上) , WindowsMe ,
WindowsXP Home Edition , WindowsXP Professional Edition

注意 いずれの場合も最新の Service Pack がインストールされていることを推奨します。

(2) デバイス・ファイル (個別入手)

使用するターゲット・デバイスのデバイス・ファイル

下記に示す NEC エレクトロニクスの Web サイトから入手可能です。

<http://www.necel.com/micro/>

1.4 ソース・レベルのディバグを行う場合の注意事項

ソース・レベルのディバグを行う場合、ソース・ファイルのコンパイル時にディバグ情報 (シンボル情報が含まれる) を生成するためのオプション (-g オプション) を追加してください。

オプションを追加しなかった場合、ソース・レベルでのディバグが行えません。

第2章 インストール

この章では、SM plus のインストールに関する以下の項目について解説します。

- インストール
- アンインストール

2.1 インストール

SM plus 使用に際して、以下をインストールする必要があります。

(1) SM plus システム・ディスク

自動実行されるインストーラに従いインストールします。

(2) 使用デバイス・ファイル

[スタート]メニュー [プログラム] [NEC Tools32] [デバイス ファイル インストーラ]を選択することにより起動する専用インストーラ "DFINST.exe" に従いインストールします。

注意 一度 SM plus をインストールしたあとに再度 SM plus をインストールする場合には、必ず SM plus をアンインストールをしてから行ってください。アンインストールせずに、すでにインストールしているディレクトリと異なるディレクトリに SM plus をインストールすると、すでにインストールしてあった SM plus がアンインストールできなくなります。

2.2 アンインストール

アンインストールは、コントロール・パネルの [アプリケーションの追加と削除] (または [プログラムの追加と削除]) を用いて行ってください。

第3章 起動と終了

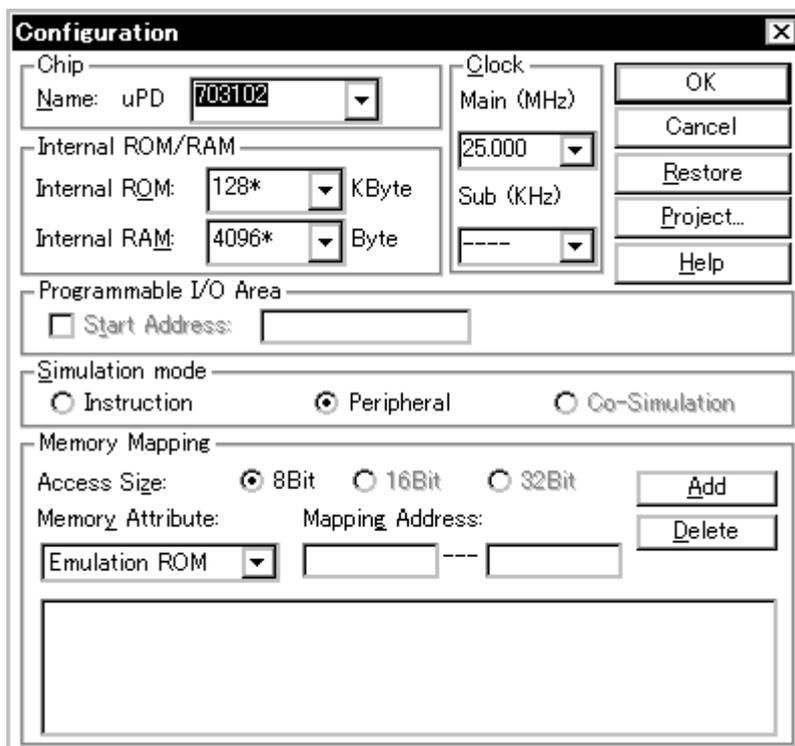
この章では、SM plus の起動と終了に関する以下の項目について解説します。

- 起動方法
- 終了方法

3.1 起動方法

- 1) Windows の [スタート] メニュー [プログラム] [Nec Tools32] [SM plus] を選択します。これにより、SM plus が起動し、[コンフィグレーション・ダイアログ](#)が表示されます。

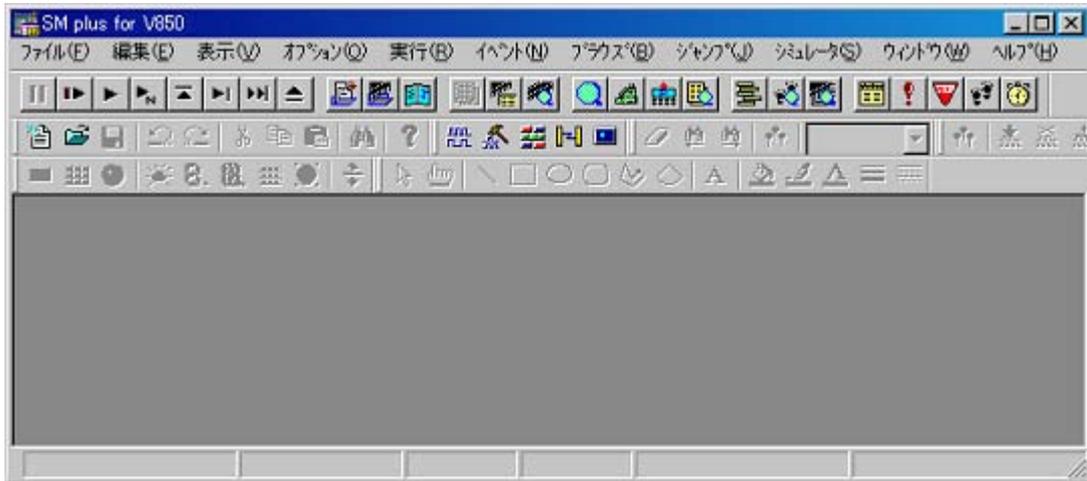
図 3 - 1 コンフィグレーション・ダイアログ



- 2) [コンフィグレーション・ダイアログ](#)では SM plus の動作環境に関する各種設定を行います。各項目の設定後、ダイアログ上の <OK> ボタンをクリックします。

- 3) **メイン・ウィンドウ**がオープンし、SM plus の操作が可能になります。デバッグ作業はこのウィンドウを中心に行います。

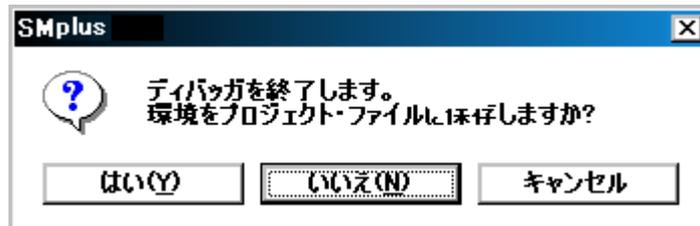
図3 - 2 メイン・ウィンドウ (起動時)



3.2 終了方法

- 1) **メイン・ウィンドウ**で[ファイル]メニュー [終了]を選択することにより、**終了確認ダイアログ**がオープンします。(プログラム実行中に終了操作を行った場合は実行停止確認のメッセージ・ボックスが表示されます)。

図3 - 3 終了確認ダイアログ



- 2) 現在のデバッグ環境をプロジェクト・ファイルに保存したい場合は、<はい(Y)> ボタンをクリックします。<いいえ(N)> ボタンをクリックした場合には、プロジェクト・ファイルには保存せずすべてのウィンドウがクローズし SM plus が終了します。

第 4 章 PM plus との連携

SM plus では PM plus との連携により、プログラム作成 コンパイル デバッグ プログラムの修正といった開発工程中の一連の作業を自動的に行うことができます。

この章では、PM plus との連携に関する以下の項目について解説します。

- [ビルド・モードの設定](#)
- [PM plus プロジェクトへのデバッグ登録](#)
- [PM plus から SM plus を起動するには](#)
- [オートロード](#)

注意 Windows のコマンド・プロンプトを使用してロード・モジュール・ファイルを作成した場合、SM plus と PM plus の連携機能は使用できません。

4.1 ビルド・モードの設定

PM plus 上で作成するロード・モジュール・ファイルを SM plus 上でソース・レベル・デバッグする場合には、デバッグ情報を出力するビルドを行い、ロード・モジュール・ファイルを生成する必要があります。その設定は、PM plus 上で [Debug Build] を指定することにより行います。

4.2 PM plus プロジェクトへのデバッグ登録

PM plus ではプロジェクトごとに、使用するデバッガやダウンロードするロード・モジュール・ファイルの指定をすることができます。

4.2.1 デバッグ選択

デバッグ選択は、次のいずれかの方法で行います。

(1) 新規にワークスペースを作成する場合

- 1) PM plus 上の [ファイル] メニュー [ワークスペースの新規作成 ...] を選択します。
ウィザード形式のワークスペースの新規作成ダイアログがオープンします。
- 2) ウィザードにより、ワークスペースに必要な設定をすすめていくと、[ワークスペースの新規作成 - ステップ 7/8 (デバッグの選択)] ダイアログが表示されます。選択デバッガで [SM plus V850 システム・シミュレータ] を指定してください。その他の設定項目に関する詳細は PM plus のオンライン・ヘルプ、またはユーザーズ・マニュアルを参照してください。

(2) 既存のワークスペースを使用する場合

- 1) PM plus 上の [ツール] メニュー [デバッグの設定 ...] を選択します。 [デバッグの設定] ダイアログがオープンします。
- 2) 選択デバッガで [SM plus V850 システム・シミュレータ] を指定して、<OK> ボタンをクリックします。

アクティブなプロジェクトのデバッガとして SM plus が登録されます。

また、PM plus のツールバーに SM plus のアイコンが表示されます。

4.2.2 複数のロード・モジュール・ファイルをダウンロードするには

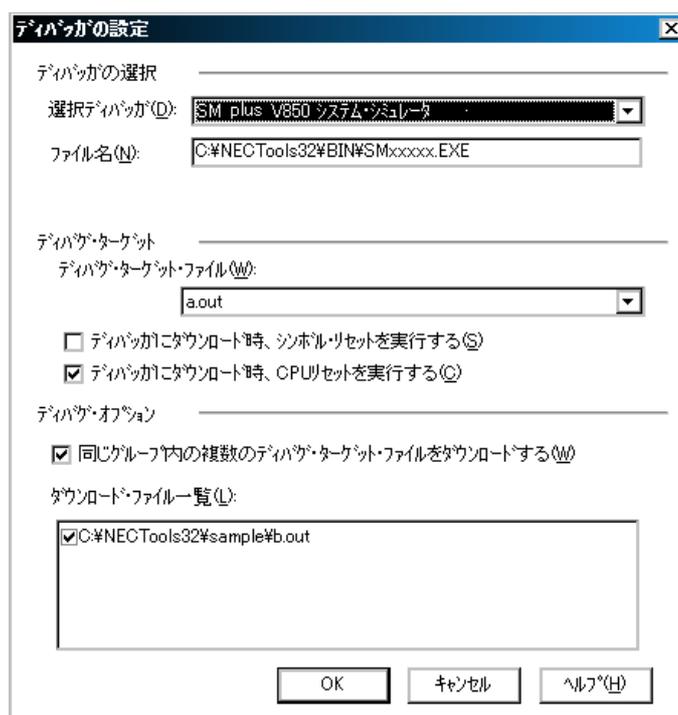
同じプロジェクト・グループのロード・モジュール・ファイルを SM plus へダウンロードします。

プロジェクト・グループに関する詳細は PM plus のオンライン・ヘルプ、またはユーザーズ・マニュアルを参照してください。

複数のロード・モジュール・ファイルをダウンロードする手順は、次の通りです。

- 1) PM plus 上の [ツール] メニュー [デバッグの設定 ...] を選択します。
[デバッグの設定] ダイアログがオープンします。

図 4 - 1 [デバッグの設定] ダイアログ (PM plus)



- 2) 選択デバッグに [SM plus V850 システム・シミュレータ] を指定します。
- 3) デバッグ・ターゲット・ファイルに SM plus 起動時に最初にダウンロードするロード・モジュール・ファイルを指定します。
- 4) [同じグループ内の複数のデバッグ・ターゲット・ファイルをダウンロードする] チェック・ボックスを
チェックし、ダウンロード・ファイル一覧にダウンロードする同じグループのデバッグ・ターゲット・
ファイルを選択します。

ここで選択されているファイルが、SM plus 起動時、[デバッグ・ターゲット・ファイル] で指定したファイルに続いてダウンロードされます。なお、ここで指定したファイルのダウンロードの際は、シンボル・リセット、および CPU リセットは行いません。

- 5) <OK> ボタンをクリックします。

備考 複数のロード・モジュール・ファイルがダウンロードされていることは、SM plus の [ロード・モジュール一覧ダイアログ](#) で確認することができます。

4.3 PM plus から SM plus を起動するには

PM plus から SM plus を起動するには、次の方法があります。

- PM plus のツールバー上の SM plus 起動ボタンをクリックする。
- PM plus の [ビルド] メニュー [ディバグ] を選択する。
- PM plus の [ビルド] メニュー [ビルド ディバグ] を選択する。
- PM plus の [ビルド] メニュー [リビルド ディバグ] を選択する。

現在、PM plus で使用しているプロジェクト・ファイルに SM plus のディバグ環境が保存されている場合には、保存されているディバグ環境の状態起動します。

PM plus で使用しているプロジェクト・ファイルに SM plus のディバグ環境が保存されていない場合には、[コンフィグレーション・ダイアログ](#)が表示されます。このとき、デバイス種別(Chip名)を変更することはできません。

4.3.1 ディバグ環境の再現

次に示す手順で、PM plus から SM plus を起動時に前回のディバグ環境を再現することができます。

- 1) PM plus で新規ワークスペース(プロジェクト・ファイル)(例: sample.prj)を作成します。

注意 SM plus, および PM plus では、それぞれの環境情報をプロジェクト・ファイルに保存し参照します。SM plus, および PM plus で扱うプロジェクト・ファイルの拡張子は prj です。なお、プロジェクト・ファイルで保存、再現される情報については、各製品のオンライン・ヘルプ、またはユーザーズ・マニュアルを参照してください。

- 2) PM plus から SM plus を起動します。新規のプロジェクト・ファイルのため、SM plus 単体での起動時と同様に、[コンフィグレーション・ダイアログ](#)でデバイス種別(Chip名)以外の項目を設定します。
- 3) SM plus の[ダウンロード・ダイアログ](#)でディバグ対象のロード・モジュール・ファイルをダウンロードします。
- 4) SM plus でディバグを行います。
- 5) SM plus 終了時に、[終了確認ダイアログ](#)で<はい(Y)> ボタンをクリックし、SM plus を終了します。
PM plus のプロジェクト・ファイル(sample.prj)に SM plus 終了時のディバグ環境が保存されます(sample.prj にディバグ環境を保存するのは、SM plus 終了時以外でもプロジェクト・ファイルの上書き保存により行うことができます)。
- 6) 次回、PM plus で sample.prj を読み込んで SM plus を起動すると、プロジェクト・ファイル保存時のディバグ環境が自動的に再現されます。

4.4 オートロード

SM plus を使用してデバッグを行っている際にバグなどを発見した場合、次の手順でソース・ファイルを修正することにより、コンパイルから再ダウンロードまでを自動的に実行することができます（「4.4.1 ソース修正によるオートロード」参照）。

また、SM plus を起動した状態で、PM plus 上でコンパイル、およびリンク作業を行うことによっても、ロード・モジュールはSM plus 上に再ダウンロードされます（「4.4.2 デバッグ起動によるオートロード」参照）。

注意 PM plus で標準エディタ（idea-L）以外を使用する設定を行っている場合には、この処理を行うことはできません。

4.4.1 ソース修正によるオートロード

ソース修正によるオートロードは次の手順で行います。

- 1) 修正したいソース・ファイルを**ソース・テキスト・ウィンドウ**でオープンします。SM plus で [ファイル]メニュー [開く]を選択し、該当ファイルを指定してください（すでに、該当ファイルをソース・テキスト・ウィンドウ上にオープンしている場合は、そのウィンドウを最前面に表示します）。
該当ファイルがソース・テキスト・ウィンドウ上にオープンされます。
- 2) SM plus で [編集]メニュー [ソースの修正]を選択します。
エディタがオープンし、該当するソース・ファイルが読み込まれます。
- 3) エディタ上でソース・ファイルを修正します。
- 4) エディタを終了します。

注意 ロード・モジュール・ファイルを自動的にダウンロードする際、CPU リセットは行いません。また、エディタの呼び出し時にオープンしていたデバッグ・ウィンドウと各イベント設定は復元されますが、ソース・ファイルの修正によって、以前使用していた行やシンボルがなくなった場合には、次のようになります。

- ・変数表示していた変数はグレー表示になります。
- ・イベント条件は、イベント・マークが黄色表示になります。

- 5) PM plus 上で [ビルド]メニュー [ビルド デバッグ]、または [ビルド]メニュー [リビルド デバッグ]を選択します。

4.4.2 デバッグ起動によるオートロード

SM plus を起動した状態で、PM plus 上で次の操作を行った場合、自動的にロード・モジュールがSM plus 上にダウンロードされます。

- ・PM plus 上で [ビルド]メニュー [ビルド デバッグ]を選択した場合
- ・PM plus 上で [ビルド]メニュー [リビルド デバッグ]を選択した場合

ダウンロード終了後、CPU リセットは行いません。

第5章 ディバグ機能

この章では、SM plus (ディバッガ部) のディバグ機能に関して解説します。

表5 - 1 ディバグ機能一覧 (ディバグ操作の流れ)

項目	参照先
ディバグ環境の設定	5.1 ディバグ環境の設定
ロード・モジュールのダウンロード	5.2 ダウンロード/アップロード機能
プログラムの表示, 逆アセンブル結果表示	5.3 ソース表示, 逆アセンブル表示機能
ブレークの設定	5.4 ブレーク機能
プログラムの実行	5.5 プログラム実行機能
変数値の確認	5.6 ウォッチ機能
メモリ内容の確認, 編集	5.7 メモリ操作機能
レジスタ値の登録内容の確認, 変更	5.8 レジスタ操作機能
スタックの内容の確認	5.9 スタック・トレース表示機能
実行時間の確認	5.10 タイマ機能
トレース・データの確認	5.11 トレース機能
カバレッジ測定結果の確認	5.12 カバレッジ測定機能
イベントの管理	5.13 イベント機能
スナップ・ショット機能	5.14 スナップ・ショット機能
スタブ機能	5.15 スタブ機能
RAM サンプルング	5.16 RAM サンプルング機能
ディバグ環境の保存, 各ウィンドウ状態の保存	5.17 ロード/セーブ機能
ジャンプ機能, トレース・ウィンドウとの連結機能	5.18 ウィンドウ共通機能
SM plus の終了	終了確認ダイアログ

5.1 デバッグ環境の設定

デバッグ環境の設定に関する次の項目について解説します。

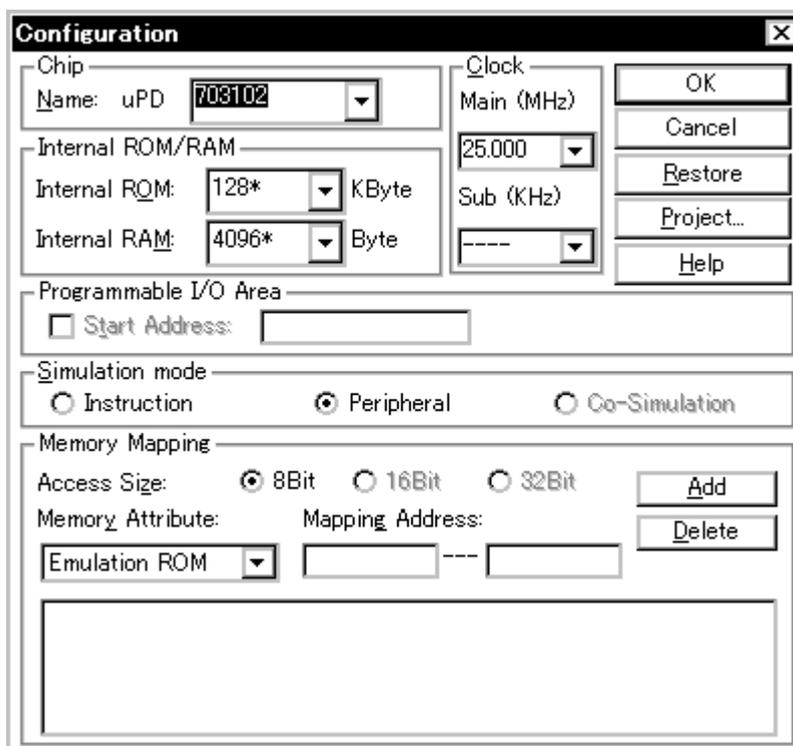
- 動作環境の設定
- オプションの設定
- マッピング設定

5.1.1 動作環境の設定

シミュレータの動作環境を設定するには、SM plus 起動時に自動的にオープンする[コンフィグレーション・ダイアログ](#)で行います。

すでにプロジェクト・ファイルが存在する場合には、<Project...> ボタンのクリックによりデバッグ環境の復元が可能です。（「[5.17.1 デバッグ環境 \(プロジェクト・ファイル\)](#)」参照）

図 5 - 1 コンフィグレーション・ダイアログ



5.1.2 オプションの設定

拡張オプション，および各種デバッグ・オプションの設定は、[拡張オプション設定ダイアログ](#)，[ディバッガ・オプション設定ダイアログ](#)で行います。

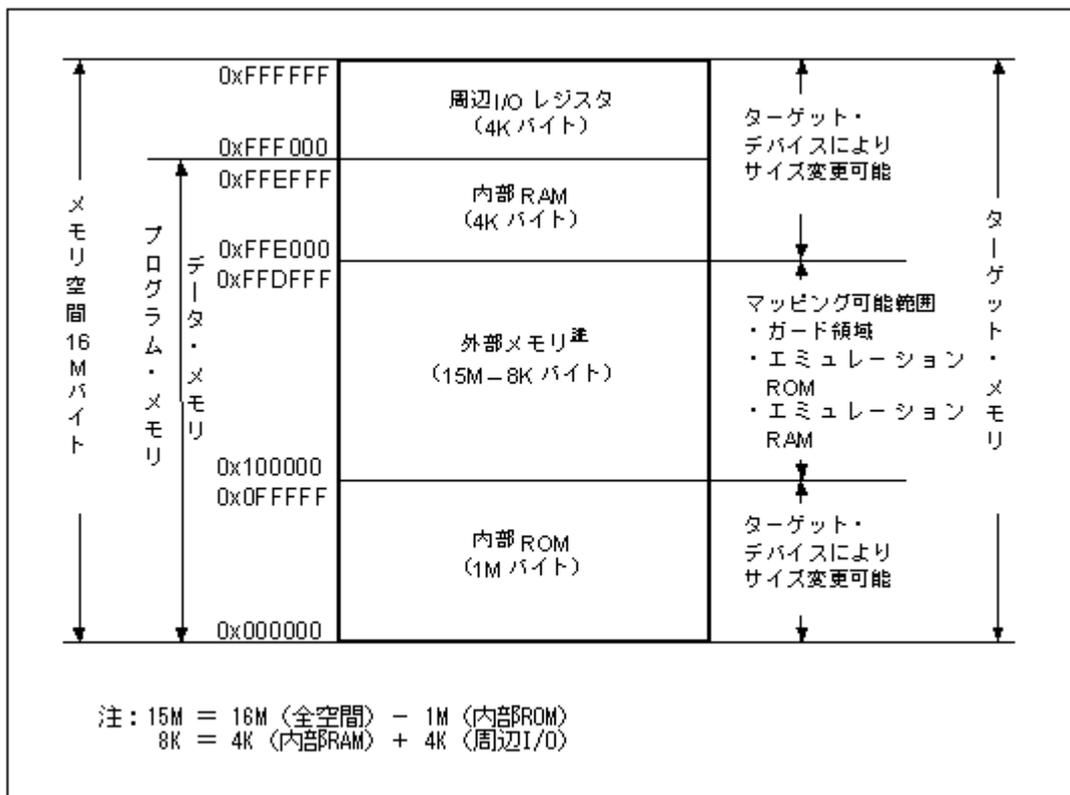
5.1.3 マッピング設定

SM plus では**コンフィグレーション・ダイアログ**で指定したターゲット・デバイスと同じ連続したメモリ空間を、ホスト・マシン上の代替メモリを確保することで仮想的に管理しています。

これにより、内部 ROM/RAM 領域のサイズ変更や、任意のメモリ領域をエミュレーション ROM/RAM 領域としてマッピングすることができます。

次図に**コンフィグレーション・ダイアログ**で使用 CPU を μ PD703000 と指定した場合のターゲット・メモリ空間を示します。

図 5 - 2 SM plus 管理のメモリ空間 (μ PD703000 の場合)



5.2 ダウンロード/アップロード機能

SM plus では、次表に示すファイル形式のオブジェクト・ファイルのダウンロード、およびアップロードが可能です。

表 5 - 2 ダウンロード/アップロードできるファイルの種類

形式	拡張子
ロード・モジュール (ELF (.OUT))	Load Module (*.out) 注1
インテル・ヘキサ・フォーマット (標準, 拡張)	Hex Format (*.hex) 注2
モトローラ・ヘキサ・フォーマット S タイプ (S0, S2, S3, S7, S8)	
拡張テック・ヘキサ・フォーマット	
バイナリ・データ	Binary Data (*.bin)
カバレッジ結果	Coverage (*.cvb)

注1 ダウンロードのみ

注2 ダウンロード時はフォーマット自動判定、アップロード時は保存形式を指定。

(1) ダウンロード

オブジェクト・ファイルのダウンロードは、[ダウンロード・ダイアログ](#)で行います。

複数のロード・モジュール・ファイルのダウンロードが可能です。

デバッグ情報を持ったロード・モジュール・ファイルをダウンロードすることにより、自動的に該当ソース・テキスト・ファイル ([ソース・テキスト・ウィンドウ](#)) が表示されます。

(2) ロード済みファイルの確認

ロード済みファイルの確認は、[ファイル]メニュー [ロードモジュール]の選択によりオープンする[ロード・モジュール一覧ダイアログ](#)で行います。これにより、複数のロード・モジュール・ファイルをロードした際の確認が可能です。

(3) アップロード

メモリ内容等のアップロードは、[アップロード・ダイアログ](#)で行います。

保存範囲の設定が可能です。

5.3 ソース表示，逆アセンブル表示機能

ソース・ファイルの表示は，[ソース・テキスト・ウィンドウ](#)で行います。また，逆アセンブル表示，オンライン・アセンブルは[逆アセンブル・ウィンドウ](#)で行います。

- [ソース表示](#)
- [逆アセンブル表示](#)
- [混合表示モード（ソース・テキスト・ウィンドウ）](#)
- [シンボル変換](#)

5.3.1 ソース表示

デバッグ情報を持ったロード・モジュール・ファイルをダウンロードすることにより，[ソース・テキスト・ウィンドウ](#)上に自動的に該当ソース・テキスト・ファイルが表示されます。

表示開始位置の変更は [表示]メニュー [移動]の選択によりオープンする[ソース指定ダイアログ](#)で行います。

タブ・サイズや表示フォント等の表示に関する指定，およびソース・パスの指定は，[デバッガ・オプション設定ダイアログ](#)で行います。

検索は，<Search...> ボタンのクリックによりオープンする[ソース・サーチ・ダイアログ](#)で行います。検索結果は[ソース・テキスト・ウィンドウ](#)上で反転表示されます。

5.3.2 逆アセンブル表示

逆アセンブル表示は，[逆アセンブル・ウィンドウ](#)で行います。

表示開始位置の変更は [表示]メニュー [移動]の選択によりオープンする[アドレス指定ダイアログ](#)で行います。

オフセット表示，およびレジスタ名表示の指定は[デバッガ・オプション設定ダイアログ](#)で行います。

検索は，<Search...> ボタンのクリックによりオープンする[逆アセンブル・サーチ・ダイアログ](#)で行います。検索結果は[逆アセンブル・ウィンドウ](#)上で反転表示されます。

5.3.3 混合表示モード (ソース・テキスト・ウィンドウ)

ソース・テキスト・ウィンドウでは、[表示]メニュー [混合表示]を選択することにより、ソース・ファイルと合わせてプログラムの逆アセンブル表示が可能です。混合表示モードの表示内容は、表示ファイルとして保存可能です。

通常表示

```

* | | | | 58 | /*タイマ設定*/
* | | | | 59 | TUM1 = 0x200;
* | | | | 60 | CE1 = 1;
* | | | | 61 | time_over = 0;

```

ソース・ファイルを表示するほか、一般的なテキスト・ファイルの内容を表示できます (デフォルト)。

混合表示

```

* | | | | 58 | /*タイマ設定*/
* | | | | 59 | TUM1 = 0x200;
* | 00000394 | 20660002 | movea 0x200, r0, r12
* | 00000398 | 606740f2 | st.h r12, TUM1
* | | | | 60 | CE1 = 1;
* | 0000039c | c03f42f2 | set1 0x7, TMC1
* | | | | 61 | time_over = 0;
* | 000003a0 | 440e0000 | movhi 0x0, gp, r1
* | 000003a4 | 61071184 | st.w r0, -0x7bf0[r1]

```

表示するソース・ファイルの行にプログラム・コードが対応している場合、そのソース行に続いて逆アセンブル行が表示されます。逆アセンブル行では、アドレスのラベル、コード・データ、および逆アセンブルされたニモニックが表示されます (ニモニックの表示開始位置はタブ・サイズの設定値により調整されます)。

注意 混合表示モードは、ロード・モジュールがダウンロードされてシンボル情報が読み込まれている、かつ対応するソース・ファイルが表示されている場合のみ有効です。

5.3.4 シンボル変換

シンボル変換ダイアログにより、指定した変数や関数のアドレス、およびシンボル値の表示が可能です。変換したい文字列を選択し、コンテキスト・メニュー [シンボル変換...]により行います。

5.4 ブレーク機能

ブレーク機能とは、CPU によるユーザ・プログラムの実行、およびトレサの動作を停止する機能です。

- [ブレークの種類](#)
- [ブレーク・ポイントの設定](#)
- [変数へのブレーク設定](#)

5.4.1 ブレークの種類

ブレークには次の種類があります。

表 5 - 3 ブレークの種類

項目	内容
ハードウェア・ブレーク (イベント検出ブレーク)	設定されたブレーク・イベント条件を検出することにより、ユーザ・プログラムの実行を停止する機能 ^{注1} 。 「 5.4.2 ブレーク・ポイントの設定 」参照
[カーソル位置まで実行]によるブレーク (簡易ブレーク)	[実行]メニュー [カーソル位置まで実行]の選択により実行されたユーザ・プログラムを、 ソース・テキスト・ウィンドウ 、または 逆アセンブル・ウィンドウ 上で指定されたアドレスを検出することにより停止する機能 ^{注2} 。
ステップ実行の条件成立によるブレーク	各コマンド([ステップ・イン],[ネクスト・オーバ],[リターン・アウト],[スローモーション])の終了条件を満足することにより実行を停止する機能。
強制ブレーク	[実行]メニュー [ストップ]、および STOP ボタンの選択により実行を強制的に停止する機能。 すべての実行コマンドに対して有効です。
フェール・セーフ・ブレーク	ユーザ・プログラムがメモリ、およびレジスタに対して禁止されていることを行った場合、強制的に実行を停止させる機能。

注 1 [継続して実行] [自動継続実行] [カーソル位置から実行]、および[リスタート]実行に対して有効です。

注 2 ユーザ・プログラムの実行停止後、この機能によるブレーク・ポイントは削除されます。

この機能による実行中はカーソル位置以前に設定されているブレーク・イベントは発生しません。

5.4.2 ブレーク・ポイントの設定

ブレーク・ポイントは、ソース・テキスト・ウィンドウ、逆アセンブル・ウィンドウ上でワン・クリックすることにより、簡単に任意の場所への設定が可能です。

ブレーク・ポイントは、ブレーク・イベント条件として設定され、イベント機能を用いて管理されているため、設定数に制限があります（「5.13.4 各種イベント条件の有効イベント数」参照）。

(1) ブレーク・ポイントの設定方法

ブレーク・ポイントは、'*'が表示されている行（プログラム・コードが存在している行）をクリックすることにより行います。

各種イベント、ブレークが設定されている行に対し設定を行った場合には、複数のイベント設定を示す'A'が表示されます（「表7 - 9 イベント設定状態」参照）。

参考 拡張オプション設定ダイアログで、実行前/実行後ブレークの設定が可能です。

図5 - 3 ブレーク・ポイントの設定



(2) ブレーク・ポイントの削除方法

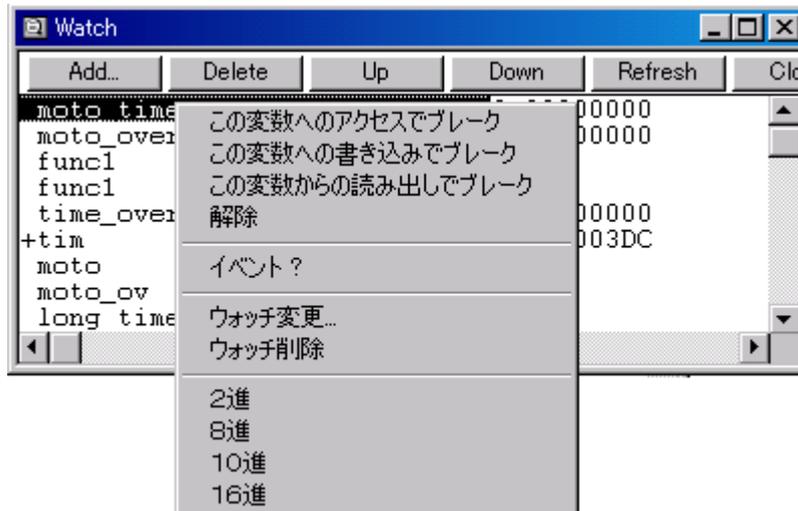
削除したいブレーク・ポイントの設定位置をクリックします。

削除の結果、他のイベントが残っていればそのイベントのマークが表示されます。

5.4.3 変数へのブレーク設定

ソース・テキスト・ウィンドウ、ウォッチ・ウィンドウでは、コンテキスト・メニューにより、変数へのアクセス・ブレーク設定を簡単に行うことができます。

図 5 - 4 変数へのブレーク設定



5.5 プログラム実行機能

プログラム実行機能は、CPU によるユーザ・プログラムの実行とトレーサの動作を開始する機能です。

ユーザ・プログラムを実行することで、設定したブレーク・ポイント、または強制ブレークまで PC が進みます（「5.4 ブレーク機能」参照）。

SM plus の実行機能には次の種類があり、操作は次図に示すツールバーの実行ボタン、または[実行]メニューにより行います。

図 5 - 5 実行ボタン



図 5 - 6 [実行]メニュー

実行(R)	イベント(N)	フォーカス(F)	ジャンプ(J)	ウィンドウ(W)	ヘルプ(H)
リスタート(R)		F4			
ストップ(S)		F2			
継続して実行(G)		F5			
ブレークせずに実行(P)		Ctrl+F5			
リターンアウト(E)		F7			
ステップイン(I)		F8			
ネクストオーバー(O)		F10			
カーソル位置から実行(A)		Shift+F6			
カーソル位置まで実行(M)		F6			
自動継続実行(&)					
スローモーション(W)					

表 5 - 4 実行の種類

項目	内容
[リスタート]	CPU リセット後、0 番地よりユーザ・プログラムを実行します。 ユーザ・プログラム実行前に CPU をリセットして [継続して実行] を実行した場合と同じ動作です。
[継続して実行]	現在の PC レジスタで示されるアドレスからユーザ・プログラムを実行し、設定されているブレーク・イベント条件が成立するとユーザ・プログラムの実行を停止します。
[ブレークせずに実行]	現在の PC レジスタで示されるアドレスからユーザ・プログラムを実行し、設定されているブレーク・ポイントを無視してユーザ・プログラムを実行します。
[リターンアウト]	呼び出し関数に戻るまでユーザ・プログラムを実行します。 C 言語で記述した関数が対象となります。
[ステップイン]	ソース・テキスト・ウィンドウの場合、現在の PC レジスタ値からソース・テキストの 1 行分をステップ実行し、各ウィンドウの内容を更新します。 逆アセンブル・ウィンドウの場合、現在の PC レジスタ値から 1 命令を実行し、各ウィンドウの内容を更新します。

表 5 - 4 実行の種類

項目	内容
[ネクストオーバー]	対象となる命令が jarl 命令の場合、jarl 命令によって呼び出された関数やサブルーチンを、1 ステップとみなしたネクスト・ステップ実行をします (jarl 命令を実行したときと同じネストになるまで、ステップ実行します)。jarl 命令以外の場合、[ステップイン] 実行時と同じ動作です。
[カーソル位置から実行]	指定したアドレスからユーザ・プログラムを実行し、設定されているブレーク・イベント条件が成立するとユーザ・プログラムの実行を停止します。
[カーソル位置まで実行]	現在の PC レジスタで示されるアドレスから、ソース・テキスト・ウィンドウ、または逆アセンブル・ウィンドウ上の行 / アドレス表示エリア内で選択されたアドレスまでユーザ・プログラムを実行し、ブレークします。なお、この選択によるユーザ・プログラムの実行中は、現在設定されているブレーク・イベントは発生しません。
[自動継続実行]	現在の PC レジスタで示されるアドレスからユーザ・プログラムを実行し、設定されているブレーク・イベント条件が成立するとユーザ・プログラムを一旦停止し、各ウィンドウの内容を更新したのち、再び停止しているアドレスからユーザ・プログラムを実行します。ユーザが [ストップ] を行うまで、この動作を繰り返します。
[スローモーション]	現在の PC レジスタ値で示されるアドレスからソース・モードの場合は 1 行分、命令モードの場合は 1 命令分のステップ実行を行い、そのつど各ウィンドウの内容を更新します。ユーザが [ストップ] を行うまで、この動作を繰り返します。

5.6 ウォッチ機能

ウォッチ機能に関する次の項目について説明します。

- データ値の表示, 変更
- ローカル変数値の表示, 変更
- ウォッチ・データの登録, 削除
- ウォッチ・データの変更
- データ値の一時的表示, 変更
- バルーン・ウォッチ機能

5.6.1 データ値の表示, 変更

データ値の表示, 変更はウォッチ・ウィンドウで行います。

ウォッチ・データを登録することにより, データ値の推移が確認できます。

また, 大域的なデータ (グローバル変数やパブリック・シンボルなど) は, メモリ・ウィンドウと同様にプログラム実行中でも表示可能です。

データ値の更新結果と書き替えは, メモリ・ウィンドウに反映されます。

表示形式の指定はデバッガ・オプション設定ダイアログで行います。

図5 - 7 ウォッチ・ウィンドウ

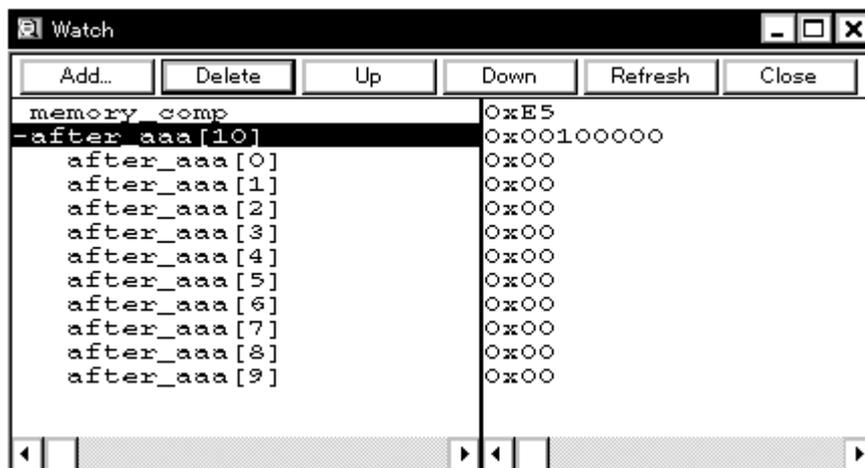
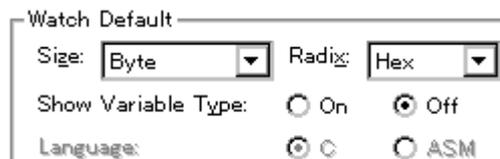


図5 - 8 ウォッチ表示形式の指定 (デバッガ・オプション設定ダイアログ)

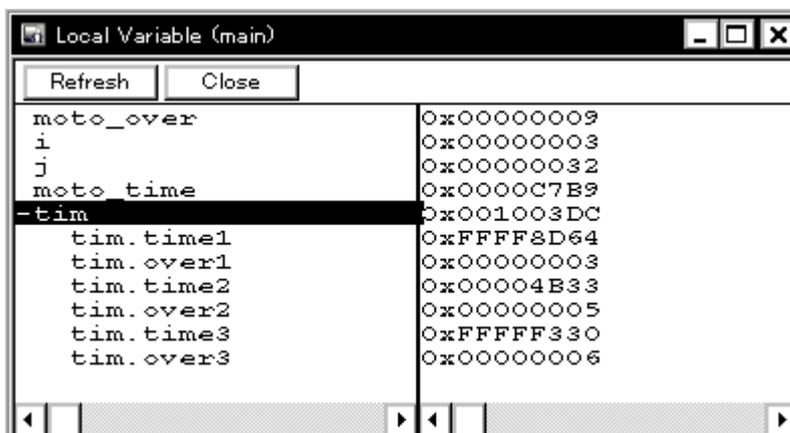


5.6.2 ローカル変数値の表示, 変更

ローカル変数値の表示, 変更はローカル変数ウィンドウで行います。

このウィンドウでは, カレント関数内のローカル変数を自動的に表示します (変数の追加 / 削除は不可)。

図 5 - 9 ローカル変数ウィンドウ



5.6.3 ウォッチ・データの登録, 削除

ウォッチ・ウィンドウへのデータ登録は, ソース・テキスト・ウィンドウ, または逆アセンブル・ウィンドウ上から可能です。各ウィンドウ上で変数やシンボル名を選択し <Watch> ボタンをクリックすることにより簡単に行えます。また, 以下の方法でも登録可能です。

- 選択した変数やシンボル名を直接ウォッチ・ウィンドウ上にドロップ (「5.18.4 ドラッグ & ドロップ機能」参照)。
- クイック・ウォッチ・ダイアログ, またはウォッチ登録ダイアログで <Add> ボタンをクリック

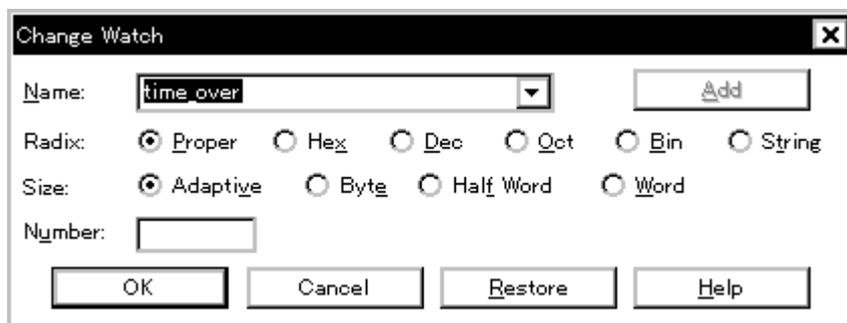
ウォッチ・データの削除は, 変数名やシンボル名をクリックし (Shift キー, Ctrl キーによる複数選択も可能), <Delete> ボタンをクリックすることにより行います。ただし, 配列の要素や構造体, 共用体のメンバなど開かれた階層の行は削除することはできません。

5.6.4 ウォッチ・データの変更

ウォッチ・データの変更はウォッチ変更ダイアログで行います。

なお、シンボル名を変更した結果、すでに同名のシンボル名のデータが存在している場合も変更を許可します。

図 5 - 10 ウォッチ変更ダイアログ



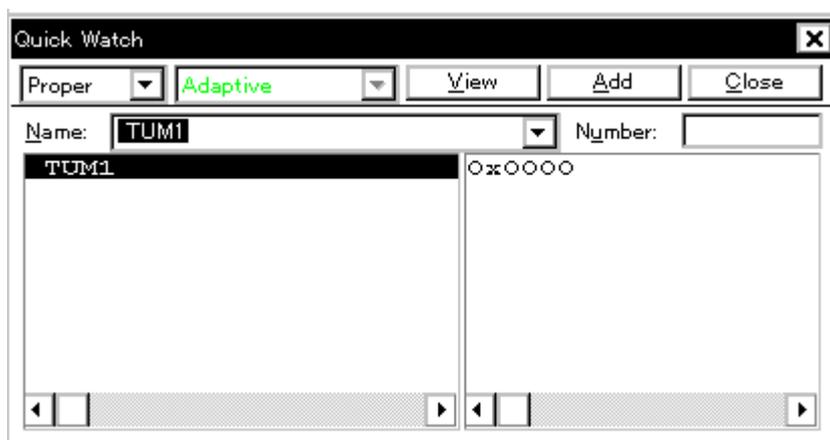
5.6.5 データ値の一時的表示, 変更

データ値の一時的表示, 変更にはクイック・ウォッチ・ダイアログを用います。

ソース・テキスト・ウィンドウ, または逆アセンブル・ウィンドウ上で変数やシンボル名を選択し <Quick...> ボタンをクリックすることにより, ウォッチ・データの登録が可能です。

このウィンドウ上では, 表示進数, 表示サイズ, および表示個数の変更が可能です。

図 5 - 11 クイック・ウォッチ・ダイアログ



5.6.6 バルーン・ウォッチ機能

ソース・テキスト・ウィンドウ, または逆アセンブル・ウィンドウ上では, 選択した変数上にマウス・カーソルを重ねることにより, 変数値がポップアップされます。

5.7 メモリ操作機能

メモリ操作に関する次の項目について解説します。

ベリファイ・チェックの指定等は、[拡張オプション設定ダイアログ](#)で行います。

- [メモリ内容の表示, 変更](#)
- [メモリ内容の初期化, コピー, 比較](#)
- [メモリ内容の書き替え \(DMM 機能\)](#)

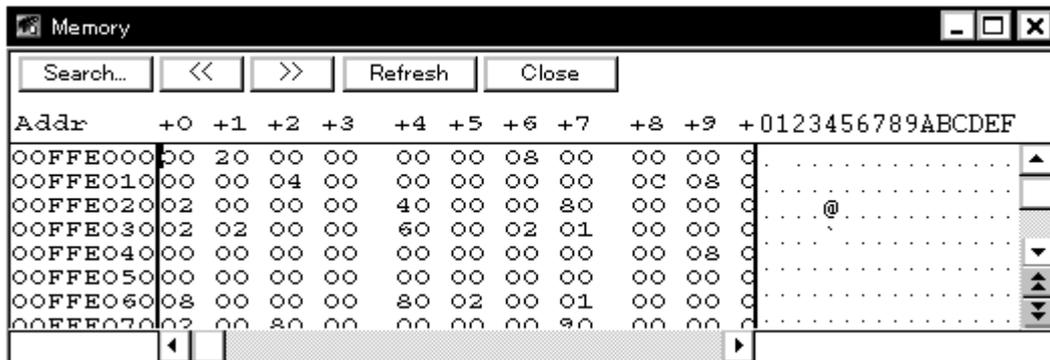
5.7.1 メモリ内容の表示, 変更

メモリ・ウィンドウ上では、二モニック・コード、16進コード、およびASCIIコードを使用してメモリの内容の表示、および変更が可能です。検索は<Search...> ボタンのクリックによりオープンする[メモリ・サーチ・ダイアログ](#)で行います。検索結果はメモリ・ウィンドウ上で反転表示されます。

表示開始位置の変更は、[表示]メニュー [移動]の選択によりオープンする[アドレス指定ダイアログ](#)で行います。

なお、プログラム実行中でもリアルタイム内部RAM サンプリング範囲に割り当てられている変数、およびデータなどはリアルタイムに表示可能です（「[5.16 RAM サンプリング機能](#)」参照）。

図 5 - 12 メモリ内容の表示, 変更



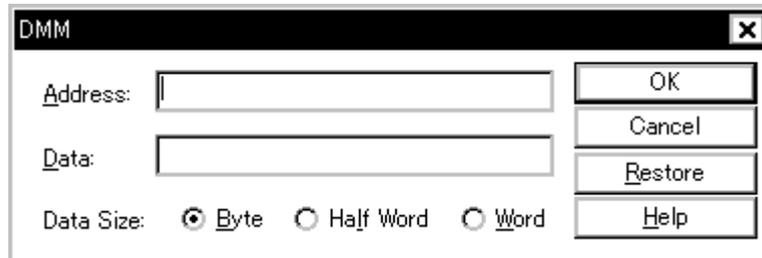
5.7.2 メモリ内容の初期化, コピー, 比較

メモリ内容の初期化、コピー、比較は、[編集]メニュー [メモリ] [初期化... / 複写... / 比較...]を選択することによりオープンする[メモリ・フィル・ダイアログ](#)、[メモリ・コピー・ダイアログ](#)、[メモリ比較ダイアログ](#)で行います。比較結果は[メモリ比較結果ダイアログ](#)に表示されます。

5.7.3 メモリ内容の書き替え (DMM 機能)

メモリ・ウィンドウ上の <Modify...> ボタンをクリックすることによりオープンする DMM ダイアログで、ユーザ・プログラム実行中のメモリ内容の書き替えが可能です。

図 5 - 13 メモリ内容の書き替え (DMM ダイアログ)



ただし、この機能はソフトウェア・エミュレーションによって実現されているため、書き替えに際し一時的にユーザ・プログラムの実行が停止されます。

DMM 機能を使用する上での注意は次の通りです。

- 書き込みの直前に他のブレーク要因が発生してプログラムを停止した場合にも、ブレーク要因によらずプログラムの実行を再開するため、発生したブレーク要因は無効となります。
- ベリファイ・チェックは常に無効となります。

5.8 レジスタ操作機能

レジスタ操作に関する次の項目について解説します。

- レジスタ内容の表示, 変更
- 周辺 I/O レジスタ内容の表示, 変更
- I/O ポート内容の表示, 変更

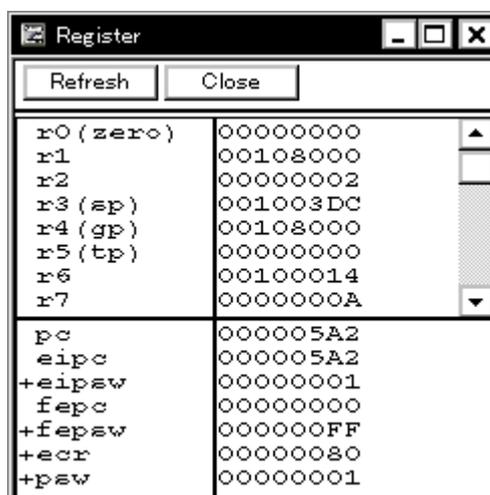
5.8.1 レジスタ内容の表示, 変更

レジスタ内容はレジスタ・ウィンドウで表示, 変更可能です。

レジスタ名称の表示切り替え (絶対名 / 機能名) は, デバッガ・オプション設定ダイアログで可能です。

表示レジスタの選択は, レジスタ選択ダイアログで行います。

図 5 - 14 レジスタ内容の表示, 変更 (レジスタ・ウィンドウ)



Register Name	Value
r0 (zero)	00000000
r1	00108000
r2	00000002
r3 (sp)	001003DC
r4 (gp)	00108000
r5 (tp)	00000000
r6	00100014
r7	0000000A
pc	000005A2
eipc	000005A2
+eipaw	00000001
fepc	00000000
+fepaw	000000FF
+acr	00000080
+paw	00000001

図 5 - 15 絶対名 / 機能名の切り替え (デバッガ・オプション設定ダイアログ)



DisAssemble

Show Offset: Label Mnemonic

Register Name: Function Name Absolute Name

5.8.2 周辺 I/O レジスタ内容の表示, 変更

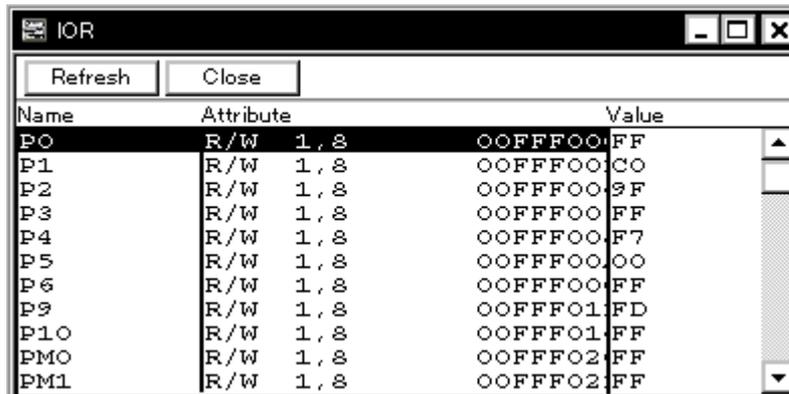
周辺 I/O レジスタ内容は [周辺 I/O レジスタ・ウィンドウ](#) で表示, 変更可能です。

表示開始位置の変更は [表示]メニュー [移動]の選択によりオープンする [アドレス指定ダイアログ](#) で行います。

注意 読み込み専用の周辺 I/O レジスタ, および I/O ポートの内容は変更することができません。また, 読み込み動作によってデバイスが動作してしまう周辺 I/O レジスタ, および I/O ポートは, 読み込み保護の対象となり読み込みを行いません。

このようなレジスタを読み込みたい場合には, [強制読み込み] を実行する必要があります。

図 5 - 16 周辺 I/O レジスタ内容の表示, 変更 (周辺 I/O レジスタ・ウィンドウ)



Name	Attribute	Value
P0	R/W 1, 8	00FFFF00FF
P1	R/W 1, 8	00FFFF00C0
P2	R/W 1, 8	00FFFF009F
P3	R/W 1, 8	00FFFF00FF
P4	R/W 1, 8	00FFFF00F7
P5	R/W 1, 8	00FFFF0000
P6	R/W 1, 8	00FFFF00FF
P9	R/W 1, 8	00FFFF01FD
P10	R/W 1, 8	00FFFF01FF
PM0	R/W 1, 8	00FFFF02FF
PM1	R/W 1, 8	00FFFF02FF

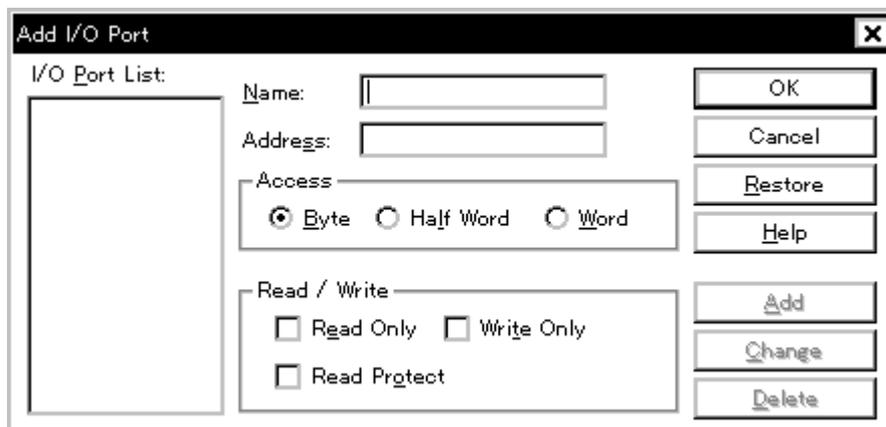
表示レジスタの選択は, [周辺 I/O レジスタ選択ダイアログ](#) で行います。周辺 I/O レジスタ選択ダイアログでは表示順序の指定も可能です。

5.8.3 I/O ポート内容の表示, 変更

ユーザ定義の I/O ポートは, [I/O ポート追加ダイアログ](#) で登録することにより, [周辺 I/O レジスタ・ウィンドウ](#) で表示, 変更が可能になります。

なお, プログラマブル I/O レジスタに対応している品種では, [コンフィグレーション・ダイアログ](#) で, プログラマブル I/O 領域使用の設定を行うことにより, プログラマブル I/O レジスタ内容の表示, 変更が可能です。

図 5 - 17 I/O ポートの登録 (I/O ポート追加ダイアログ)



Add I/O Port

I/O Port List:

Name:

Address:

Access:

Byte Half Word Word

Read / Write:

Read Only Write Only

Read Protect

Buttons: OK, Cancel, Restore, Help, Add, Change, Delete

5.9 スタック・トレース表示機能

スタック・トレース・ウィンドウでは、現在のユーザ・プログラムのスタック内容を表示します。

図 5 - 18 スタック・トレース表示



注意 スタック・トレース表示機能は、スタック・フレームを生成しない関数がある場合には、正しく表示しないことがあります。また、関数のプロローグ処理中、およびエピローグ処理中は [ERROR] を表示することがあります。

5.9.1 スタック・フレーム番号

スタック・フレーム番号は1から始まる自然数で、スタックのネストが浅くなるほど大きな番号になります。つまり、ある関数に対してスタック番号が1つ大きい関数が、ある関数の呼び出し元の関数となります。

5.10 タイマ機能

タイマ機能とは、ユーザ・プログラムの実行開始からブレークまでの実行時間 (Run-Break 時間)、またはタイマ・イベントを使用して、ユーザ・プログラムの特定の区間の実行時間を測定する機能です。

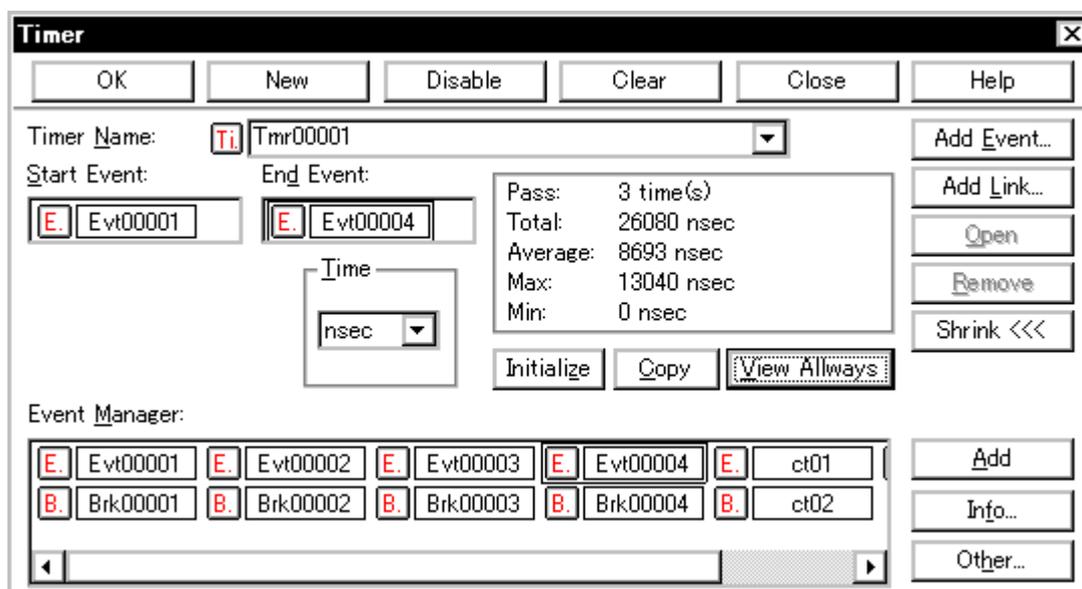
なお、タイマ機能は、[オプション]メニュー [タイマオン]の選択で有効となります。

- [タイマ・イベント条件](#)
- [Run-Break イベント](#)
- [測定可能時間](#)

5.10.1 タイマ・イベント条件

時間測定を開始 / 終了するトリガを指定したものがタイマ・イベント条件です。タイマ・イベント条件は[タイマ・ダイアログ](#)上で設定します ([「5.13 イベント機能」](#)参照)。

図 5 - 19 タイマ・イベントの設定, 表示 (タイマ・ダイアログ)



<View Always> ボタンにより、[タイマ測定結果ダイアログ](#)として常時表示が可能になります。

なお、プログラム実行中のタイマに対する操作は、[実行]メニュー [タイマ開始 / 停止]により行います。

5.10.2 Run-Break イベント

Run-Break イベントとは、ユーザ・プログラムの実行開始からブレークまでの実行時間（Run-Break 時間）を測定するタイマ・イベント条件につけられたタイマ・イベント名です。あらかじめ登録されており、[タイマ・ダイアログ](#)で指定することにより、Run-Break 時間の表示が可能です。

なお、Run-Break イベントは、同時に有効にできるタイマ・イベント数（[「5.13.4 各種イベント条件の有効イベント数」](#)参照）に含まれません。

5.10.3 測定可能時間

次表にタイマの測定可能値を示します。

表 5 - 5 測定可能値

製品	測定可能実行時間	測定可能実行回数
SM plus	最大約 7 分 9 秒（分解能：0.1 μ 秒）	32bit 最大 4294967295 回

5.11 トレース機能

トレース機能とは、ユーザ・プログラムの実行過程を示すデータの履歴をトレース・メモリに保存する機能です。なお、トレース機能は、[オプション]メニュー [トレーサオン]の選択で有効となります。

- トレース・メモリ
- トレース・データの確認
- 混合表示モード(トレース・ウィンドウ)
- トレーサの動作
- 条件トレースの設定

5.11.1 トレース・メモリ

SM plus はリング構造のトレース・メモリを持っており、サイズ指定は**拡張オプション設定ダイアログ**で行います。

トレース・メモリの最大容量は以下のとおりです。

表 5 - 6 トレース・メモリ・サイズ

品種	最大値
SM plus	16M フレーム

5.11.2 トレース・データの確認

トレース・メモリに保存されたトレース・データは**トレース・ウィンドウ**で確認できます。<Search> ボタンのクリックによりオープンする**トレース・サーチ・ダイアログ**で検索が可能です。

表示開始位置の変更は、[表示]メニュー [移動]の選択によりオープンする**フレーム指定ダイアログ**で行います。

なお、**トレース・ウィンドウ**内の表示項目は**トレース表示選択ダイアログ**で選択可能です。

また、タイムタグ・カウンタ、カウント・レート、タイムタグ積算の設定は**拡張オプション設定ダイアログ**で行います。

5.11.3 混合表示モード (トレース・ウィンドウ)

トレース・ウィンドウでは、[表示]メニュー [混合表示]を選択することにより、トレース結果と合わせてソース・ファイルの表示を行うことができます (混合表示モード)。

表示するプログラム・フェッチ・アドレスの行にプログラム・コードが対応している場合、そのトレース結果行の前にソース・ファイル行が表示されます。

Frame	Time	Address	Data	Status	Address	Data	Status	Jmpaddr	DisAsm
4084	3	000001D2	235F0500	BRM1				000002FC	ld.w 0x4[sp], r11
			mem_a++;/* 1 アドレスポインタ移動*/						
4085					001003CC	00000187	R		
4086	25	000001D6	415A0000	M1					add 0x1, r11
4087	2	000001D8	635F0500	M1					st.w r11, 0x4[sp]
4088					001003CC	00000188	W		
4089	1	000001DC	23670900	M1					ld.w 0x8[sp], r12
			mem_b++;/* 1 アドレスポインタ移動*/						
4090					00100300	00100007	R		

ソース・ファイル行は、表示色の変更され緑色で強調表示されます。

注意 混合表示モードは、ロード・モジュールがダウンロードされ、シンボル情報が読み込まれている時、フェッチ・アドレス、フェッチ・データ、フェッチ・ステータス、または逆アセンブル結果のいずれかが表示されている場合のみ有効です。

5.11.4 トレーサの動作

ユーザ・プログラムの実行形態、およびトレース制御モードでの設定により、トレーサの動作は次のように異なります。

なお、プログラム実行中のトレーサに対する操作は [実行]メニュー [トレース開始/停止]により行います。

(1) 実行時の動作

[実行]メニュー [無条件トレース/条件トレース]の選択 (トレース・モード)により、次のようにトレーサの動作が異なります。

表 5 - 7 トレーサ・モードの種類

項目	内容
無条件トレース	ユーザ・プログラムの実行でトレースを開始し、ブレークの発生によりトレースを終了します。 この際、設定されているトレース・イベント条件は無視されます。
条件トレース	トレース・ダイアログで設定した条件によりトレースを開始/終了します (「5.11.5 条件トレースの設定」参照)。 ただし、その間にブレークが発生した場合は、その時点でトレースを終了します。

(2) ステップ・イン実行時の動作

1ステップ実行ごとにトレーサが動作し、1ステップ分のトレース・データが逐次トレース・メモリに追加されます。

(3) ネクスト・オーバ実行時の動作

ネクスト・オーバ実行の対象となる命令により、トレーサの動作が異なります。

(a) jarl disp22,[lp] 命令

jarl 命令と呼び出されたサブルーチンの内部のトレースを行います。

(b) 上記以外の命令

ステップ・イン実行時と同じ動作をします。

(4) トレーサ制御モード

トレーサ制御モードとして次の種類があります。設定は [実行] メニューから行います。

表 5 - 8 トレーサ制御モードの種類

モード	内容
ノン・ストップ	トレース・メモリを一周したら最古のフレームからオーバーライトします (デフォルト)。
フル・ストップ	トレース・メモリを一周したらトレーサを停止します。
フル・ブレーク	トレース・メモリを一周したらトレーサとプログラム実行を停止します。
ディレイ・トリガ・ストップ	ディレイ・トリガ・イベント発生時にディレイ・カウント・フレーム分トレースを取り、トレーサを停止します。
ディレイ・トリガ・ブレーク	ディレイ・トリガ・イベント発生時にディレイ・カウント・フレーム分トレースを取り、トレーサとプログラム実行を停止します。

5.11.5 条件トレースの設定

トレース実行の開始 / 終了を示すトリガとなるイベント条件を使用して行うトレースが条件トレースです。

条件トレースの設定は、[トレース・ダイアログ](#)上でトレース・イベント条件を設定することにより行います（「[5.13 イベント機能](#)」参照）。

条件トレースには次の種類があります。

表 5 - 9 条件トレースの種類

項目	内容, 設定方法
セクション・トレース	指定した条件と条件の間（特定の区間）だけ行うトレースです。 トレース・ダイアログ でトレース開始イベントとトレース終了イベント条件を設定し、[実行]メニュー [条件トレース]を有効にすることにより、セクション・トレースを行うことができます。
クオリファイ・トレース	条件が成立したそのときだけ行うトレースです。 クオリファイ・トレース・イベントとして複数のイベントを設定した場合には、それぞれのイベントが成立するごとにトレースを行います。 トレース・ダイアログ でクオリファイ・トレース・イベント条件を設定し、[実行]メニュー [条件トレース]を有効にすることにより、クオリファイ・トレースを行うことができます。
ディレイ・トリガ・トレース	条件が成立したその後、ディレイ・カウント分だけ行うトレースです。 トレース・ダイアログ でディレイ・トリガ・イベント条件を設定し、 ディレイ・カウント設定ダイアログ でディレイ・カウントを設定後、[実行]メニュー [条件トレース]を有効にすることにより、ディレイ・トリガ・トレースを行うことができます。 なお、トレース制御モードは、[ディレイ・トリガ・ストップ]、または[ディレイ・トリガ・ブレーク]を選択してください。

5.12 カバレッジ測定機能

カバレッジ測定機能とは、ユーザ・プログラムを実行した際の、各アドレスに対するステータス（実行，リード，ライトなど）を記録する機能です。

なお、カバレッジ測定機能は、[オプション]メニュー [カバレッジオン]の選択で有効となります。

- [カバレッジ測定](#)
- [カバレッジ範囲の選択](#)
- [カバレッジ結果の表示](#)
- [カバレッジ効率の測定，表示](#)

5.12.1 カバレッジ測定

カバレッジ測定結果は、プログラムを実行することによりカバレッジ・メモリに記録されます。

なお、プログラム実行中のカバレッジ測定に対する操作は、[実行]メニュー [カバレッジ開始/停止]で行います。

5.12.2 カバレッジ範囲の選択

カバレッジ範囲の選択は、[カバレッジ範囲選択ダイアログ](#)で行います。

選択可能な範囲は以下のとおりです。

表 5 - 10 カバレッジ測定範囲

品種	測定範囲
V850	アドレス 0x100000 - 0xFFFFFFFF 番地の任意の 1M バイト空間 (デフォルト: 0x100000 - 0x1FFFFFF 番地) 加えて 0x000000 - 0x0FFFFFF 番地
V850E	アドレス 0x100000 - 0x3FFFFFF 番地の任意の 1M バイト空間 (デフォルト: 0x100000 - 0x1FFFFFF 番地) 加えて 0x000000 - 0x0FFFFFF 番地

5.12.3 カバレッジ結果の表示

カバレッジ結果はカバレッジ・ウィンドウで確認することができます。<Search> ボタンのクリックによりオープンするカバレッジ・サーチ・ダイアログでデータの検索が可能です。

表示開始位置の変更は [表示]メニュー [移動]の選択によりオープンするアドレス指定ダイアログで行います。

図5 - 20 カバレッジ結果の表示 (カバレッジ・ウィンドウ)

Addr	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
00000000	⊗	⊗	⊗	⊗	A	A	⊗	⊗	R	R	.	.	X	X	X	
00000010	.	.	R	R	W	W	W	W	A	A	A	A	A	A	A	W
00000020	A	A	A	A	.	R	W	.	W	W	
00000030	X	X	X	X	X	X	.	.	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	#	#	
00000040	⊗	⊗	A	A	A	A	A	A	R	A	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	
00000050	⊗	⊗	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	
00000060	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	
00000070	#	⊗	A	A	X	⊗	A	A	A	A	⊗	⊗	A	A	X	
00000080	⊗	⊗	⊗	⊗	#	#	#	#	X	X	X	X	X	X	X	
00000090	⊗	⊗	⊗	⊗	X	X	X	X	⊗	⊗	⊗	⊗	#	X	Y	
000000A0																

5.12.4 カバレッジ効率の測定, 表示

カバレッジ効率の測定は、カバレッジ条件設定ダイアログで行います。アドレス範囲、および関数単位での設定が可能です。

カバレッジ効率の測定結果は、<View> ボタンのクリックによりオープンするカバレッジ効率表示ダイアログで確認できます。

図5 - 21 カバレッジ効率の測定 (カバレッジ条件設定ダイアログ)

Coverage - Condition Setting

OK View Restore Help

Survey List

0xffe000 - 0xffe0ff

sample.out\$sub.c#_comp_char

Clear

Delete

Insert

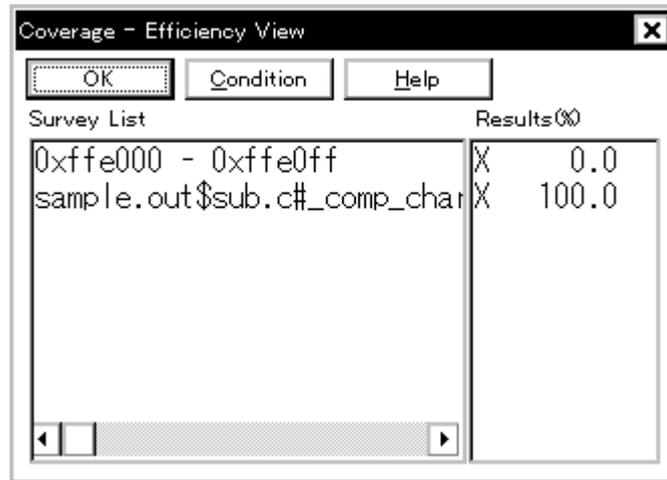
Address Range: 0xffe000 -- 0xffe0ff

Function: sample.out\$sub.c#_comp_char

Survey Condition

Execute Read Write All

図 5 - 22 カバレッジ効率の表示



Survey List	Results(%)
0xffe000 - 0xffe0ff	X 0.0
sample.out\$sub.c#_comp_char	X 100.0

5.13 イベント機能

イベントとは、「アドレス 0x1000 番地をフェッチした」、「アドレス 0x2000 番地にデータを書き込んだ」などのデバッグにおけるターゲット・システムの特定の状態を指しています。

SM plus では、このようなイベントをブレーク、トレース等の各デバッグ機能のアクション・トリガとして利用しています。

- イベント機能の利用
- イベントの作成
- 各種イベント条件の設定
- 各種イベント条件の有効イベント数
- イベントの管理

5.13.1 イベント機能の利用

イベント（イベント条件、およびイベント・リンク条件）は、各デバッグ機能を割り当てることで次表に示す各種イベント条件となります。これにより、各種イベント条件は、デバッグ目的に準じて機能させることができます。

表 5 - 11 各種イベント条件

条件名	マーク	内容 設定ダイアログ
ブレーク・イベント	B	ユーザ・プログラムの実行、またはトレーサの動作を停止させる際の条件（「5.4 ブレーク機能」参照） ブレーク・ダイアログ
トレース・イベント	T	ユーザ・プログラムの実行過程をトレース・メモリに保存する際の条件（「5.11 トレース機能」参照） トレース・ダイアログ
タイマ・イベント	Ti	時間測定の開始タイミングと終了タイミングを指定する際の条件（「5.10 タイマ機能」参照） タイマ・ダイアログ
スタブ・イベント	U	プログラムの挿入タイミングを指定する際の条件（「5.15 スタブ機能」参照） スタブ・ダイアログ
スナップ・ショット・イベント	S	スナップ・ショットを行うタイミングを指定する際の条件（「5.14 スナップ・ショット機能」参照） スナップ・ショット・ダイアログ

5.13.2 イベントの作成

イベントは、イベントという状態に個別に名前を付け、イベント条件、およびイベント・リンク条件として登録することで先に述べた各種イベント条件のアクション・トリガとして使用可能になります。

(1) イベント条件の作成，登録

イベント条件の作成は、通常、[イベント・ダイアログ](#)で行います。

このダイアログ上で、アドレス条件、ステータス条件、データ条件などを設定し、1つのイベント条件として名前を付け登録します。

簡易的な方法として、[ソース・テキスト・ウィンドウ](#)、および[逆アセンブル・ウィンドウ](#)上でブレーク・ポイントを設定することにより生成されたイベント条件の利用も可能です(「[5.4.2 ブレーク・ポイントの設定](#)」参照)。

(2) イベント・リンク条件の作成，登録

イベント・リンク条件は、イベント条件に順序的な制約をもうけて単一のイベントとする条件で、指定順序どおりにユーザ・プログラムが実行した場合にのみ発生します。

イベント・リンク条件の作成は、[イベント・リンク・ダイアログ](#)で行います。

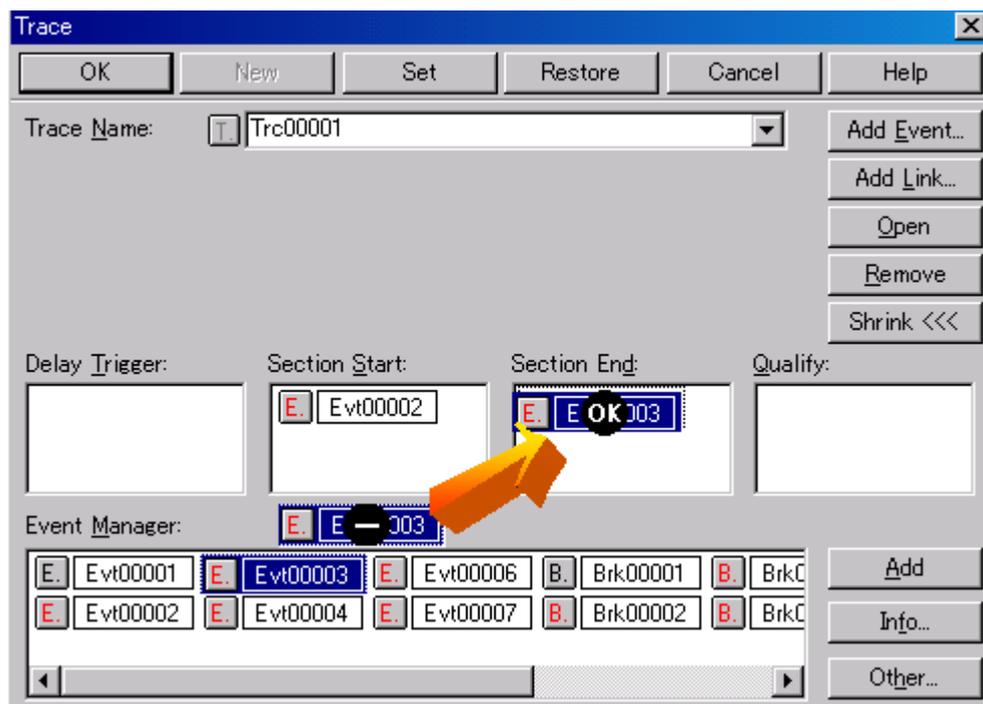
5.13.3 各種イベント条件の設定

[表 5 - 11](#) に示した各種イベント条件の作成は、それぞれの設定ダイアログ上において個別に行います。

(1) 各種イベント条件の設定方法

各種イベント条件の設定は、各設定ダイアログ上のイベント・マネージャ・エリア (または[イベント・マネージャ](#)) に表示されているイベント条件、またはイベント・リンク条件のイベント・アイコンを選択し、設定したい条件エリアにドラッグ & ドロップすることにより行います。

図 5 - 23 各種イベント条件の設定方法



ドラッグ中のマウス・カーソルは、設定可能な条件エリア上で 'OK' の形状となります。

作成した各種イベント条件は、設定ダイアログ上の <Set> ボタン、または <OK> ボタンをクリックすることにより、イベント・アイコンのマーク部分が赤くなり設定（有効化）されます。設定されることによりはじめて各種イベント条件としてのデバッグ・アクションが発生します。

(2) 選択モードでの設定（内容確認後の設定）

設定したい条件エリアにフォーカスを置き、<Add Event...> ボタン、または <Add Link...> ボタンをクリックすることにより、**イベント・ダイアログ**、**イベント・リンク・ダイアログ**が " 選択モード " でオープンします。ダイアログ上で設定する条件を選択することで該当イベントの詳細条件が表示されるため、内容確認を行ってからの条件設定が可能です。

(3) イベント・アイコンのコピー、移動

イベント条件設定エリア内では、ドラッグ&ドロップによる以下の方法でイベント条件のコピー、移動が可能です。

- ・マウスだけでドロップした場合には、イベント条件を移動します。
- ・Shift キーを押しながらドロップした場合には、イベント条件を移動します。
- ・Ctrl キーを押しながらドロップした場合には、イベント条件をコピーします。

(4) イベント・マネージャ・エリアでの操作

設定したい条件エリアにフォーカスを置き、イベント・アイコンを選択した状態で <Add> ボタンをクリックすることで各種イベント条件の設定が可能です。

イベント設定内容表示

イベントを選択し、<Open> ボタンをクリック、あるいはイベントをダブルクリックすることにより、選択したイベントに対応する設定ダイアログがオープンし、イベントの設定内容を表示することができます。

削除

イベントを選択し、<Delete> ボタンをクリック、あるいは Delete キーを押すことにより、イベントの削除が可能です。

表示モード変更、並べ替え

<Info...> ボタンをクリックすることにより、イベント・マネージャ・エリアの表示モードの変更や並べ替えが可能です。

エリア非表示

<Shrink<<<> ボタンにより、エリアの非表示が可能です。

5.13.4 各種イベント条件の有効イベント数

イベント条件、各種イベント条件は、それぞれ最大 256 個の条件を登録することができます。ただし、同時に設定可能な（有効になる）各種イベント条件の個数には次のように制限があります。

このため、有効数を越えている場合や、使用しているイベント条件、またはイベント・リンク条件が同時に使用できる個数を越えてしまう場合には、一旦、設定した各種イベント条件を無効にした状態で登録する必要があります（「5.13.5 イベントの管理」参照）。

表 5 - 12 各種イベント条件における有効イベント数

製品名	イベント		イベント・リンク	ブレーク	トレース	スナップショット	スタブ	タイマ
	実行	アクセス						
SM plus	64		16 ^a	64	64	8	1	8

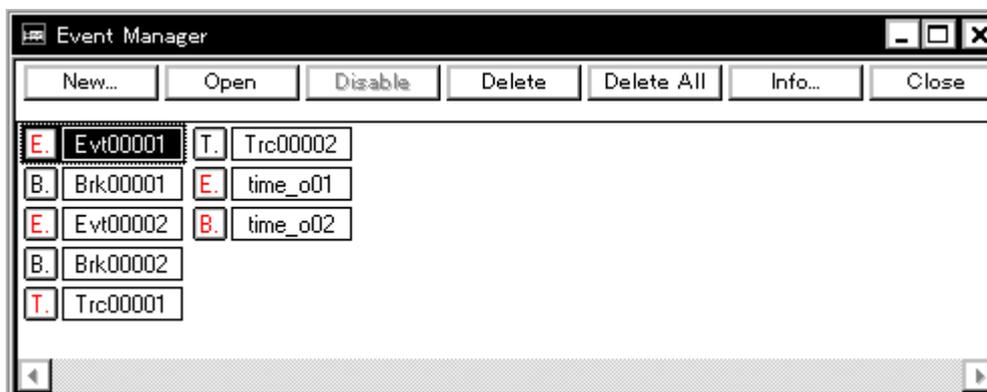
- a. 有効になっているブレーク、トレース、スナップ・ショット、スタブで使用されているイベント・リンク条件を含む。

5.13.5 イベントの管理

すべてのイベントの管理は**イベント・マネージャ**で行います。

イベント・マネージャでは、**各種イベント条件**の表示(詳細表示)、有効/無効の切り替え、削除等が可能です。

図 5 - 24 イベントの管理 (イベント・マネージャ)



(1) イベント・アイコン

イベント・アイコンはイベントの種類を示すマークとイベント名とで構成されており、色はイベントの設定状態を示しています。

マーク部分をクリックすることにより、有効/無効の切り替えが可能です。

表 5 - 13 イベント・アイコン

文字色	マーク	意味
赤	E.L.	イベント条件、イベント・リンク条件を使用している各種イベント条件が有効であることを示します。
	B.T.Ti.U.S.	各種 イベント条件 が有効であることを示します。 条件が成立することにより各種イベントが発生します。
黒	E.L.	イベント条件、イベント・リンク条件を使用している各種イベント条件が無効であることを示します。
	B.T.Ti.U.S.	各種 イベント条件 が無効であることを示します。 条件が成立してもイベントは発生しません。
黄	E.L.	イベント条件で指定しているシンボルが、現在ロードしているプログラムでは認識できないために保留であることを示します。
	B.T.Ti.U.S.	各種 イベント条件 が保留であることを示します。 条件が成立してもイベントは発生しません。

5.14 スナップ・ショット機能

スナップ・ショット機能とは、ユーザ・プログラムの実行過程のレジスタ・メモリ、周辺 I/O レジスタ内容をスナップ・データとしてトレース・メモリに保存する機能です。

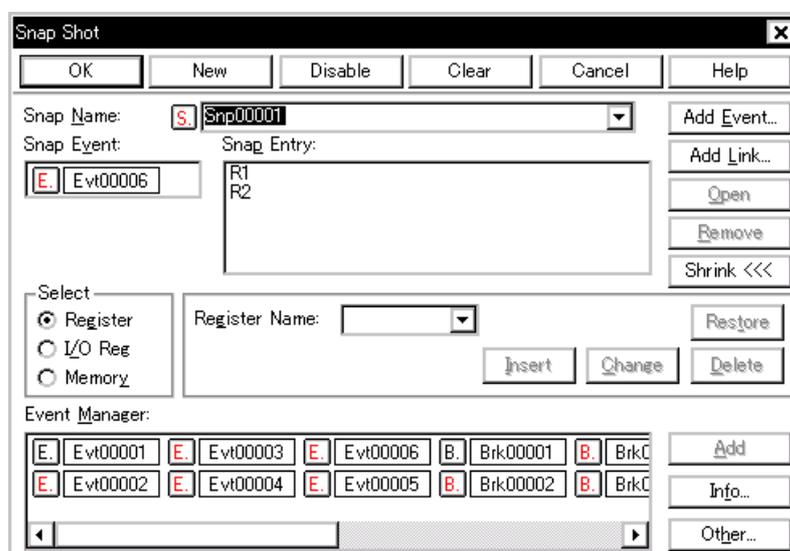
- スナップ・ショット・イベント条件
- スナップ・データ

5.14.1 スナップ・ショット・イベント条件

スナップ・ショットを実行するトリガを指定したものが、スナップ・ショット・イベント条件です。

スナップ・ショット・イベント条件は、スナップ・ショット・ダイアログ上で設定します（「5.13 イベント機能」参照）。

図 5 - 25 スナップ・ショット・ダイアログ



5.14.2 スナップ・データ

1つのスナップ・イベント条件で、最大 16 箇所のスナップ・データの収集を指定することができます。

スナップ・データとして収集できるデータには次の種類があります。

- レジスタ値（プログラム・レジスタ、システム・レジスタ）
- 周辺 I/O レジスタ値
- メモリ内容

5.15 スタブ機能

スタブ機能とは、イベント成立時にメモリの空き領域にあらかじめダウンロード、あるいはオンライン・アセンブルで書き込んでおいたユーザ・プログラム（サブ・プログラム）を実行する機能です。

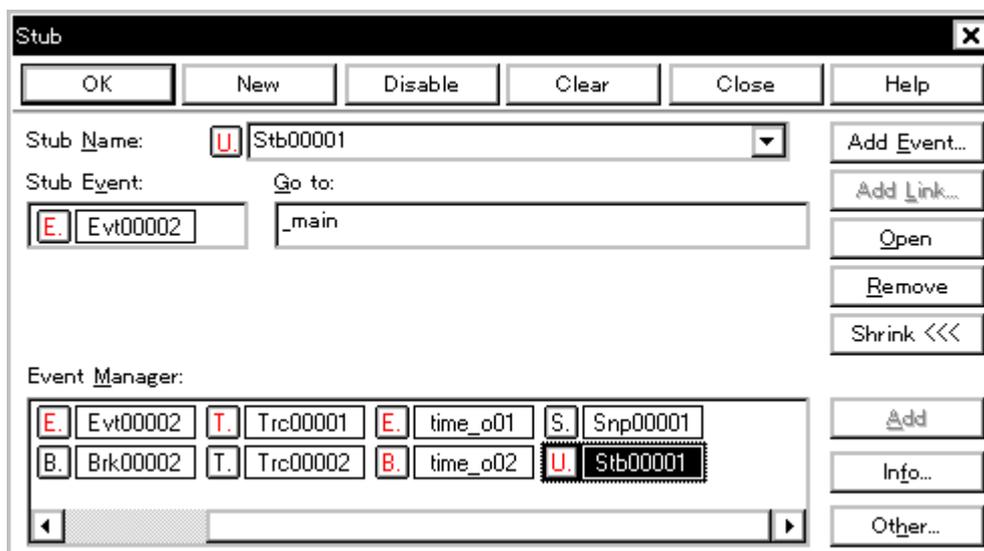
- ・スタブ・イベント条件の設定
- ・スタブ機能の流れ

注意 スタブ・イベント発生時に実行するサブ・プログラムの最後には、`jmp[r31]` 命令を追加する必要があります。追加していない場合は誤動作の原因となります。

5.15.1 スタブ・イベント条件の設定

スタブ機能を実行するトリガを指定したものがスタブ・イベント条件です。スタブ・イベント条件はスタブ・ダイアログ上で設定します（「5.13 イベント機能」参照）。

図 5 - 26 スタブ・イベント条件の設定



なお、スタブ・イベント発生時に実行する関数の先頭アドレスは次表の通りです。

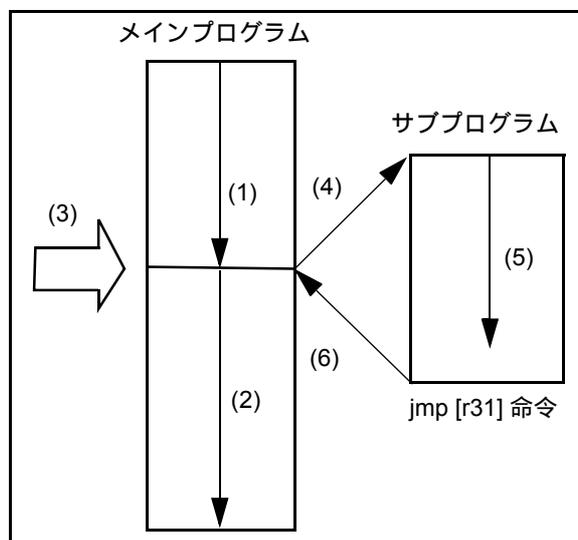
表 5 - 14 実行関数の先頭アドレス（スタブ機能）

製品名	設定範囲
SM plus	0 関数の先頭アドレス 0xFFFFFFFF

5.15.2 スタブ機能の流れ

次図にスタブ機能の流れを示します。

図 5 - 27 スタブ機能の流れ



(1) スタブ機能を使用しない場合

(1), (2) を実行します。

(2) スタブ機能を使用する場合

- 1) (1) を実行します。
- 2) (3) でスタブ・イベントが発生し、ブレークします。
- 3) (4) でシミュレータが、現在のアドレスを r31 レジスタに設定し、PC 値をサブプログラムのエントリ・アドレスに書き替えます。
- 4) (5) を実行します。
- 5) (6) でサブプログラムの最後の jmp 命令により、メイン・プログラムに復帰します。

5.16 RAM サンプルング機能

RAM サンプルング機能とは、サンプルング範囲に割り当てた変数、およびデータなどをウォッチ・ウィンドウ、メモリ・ウィンドウ、および周辺 I/O レジスタ・ウィンドウ上でリアルタイムに表示する機能です。

サンプルング範囲はシミュレータに依存しますが、次表の範囲に割り当てられた変数、およびデータはリアルタイムな表示が可能です。

使用に際し、拡張オプション設定ダイアログでサンプルング時間を設定します。

表 5 - 15 リアルタイム内部 RAM サンプルング機能の表示範囲

品種	リアルタイム表示範囲
SM plus	内部 RAM

表 5 - 16 アドレス対象領域と有効サイズ

品種	対象領域	有効サイズ (バイト)	開始アドレスのアライン
SM plus	内部 RAM	1K	アラインしない

5.17 ロード/セーブ機能

SM plus では、以下に示す各情報をファイルとして保存、およびロード可能です。

これにより各情報の保存時の復元が可能です。

- デバッグ環境 (プロジェクト・ファイル)
- ウィンドウの表示情報 (表示ファイル)
- ウィンドウの設定情報 (設定ファイル)

参考 [ウィンドウ]メニュー [スタティック]を選択することで、簡易的なウィンドウの状態保持が可能です (「5.18.1 アクティブ状態とスタティック状態」参照)。

5.17.1 デバッグ環境 (プロジェクト・ファイル)

プロジェクト・ファイル (*.prj) とは、デバッグ環境を記録するファイルです。

ある時点のデバッグ環境を保存することでプロジェクト・ファイルを作成し、このファイルを次回ロードすることにより、デバッグ環境の復元が可能です。

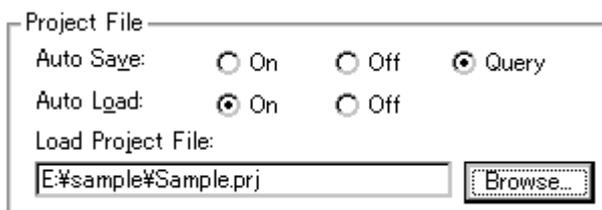
プロジェクト・ファイルのロード/セーブは、プロジェクト・ファイル・セーブ・ダイアログ、プロジェクト・ファイル・ロード・ダイアログで行います。

起動時にプロジェクト・ファイルをロードする場合には、コンフィグレーション・ダイアログ上の <Project...> ボタンから行います。

(1) プロジェクト・ファイルの自動セーブ/自動ロード

デバッガ・オプション設定ダイアログで起動時、終了時に自動的にロード/セーブするプロジェクト・ファイルを設定しておくことが可能です。

図 5 - 28 プロジェクト・ファイルの自動セーブ/自動ロードの設定



The image shows a dialog box titled "Project File" with the following settings:

- Auto Save: On Off Query
- Auto Load: On Off
- Load Project File:

(2) プロジェクト・ファイルの保存内容

プロジェクト・ファイルへは、次の内容が保存されます。

表5 - 17 プロジェクト・ファイルの保存内容 (デバッガ部)

ウィンドウ	保存内容 (Basic レベル)
コンフィグレーション・ダイアログ	すべての項目 (ターゲット・デバイス, クロック設定, 端子マスク設定, マッピング情報)
メイン・ウィンドウ	表示位置, ツールバー / ステータス・バー / ボタン表示情報, 実行モード情報, トレース On / Off 情報, カバレッジ On / Off 情報
ダウンロード・ダイアログ	ダウンロードするファイル情報
拡張オプション設定ダイアログ デバッガ・オプション設定ダイアログ	設定情報
ソース・テキスト・ウィンドウ	ウィンドウの表示情報, フォント情報
逆アセンブル・ウィンドウ メモリ・ウィンドウ	ウィンドウの表示情報, 表示開始アドレス
スタック・トレース・ウィンドウ 周辺 I/O レジスタ・ウィンドウ ローカル変数ウィンドウ トレース・ウィンドウ イベント・マネージャ カバレッジ・ウィンドウ コンソール・ウィンドウ 拡張ウィンドウ	ウィンドウの表示情報
イベント・ダイアログ	ウィンドウの表示情報, イベント情報
イベント・リンク・ダイアログ	ウィンドウの表示情報, リンク・イベント情報
ブレイク・ダイアログ	ウィンドウの表示情報, ブレイク・イベント情報
トレース・ダイアログ	ウィンドウの表示情報, トレース・イベント情報
スナップ・ショット・ダイアログ	ウィンドウの表示情報, スナップ・イベント情報
スタブ・ダイアログ	ウィンドウの表示情報, スタブ・イベント情報
タイマ・ダイアログ	ウィンドウの表示情報, タイマ・イベント情報
レジスタ・ウィンドウ	ウィンドウの表示情報
ウォッチ・ウィンドウ	ウィンドウの表示情報, ウォッチ登録情報
I/O ポート追加ダイアログ	追加 I/O ポート情報
DMM ダイアログ	DMM 情報
ディレイ・カウント設定ダイアログ	ディレイ・カウント値

表5 - 18 プロジェクト・ファイルの保存内容 (シミュレータ部)

ウィンドウ名	内容 (Basic レベル)
メイン・ウィンドウ	ウィンドウの位置, サイズ, および状態
信号データ・エディタ・ウィンドウ	ウィンドウの位置, サイズ, および状態 編集中の信号データ・ファイル (*.wvi, *.wvo) の内容 (保存ファイルがある場合)
タイミング・チャート・ウィンドウ	ウィンドウの位置, サイズ, および状態 端子の設定情報
標準入出力ウィンドウ	ウィンドウの位置, サイズ, および状態 標準入出力バッファのサイズ設定情報 標準ライブラリ・インタフェースの設定情報
シリアル・ウィンドウ	ウィンドウの位置, サイズ, および状態 編集中のシリアル送信データ・ファイル (*.ser) の内容 (保存ファイルがある場合)
入出力パネル・ウィンドウ	ウィンドウの位置, サイズ, および状態 編集中の表示 / 操作部品ファイルの内容 (保存ファイルがある場合)

5.17.2 ウィンドウの表示情報（表示ファイル）

表示ファイルは、ウィンドウの表示情報を記録しているファイルです。

表示ファイルは各ウィンドウごとにロード/セーブ可能です。

表示ファイルをロードすることにより、参照用ウィンドウ（スタティック状態のソース・テキスト・ウィンドウ）がオープンし、保存時の表示情報が表示されます。

表示ファイルのロード/セーブは、[表示ファイル・ロード・ダイアログ](#)、[表示ファイル・セーブ・ダイアログ](#)で行います。

表 5 - 19 表示ファイルの種類

ファイルの種類	対象ウィンドウ ファイル名
Source Text (*.swv)	ソース・テキスト・ウィンドウ ソース・テキスト・ウィンドウ表示ファイル
Assemble (*.dis)	逆アセンブル・ウィンドウ 逆アセンブル・ウィンドウ表示ファイル
Memory (*.mem)	メモリ・ウィンドウ メモリ・ウィンドウ表示ファイル
Watch (*.wch)	ウォッチ・ウィンドウ ウォッチ・ウィンドウ表示ファイル
Register (*.rgw)	レジスタ・ウィンドウ レジスタ・ウィンドウ表示ファイル
I/O Register (*.ior)	周辺 I/O レジスタ・ウィンドウ 周辺 I/O レジスタ・ウィンドウ表示ファイル
Local Variable (*.loc)	ローカル変数ウィンドウ ローカル変数ウィンドウ表示ファイル
Stack Trace (*.stk)	スタック・トレース・ウィンドウ スタック・トレース・ウィンドウ表示ファイル
Trace (*.twv)	トレース・ウィンドウ トレース・ウィンドウ表示ファイル
Coverage (*.cov)	カバレッジ・ウィンドウ カバレッジ・ウィンドウ表示ファイル
Console (*.log)	コンソール・ウィンドウ コンソール・ウィンドウ表示ファイル
All (*.*)	すべてのファイル
Source (*.c, *.s) (ロード時)	ソース・ファイル ⁱ⁾
Text (*.txt)	テキスト・ファイル

注 ソース・ファイルの拡張子は[拡張オプション設定ダイアログ](#)で変更可能です。

5.17.3 ウィンドウの設定情報（設定ファイル）

設定ファイルは、ウィンドウの設定情報（ウォッチ・データ設定、周辺 I/O レジスタ設定、およびイベント設定）を記録しているファイルです。

設定ファイルは、各ウィンドウごとにロード/セーブ可能です。

設定ファイルをロードすることにより、対象ウィンドウがオープンし保存時の設定情報が復元されます。

設定ファイルのロード/セーブは、[環境設定ファイル・ロード・ダイアログ](#)、[環境設定ファイル・セーブ・ダイアログ](#)で行います。

表 5 - 20 設定ファイルの種類

ファイルの種類	対象ウィンドウ ファイル名
Watch (*.wch) ^①	ウォッチ・ウィンドウ ウォッチ・ウィンドウ設定ファイル
I/O Register (*.ior) ^①	周辺 I/O レジスタ・ウィンドウ 周辺 I/O レジスタ・ウィンドウ設定ファイル
Event (*.evn)	イベント・マネージャ イベント設定ファイル

注 変数値はロードされません。

5.18 ウィンドウ共通機能

対象ウィンドウは、次の共通機能を持ちます。

- アクティブ状態とスタティック状態
- ジャンプ機能
- トレース結果とウィンドウの連結機能
- ドラッグ & ドロップ機能

5.18.1 アクティブ状態とスタティック状態

ソース・テキスト・ウィンドウ (シンボル情報を読み込んだソース・ファイル表示時)、逆アセンブル・ウィンドウ、メモリ・ウィンドウ、およびカバレッジ・ウィンドウには、次の 2 つのウィンドウの状態があります。

アクティブ状態のウィンドウは、1 つしかオープンできないのに対し、スタティック状態のウィンドウは、複数オープンしておくことができるため、簡易的に、その時点でのウィンドウの状態を保持しておくことが可能です。状態の切り替えは、[ウィンドウ]メニューにより行います。

(1) アクティブ状態

アクティブ状態のウィンドウは、表示位置、内容ともに、常にカレント PC 値に連動して自動的に更新します。

また、ジャンプ機能のジャンプ先となるほか、トレース・ウィンドウと連結させた場合、トレース・ウィンドウと連動して表示内容を更新します。

アクティブ状態のウィンドウは 1 つのみ、オープンすることができます。

(2) スタティック状態

スタティック状態のウィンドウは、カレント PC 値に連動して、表示位置は移動しませんが、内容の更新は行いません。

なお、ジャンプ機能のジャンプ先とならないほか、トレース・ウィンドウとも連結はしません。

すでに、アクティブ状態のウィンドウを表示している場合、次のウィンドウはスタティック状態としてオープンします。

スタティック状態のウィンドウは複数オープンすることができます。

5.18.2 ジャンプ機能

ジャンプ機能とは、カーソルの置かれた行 / アドレスをジャンプ・ポイントとして、ソース・テキスト・ウィンドウ / 逆アセンブル・ウィンドウ / メモリ・ウィンドウ / カバレッジ・ウィンドウのいずれかへジャンプし、ジャンプ先のウィンドウを、ジャンプ・ポイントから表示する機能です。

上記ウィンドウ同士、またはトレース・ウィンドウ、スタック・トレース・ウィンドウ、イベント・マネージャ、レジスタ・ウィンドウから上記ウィンドウへのジャンプが可能です。

(1) ジャンプ方法

次の方法でジャンプをします。

- 1) ジャンプ可能なウィンドウで、ジャンプ・ポイントとしたい行 / アドレスにカーソルを移動（イベント・マネージャでは、イベント・アイコンを選択）します。
- 2) [ジャンプ]メニューより、ジャンプしたいウィンドウを選択します。
 - ソース・テキスト・ウィンドウの場合 [ソース]を選択
 - 逆アセンブル・ウィンドウの場合 [アセンブル]を選択
 - メモリ・ウィンドウの場合 [メモリ]を選択
 - カバレッジ・ウィンドウの場合 [カバレッジ]を選択

注意 対象ソース行にプログラム・コードが存在しない場合にはプログラム・コードの存在する上下どちらかの行の先頭アドレスが対象となります。

(2) ジャンプ元アドレスの詳細

次に挙げるウィンドウからジャンプする場合のジャンプ元アドレスの詳細を示します。

- (a) レジスタ・ウィンドウからジャンプする場合 選択したレジスタ値をジャンプ・ポイントとします。
- (b) メモリ・ウィンドウからジャンプする場合 カーソル位置のアドレス値をジャンプ・ポイントとします。
- (c) イベント・マネージャからジャンプする場合
 - 選択したイベント・アイコンがイベント条件の場合、アドレス条件をジャンプ・ポイントとします。
 - (i) アドレス条件がポイント設定の場合 指定アドレスにジャンプ
 - (ii) アドレス条件が範囲設定の場合 下位アドレス（マスク指定がされている場合、マスク前のポイント・アドレス）にジャンプ
 - (iii) アドレス条件がビット設定の場合 ビット位置のアドレスにジャンプ
- (d) スタック・トレース・ウィンドウからジャンプする場合
 - カーソル位置のスタック・フレーム番号で示される関数をジャンプ・ポイントとします。
 - (i) カレント関数の場合
 - ジャンプ先がソース・テキスト・ウィンドウ カレント PC 行にジャンプ
 - 上記以外 カレント PC アドレスにジャンプ
 - (ii) カレント関数以外の場合
 - ジャンプ先がソース・テキスト・ウィンドウ ネストしている関数を呼び出す行にジャンプ
 - 上記以外 ネストしている関数を呼び出す命令の次のアドレスにジャンプ
- (c) トレース・ウィンドウからジャンプする場合
 - メモリ・ウィンドウ、またはカバレッジ・ウィンドウへのジャンプ

- (i) カーソル位置がアクセス・アドレス ,アクセス・データ ,アクセス・ステータスの場合 アクセス・アドレス
- (ii) 上記以外の場合 フェッチ・アドレス
- (c) ソース・テキスト・ウィンドウ ,または逆アセンブル・ウィンドウへのジャンプの場合 フェッチ・アドレス

5.18.3 トレース結果とウィンドウの連結機能

トレース・ウィンドウと各ウィンドウ（ソース・テキスト・ウィンドウ ,逆アセンブル・ウィンドウ ,メモリ・ウィンドウ ,カバレッジ・ウィンドウ）を連結することにより ,トレース・ウィンドウ上のカーソル位置のアドレスをポインタとして ,連結したウィンドウ上で対応箇所を表示させることができます。

トレース・ウィンドウ上でカーソル位置を移動すると ,連結したウィンドウ上の対応箇所が反転表示 ,またはカーソル位置で表示されます。

(1) 連結方法

- 1) トレース・ウィンドウをカレント・ウィンドウにする。
- 2) [表示]メニュー [ウィンドウ連結]で連結先のウィンドウを選択する。
 ソース・テキスト・ウィンドウ [ソース]を選択。
 逆アセンブル・ウィンドウ [アセンブル]を選択。
 メモリ・ウィンドウ [メモリ]を選択。
 カバレッジ・ウィンドウ [カバレッジ]を選択。
- 3) トレース・ウィンドウのトレース結果表示エリアで連結元の行にカーソルを位置付ける。
- 4) 3)で選択した行のアドレスをポインタとして ,2)で選択したウィンドウの表示エリアで対応する部分が反転表示 (,またはカーソル位置で表示)される。

注意 メモリ・ウィンドウ ,またはカバレッジ・ウィンドウとの連結では ,トレース結果表示エリアでのカーソルの位置によって ,連結元アドレスが次のように変わります。

アクセス・アドレス ,アクセス・データ ,アクセス・ステータス アクセス・アドレス

上記以外 フェッチ・アドレス

なお ,ソース・テキスト・ウィンドウ ,または逆アセンブル・ウィンドウとの連結では ,常にフェッチ・アドレスをポインタとします。

5.18.4 ドラッグ & ドロップ機能

選択により反転表示している行番号，アドレス，およびテキストは，次の方法によって，ほかのウィンドウやエリア上へドラッグ & ドロップすることができます。

- 1) 選択されている行番号，アドレス，およびテキストをドラッグします。
マウス・カーソルの形状が矢印カーソルから '-' へ変化します。
- 2) ドロップ可能なウィンドウ，エリア上にドロップします。
ドロップ可能なウィンドウ，エリア上では，カーソルの形状が '-' から 'OK' へ変化します。

ドロップされたウィンドウでは，ドロップされたアドレス，行番号から求められるアドレスに対して動作を行います。例えばソース・テキスト・ウィンドウ上の変数をウォッチ・ウィンドウ上にドラッグ & ドロップすることにより，簡単に変数の登録が行えます。

(1) ドラッグ & ドロップの詳細

ドロップ後の動作は，ドロップされたそれぞれのウィンドウやエリアで次のように異なります。

表 5 - 21 ドラッグ & ドロップ機能の詳細（行 / アドレスの場合）

ドロップ対象のウィンドウ / エリア	ドロップ後の動作
イベント・マネージャ，および各種イベント設定ダイアログのイベント・マネージャ・エリア	ドロップされた行番号やアドレスをアドレス条件として，実行イベント条件を自動生成します。 イベント条件名は，Evt00001，Evt00002... のように自動生成します。外部センス・データ条件とパス・カウントは未指定になります。 アドレス条件は，最も近くにあるシンボルに対して，シンボル名 + オフセット値の形式で設定されます。
各種イベント設定ダイアログ中の条件設定エリア（アドレス，データ設定エリア以外）	ドロップされた行番号やアドレスをアドレス条件として，実行イベント条件を自動生成します。 更に，自動生成されたイベント条件をドロップされた各条件設定エリアに設定します。 イベント条件名は，Evt00001，Evt00002... のように自動生成します。外部センス・データ条件とパス・カウントは未指定になります。 アドレス条件は，最も近くにあるシンボルに対して，シンボル名 + オフセット値の形式で設定されます。
各種イベント設定ダイアログ中の条件設定エリア（アドレス，データ設定エリア）	ドロップされたエリアへ行番号やアドレスのテキストが設定されます。 アドレス条件は，最も近くにあるシンボルに対して，シンボル名 + オフセット値の形式で設定されます。

表 5 - 22 ドラッグ & ドロップ機能の詳細 (文字列の場合)

ドロップ対象のウィンドウ / エリア	ドロップ後の動作												
<p>イベント・マネージャ, および各種イベント設定ダイアログのイベント・マネージャ・エリア</p>	<p>ドロップされたテキストがシンボルとしてアドレス値へ変換可能である場合, 変換されたアドレス値をアドレス条件として, Access ステータス (すべてのアクセス・ステータス), または Execute ステータスのイベント条件を自動生成します。 イベント条件名は, Evt00001, Evt00002... のように自動生成します。データ条件, 外部センス・データ条件とパス・カウントは未指定になります。 アドレス条件にはドロップされたテキストで設定されます。 生成されるイベント条件とシンボルの関係は, 次の通りです。</p> <table border="1" data-bbox="592 667 1118 864"> <thead> <tr> <th>シンボル</th> <th>ステータス</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>変数</td> <td>Access(R/W)</td> </tr> <tr> <td>関数</td> <td>Execute</td> </tr> <tr> <td>データ・セクション内のシンボル</td> <td>Access(R/W)</td> </tr> <tr> <td>コード・セクション内のシンボル</td> <td>Execute</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>Access(R/W)</td> </tr> </tbody> </table>	シンボル	ステータス	変数	Access(R/W)	関数	Execute	データ・セクション内のシンボル	Access(R/W)	コード・セクション内のシンボル	Execute	その他	Access(R/W)
シンボル	ステータス												
変数	Access(R/W)												
関数	Execute												
データ・セクション内のシンボル	Access(R/W)												
コード・セクション内のシンボル	Execute												
その他	Access(R/W)												
<p>各種イベント設定ダイアログ中の条件設定エリア (アドレス, データ設定エリア以外)</p>	<p>ドロップされたテキストがシンボルとしてアドレス値へ変換可能である場合, 変換されたアドレス値をアドレス条件として, Access ステータス (すべてのアクセス・ステータス), または Execute ステータスのイベント条件を自動生成します。 更に, 自動生成されたイベント条件を, ドロップされた各条件設定エリアに設定します。 イベント条件名は, Evt00001, Evt00002... のように自動生成します。データ条件, 外部センス・データ条件とパス・カウントは未指定になります。 アドレス条件にはドロップされたテキストで設定されます。 生成されるイベント条件とシンボルの関係は, 次の通りです。</p> <table border="1" data-bbox="592 1216 1118 1413"> <thead> <tr> <th>シンボル</th> <th>ステータス</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>変数</td> <td>Access(R/W)</td> </tr> <tr> <td>関数</td> <td>Execute</td> </tr> <tr> <td>データ・セクション内のシンボル</td> <td>Access(R/W)</td> </tr> <tr> <td>コード・セクション内のシンボル</td> <td>Execute</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>Access(R/W)</td> </tr> </tbody> </table>	シンボル	ステータス	変数	Access(R/W)	関数	Execute	データ・セクション内のシンボル	Access(R/W)	コード・セクション内のシンボル	Execute	その他	Access(R/W)
シンボル	ステータス												
変数	Access(R/W)												
関数	Execute												
データ・セクション内のシンボル	Access(R/W)												
コード・セクション内のシンボル	Execute												
その他	Access(R/W)												
<p>各種イベント設定ダイアログ中の条件設定エリア (アドレス, データ設定エリア)</p>	<p>ドロップされたエリアへテキストが設定されます。</p>												
<p>ウォッチ・ウィンドウ</p>	<p>ドロップされたテキストが, シンボルとして認識可能である場合, シンボルの内容を表示します。</p>												

注意 各種イベント設定ダイアログは, イベント・ダイアログ, イベント・リンク・ダイアログ, ブレーク・ダイアログ, トレース・ダイアログ, スナップ・ショット・ダイアログ, スタブ・ダイアログ, タイマ・ダイアログを指します。

第 6 章 シミュレーション機能

この章では、SM plus のシミュレータ部が提供する次のシミュレーション機能について説明します。

表 6 - 1 シミュレーション機能一覧

項目	参照先
端子入力，端子出力機能	6.1 端子入出力機能
標準入出力機能，ファイル入出力機能	6.2 標準入出力機能
シリアル入出力機能	6.3 シリアル入出力機能
擬似的なターゲット・システムの構築	6.4 パネル機能

6.1 端子入出力機能

端子の入出力機能に関する以下の項目について解説します。

- 端子入力
- 端子出力
- 端子選択
- データ検索
- 信号データ・ファイル (*.wvi, *.wvo)

6.1.1 端子入力

端子入力データの作成は、[信号データ・エディタ・ウィンドウ](#)で行います。

作成した信号データは、信号データエディタ・ウィンドウからシミュレータへ入力することで、端子入力のシミュレーションが可能になります。

図 6 - 1 端子入力データの作成 (信号データ・エディタ・ウィンドウ)

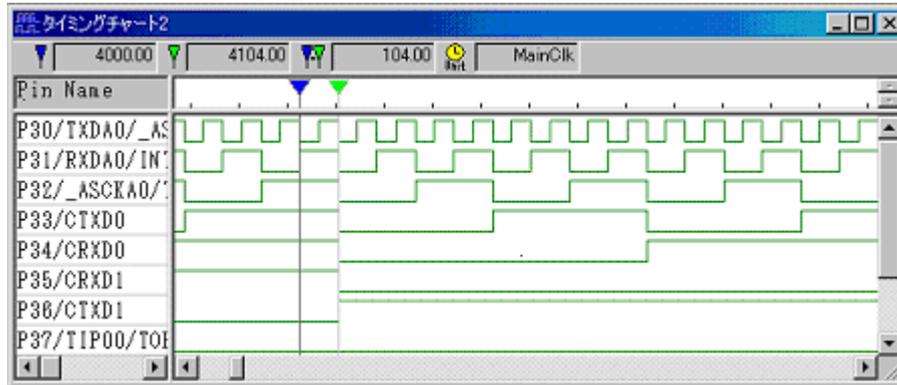
	Mark	Wait	P00	P01	RXD0	AN10
1		1024	Z	Z	Z	0
2		128	1	1	0	0
3		128	1	1	0	0
4	16	128	1	1	0	1250
5		128	0	0	1	2500
6		128	1	0	1	4800
7		128	0	0	1	4900
8		128	1	1	1	5000
9		128	0	1	0	5000

6.1.2 端子出力

端子出力データの表示は、[タイミング・チャート・ウィンドウ](#)で行います。

[タイミング・チャート・ウィンドウ](#)では、端子出力データを波形表示することでシミュレーション中の端子への入出力の視覚的な確認が可能です。ただし、一度に表示できるデータ量には限りがあります。

図 6 - 2 端子出力データの表示 (タイミング・チャート・ウィンドウ)



6.1.3 端子選択

[信号データ・エディタ・ウィンドウ](#)、[タイミング・チャート・ウィンドウ](#)での表示端子の選択は、[端子選択ダイアログ](#)で行います。

端子選択ダイアログで設定した端子情報は、端子情報ファイル (*.pin) として保存 / 復元が可能です。

図 6 - 3 端子選択 (端子選択ダイアログ)



6.1.4 データ検索

タイミング・チャート・ウィンドウでは、[編集]メニュー [検索...]の選択によりオープンするデータ検索ダイアログにより、表示データの詳細な検索が可能です。

図6 - 4 データ詳細検索 (データ検索ダイアログ)



6.1.5 信号データ・ファイル (*.wvi, *.wvo)

信号データ・ファイルは、信号データ・エディタ・ウィンドウ、およびタイミング・チャート・ウィンドウで扱うCSV形式のテキスト・ファイルです。

CSV形式に対応した市販のエディタによる編集、管理が可能です。

それぞれのウィンドウ上で、[シミュレータ]メニュー [名前を付けて保存... / 開く...]の選択により、ファイルの保存、および復元が可能です。

(1) ファイル詳細

信号データ・ファイルは、次の3つの部分から構成されています。

1. コメント部

2. オプション設定部

オプション設定部の各オプション項目には付加的な情報を記述します。

端子名の設定情報を除くほとんどの情報は省略可能です。

オプション省略時にはデフォルトの設定となります。

3. 信号データ設定部

信号データ設定部では端子名の設定情報で設定した端子に対応するデータを時系列に記述します。

記述するデータの順番は信号データ・エディタ・ウィンドウのデータ配列と同じです。

図 6 - 5 信号データ・ファイル概要

# オプション設定									
OPT, VERSION, バージョン番号			-----	2-1					1. 2.
OPT, PIN_NAME, 端子名 1, 端子名 2, ..., 端子名 n			-----	2-2					
OPT, PIN_ALIAS, 端子 1 の表示名, 端子 2 の表示名, ..., 端子 n の表示名			-----	2-3					
OPT, PIN_TYPE, 端子 1 の種類, 端子 2 の種類, ..., 端子 n の種類			-----	2-4					
OPT, PIN_INPUT, 端子 1 の入力, 端子 2 の入力, ..., 端子 n の入力			-----	2-5					
OPT, TIME_UNIT, 時間の単位			-----	2-6					
# 信号データ									3.
ループ情報 1, Wait 時間 1, 端子 1 の信号値 1, 端子 2 の信号値 1, ..., 端子 n の信号値 1									
ループ情報 2, Wait 時間 2, 端子 1 の信号値 2, 端子 2 の信号値 2, ..., 端子 n の信号値 2									
.....									
ループ情報 m, Wait 時間 m, 端子 1 の信号値 m, 端子 2 の信号値 m, ..., 端子 n の信号値 m									

(2) ファイル・フォーマット詳細

表 6 - 2 ファイル・フォーマット詳細 (信号データ・ファイル)

項目	項目	内容
1. コメント部		
文法	#	
説明	# 以降, 行末までコメントとします。	
2. オプション設定部		
文法	OPT, オプション名, オプションごとの情報	
説明	オプション設定が必要な場合に, オプション名と必要なデータを指定します。 各オプション項目の指定順序は問いません。 各オプションの種類, および省略時の振る舞いは以下の通りです (2-1 ~ 2-6)。	
2-1 フォーマット・バージョン		
文法	OPT, VERSION, バージョン番号	
説明	このファイルのフォーマット・バージョンを示します。	
省略時	ファイルのフォーマット・バージョンを最新として処理します。	
2-2 端子名情報		
文法	OPT, PIN_NAME, 端子名 1, 端子名 2, ..., 端子名 n	
説明	各端子の名前を指定します。 端子名は使用するデバイスのユーザズ・マニュアルを参照してください。	
省略時	省略不可	
2-3 端子の表示名情報		
文法	OPT, PIN_ALIAS, 端子 1 の表示名, 端子 2 の表示名, ..., 端子 n の表示名	
説明	各端子の表示名を指定します。	
省略時	端子名を表示します。	
2-4 端子のタイプ情報 (アナログ端子 / デジタル端子情報)		

表6 - 2 ファイル・フォーマット詳細 (信号データ・ファイル)

項目	項目	内容
文法		OPT, PIN_TYPE, 端子1の種類, 端子2の種類, ..., 端子nの種類
説明		各端子の種類を設定します。
	ANALOG	アナログ端子
	DIGITAL	デジタル端子
省略時		デジタル端子として扱います。
2-5 信号入力の有効 / 無効		
文法		OPT, PIN_INPUT, 端子1の入力, 端子2の入力, ..., 端子nの入力
説明		各端子の信号入力の有効 / 無効を設定します。
	VALID	端子入力有効
	INVALID	端子入力無効
省略時		端子入力を有効として扱います。
2-6 時間単位の設定情報		
文法		OPT, TIME_UNIT, 時間の単位
説明		信号データの Wait 時間の単位を設定します。
	MAINCLK	メイン・クロック
	USEC	マイクロ秒
	MSEC	ミリ秒
省略時		時間単位を MAINCLK として扱います。
3. 信号データ設定部		
文法		ループ情報, Wait 時間, 端子1の信号値, 端子2の信号値, ..., 端子nの信号値
説明		Wait 時間経過後, 端子 (1-n) の値が変化します。
		a) ループ情報
	S	ループ開始位置 (無限ループ)
	S- 数値	ループ開始位置 (ループ・カウント付き)
	E	ループ終了位置
		b) Wait 時間
		0 - 4,294,967,295 の数値を 10 進の整数値で指定します。
		c) 信号データ
		対応する端子のデータを 10 進の整数値で指定します。
	アナログ値	0 - 5000
	デジタル値	0 or 1

(3) 記述例

図6 - 6 記述例 (信号データ・ファイル)

```
# オプション設定
OPT,VERSION,1.00
OPT,PIN_NAME,P10,P11,P12,P13,P14,P15,A
NIO
OPT,PIN_ALIAS,,,,,,,, アナログ 1
OPT,PIN_TYPE,,,,,,,,ANALOG
OPT,PIN_INPUT,,,,,,,,INVALID
OPT,TIME_UNIT,MAINCLK

# 信号データ
,100,0,0,0,0,0,0,1250
,100,0,0,0,0,0,1,1250
S-10,100,0,0,0,0,1,0,2500
,100,0,0,0,0,1,1,3750
,100,0,0,0,1,0,0,5000
E,100,0,0,0,1,0,1,5000
,100,0,0,0,1,1,0,5000
,100,0,0,0,1,1,1,5000
,100,0,0,1,0,0,0,5000
,100,0,0,1,0,0,1,5000
,100,0,0,1,0,1,0,5000
```

6.2 標準入出力機能

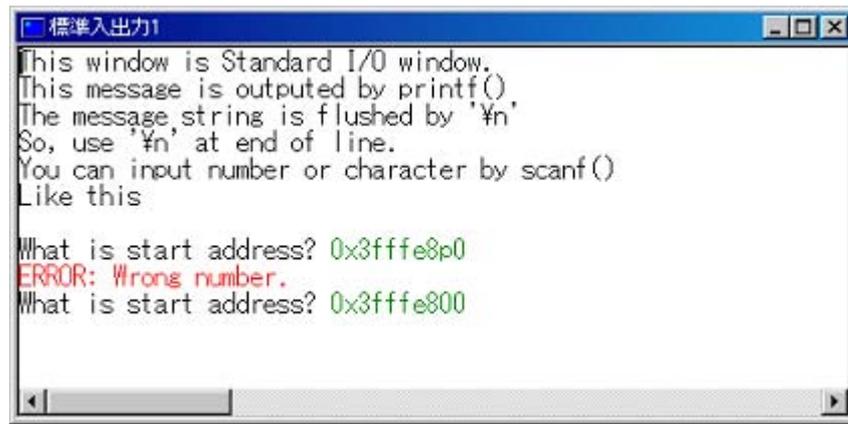
デバッグ対象となるユーザ・プログラムに標準入出力機能とファイル入出力機能を提供します。

この機能を提供するウィンドウは、[標準入出力ウィンドウ](#)です。

標準出力データのテキスト表示と標準入力データのキーボード入力が可能です。

最大表示行数は、[標準入出力バッファサイズ変更ダイアログ](#)で設定可能です。

図6 - 7 標準入出力機能（標準入出力ウィンドウ）

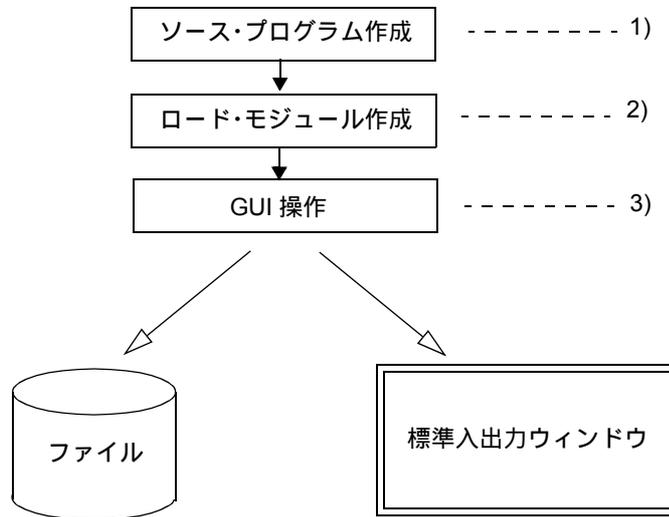


- [機能利用方法](#)

6.2.1 機能利用方法

ユーザ・プログラムにおいて、標準入出力、およびファイル入出力関数を呼び出すには、次図に示す手順を行う必要があります。

図6 - 8 標準入出力とファイル入出力の利用手順

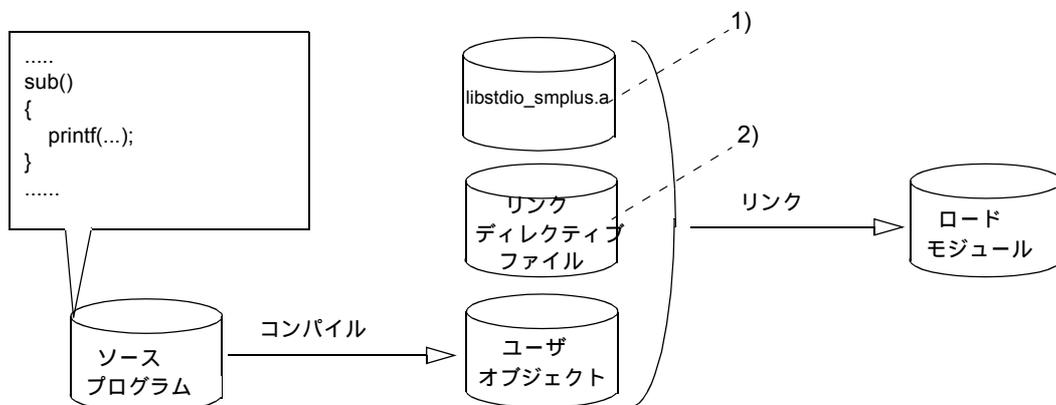


- 1) ユーザのソース・プログラムにおいて、標準入出力、およびファイル入出力関数を呼ぶように記述します (「(3) 関数仕様」参照)。
- 2) ロード・モジュールを作成します。(「(1) ロード・モジュール作成手順」参照)。
- 3) 必要な GUI 操作を行います (「(2) GUI 操作手順」参照)。

(1) ロード・モジュール作成手順

標準入出力とファイル入出力の関数を利用するためにはリンク操作の変更が必要です。次図にロード・モジュール作成手順を示します。

図6 - 9 ロード・モジュール作成手順 (CA850)



1) ライブラリの追加

シミュレータに対応した入出力ライブラリ (libstdio_smplus.a) をリンクする必要があります。

注意: 入出力ライブラリ (libstdio_smplus.a) はライブラリ (libc.a) よりも先にリンクしてください。

2) リンク・ディレクティブ・ファイルの変更

セクション (ptio.data) を任意の外部メモリ領域に配置します。

なお、このセクションが配置される領域をインタフェース領域と呼び、その先頭をインタフェース・アドレスと呼びます。

インタフェース領域のサイズは 16 バイトです。

インタフェース・アドレスが 0x200000 の場合、リンク・ディレクティブ・ファイルに次のように配置指令行を追加します。

インタフェース・アドレスが 0x200000 の場合の追加記述例

```
.....
PTIODATA : !LOAD ?RW V0x200000 L0x14 A0x4 {
  ptio.data = $PROGBITS ?AW ptio.data
};
.....
```

(2) GUI 操作手順

標準入出力とファイル入出力の関数を利用するための GUI 操作を示します。

1) メモリ・マッピングの設定

[オプション]メニュー [コンフィギュレーション]によりオープンする[コンフィギュレーション・ダイアログ](#)で「(1) ロード・モジュール作成手順」で設定したインタフェース領域を含む範囲を Target 属性としてマッピングします。

2) インタフェース・アドレスと入出力ファイルのパスの設定

[オプション]メニュー [シミュレータオプション]によりオープンする[シミュレータ・オプション・ダイアログ](#)でインタフェース・アドレスと入出力ファイルのパスを設定します。

3) 出力データの表示と入力データの入力

[シミュレータ]メニュー [標準入出力]によりオープンする[標準入出力ウィンドウ](#)で、標準出力と標準エラー出力のデータ表示、および標準入力へのデータ入力を行うことができます。

(3) 関数仕様

使用可能な関数、および仕様を示します。

- printf
- scanf
- fopen
- fclose
- fprintf
- fscanf

表 6 - 3 関数仕様 (標準入出力, ファイル入出力関連)

関数	説明		
printf	書式化出力		
	形式	int printf(const char* <i>format</i> [, <i>arg</i> , ...]);	
	戻り値	出力された文字数を返します。	
	解説	それぞれの <i>arg</i> 引き数に <i>format</i> の指す文字列で指定された書式を適用し, それにより出力された書式付きデータを stdout に出力します。 <i>format</i> 文字列に浮動小数点 (%f,%e,%E,%g,%G) は使えません。	
scanf	書式化入力		
	形式	int scanf(const char* <i>format</i> [, <i>arg</i> , ...]);	
	戻り値	走査, 変換, および格納が正常に実行できた入力フィールドの個数を返します。 格納されなかった走査済みフィールドは含まれません。 ファイルの終わりで読み込もうとした場合, EOF を返します。	
	解説	<i>format</i> の指す文字列で指定された書式にしたがいその後ろに続く引き数 <i>arg</i> を変換された入力を格納するオブジェクトとして扱い標準入出力の stdin から変換する入力を読み込みます。 <i>format</i> 文字列に浮動小数点 (%f,%e,%E,%g,%G) は使えません。	
fopen	ファイル・オープン		
	形式	FILE* fopen(const char* <i>filename</i> , const char* <i>mode</i>);	
	戻り値	オープンしたファイルのポインタを返します。 エラー発生時には NULL ポインタを返します。	
	解説	<i>filename</i> で指定されたファイルをオープンします。 <i>mode</i> には以下に示すアクセス・モードを指定します。	
		"r"	読み出しモードでオープンします。 ファイルが存在しない, または見つからない場合にはエラーになります。
		"w"	書き込みモードで空のファイルをオープンします。 指定されたファイルがすでに存在する場合ファイル内容が破壊されます。
		"a"	新しいデータをファイルに書き込む前に EOF マーカを削除せずにファイルの 終端への書き込みモードでオープンします (追加)。 ファイルが存在しない場合には作成します。
		"r+"	読み出しと書き込み両方のモードでオープンします (既存ファイルが対象)。
"w+"		読み出しと書き込みの両方のモードで空のファイルをオープンします。 指定されたファイルがすでに存在する場合ファイル内容は破壊されます。	
"a+"	読み出し, 追加の両方のモードでオープンします。 追加時は, 新しいデータをファイルに書き込む前に EOF マーカを削除しま す。また, 書き込みが完了すると EOF マーカが復元されます。 ファイルが存在しない場合には作成します。		

表 6 - 3 関数仕様 (標準入出力, ファイル入出力関連)

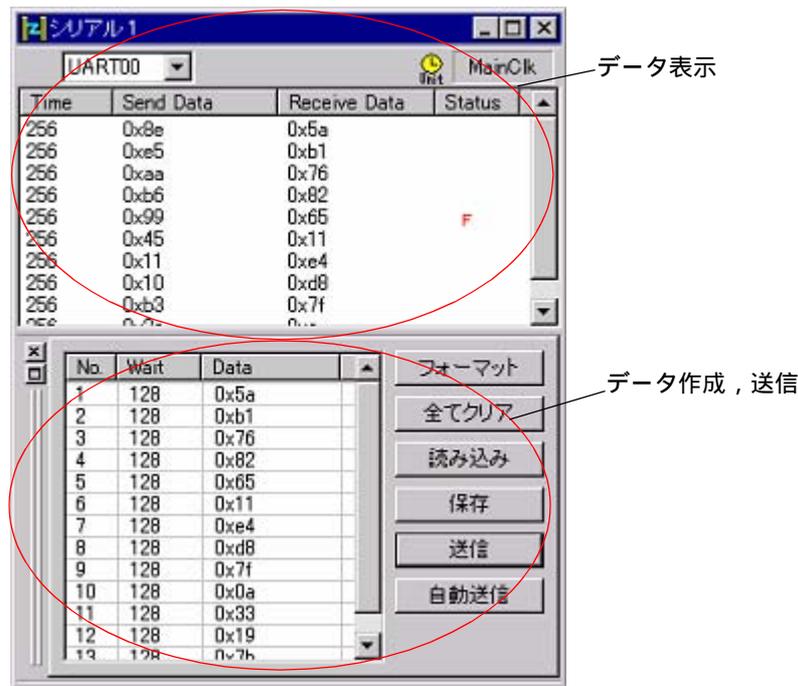
関数	説明	
fclose	ファイル・クローズ	
	形式	int fclose(FILE* <i>stream</i>);
	戻り値	0 を返します。 エラーが発生時には EOF を返します。
	解説	<i>stream</i> をクローズします。 ただし標準入出力の stdout と stderr と stdin は対象外です。
fprintf	書式化ファイル出力	
	形式	int fprintf(FILE* <i>stream</i> , const char* <i>format</i> , [, <i>arg</i> , ...]);
	戻り値	出力された文字数を返します。
	解説	それぞれの <i>arg</i> 引き数に <i>format</i> の指す文字列で指定された書式を適用しそれにより出力された書式付きデータを <i>stream</i> に出力します。 <i>stream</i> に指定できるのは標準入出力の stdout と stderr と fopen 関数で開いたファイルのポインタです。 <i>format</i> 文字列に浮動小数点 (%f,%e,%E,%g,%G) は使えません。
fscanf	書式化ファイル入力	
	形式	int fscanf(FILE* <i>stream</i> , const char* <i>format</i> , [, <i>arg</i> , ...]);
	戻り値	走査, 変換, 格納が正常に実行できた入力フィールドの個数を返します。 格納されなかった走査済みフィールドは含まれません。 ファイルの終わりで読み込もうとした場合 EOF を返します。
	解説	<i>format</i> の指す文字列で指定された書式にしたがいその後ろに続く引き数 <i>arg</i> を変換された入力を格納するオブジェクトとして扱い <i>stream</i> から変換する入力を読み込みます。 <i>stream</i> に指定できるのは標準入出力の stdin と fopen 関数で開いたファイルのポインタです。 <i>format</i> 文字列に浮動小数点 (%f,%e,%E,%g,%G) は使えません。

6.3 シリアル入出力機能

シリアル入出力機能として、デバイスのシリアル受信端子へのデータ入力と送信端子からの出力データの取得が可能です。この機能を提供するウィンドウはシリアル・ウィンドウです。

搭載シリアルの通信相手として機能し、ウィンドウの上方で受信データ/送信データの表示、下方でデータの作成、およびデータの送信を行います。

図6 - 10 シリアル入出力機能 (シリアル・ウィンドウ)



- フォーマット設定
- シリアル・ログデータ・ファイル (*.log)
- シリアル送信データ・ファイル (*.ser)

6.3.1 フォーマット設定

フォーマット設定は、シリアル・ウィンドウで選択されているシリアル・インタフェースにより、フォーマット設定ダイアログ (UART)、フォーマット設定ダイアログ (CSI) のいずれかで行います。

6.3.2 シリアル・ログデータ・ファイル (*.log)

シリアル・ログデータ・ファイルは、シリアル・ウィンドウの送信 / 受信データのログ表示エリアの情報を保存する CSV 形式のテキスト・ファイルです。

CSV 形式に対応した市販のエディタによる参照が可能です。

シリアル・ウィンドウ上で [ファイル] メニュー [保存] を選択することにより保存可能です。

なお、シリアル・ログデータ・ファイルは情報の保存のみでシミュレータへの読み込みはできません。

以下に、ファイル詳細を示します。

(1) ファイル詳細

シリアル・ログデータ・ファイルでは、送信データと受信データを時系列にまとめて保存します。

保存する内容は、シリアル・ウィンドウのログ表示エリアのデータ配列と同じです。

図 6 - 11 シリアル・ログデータ・ファイル概要

OPT, SERIAL_NAME, シリアル名称	1.
OPT, TIME_UNIT, 時間の単位	2.
時間1, 送信データ1, 受信データ1, ステータス1 時間2, 送信データ2, 受信データ2, ステータス2	3.

(2) ファイル・フォーマット詳細

表 6 - 4 ファイル・フォーマット詳細 (シリアル・ログデータ・ファイル)

項目	項目	内容
1. シリアル名称		
文法	OPT, SERIAL_NAME, シリアル名称	
説明	シリアル・ウィンドウで選択したシリアル・インタフェースの名称	
2. 時間単位		
文法	OPT, TIME_UNIT, 時間単位	
説明	時間の単位	
	MAINCLK	メイン・クロック
	USEC	マイクロ秒
	MSEC	ミリ秒
3. 送信 / 受信データ		
文法	時間, 送信データ, 受信データ, ステータス	

表6 - 4 ファイル・フォーマット詳細 (シリアル・ログデータ・ファイル)

項目	項目	内容
説明	a) 時間	
		前データの受信 / 送信終了から今回の受信 / 送信終了までの時間。 時間の単位は、OPT, TIME_UNIT で指定した単位になります。
	b) 送信データ	
		シリアル・ウィンドウ側が送信したデータ (CPU 側が受信したデータ) を表します。
	c) 受信データ	
		シリアル・ウィンドウ側が受信したデータ (CPU 側が送信したデータ) を表します。
	d) ステータスデータ	
		受信時の状態を示します。 エラーが発生した場合、次の文字を表示します。正常な時は何も表示されません。
	P	パリティ・エラー (パリティ・ビットの不一致の場合)
F	フレーミング・エラー (ストップ・ビットが検出されなかった場合)	

(3) 保存例

図6 - 12 保存例 (シリアル・ログデータ・ファイル)

```

OPT,SERIAL_NAME,SIO31
OPT,TIME_UNIT,MAINCLK

256,0x32,0xb7,
256,0x64,0xe9,
256,0x96,0x1b,
256,0xc8,0x4d,
256,0xfa,0x7f,P
256,0x2c,0xb1,

```

6.3.3 シリアル送信データ・ファイル (*.ser)

シリアル・ウィンドウのシリアル・エディタ・エリアの内容と、フォーマット設定ダイアログ (UART)、およびフォーマット設定ダイアログ (CSI) の情報を扱う CSV 形式のテキスト・ファイルです。

CSV 形式に対応した市販のエディタによる編集、管理が可能です。

シリアル・ウィンドウ上の <保存> ボタンによりファイルに保存、および <読み込み> ボタンによる内容復元が可能です。

(1) ファイル詳細

アシンクロナス・シリアル・インタフェース (UART) と 3 線式シリアル・インタフェース (CSI) では設定情報が一部異なります。

図 6 - 13 シリアル送信データ・ファイルの概要 : UART 系

# オプション設定		1.
OPT, VERSION, バージョン番号	-----2-1	2.
OPT, SERIAL_NAME, シリアル名称	-----2-2	
OPT, SERIAL_FORMAT, シリアル種別	-----2-3	
OPT, REPEAT, 繰り返し情報	-----2-4	
OPT, TIME_UNIT, 時間の単位	-----2-5	
OPT, FIRST_BIT, データの先頭ビット	-----2-6	
OPT, DATA_LENGTH, データのビット長	-----2-7	
OPT, BAUDRATE, ボーレート値	-----2-8	
OPT, STOP_LENGTH, ストップビットのビット長	-----2-9	
OPT, PARITY, パリティ情報	-----2-10	
# 送信データ		3.
ウェイト1, データ・タイプ1, 送信データ1,		
ウェイト2, データ・タイプ2, 送信データ2,		

図 6 - 14 シリアル送信データ・ファイルの概要 : CSI 系

# オプション設定		1.
OPT, VERSION, バージョン番号	-----2-1	2.
OPT, SERIAL_NAME, シリアル名称	-----2-2	
OPT, SERIAL_FORMAT, シリアル種別	-----2-3	
OPT, REPEAT, 繰り返し情報	-----2-4	
OPT, TIME_UNIT, 時間の単位	-----2-5	
OPT, FIRST_BIT, データの先頭ビット	-----2-6	
OPT, DATA_LENGTH, データのビット長	-----2-7	
OPT, MASTER_SLAVE, 転送モード	-----2-11	
OPT, TRANSFER_CLOCK, 転送クロック	-----2-12	
# 送信データ		
ウェイト1, データ・タイプ1, 送信データ1,		
ウェイト2, データ・タイプ2, 送信データ2,		

(2) ファイル・フォーマット詳細

表6 - 5 ファイル・フォーマット (シリアル送信データ・ファイル)

項目	項目	内容
1. コメント部		
文法	#	
説明	#以降, 行末までコメントとします。	
2. オptionalな設定情報		
文法	OPT, オプション名, オプションごとの情報	
説明	オプション設定が必要な場合に, オプション名と必要なデータを指定します。 各オプション項目の指定順序は問いません。 各オプションの種類, および省略時の振る舞いは以下の通りです (2-1 ~ 2-12)。	
2-1 フォーマット・バージョン		
文法	OPT, VERSION, バージョン番号	
説明	このファイルのフォーマット・バージョンを示します。	
省略時	ファイルのフォーマット・バージョンを最新として処理します。	
2-2 シリアル名称		
文法	OPT, SERIAL_NAME, シリアル名称	
説明	通信するシリアル・インタフェースの名称を指定します。 名称は使用するデバイスのユーザズ・マニュアルを参照してください。	
省略時	シリアル・ウィンドウで選択したシリアル・インタフェースになります。	
2-2 シリアル種別		
文法	OPT, SERIAL_FORMAT, シリアル種別	
説明	シリアル・インタフェースの種別を指定します。	
	UART	アシンクロナス・シリアル・インタフェース (UART) 系の場合
	CSI	3線式シリアル・インタフェース (CSI) 系の場合
省略時	シリアル・ウィンドウで選択したシリアル・インタフェースの種類になります。	
2-4 繰り返し転送		
文法	OPT, REPEAT, 繰り返し情報	
説明	自動送信時に最後のデータを送信後, 先頭に戻って繰り返し送信を続けるか否かを指定します。	
	ON	繰り返し送信
	OFF	最終データで送信停止
省略時	最終データで送信停止 (OFF) として扱います。	
2-5 時間単位の設定情報		
文法	OPT, TIME_UNIT, 時間の単位	

表6 - 5 ファイル・フォーマット (シリアル送信データ・ファイル)

項目	項目	内容
説明	信号データの Wait 時間の単位を設定します。	
	MAINCLK	メイン・クロック
	USEC	マイクロ秒
	MSEC	ミリ秒
省略時	時間単位を MAINCLK として扱います。	
2-6 転送方向		
文法	OPT, FIRST_BIT, データの先頭ビット	
説明	送信データの先頭ビットを指定します。	
	MSB	MSB ファーストの場合
	LSB	LSB ファーストの場合
省略時	シリアル種別 が UART の場合 LSB, CSI の場合 MSB として扱います。	
2-7 データ・ビット長		
文法	OPT, DATA_LENGTH, データのビット長	
説明	送信データのビット長を整数値で指定します。有効な最大設定値は 32 です。	
省略時	シリアル種別 が UART の場合 7, CSI の場合 8 として扱います。	
2-8 ボー・レート値		
文法	OPT, BAUDRATE, ボー・レート値	
説明	ボー・レート値を整数値で指定します (単位 :bps)。	
省略時	省略不可 (省略すると通信できません)。	
2-9 ストップ・ビット長		
文法	OPT, STOP_LENGTH, ストップ・ビットのビット長	
説明	ストップ・ビットのビット長を整数値で指定します。	
省略時	ビット長を 1 として扱います。	
2-10 パリティ情報		
文法	OPT, PARITY, パリティ情報	
説明	パリティ情報を指定します。	
	NONE_PARITY	パリティなし
	ODD_PARITY	奇数パリティ
	EVEN_PARITY	偶数パリティ
	ZERO_PARITY	0 パリティ
省略時	パリティなし (NONE_PARITY) として扱います。	
2-11 転送モード		
文法	OPT, MASTER_SLAVE, 転送モード	

表6 - 5 ファイル・フォーマット (シリアル送信データ・ファイル)

項目	項目	内容
説明		シリアル・ウィンドウ側の転送モードを指定します。
	MASTER	マスタ・モード
	SLAVE	スレーブ・モード
省略時		シリアル・ウィンドウ側をスレーブ・モード (SLAVE) として扱います。
2-12 転送クロック		
文法		OPT, TRANSFER_CLOCK, 転送クロック
説明		転送クロックを指定します (単位: Hz)。マスタ・モードの時に設定が必要です。
省略時		マスタ・モードの時の省略不可
3. 信号データ		
文法		ウェイト, データ・タイプ, 送信データ,
説明		送信タイミングと送信データを指定します。
	a) ウェイト	前データ送信完了から右側のデータを送信開始したい間の時間を指定します。時間の単位は, OPT, TIME_UNIT で指定した単位になります。シリアル・ウィンドウの < 自動送信 > ボタンからの送信時に有効です。
	b) データ・タイプ	送信データの種類を指定します。数値の場合, I を指定します。
	c) 送信データ	送信データを指定します。16 進数 (0x), 2 進数 (0b) での指定が可能です。データ・ビット長で指定したビット長と異なる場合には下位ビットからのデータが有効になります。
	d) 予約領域	
		何も指定しないでください。

(3) 記述例

図6 - 15 記述例 (シリアル送信データ・ファイル)

```
# オプション設定
OPT,VERSION,1.00
OPT,SERIAL_NAME,SIO31
OPT,SERIAL_FORMAT,CSI
OPT,ROUND_TRANSFER,ON
OPT,TIME_UNIT,MAINCLK
OPT,FIRST_BIT,LSB
OPT,BIT_LENGTH,8
OPT,MASTER_SLAVE,MASTER
OPT,TRANSFER_CLOCK,625000

# データ
128,I,0x32,
128,I,0x64,
28,I,0x96,
128,I,0xc8,
```

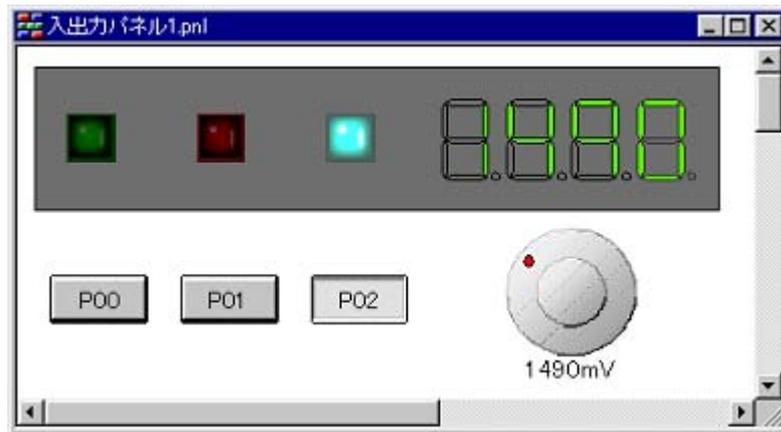
6.4 パネル機能

SM plus では、周辺 I/O との入出力部を GUI 化した標準的な部品（接続部品）を提供することで入力操作、および出力表示のシミュレーションを可能にしています。

この機能を提供するウィンドウが**入出力パネル・ウィンドウ**です。

これにより疑似的なターゲット・システムの構築が可能です。

図 6 - 16 入出力パネル・ウィンドウ



接続部品としてボタン、LED、レベルゲージ等を用意しており、デバイス端子に自由に接続可能です。また、表示スタイルとしてビットマップのほかに、描画ツールを使用して作成した図形オブジェクトの使用も可能です。

- [接続部品の種類](#)
- [新規作成、接続情報の設定](#)
- [入力シミュレーション](#)
- [接続情報の一覧表示](#)
- [CPU リセット時の動作](#)

6.4.1 接続部品の種類

SM plus で提供している接続部品は次の通りです。

表 6 - 6 接続部品

接続部品名	内容 プロパティ・ダイアログ名
ボタン	スイッチ。 任意の端子に対する接続が可能で、表示されたボタンをクリックすることで接続端子へ入力値を与えることができます。 ボタン端子接続ダイアログ
キーマトリクス	複数の端子をマトリクス状に接続し、その接点を各種のキーとみなし、キーをクリックするとある種の状態になる部品。 任意の端子に対する接続が可能で、複数のキーを使用した入力が可能です。 キーマトリクス端子接続ダイアログ
レベルゲージ	電圧源などのアナログ・データの入力用として、ある一定範囲のデータを加減に設定できる部品。 A/D コンバータを接続した端子に対して、指定した範囲内の任意の値を与えることができます。 レベルゲージ端子接続ダイアログ
LED	発行ダイオード (Light Emitting Diode)。 任意の端子に対して、LED の接続が可能で、端子の出力を LED の点灯 / 消灯で表示します。 LED 端子接続ダイアログ
7 セグメント LED	7 個の LED を数字の字画に近似させ 1 つのパッケージにした部品。 桁信号に割り当てた端子の出力がアクティブ時に、対応する 7 セグメント LED を点灯 / 消灯で表示します。 セグメント LED 端子接続ダイアログ
14 セグメント LED	14 個の LED をアルファベットの字画に近似して 1 つのパッケージにした部品。 桁信号に割り当てた端子の出力がアクティブ時に、対応する 14 セグメント LED を点灯 / 消灯で表示します。 セグメント LED 端子接続ダイアログ
マトリクス LED	複数の LED をマトリクス状に配置して 1 つのパッケージにした部品。 割り当てた端子の出力がアクティブ時に、対応する 14 セグメント LED を点灯 / 消灯で表示します。 マトリクス LED 端子接続ダイアログ
ブザー	端子と接続したブザーは、接続した端子からの出力情報をビットマップやブザー音で表します。 ブザー端子接続ダイアログ
プルアップ / プルダウン設定	端子をプルアップ抵抗 / プルダウン抵抗に接続するかを設定することができます。 プルアップ / プルダウン設定ダイアログ
図形 / 文字 / ビットマップ	図形 / 文字 / ビットマップを端子と接続することができます。 端子接続ダイアログ

6.4.2 新規作成，接続情報の設定

接続部品の新規作成，および配置は，**入出力パネル・ウィンドウ**で [部品 (P)] メニューの選択，または部品ツールバーの各種ボタンをクリックすることにより行います。これにより，マウス・カーソルが十字 "+" になり，ウィンドウ上への配置が可能になります。

接続情報の設定は，先に作成した接続部品をダブルクリックすることによりオープンする各プロパティ・ダイアログで行います（「表 6 - 6 接続部品」参照）。

6.4.3 入力シミュレーション

各プロパティ・ダイアログにより設定が完了した接続部品は，**入出力パネル・ウィンドウ**に表示されシミュレーション中における信号の切り口となります。これらの表示された部品により入出力結果の確認，およびシミュレータに対して入力値を与えることができます。

各接続部品における操作の詳細は，各部品のプロパティ・ダイアログを参照してください（「表 6 - 6 接続部品」参照）。

なお，入力シミュレーションは，**入出力パネル・ウィンドウ**の [図形] メニュー [入力シミュレーション] を選択することによりマウス・カーソルが手の形となり可能になります。

6.4.4 接続情報の一覧表示

[表示] メニュー [接続部品一覧 ...] を選択することにより，**入出力パネル・ウィンドウ**上に配置したすべての図形オブジェクト，および部品オブジェクトの端子接続状況の一覧表示が可能です。

リスト上をダブルクリックすることにより，各オブジェクトのプロパティ・ダイアログがオープンし，接続情報の変更が可能です。

図 6 - 17 接続部品情報の一覧表示（オブジェクト一覧ダイアログ）

ラベル	部品の種類	接続端子	アクティブ値
	rectangle	-	-
Time	7 segment led	-	-
Wave View	matrix led	-	-
power	button	P30/TXDA0/_ASC..	-
■	button	P31/RXDA0/INTP7	-
	button	P32/_ASCDA0/TX..	-
<<<	button	P33/C_TXD0	-
<<	button	P34/C_RXD0	-
>	button	P35/C_RXD1	-
>>	button	P36/C_TXD1	-
>>	button	P37/TIP00/TOP00..	-
	led	P40/SIB0	-

6.4.5 CPU リセット時の動作

次表にディバッガからの CPU リセットが発生した場合の各接続部品の動作を示します。

表 6 - 7 CPU リセット時の接続部品の動作

接続部品名	CPU リセット時の動作
ボタン	押していない状態
キーマトリクス	キーを押していない状態
レベル・ゲージ	入力値 0 の状態
LED	接続している出力端子の値に応じて表示
7 セグメント LED	接続している出力端子の値に応じて表示
14 セグメント LED	接続している出力端子の値に応じて表示
マトリクス LED	接続している出力端子の値に応じて表示
図形, 接続部品	接続している出力端子の値に応じて表示

第7章 ウィンドウ・レファレンス

この章では、SM plus が持つウィンドウ/ダイアログの機能の詳細について解説します。

- [ウィンドウ一覧](#)
- [各ウィンドウの説明](#)

7.1 ウィンドウ一覧

SM plus のウィンドウ/ダイアログ一覧を示します。

表7 - 1 ウィンドウ/ダイアログ一覧

ウィンドウ名	内容
ディバッガ部ウィンドウ/ダイアログ	
メイン・ウィンドウ	ユーザ・プログラム実行制御，および各種ウィンドウのオープン
コンフィグレーション・ダイアログ	動作環境の設定
拡張オプション設定ダイアログ	各種拡張オプションの設定
ディバッガ・オプション設定ダイアログ	各種オプションの設定
プロジェクト・ファイル・セーブ・ダイアログ	現在のディバグ環境をプロジェクト・ファイルに保存
プロジェクト・ファイル・ロード・ダイアログ	ディバグ環境の復元
ダウンロード・ダイアログ	ダウンロード
アップロード・ダイアログ	アップロード
ロード・モジュール一覧ダイアログ	ダウンロード済みファイル名の表示
ソース・テキスト・ウィンドウ	ソース・ファイル，またはテキスト・ファイルの表示
ソース・サーチ・ダイアログ	ソース・テキスト・ウィンドウ内の検索
ソース指定ダイアログ	ソース・テキスト・ウィンドウに表示するファイルの指定，および表示開始位置の指定
フォント選択ダイアログ	ソース・テキスト・ウィンドウの表示フォントを設定
逆アセンブル・ウィンドウ	ユーザ・プログラムの逆アセンブル表示
逆アセンブル・サーチ・ダイアログ	逆アセンブル・ウィンドウの検索
アドレス指定ダイアログ	メモリ・ウィンドウ，逆アセンブル・ウィンドウ，カバレッジ・ウィンドウの表示開始アドレスの指定
シンボル変換ダイアログ	変数，関数のアドレス，シンボルの値の表示
ウォッチ・ウィンドウ	変数の表示
クイック・ウォッチ・ダイアログ	変数の値の一時的な表示
ウォッチ登録ダイアログ	ウォッチ・ウィンドウに表示する変数の登録

表7 - 1 ウィンドウ/ダイアログ一覧

ウィンドウ名	内容
ウォッチ変更ダイアログ	ウォッチ・ウィンドウに表示する変数の変更
ローカル変数ウィンドウ	カレント関数内のローカル変数の表示
メモリ・ウィンドウ	メモリ内容の表示
メモリ・サーチ・ダイアログ	メモリ・ウィンドウ内の検索
メモリ・フィル・ダイアログ	メモリ内容を指定データで埋める（初期化）
メモリ・コピー・ダイアログ	メモリのコピー
メモリ比較ダイアログ	メモリの比較
メモリ比較結果ダイアログ	メモリの比較結果表示
DMM ダイアログ	DMM を行うアドレスとデータの設定
レジスタ・ウィンドウ	レジスタ内容の表示
レジスタ選択ダイアログ	レジスタ・ウィンドウに表示するレジスタの選択
周辺 I/O レジスタ・ウィンドウ	周辺 I/O レジスタの内容表示
周辺 I/O レジスタ選択ダイアログ	周辺 I/O レジスタ・ウィンドウに表示する I/O レジスタや I/O ポートの選択
I/O ポート追加ダイアログ	周辺 I/O レジスタ・ウィンドウに表示する I/O ポートの登録
スタック・トレース・ウィンドウ	スタック内容の表示
タイマ・ダイアログ	タイマ・イベント条件の登録，設定
タイマ測定結果ダイアログ	実行時間測定結果表示
トレース・ウィンドウ	トレース結果表示
トレース・サーチ・ダイアログ	トレース・データの検索
トレース表示選択ダイアログ	トレース・ウィンドウ表示項目の選択
フレーム指定ダイアログ	トレース・ウィンドウの表示開始位置の指定
トレース・ダイアログ	トレース・イベント条件の登録，設定
ディレイ・カウント設定ダイアログ	ディレイ・トリガ・トレースのディレイ・カウント設定
カバレッジ・ウィンドウ	カバレッジ結果表示
カバレッジ・サーチ・ダイアログ	カバレッジ・ウィンドウ内の検索
カバレッジ・クリア・ダイアログ	カバレッジ・ウィンドウのクリア
カバレッジ範囲選択ダイアログ	カバレッジ測定範囲の選択
カバレッジ条件設定ダイアログ	カバレッジ効率の測定範囲設定
カバレッジ効率表示ダイアログ	カバレッジ結果の効率表示
イベント・マネージャ	各種イベントの管理
イベント・ダイアログ	イベント条件の登録
イベント・リンク・ダイアログ	イベント・リンク条件の登録
ブレーク・ダイアログ	ブレーク・イベント条件の登録，設定

表7 - 1 ウィンドウ/ダイアログ一覧

ウィンドウ名	内容
スナップ・ショット・ダイアログ	スナップショット・イベント条件の登録, 設定
スタブ・ダイアログ	スタブ・イベント条件の登録, 設定
表示ファイル・セーブ・ダイアログ	カレント・ウィンドウの表示情報を表示ファイルに保存
表示ファイル・ロード・ダイアログ	表示ファイルのロード
環境設定ファイル・セーブ・ダイアログ	カレント・ウィンドウの設定内容を設定ファイルに保存
環境設定ファイル・ロード・ダイアログ	設定ファイルのロード
リセット確認ダイアログ	SM plus と CPU とシンボル情報の初期化
終了確認ダイアログ	SM plus の終了
バージョン表示ダイアログ	バージョン表示
コンソール・ウィンドウ	コマンド入力ウィンドウ
ソース・ファイル選択ダイアログ	ファイル選択
シミュレータ部ウィンドウ/ダイアログ	
信号データ・エディタ・ウィンドウ	入力信号データの設定
ループ設定ダイアログ	信号データ・エディタ・ウィンドウのループ情報設定
タイミング・チャート・ウィンドウ	入力信号と出力信号のタイミング・チャート表示
端子選択ダイアログ	信号データ・エディタ・ウィンドウ, タイミング・チャート・ウィンドウの表示端子の選択
データ検索ダイアログ	タイミング・チャート・ウィンドウの詳細検索
標準入出力ウィンドウ	標準入出力機能のウィンドウ
標準入出力バッファサイズ変更ダイアログ	標準入出力ウィンドウの最大表示行数指定
シミュレータ・オプション・ダイアログ	シミュレータの各種オプションの設定
シリアル・ウィンドウ	シリアル・インタフェースの通信ウィンドウ
フォーマット設定ダイアログ (UART)	シリアル・フォーマットの設定 (UART) の設定
フォーマット設定ダイアログ (CSI)	シリアル・フォーマットの設定 (CSI)
入出力パネル・ウィンドウ	擬似的なターゲット・システムの構築
ボタン端子接続ダイアログ	ボタンの端子接続情報を設定
キーマトリクス端子接続ダイアログ	キーマトリクス LED の端子接続情報を設定
レベルゲージ端子接続ダイアログ	レベルゲージの端子接続情報を設定
LED 端子接続ダイアログ	LED の端子接続情報を設定
セグメント LED 端子接続ダイアログ	7/14 セグメント LED の端子接続情報を設定
マトリクス LED 端子接続ダイアログ	マトリクス LED の端子接続情報を設定
ブザー端子接続ダイアログ	ブザーの端子接続情報を設定
プルアップ/プルダウン設定ダイアログ	プルアップ/プルダウン抵抗の端子接続情報を設定
端子接続ダイアログ	図形/文字/ビットマップの端子への接続情報の設定

表7 - 1 ウィンドウ/ダイアログ一覧

ウィンドウ名	内容
オブジェクト一覧ダイアログ	入出力パネル・ウィンドウ上のオブジェクトの端子接続状況の一覧表示
ビットマップの追加ダイアログ	ビットマップの追加
色の設定ダイアログ	図形，線等の色指定（Windows 標準ダイアログ）
ウィンドウの書式設定ダイアログ	ウィンドウ色，フォント等の設定
フォントの指定ダイアログ	表示テキストのフォント選択（Windows 標準ダイアログ）
ファイルを開くダイアログ	動作対象ファイルの指定（Windows 標準ダイアログ）
名前を付けて保存ダイアログ	保存対象ファイルの指定（Windows 標準ダイアログ）

7.2 各ウィンドウの説明

各デバッグ・ウィンドウについて次のような形式で解説しています。

ウィンドウ/ダイアログ名

ここでは、ウィンドウ/ダイアログの簡単な機能説明と注意事項を示します。

また、ウィンドウ/ダイアログの表示イメージを図として示します。

なお、関連項目を参照先として示しています。

オープン方法

ここでは、ウィンドウ/ダイアログの主なオープン方法を示します。

各エリア説明

ここでは、ウィンドウ/ダイアログ内の各エリアの設定/表示項目の説明をします。

コンテキスト・メニュー

ここでは、ウィンドウ上でのマウスの右クリックにより表示される、コンテキスト・メニューの項目について説明しています。コンテキスト・メニューからは、このウィンドウ上でよく使用する便利な機能が、ワン・アクションで行えます（ウィンドウのみ）。

各メニュー項目は、クリックしたマウス・ポインタの位置ではなく、選択されている行、または項目に対して機能します（同名のメイン・メニューを選択した際と同じ動作）。

機能ボタン

ここでは、ウィンドウ/ダイアログ内のボタンによる動作の説明をします。

関連操作

このウィンドウ/ダイアログでの操作方法を示します。

メイン・ウィンドウ

SM plus を起動して初期設定終了後、最初に自動的にオープンするウィンドウです。

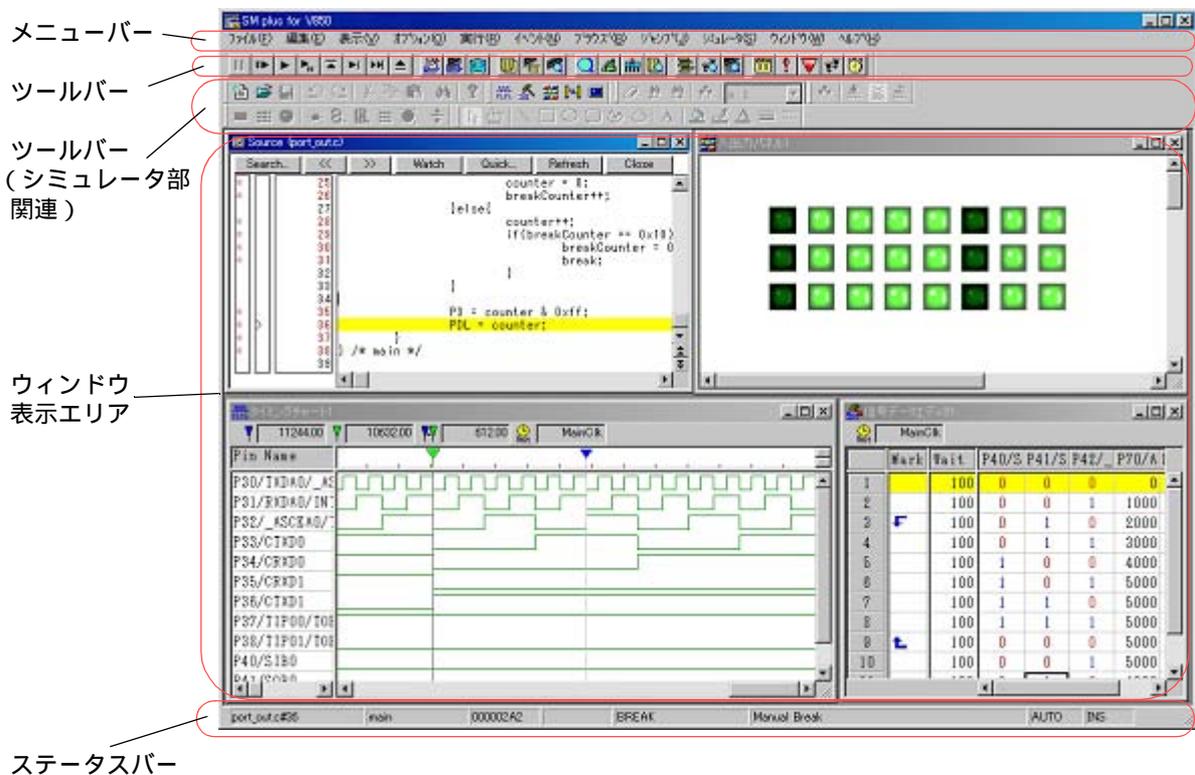
SM plus では、このウィンドウを中心に各種ウィンドウを操作します(「表7-1 ウィンドウ/ダイアログ一覧」参照)。

ユーザ・プログラムの実行制御は、このウィンドウ上で行います。

ユーザ・プログラムの実行制御には、次の3つのモードがあります。

- ・ソース・モード(ソース・レベル・ディバグ)
- ・命令モード(命令レベル・ディバグ)
- ・自動モード(ソース・レベル/命令レベル自動切り替え)(デフォルト)

図7-1 メイン・ウィンドウ



- ・メニュー・バー
- ・メニュー・バー (シミュレータ部関連)
- ・ツールバー
- ・ツールバー (シミュレータ部関連)
- ・ウィンドウ表示エリア
- ・ステータス・バー

メニュー・バー

- (1) [ファイル]メニュー
- (2) [編集]メニュー
- (3) [表示]メニュー
- (4) [オプション]メニュー
- (5) [実行]メニュー
- (6) [イベント]メニュー
- (7) [ブラウザ]メニュー
- (8) [ジャンプ]メニュー
- (9) [ウィンドウ]メニュー
- (10) [ヘルプ]メニュー

(1) [ファイル]メニュー

開く ...	表示ファイル, またはソース・ファイルやテキスト・ファイルをロードします。 表示ファイル・ロード・ダイアログをオープンします。 ダイアログで選択したファイルの拡張子によって動作が異なります。
名前を付けて保存 ...	カレント・ウィンドウの表示内容をファイルに別名でセーブします。 表示ファイル・セーブ・ダイアログをオープンします。
閉じる	カレント・ウィンドウをクローズします。
ダウンロード ...	ファイルをダウンロードします。 ダウンロード・ダイアログをオープンします。
ロードモジュール ...	ダウンロード済みのファイル名を一覧表示します。 ロード・モジュール一覧ダイアログをオープンします。
アップロード ...	プログラムをアップロードします。 アップロード・ダイアログをオープンします。
プロジェクト	プロジェクト・ファイルを操作します。
開く ...	プロジェクト・ファイルをオープンします。 プロジェクト・ファイル・ロード・ダイアログをオープンします。
上書き保存	現在の状態を現在 SM plus に読み込まれているプロジェクト・ファイルに上書きします。
名前を付けて保存 ...	現在の状態を指定するプロジェクト・ファイルにセーブします。 プロジェクト・ファイル・セーブ・ダイアログをオープンします。
環境	設定ファイルを操作します。
開く ...	設定ファイルをオープンします。 環境設定ファイル・ロード・ダイアログをオープンします。
名前を付けて保存 ...	現在のウィンドウの設定を設定ファイルにセーブします。 環境設定ファイル・セーブ・ダイアログをオープンします。
デバッグリセット ...	CPU, シンボル, および SM plus の初期化を行います。 リセット確認ダイアログをオープンします。
終了	SM plus を終了します。 終了確認ダイアログをオープンします。

(オープン・ファイル)	オープンしたファイル名の一覧を表示します。
-------------	-----------------------

(2) [編集]メニュー

切り取り	選択した文字列を切り取ってクリップ・ボード・バッファに入れます。
コピー	選択した文字列をコピーしてクリップ・ボード・バッファに入れます。
貼り付け	クリップ・ボード・バッファの内容をテキスト・カーソル位置に貼り付けます。
書き込み	修正した内容をターゲットに書き込みます。
復元	修正した内容を取り消します。
メモリ	メモリ内容を操作します。
初期化 ...	メモリの初期化を行います。 メモリ・フィル・ダイアログをオープンします。
複写 ...	メモリのコピーを行います。 メモリ・コピー・ダイアログをオープンします。
比較 ...	メモリの比較を行います。 メモリ比較ダイアログをオープンします。
変更 ...	ユーザ・プログラム実行中にメモリ内容を書き替えます。 DMM ダイアログをオープンします。
ソースの修正	PM plus が動作している場合、アクティブなソース・テキスト・ウィンドウで表示しているソース・ファイルを、PM plus で指定されたエディタでオープンします。

(3) [表示]メニュー

[表示]メニューには、共通部とアクティブなウィンドウに応じて追加される専用部があります。専用部に関しては、各ウィンドウを参照してください。

(a) 共通部

検索 ...	検索を行います。 カレント・ウィンドウに応じて、各サーチ・ダイアログをオープンします。 <Search...> ボタンと同じ動作です。
移動 ...	表示位置を移動します。 カレント・ウィンドウに応じて、各指定ダイアログをオープンします。
クイックウォッチ ...	指定したデータの内容を一時的に表示します、 クイック・ウォッチ・ダイアログをオープンします。
ウォッチ登録 ...	指定したデータをウォッチ・ウィンドウに登録します。 ウォッチ登録ダイアログをオープンします。
ウォッチ追加	選択したデータをウォッチ・ウィンドウに追加します。 シンボルの場合は、デバッグ・オプション設定ダイアログの設定にしたがって追加します。
ウォッチ変更 ...	選択したウォッチ・ポイントの変数名文字列を変更します。 ウォッチ変更ダイアログをオープンします。 このメニューは、ウォッチ・ウィンドウで変数を選択しているときのみ有効です。

ウォッチ削除	選択したウォッチ・ポイントをウォッチ・ウィンドウから削除します。このメニューは、ウォッチ・ウィンドウで変数を選択しているときのみ有効です。
シンボル変換 ...	指定した変数や関数のアドレス、指定したシンボルの値を表示します。 シンボル変換ダイアログをオープンします。

(4) [オプション]メニュー

ツールバー	ツールバーの表示 (デフォルト) / 非表示を選択します。
ステータスバー	ステータス・バーの表示 (デフォルト) / 非表示を選択します。
ボタン	各ウィンドウのボタンの表示 (デフォルト) / 非表示を選択します。
ソースモード	ソース・レベル (行単位) でステップ実行します。
命令モード	命令レベル (命令単位) でステップ実行します。
自動モード	ソース・レベルのステップ実行と命令レベルのステップ実行を自動的に切り替えて、ステップ実行します (デフォルト)。 ソース・テキスト・ウィンドウがアクティブのときは、ソース・レベル (混合表示モード以外)、逆アセンブル・ウィンドウがアクティブのときは、命令レベルでステップ実行します。どちらのウィンドウもアクティブではないときは、ソース・レベルでステップ実行します。
コンフィグレーション ...	環境設定を行います。 コンフィグレーション・ダイアログをオープンします。
拡張オプション ...	拡張機能の設定を行います。 拡張オプション設定ダイアログをオープンします。
デバッガオプション ...	SM plus のオプション設定を行います。 デバッガ・オプション設定ダイアログをオープンします。
I/O ポート追加 ...	ユーザ定義の I/O ポートを追加します。 I/O ポート追加ダイアログをオープンします。
トレースクリア	トレース・データをクリアします。 トレース・ウィンドウがアクティブな時のみ表示されます。
カバレッジ	次のカバレッジ測定関連のダイアログをオープンします。
クリア ...	カバレッジ測定結果をクリアします。 カバレッジ・クリア・ダイアログをオープンします。
選択 ...	1M バイト以上の空間のカバレッジ測定範囲の選択をします。 カバレッジ範囲選択ダイアログをオープンします。
条件設定 ...	カバレッジ効率の測定条件を設定します。 カバレッジ条件設定ダイアログをオープンします。
効率表示 ...	カバレッジ効率の表示を行います。 カバレッジ効率表示ダイアログをオープンします。
カバレッジオン	カバレッジ測定の ON/OFF を選択します (デフォルトは OFF)。 ユーザ・プログラム実行中は、変更することができません。
タイマオン	タイマ測定の ON/OFF を選択します (デフォルトは OFF)。 ユーザ・プログラム実行中は、変更することができません。 また、Run-Break 時間の測定タイマを止めることはできません。
トレーサオン	トレーサの ON/OFF を選択します (デフォルトは OFF)。 ユーザ・プログラム実行中は、変更できません。

(5) 【実行】メニュー

リスタート	CPU をリセットしてからプログラム実行します。  ボタンのクリック時と同様です。
ストップ	プログラム実行を強制的に停止させます。  ボタンのクリック時と同様です。
継続して実行	カレント PC からプログラムを実行します。  ボタンのクリック時と同様です。
ブレイクせずに実行	設定されているブレイク・ポイントを無視してプログラムを実行します。  ボタンのクリック時と同様です。
リターンアウト	呼び出し元に戻るまで実行します。  ボタンのクリック時と同様です。 注 このコマンドは、C 言語で記述した関数が対象です。
ステップイン	プログラム内の命令を 1 つずつ実行します (ステップ実行)。 関数、サブルーチンが呼び出されている場合には、その内部の命令を 1 つずつ実行します。  ボタンのクリック時と同様です。
ネクストオーバー	プログラム内の命令を 1 つずつ実行します (Next ステップ実行)。 関数、サブルーチンが呼び出されている場合には、その内部の命令をステップ実行の対象から外します。  ボタンのクリック時と同様です。
カーソル位置から実行	ソース・テキスト・ウィンドウ、または逆アセンブル・ウィンドウのカーソル位置からプログラムを実行します。
カーソル位置まで実行	カレント PC からソース・テキスト・ウィンドウ、または逆アセンブル・ウィンドウのカーソル位置までプログラムを実行します。
自動継続実行	プログラム実行をし続けます。 ブレイク条件によりブレイクした場合には、ウィンドウを更新してから、再度プログラム実行します。  ボタンを、ブレイクするたびにクリックするのと同じ動作をします。
スローモーション	ステップ実行をし続けます。 ステップ実行ごとにウィンドウを更新してから、再度ステップ実行します。  ボタンを、ブレイクするたびにクリックするのと同じ動作をします。
CPU リセット	CPU をリセットします。  ボタンのクリック時と同様です。
PC 値変更	ソース・テキスト・ウィンドウ、または逆アセンブル・ウィンドウのカーソル位置のアドレスを PC に設定します。
ブレイクポイント	ソース・テキスト・ウィンドウ、または逆アセンブル・ウィンドウのカーソル位置にブレイク・ポイントを設定 / 削除します。
無条件トレース	無条件トレースを有効にして、プログラム実行中は常にトレースするように設定します (デフォルト)。 この際、設定されているトレース・イベント条件は無視されます。 トレーサ起動中はトレース・モードを変更することはできません。

条件トレース	条件トレースを有効にして、プログラム実行中はトレース・イベント条件にしたがってトレースするように設定します。 トレーサ起動中はトレース・モードを変更することはできません。
トレーサ制御モード	トレーサ制御モードを設定します。 注意： ディレイ・トリガ・イベント条件は、[ディレイ・トリガ・ストップ]、または[ディレイ・トリガ・ブレーク]を選択している場合のみ有効になります。この場合、他のモードへの切り替えは不可です。
ノン・ストップ	トレース・メモリを一周したら最古のフレームからオーバーライトします (デフォルト)。
フル・ストップ	トレース・メモリを一周したらトレーサを停止します。
フルブレーク	トレース・メモリを一周したらトレーサとプログラム実行を停止します。
ディレイ・トリガ・ストップ	ディレイ・トリガ・イベント発生時にディレイ・カウント・フレーム分トレースを取り、トレーサを停止します。
ディレイ・トリガ・ブレーク	ディレイ・トリガ・イベント発生時にディレイ・カウント・フレーム分トレースを取り、トレーサとプログラム実行を停止します。
カバレッジ開始 / カバレッジ停止	カバレッジ計測が停止中は開始させ、動作中は停止させます。 プログラム実行中でない時、およびカバレッジ機能がオフの時 ([オプション]メニュー [カバレッジオン]にチェックがついていない時)は無効です。カバレッジ機能がオンでプログラム実行を開始した直後はカバレッジ計測動作中となります。
タイマ開始 / タイマ停止	タイマ計測が停止中は開始させ、動作中は停止させます。 プログラム実行中でない時、およびタイマ・イベント未使用の時、およびタイマ機能がオフの時 ([オプション]メニュー [タイマオン]にチェックがついていない時)は無効です。タイマ機能がオンでプログラム実行を開始した直後はタイマ計測動作中となります。
トレーサ開始 / トレーサ停止	トレーサが停止中は開始させ、動作中は停止させます。 プログラム実行中でない時、およびトレース機能がオフの時 ([オプション]メニュー [トレーサオン]にチェックがついていない時)は無効です。トレース機能がオンでプログラム実行を開始した直後はトレーサ動作中となります。

(6) [イベント]メニュー

イベントマネージャ	各種イベント条件の管理を行います。 イベント・マネージャ をオープンします。  ボタンのクリック時と同様です。
イベント ...	イベント条件の登録を行います。 イベント・ダイアログ をオープンします。  ボタンのクリック時と同様です。
イベントリンク ...	イベント・リンク条件の登録を行います。 イベント・リンク・ダイアログ をオープンします。
ブレーク ...	ブレーク条件の登録と設定を行います。 ブレーク・ダイアログ をオープンします。  ボタンのクリック時と同様です。
トレース ...	トレース・イベント条件の登録と設定を行います。 トレース・ダイアログ をオープンします。  ボタンのクリック時と同様です。

スナップショット ...	スナップ・イベント条件の登録と設定を行います。 スナップ・ショット・ダイアログ をオープンします。
スタブ ...	スタブ・イベント条件の登録と設定を行います。 スタブ・ダイアログ をオープンします。
タイマ ...	タイマ・イベント条件の登録と設定を行います。 タイマ・ダイアログ をオープンします。  ボタンのクリック時と同様です。
ディレイカウント ...	ディレイ・カウントの設定、およびディレイ値の表示をします。 ディレイ・カウント設定ダイアログ をオープンします。

(7) [ブラウザ]メニュー

ソース	ソース・テキスト表示します。 ソース・テキスト・ウィンドウ をオープンします。 すでにアクティブ状態のウィンドウが存在する場合は、スタティック状態でウィンドウをオープンします。  ボタンのクリック時と同様です。
アセンブル	アセンブル表示します。 逆アセンブル・ウィンドウ をオープンします。 すでにアクティブ状態のウィンドウが存在する場合は、スタティック状態でウィンドウをオープンします。  ボタンのクリック時と同様です。
メモリ	メモリ内容を表示します。 メモリ・ウィンドウ をオープンします。 すでにアクティブ状態のウィンドウが存在する場合は、スタティック状態でウィンドウをオープンします。  ボタンのクリック時と同様です。
ウォッチ	ウォッチ内容を表示します。 ウォッチ・ウィンドウ をオープンします。  ボタンのクリック時と同様です。
レジスタ	レジスタ内容を表示します。 レジスタ・ウィンドウ をオープンします。  ボタンのクリック時と同様です。
I/O レジスタ	周辺 I/O レジスタ内容を表示します。 周辺 I/O レジスタ・ウィンドウ をオープンします。  ボタンのクリック時と同様です。
ローカル変数	ローカル変数を表示します。 ローカル変数ウィンドウ をオープンします。  ボタンのクリック時と同様です。
スタック	スタック内容を表示します。 スタック・トレース・ウィンドウ をオープンします。  ボタンのクリック時と同様です。

トレース	<p>トレース結果を表示します。 トレース・ウィンドウをオープンします。</p>  ボタンのクリック時と同様です。
カバレッジ	<p>カバレッジ測定結果を表示します。 カバレッジ・ウィンドウをオープンします。</p>  ボタンのクリック時と同様です。
コンソール	コンソール・ウィンドウ をオープンします。
その他	その他のウィンドウを表示します。 ユーザ定義のウィンドウ一覧を表示します。

(8) [ジャンプ]メニュー

ソース	<p>カレント・ウィンドウで選択しているデータ値をジャンプ先アドレスとして、該当するソース・テキストおよびソース行を表示します。 ただし、ジャンプ先アドレスに行情報がない場合には、ジャンプすることはできません。 ソース・テキスト・ウィンドウをオープンします。 アクティブ状態のソース・テキスト・ウィンドウが表示されている場合は、そのウィンドウを最前面（操作対象）に表示します。</p>
アセンブル	<p>カレント・ウィンドウで選択しているデータ値をジャンプ先アドレスとして、そのアドレスから逆アセンブル表示します。 逆アセンブル・ウィンドウをオープンします。 アクティブ状態の逆アセンブル・ウィンドウが表示されている場合は、そのウィンドウを最前面（操作対象）に表示します。</p>
メモリ	<p>カレント・ウィンドウで選択しているデータ値をジャンプ先アドレスとして、そのアドレスからメモリ内容を表示します。 メモリ・ウィンドウをオープンします。 アクティブ状態のメモリ・ウィンドウが表示されている場合は、そのウィンドウを最前面（操作対象）に表示します。</p>
カバレッジ	<p>カレント・ウィンドウで選択しているデータ値をジャンプ先アドレスとして、そのアドレスからカバレッジ測定結果を表示します。 カバレッジ・ウィンドウをオープンします。 アクティブ状態のカバレッジ・ウィンドウが表示されている場合は、そのウィンドウを最前面（操作対象）に表示します。</p>

(9) [ウィンドウ]メニュー

新しいウィンドウを開く	カレント・ウィンドウと同じ内容を表示する新しいウィンドウをオープンします。カレント・ウィンドウが ソース・テキスト・ウィンドウ 、 逆アセンブル・ウィンドウ 、 メモリ・ウィンドウ 、 カバレッジ・ウィンドウ の場合のみ有効です。
重ねて表示	メイン・ウィンドウ内のウィンドウをカスケード表示にします。
並べて表示	メイン・ウィンドウ内のウィンドウをタイル表示にします。
アイコンの整列	メイン・ウィンドウ内のアイコンを再配置します。
すべてのウィンドウを閉じる	メイン・ウィンドウを除く、すべてのウィンドウをクローズします。
最新のデータに更新	ウィンドウの内容を最新のデータに更新します。
アクティブ	ウィンドウをアクティブ状態に切り替えます。

スタティック	ウィンドウをスタティック状態に切り替えます。
(オープンウィンドウ)	オープンしているウィンドウの一覧を表示します。 チェック・マークの付いているウィンドウがカレント・ウィンドウです。ウィンドウ名を選択することにより、選択したウィンドウをカレント・ウィンドウにします。

(10) [ヘルプ]メニュー

SM plus のヘルプ	製品のヘルプをオープンします。
コマンド・レファレンス	コマンド・レファレンス のヘルプを表示します。
メインウィンドウ	メイン・ウィンドウのヘルプを表示します。
カレントウィンドウ	カレント・ウィンドウのヘルプを表示します。
バージョン情報 ...	SM plus のバージョンを表示します。 バージョン表示ダイアログ をオープンします。

メニュー・バー (シミュレータ部関連)

シミュレータ部関連メニューには、次の2種類があります。

- デフォルト・メニュー
メイン・ウィンドウ上にシミュレータ部のウィンドウが1つもオープンされていない場合に表示
- 各ウィンドウ専用メニュー
メイン・ウィンドウ上にシミュレータ部のウィンドウがオープンしている場合に表示
(アクティブなウィンドウにより表示されるメニューが異なります。)

ここではデフォルト・メニューを示します。各ウィンドウ専用メニューに関しては、各ウィンドウの解説を参照してください。

(1) [オプション]メニュー

デバッグ部メニューに追加して表示されます。

ツールバー	カスケード・メニューに対応するツールバーの表示 / 非表示を切り替えます。
デバッグ	ツールバー の表示 / 非表示を切り替えます。
シミュレータスタンダード	(1) [スタンダード] ツールバーの表示 / 非表示を切り替えます。
シミュレータツール	(2) [ツール] ツールバーの表示 / 非表示を切り替えます。
タイミングチャート	(3) [タイミングチャート] ツールバーの表示 / 非表示を切り替えます。
信号データエディタ	(4) [信号データエディタ] ツールバーの表示 / 非表示を切り替えます。
部品	(5) [部品] ツールバーの表示 / 非表示を切り替えます。
図形	(6) [図形] ツールバーの表示 / 非表示を切り替えます。

(2) [シミュレータ]メニュー

シミュレータ部独自のメニューです。

シミュレータ部ウィンドウの扱うファイルに関する操作、およびシミュレータ部ウィンドウのオープンを行います。

新規作成 ...	シミュレータ部ウィンドウを新規にオープンします。
開く ...	ファイルを開くダイアログ をオープンします。指定したシミュレータ部ウィンドウの扱うファイルをオープンします。
閉じる	アクティブなシミュレータ部ウィンドウをクローズします。
上書き保存 ...	現在開いているシミュレータ部ウィンドウの扱うファイルに現在アクティブなシミュレータ部ウィンドウの内容を上書きして保存します。
名前を付けて保存 ...	名前を付けて保存ダイアログ をオープンします。現在アクティブなシミュレータ部ウィンドウの内容を指定したファイルに保存します。
信号データエディタ	信号データ・エディタ・ウィンドウ をオープンします。
タイミングチャート	タイミング・チャート・ウィンドウ をオープンします。
標準入出力	標準入出力ウィンドウ をオープンします。
シリアル	シリアル・ウィンドウ をオープンします。
入出力パネル	入出力パネル・ウィンドウ をオープンします。

ツールバー

(1) 各ボタンの意味

(2) ツールバーの操作

(1) 各ボタンの意味

ツールバーの各ボタンの意味は、次の通りです。なお、ツールバーの各ボタン上にマウス・カーソルを置くと、数秒後にツール・ヒントがポップアップされます。

 Stop	ユーザ・プログラム実行を停止します。 [実行]メニュー [ストップ]選択時と同様です。
 ReGo	CPU をリセットしてから、ユーザ・プログラム実行します。 [実行]メニュー [リスタート]選択時と同様です。
 Go	CPU をリセットせずに、カレント PC からユーザ・プログラム実行します。 [実行]メニュー [継続して実行]選択時と同様です。
 Go	設定されているブレーク・ポイントを無視して、ユーザ・プログラム実行します。 [実行]メニュー [ブレークせずに実行]選択時と同様です。
 Ret	呼び出し元に戻るまで実行します。 [実行]メニュー [リターンアウト]選択時と同様です。 注： このコマンドは、C 言語で記述した関数が対象です。

 Step	ステップ実行（プログラム内の命令を1つずつ実行）します。 関数，サブルーチンが呼び出されている場合には，その内部の命令を1つずつ実行します。 [実行]メニュー [ステップイン]選択時と同様です。
 Over	Next ステップ実行（関数 / コール文を1ステップとみなしプログラムを実行）します。 関数，サブルーチンが呼び出されている場合には，その内部の命令をステップ実行の対象から外します。 [実行]メニュー [ネクストオーバー]選択時と同様です。
 Res	CPU をリセットします。 [実行] [CPU リセット]選択時と同様です。
 Open	表示ファイル・ロード・ダイアログをオープンします。 [ファイル]メニュー [開く ...]選択時と同様です。
 Load	ダウンロード・ダイアログをオープンします。 [ファイル]メニュー [ダウンロード ...]選択時と同様です。
 Proj	プロジェクト・ファイル・ロード・ダイアログをオープンします。 [ファイル]メニュー [プロジェクト] [開く ...]選択時と同様です。
 Src	ソース・テキスト表示を行います。 ソース・テキスト・ウィンドウをオープンします。 [ブラウザ]メニュー [ソース]選択時と同様です。
 Asm	アセンブル表示します。 逆アセンブル・ウィンドウをオープンします。 [ブラウザ]メニュー [アセンブル]選択時と同様です。
 Mem	メモリ内容を表示します。 メモリ・ウィンドウをオープンします。 [ブラウザ]メニュー [メモリ]選択時と同様です。
 Wch	ウォッチ内容を表示します。 ウォッチ・ウィンドウをオープンします。 [ブラウザ]メニュー [ウォッチ]選択時と同様です。
 Reg	レジスタ内容を表示します。 レジスタ・ウィンドウをオープンします。 [ブラウザ]メニュー [レジスタ]選択時と同様です。
 IOR	周辺 I/O レジスタの内容を表示します。 周辺 I/O レジスタ・ウィンドウをオープンします。 [ブラウザ]メニュー [I/O レジスタ]選択時と同様です。
 Loc	ローカル変数内容を表示します。 ローカル変数ウィンドウをオープンします。 [ブラウザ]メニュー [ローカル変数]選択時と同様です。
 Stk	スタック内容を表示します。 スタック・トレース・ウィンドウをオープンします。 [ブラウザ]メニュー [スタック]選択時と同様です。
 TrW	トレース結果を表示します。 トレース・ウィンドウをオープンします。 [ブラウザ]メニュー [トレース]選択時と同様です。
 Cov	カバレッジ測定結果を表示します。 カバレッジ・ウィンドウをオープンします。 [ブラウザ]メニュー [カバレッジ]選択時と同様です。
 Mgr	イベント・マネージャをオープンします。 [イベント]メニュー [イベントマネージャ]選択時と同様です。

 Evn	イベントの登録，設定を行います。 イベント・ダイアログをオープンします。 [イベント]メニュー [イベント...]選択時と同様です。
 Brk	ブレーク・イベントの登録と設定を行います。 ブレーク・ダイアログをオープンします。 [イベント]メニュー [ブレーク...]選択時と同様です。
 Trc	トレース・イベントの登録と設定を行います。 トレース・ダイアログをオープンします。 [イベント]メニュー [トレース...]選択時と同様です。
 Tim	タイマ・イベントの登録と設定を行います。 タイマ・ダイアログをオープンします。 [イベント]メニュー [タイマ...]選択時と同様です。

(2) ツールバーの操作

ツールバーは，[オプション]メニュー [ツールバー]により，表示/非表示を選択できます。

ツールバーは，[デバッグ・オプション設定ダイアログ](#)での設定により次のように表示切り替えが可能です。

図 7 - 2 ツールバー (デフォルト)



図 7 - 3 ツールバー (グラフィック + 文字)



ツールバー (シミュレータ部関連)

シミュレータ部専用ツールバーには，以下に示す 2 つの共通ツールバーと 4 つの専用ツールバーにグループ分けされており，[オプション]メニュー [ツールバー]により，各グループごとに表示/非表示の切り替えが可能です。

図 7 - 4 ツールバー (シミュレータ部)



共通

- (1) [スタンダード] ツールバー
- (2) [ツール] ツールバー

専用

- (3) [タイミングチャート] ツールバー
- (4) [信号データエディタ] ツールバー
- (5) [部品] ツールバー
- (6) [図形] ツールバー

(1) [スタンダード] ツールバー

シミュレータ部ウィンドウ上で共通で使用可能です。常時選択可能です。

	シミュレータ部ウィンドウを新規にオープンします。
	ファイルを開くダイアログをオープンします。指定したシミュレータ部ウィンドウの扱うファイルをオープンします。
	現在開いているシミュレータ部ウィンドウの扱うファイルに現在アクティブなシミュレータ部ウィンドウの内容を上書きして保存します。
	直前に行った操作を元に戻します。
	[元に戻す] で元に戻した状態を復帰します。
	選択範囲を切り取りクリップボードに保存します。
	選択範囲をコピーしクリップボードに保存します。
	クリップボードの内容を貼り付けます。
	アクティブ・ウィンドウの検索メニューを選択した時と同じ動作です。
	ヘルプ・ウィンドウの目次を表示します。

(2) [ツール] ツールバー

シミュレータ部ウィンドウの新規作成を行います。常時選択可能です。

	信号データ・エディタ・ウィンドウをオープンします。
	タイミング・チャート・ウィンドウをオープンします。
	標準入出力ウィンドウをオープンします。
	シリアル・ウィンドウをオープンします。
	入出力パネル・ウィンドウをオープンします。

(3) [タイミングチャート] ツールバー

タイミング・チャート・ウィンドウのアクティブ時に選択可能です（[タイミングチャート] ツールバー参照）。

(4) [信号データエディタ] ツールバー

信号データ・エディタ・ウィンドウのアクティブ時に選択可能です（[信号データエディタ] ツールバー参照）。

(5) [部品] ツールバー

入出力パネル・ウィンドウのアクティブ時に選択可能です（[部品] メニュー / ツールバー（部品）参照）。

(6) [図形] ツールバー

入出力パネル・ウィンドウのアクティブ時に選択可能です（[図形] メニュー / ツールバー（図形）参照）。

ウィンドウ表示エリア

各種ディバグ・ウィンドウを表示するエリアです。

表示されたウィンドウは、このエリアの中でウィンドウ・サイズの変更、アイコン化などを行います。

ステータス・バー

SM plus の状態を示すエリアです。

また、ユーザ・プログラム実行中には、ステータス・バーの表示色が赤に変わります。

ステータス・バーは、[オプション] メニュー [ステータスバー] により、表示 / 非表示を選択できます。

図 7 - 5 ステータス・バー



(1) プログラム名	PC 値で示されるプログラム・ファイル名を表示
ソース名	PC 値で示されるソース・ファイル名を表示
行番号	PC 値で示される行番号を表示
(2) 関数名	PC 値で示される関数名を表示
(3) PC 値	現在の PC 値を表示
(4) CPU ステータス	「表 7 - 2 CPU ステータス」を参照
(5) IE ステータス	「表 7 - 3 IE ステータス」を参照 (複数ある場合は ' ' で区切って表示)
(6) ブレーク要因	「表 7 - 4 ブレーク要因」を参照
(7) STEP モード	ステップ実行モードを表示 [オプション] メニューで次のモードが選択されていることを表示 SRC ソース・モード INST 命令モード AUTO 自動モード

(8) キー入力モード	キー入力モードを表示 INS 挿入モード OVR 上書きモード ただし、メモリ・ウィンドウでは、OVR モード固定です。
-------------	---

表7 - 2 CPU ステータス

表示	意味
STANDBY	スタンバイ・モード中
RESET	リセット状態

表7 - 3 IE ステータス

表示	意味
RUN	ユーザ・プログラム実行中 (ステータス・バーの色が変化)
STEP	ステップ実行中
TRC	トレース実行中
TIM	タイマ動作中
COV	カバレッジ動作中
BREAK	ブレーク中

表7 - 4 ブレーク要因

表示	意味
Manual Break	強制ブレーク
Temporary Break	テンポラリ・ブレーク
Event Break	イベントによるブレーク
Trace Full Break	トレース・フルによるブレーク
Non Map Break	ノン・マップ・エリアをアクセスした
Write Protect	ライト・プロテクト領域に対してライトしようとした
IOR Illegal	周辺 I/O レジスタに対してイリーガルなアクセスを行った
Security Protect	セキュリティ保護領域に対してアクセスを行った
Ffa01 : PC 位置の行番号が見つかりませんでした。	プログラム停止時のプログラム・カウンタ (PC) 値に対応するソース・ファイルが見つかりません。原因としては、以下のようなことが考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> - ソース・ファイルがソース・パスの通っていない場所に存在する。 - ライブラリ、RX など、ソース・ファイルが存在していないところでプログラムを停止した。 - プログラムが暴走し、プログラムで使用していないアドレスへ実行が移り、そこで停止した。

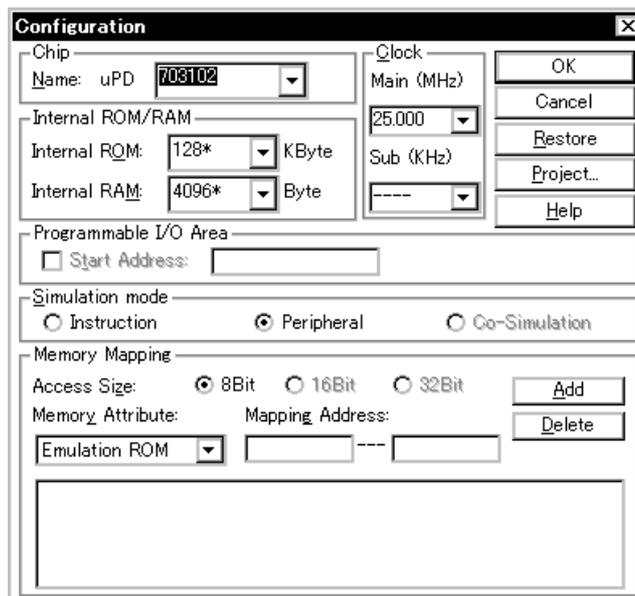
コンフィグレーション・ダイアログ

SM plus の動作環境の表示と設定を行います（「5.1 デバッグ環境の設定」参照）。

このダイアログは、SM plus 起動後に自動的に表示されます。

ただし、プロジェクト・ファイルを読み込む場合には設定する必要はなく、プロジェクト・ファイルを読み込んだ結果がダイアログ上に反映されます（「5.17.1 デバッグ環境（プロジェクト・ファイル）」参照）。

図 7 - 6 コンフィグレーション・ダイアログ



- [オープン方法](#)
- [各エリア説明](#)
- [機能ボタン](#)

オープン方法

（SM plus を起動したとき自動的にオープン）

[オプション]メニュー [コンフィグレーション...]を選択

各エリア説明

- (1) Chip (CPU 選択エリア)
- (2) Internal ROM/RAM (内部 ROM/RAM 設定エリア)
- (3) Programmable I/O Area (プログラマブル I/O 領域アドレス設定エリア)
- (4) Clock (CPU クロック・ソース選択エリア)
- (5) Simulation mode (シミュレーション・モード選択エリア)
- (6) Memory Mapping (マッピング設定エリア)

(1) Chip (CPU 選択エリア)

使用する品種名を選択するエリアです。

指定は、ドロップダウン・リストからの選択により行います。

なお、ドロップダウン・リストには、デバイス・ファイル・インストーラによりレジストリ登録された品種のみが表示されます。

このエリアは起動時のみ指定可能です。なお、デフォルトでは前回起動時に選択した品種が表示されます。

(2) Internal ROM/RAM (内部 ROM/RAM 設定エリア)

CPU の内部 ROM、内部 RAM サイズを指定、変更します。

初期値（*付きの値）は (1) Chip (CPU 選択エリア) での選択により自動的に表示されます。

サイズ変更はドロップダウン・リストからの選択により行います。

設定できるサイズは次の通りです。

表 7 - 5 内部 ROM/RAM として設定できる値

品種	内部 ROM アラインメント, 設定範囲共 (Kバイト)	内部 RAM アラインメント, 設定範囲共 (バイト)
V850	0, 32, 64, 128, 256, 512, 1024	1024, 2048, 3072, 4096, 6144, 8192, 10240, 12288, 16384, 20480, 24576, 28672
V850E	0, 32, 64, 128, 256, 512, 1024	1024, 2048, 3072, 4096, 6144, 8192, 10240, 12288, 16384, 20480, 24576, 28672, 36864, 45056, 53248, 61440

内部 RAM サイズを変更した場合、内部 RAM の先頭アドレスが次のように移動します。

表 7 - 6 内部 RAM サイズと先頭アドレス

品種別	内部 RAM サイズ (バイト)	内部 RAM の先頭アドレス
V85X , V850/XXX	1 ~ 4096	0xFFE000
	~ 12288	0xFFC000
	~ 28672	0xFF8000
V850E/MS1	1 ~ 4096	0x3FFE000
	~ 12288	0x3FFC000
	~ 28672	0x3FF8000
	~ 61440	0x3FF0000
その他の V850E	1 ~ 4096	0xFFFC000 固定
	~ 12288	
	~ 28672	
	~ 61440	
V850ES	1 ~ 4096	デバイスに依存
	~ 12288	
	~ 28672	
	~ 61440	

(3) Programmable I/O Area (プログラマブル I/O 領域アドレス設定エリア)

プログラマブル I/O 領域の使用と開始アドレスを指定します。

(1) Chip (CPU 選択エリア) での選択品種がプログラマブル I/O 領域をサポートしている場合に限り指定可能です。プログラマブル I/O 領域を使用する場合には、チェック・ボックスをチェックすることによりプログラマブル I/O 領域の開始アドレスが入力可能となります。なお、アドレスは 16K バイトでアラインされます。

(1) Chip (CPU 選択エリア) での選択品種がアドレス固定の拡張 I/O 領域を持つ品種である場合には、このエリアの設定は自動的に行われます。

(4) Clock (CPU クロック・ソース選択エリア)

CPU に入力するクロック・ソースを選択します。

Main (MHz)	メイン・クロック数を指定
Sub (KHz)	サブ・クロック数を指定

(5) Simulation mode (シミュレーション・モード選択エリア)

Simulation mode

Instruction Peripheral Co-Simulation

シミュレータの動作モードを次の中から選択します。

Instruction	インストラクション動作モード このモード選択時には、周辺シミュレーションを行いません ^注 。
Peripheral	ペリフェラル動作モード (デフォルト) このモード選択時には、周辺シミュレーションを行います。 このモードは、対象デバイスが V851, V852, V853, V854 の時のみ選択可能です。
Co-Simulation	選択不可

デバッグ途中で両動作モード間でモードの変更が可能です。

注 V851, V852, V853, V854 以外のデバイス選択時のインストラクション動作モードでは、周辺シミュレーションを行うことができます。詳細は製品添付文書を参照してください。

(6) Memory Mapping (マッピング設定エリア)

Memory Mapping

Access Size: 8Bit 16Bit 32Bit

Memory Attribute: Mapping Address:

Emulation ROM

アクセス・サイズ、メモリ属性、アドレスを指定し、マッピング設定を行います。

(a) Access Size (メモリ・アクセス・サイズの選択)

メモリ・アクセス・サイズを選択します。

8ビット固定です。

(b) Memory Attribute (マッピング属性指定)

マッピング属性は次の種類が選択できます。用途に合わせて選択してください(「5.1.3 マッピング設定」参照)。

表7 - 7 マッピング属性

マッピング属性	意味
Emulation ROM	シミュレータ代替 ROM を選択
Emulation RAM	シミュレータ代替 RAM を選択
Target	ターゲット・メモリを選択

(c) Mapping Address (マッピングアドレス指定)

マッピングするアドレスを指定します。

上位アドレス, 下位アドレスをキーボードから入力します。

(d) <Add> ボタン, <Delete> ボタン

マッピングの設定, 削除を行います。

<Add> ボタンのクリック時には, (b) Memory Attribute (マッピング属性指定), および (c) Mapping Address (マッピングアドレス指定) で指定したマッピングが設定されリスト表示されます。また, マッピング単位の調整が行われ, マッピング単位に合わない場合には指定したアドレスを含む設定可能な最小範囲がマッピング対象となります。

表7 - 8 マッピング単位

マッピング・エリア	マッピング単位
Emulation ROM Emulation RAM Target	64K バイト単位になります。 シミュレータは, 動作するホスト・マシン上に代替メモリを確保するため, マッピング可能なサイズは, ホスト・マシンに実装されているメモリ, および仮想メモリの大きさに依存します。 なお, V850 シリーズでは, ROM レス品を選択した場合, 0xFFFF にマッピングすることができます。

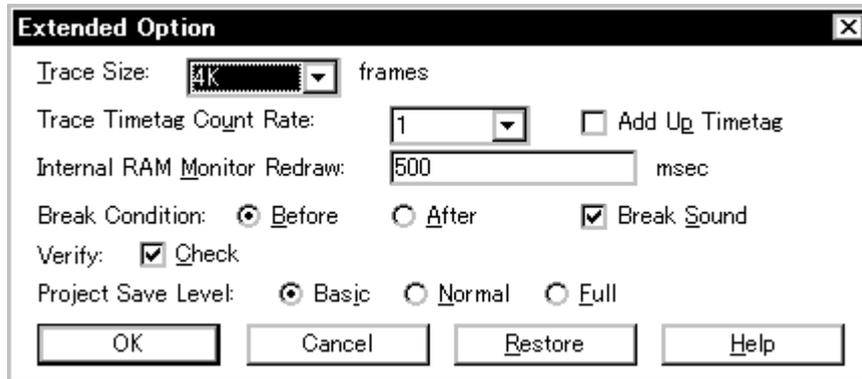
機能ボタン

OK	現在設定した環境を有効にします。 環境を設定してこのダイアログをクローズします。<OK> ボタンを押してエラーが発生した場合, 続行不可能なため SM plus を終了します。
Cancel	変更内容を取り消して, このダイアログをクローズします。
Restore	このダイアログをオープンする前の環境設定状態に戻します。
Project...	プロジェクト・ファイル・ロード・ダイアログをオープンします。プロジェクト・ファイルのオープンや読み込み中にエラーが発生した場合, 続行不可能なため, SM plus を終了します。
Help	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

拡張オプション設定ダイアログ

SM plus の各種拡張オプションの表示と設定を行います。

図7 - 7 拡張オプション設定ダイアログ



- ・ オープン方法
- ・ 各エリアの説明
- ・ 機能ボタン

オープン方法

[オプション]メニュー [拡張オプション...]を選択

各エリアの説明

- (1) Trace Size (トレース・バッファ・サイズ設定エリア)
- (2) Trace Timetag Count Rate (トレース・タイムタグ・カウンタ分周率選択エリア)
- (3) Add Up Timetag (タイムタグの積算指定エリア)
- (4) Internal RAM Monitor Redraw (リアルタイム内部 RAM サンプルング時間設定エリア)
- (5) Break Condition (ブレーク・モード設定エリア)
- (6) Break Sound (ビーブ音指定エリア)
- (7) Verify Check (ベリファイ指定エリア)
- (8) Project Save Level (プロジェクト・セーブ・レベル選択エリア)

(1) Trace Size (トレース・バッファ・サイズ設定エリア)

Trace Size: frames

トレース・バッファ(トレース・メモリ)のサイズを設定します(フレーム単位)。

4K	フレーム・サイズは 0-64K
64K	フレーム・サイズは 64K-1M
1M	フレーム・サイズは 1M-16M

(2) Trace Timetag Count Rate (トレース・タイムタグ・カウンタ分周率選択エリア)Trace Timetag Count Rate: 

トレース・ウィンドウのタイムタグ表示で使用するカウンタの分周率を設定します。

分周率を設定すると、タイムタグで表示されるカウンタのカウント・アップに必要なクロック数に変更されま

す。

(3) Add Up Timetag (タイムタグの積算指定エリア) Add Up Timetag

トレース・データのタイムタグ積算を行う場合、チェックします。

(4) Internal RAM Monitor Redraw (リアルタイム内部 RAM サンプリング時間設定エリア)Internal RAM Monitor Redraw: msec

リアルタイム内部 RAM サンプリングのサンプリング時間 (msec) を指定します「[5.16 RAM サンプリング機能](#)」参照。

エミュレーション中に対象範囲をリアルタイムに表示することができます(「[表 5 - 15 リアルタイム内部 RAM サンプリング機能の表示範囲](#)」参照)。

サンプリング時間は、100msec 単位で 0 - 65500 まで指定できます。

0、または空欄を指定した場合は表示を行いません。

(5) Break Condition (ブレイク・モード設定エリア)Break Condition: Before After

ブレイク・ポイントの命令に対し、実行する前にブレイクするか、実行してからブレイクするかを選択をしま

す。この設定は、ハードウェア・ブレイクにのみ影響を与えます。

Before	Run イベントを実行前イベントに設定 (デフォルト) 命令を実行する前に、イベントが発生します。
After	Run イベントを実行後イベントに設定 命令を実行した後に、イベントが発生します。

(6) Break Sound (ビーブ音指定エリア) Break Sound

ブレイク時にビーブ音を発生させる場合チェックします。

(7) Verify Check (ベリファイ指定エリア) Verify Check

メモリ書き込み時のベリファイ・チェックを行う場合チェックします。

ベリファイ・チェックは、ダウンロード、メモリ・フィル、メモリ・コピーの実行時に行われます。また変数やデータなどをウォッチ・ウィンドウ、メモリ・ウィンドウで変更し、メモリに書き込む際にも行われます。

(8) Project Save Level (プロジェクト・セーブ・レベル選択エリア)Project Save Level: Basic Normal Full

シミュレータ部に関するプロジェクト・ファイルのセーブ・レベルを選択します。

Basic	ユーザの設定したディバグ環境のみ（ウィンドウの状態、イベントの設定状態など）を保存します（デフォルト）。
Normal	Basic の内容 + シミュレータの内部の命令部分の中断状態（命令、メモリ、レジスタ、および周辺 I/O レジスタなどのプロジェクト情報）を保存します。
Full	Normal の内容 + シミュレーション中に生成されたディバグ情報（トレース、カバレッジ結果等）のすべてを保存します。

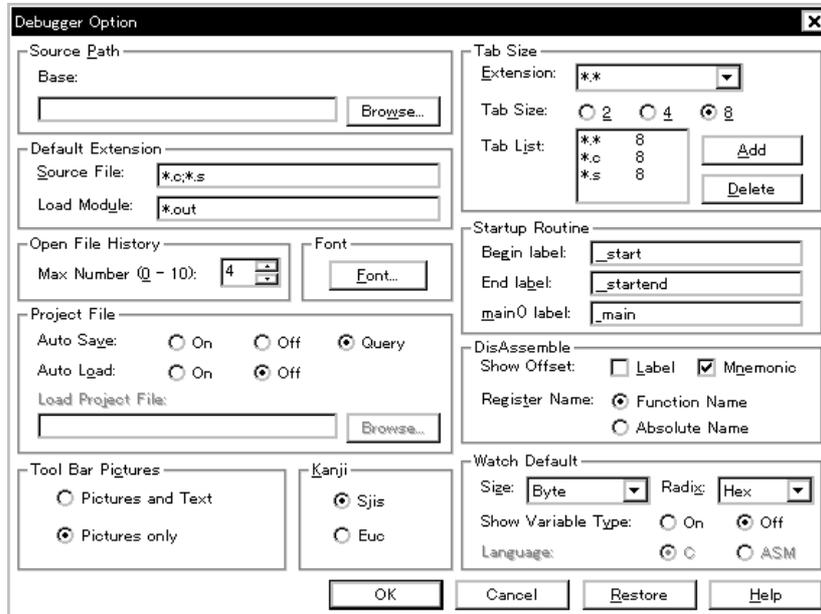
機能ボタン

OK	設定した各種設定を有効にして、このダイアログをクローズします。
Cancel	今回設定した内容を無効にして、このダイアログをクローズします。
Restore	このダイアログをオープンする前の設定状態に戻します。
Help	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

ディバッガ・オプション設定ダイアログ

SM plus の各種オプションの表示と設定を行います。

図7 - 8 ディバッガ・オプション設定ダイアログ



- [オープン方法](#)
- [各エリア説明](#)
- [機能ボタン](#)

オープン方法

[オプション]メニュー [デバッガ・オプション ...]を選択

各エリア説明

- (1) [Source Path \(ソース・パス指定エリア\)](#)
- (2) [Default Extension \(デフォルト拡張子指定エリア\)](#)
- (3) [Open File History \(オープン・ファイル・履歴設定エリア\)](#)
- (4) [Font \(表示フォント設定エリア\)](#)
- (5) [Project File \(プロジェクト・ファイル設定エリア\)](#)
- (6) [Tool Bar Pictures \(ツールバー表示ボタン設定エリア\)](#)
- (7) [Kanji \(漢字コード設定エリア\)](#)
- (8) [Tab Size \(タブ・サイズ設定エリア\)](#)
- (9) [Startup Routine \(スタートアップ・シンボル設定エリア\)](#)

(10) DisAssemble (逆アセンブル表示設定エリア)

(11) Watch Default (ウォッチ・シンボル設定エリア)

(1) Source Path (ソース・パス指定エリア)

ソース・ファイルやテキスト・ファイルを検索するディレクトリを指定するエリアです。



(a) Base :

相対パスの基準となるディレクトリが表示されます。基準ディレクトリは、次の順序で決定されます。

- ・プロジェクト・ファイルをロードしたディレクトリ
- ・最後にロード・モジュールやヘキサ・ファイルをロードしたディレクトリ
- ・Windows のカレント・ディレクトリ

(b) テキストエリア

検索ディレクトリを指定します。

指定は、<Browse...> ボタンでの指定、または直接入力により行います。相対パスでの指定も可能です。

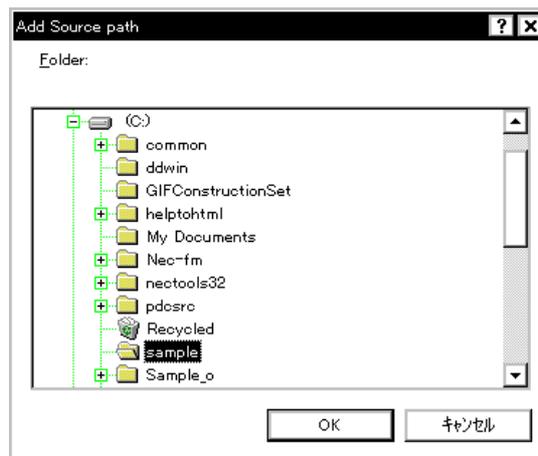
<Browse...> ボタンをクリックすることにより、[ソース・パス選択ダイアログ](#)がオープンします。パスの区切りは、";" (セミコロン)、または"," (カンマ)で行います。

ソース・パスに日本語文字を指定できます (日本語版のみ)。

備考 本ダイアログをオープンした直後は、基準ディレクトリを選択して開きます。2 度目以降は前回選択したディレクトリを選択してオープンします。

選択したディレクトリが、すでにソース・パスに設定されている場合には、追加を行いません。

図 7 - 9 ソース・パス選択ダイアログ



(2) Default Extension (デフォルト拡張子指定エリア)

デフォルトの拡張子を指定するエリアです。

拡張子の区切りは, " " (ブランク), ";" (セミコロン), または "," (カンマ) で指定します。

Source File	[ファイル]メニュー [開く...]を選択して、 ソース・ファイル選択ダイアログ を開いたときに表示されるソース・ファイルの拡張子を設定します。 デフォルトは, "*.c, *.s" です。
Load Module	ダウンロード・ダイアログ をオープンした際に表示されるロード・モジュールの拡張子を設定します。 デフォルトは, "*.out" です。

(3) Open File History (オープン・ファイル・ヒストリ設定エリア)

[ファイル]メニューの一番下欄に表示されるオープン・ファイルのヒストリ個数を設定するエリアです。

0 から 10 までの数が指定可能です (デフォルト: 4)。

0 を設定したときは, メニューにヒストリが表示されません。

(4) Font (表示フォント設定エリア)

[ソース・テキスト・ウィンドウ](#)での表示フォントを指定するエリアです。

<Font...> ボタンをクリックすることによりオープンする[フォント選択ダイアログ](#)で, 表示フォントやサイズを指定します。

(5) Project File (プロジェクト・ファイル設定エリア)

プロジェクト・ファイルの自動セーブ, 自動ロードの設定を行います ([「5.17.1 デバッグ環境 \(プロジェクト・ファイル\)」](#) 参照)。

(a) Auto Save

終了時のプロジェクト・ファイルの自動セーブの設定を行います。

On	終了時にプロジェクト・ファイルの自動セーブを行います。
Off	終了時にプロジェクト・ファイルの自動セーブを行いません。
Query	終了時に 終了確認ダイアログ を表示します (デフォルト)。

(b) Auto Load

起動時のプロジェクト・ファイルの自動ロードの設定を行います。

On	起動時にプロジェクト・ファイルの自動ロードを行います。 (c) Load Project File にロードするファイル名を指定します。
Off	起動時にプロジェクト・ファイルの自動ロードを行いません (デフォルト)。

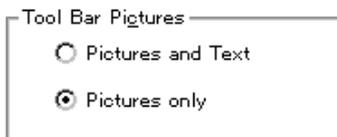
(c) Load Project File

自動ロード時にロードするプロジェクト・ファイルを指定します。

指定は、<Browse...> ボタンでの指定、または直接入力により行います。<Browse...> ボタンをクリックすることにより、ソース・ファイル選択ダイアログがオープンします。

(6) Tool Bar Pictures (ツールバー表示ボタン設定エリア)

ツールバーの表示ボタンを選択するエリアです



Pictures and Text	グラフィックと文字が表示されたボタンを表示
Pictures only	グラフィックのみのボタンを表示 (デフォルト)

(7) Kanji (漢字コード設定エリア)

ソース・テキスト・ウィンドウやトレース・ウィンドウに表示するファイルの漢字コードを選択するエリアです。



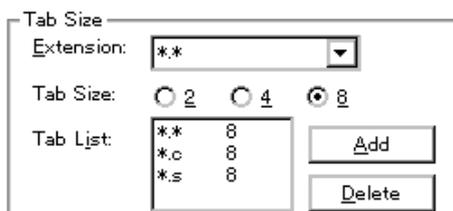
漢字コードの指定は、日本語 Windows 上でのみ有効となります。

Sjis	漢字コードとして SJIS を使用 (デフォルト)
Euc	漢字コードとして EUC を使用

(8) Tab Size (タブ・サイズ設定エリア)

タブ・サイズを指定するエリアです。

拡張子ごとに、その拡張子のファイルを表示する際のタブ・サイズを指定することができます。



(a) Extension

拡張子を指定します。

指定は、ドロップダウン・リストからの選択、または直接入力により行います。

(b) Tab Size

タブ・サイズを選択します。

タブ・コードをスペース何個分 (2 / 4 / 8) で表示するかをラジオ・ボタンにより選択します。

(c) Tab List

拡張子ごとの現在のタブ・サイズの設定が表示されています。

(d) <Add> ボタン

(a) Extension , (b) Tab Size を指定し、このボタンをクリックすることで (c) Tab List に設定されます。

(e) <Delete> ボタン

削除したい設定を (c) Tab List で選択し、このボタンをクリックすることで、設定が削除されます。

(9) Startup Routine (スタートアップ・シンボル設定エリア)

スタートアップ・ルーチンのテキスト領域 (コード領域) の先頭アドレス、末尾アドレス、および表示開始シンボルを指定するエリアです。

これにより、ダウンロード・ダイアログでロード・モジュール形式のオブジェクト・ファイルをダウンロードにより、ソース・ファイルが自動的にオープンされるようになります。

Begin label	先頭アドレスのシンボル (デフォルト: <code>_start</code>)
End label	末尾アドレスのシンボル (デフォルト: <code>_startend</code>)
main() label	表示開始シンボル (デフォルト: <code>_main</code>)

注意 1 指定されたシンボルが正しくない場合には、該当するソース・ファイルのアドレス範囲に PC が進むまでソース・ファイルをオープンすることができなくなります。また、スタートアップ・ルーチンをステップ実行でスキップすることはできません。

注意 2 このエリアは必ず指定してください。空欄にするとダイアログのクローズができません。

(10) DisAssemble (逆アセンブル表示設定エリア)

逆アセンブル表示時の設定を行います。

(a) Show Offset

逆アセンブル表示時のオフセット表示 (シンボル + オフセット) の有無を設定します。

オフセット表示を行わない場合、数値に一致するシンボルがあるときのみシンボルを表示し、一致するシンボルがないときは数値をそのまま 16 進数で表示します。

Label	Label 欄のオフセット表示する / しないを設定 デフォルトはチェックなしでオフセット表示しません。
Mnemonic	Mnemonic 欄のオフセット表示する / しないを設定 デフォルトはチェックありでオフセット表示します。

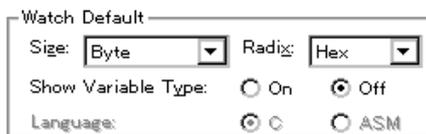
(b) Register Name

逆アセンブル表示時の二モニク中のレジスタ名の表示方法を選択します。

Function Name	機能名称, 別名で表示 (デフォルト)
Absolute Name	絶対名称で表示

(11) Watch Default (ウォッチ・シンボル設定エリア)

ウォッチ・ウィンドウなどでウォッチするシンボルについての指定を行うエリアです。



(a) Size (デフォルト・サイズ指定)

[適合] (Adaptive) を指定した場合のデータの表示サイズを選択します。

Byte	8 ビット表示 (デフォルト)
Half Word	16 ビット表示
Word	32 ビット表示

(b) Radix (デフォルト進数指定)

[自動] (Proper) を指定した場合のデータの表示進数を選択します。

Hex	16 進数で表示 (デフォルト)
Dec	10 進数で表示
Oct	8 進数で表示
Bin	2 進数で表示
String	文字列

(c) Show Variable Type (変数の型の表示 / 非表示)

表示している変数の型の表示 / 非表示を選択します。

On	変数の型を表示する
Off	変数の型を表示しない (デフォルト)

(d) Language (基数表示の指定)

表示している変数値の基数表示を選択します。

なお、SM plus では C 言語風固定です。

C	C 言語風の基数を表示 (デフォルト)
ASM	選択不可

機能ボタン

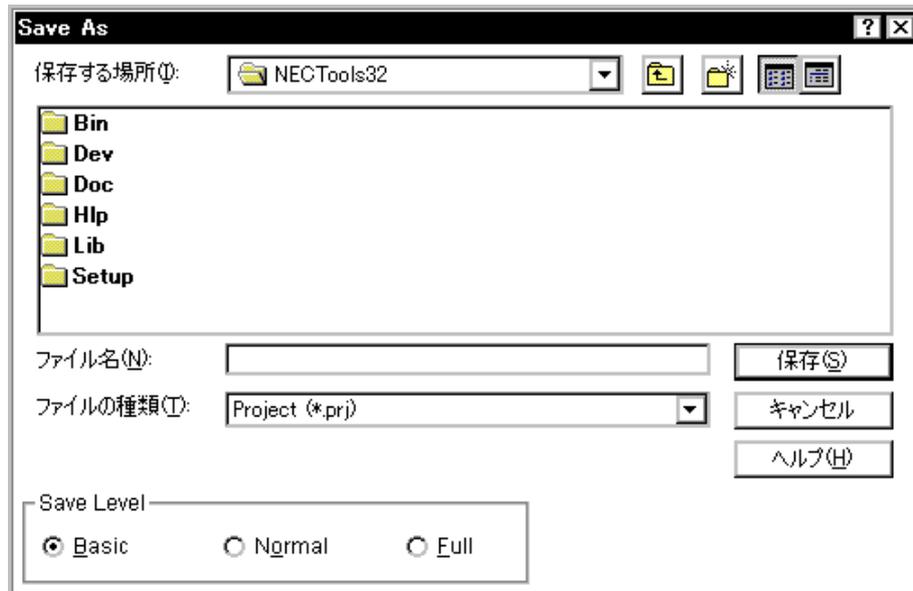
OK	設定した各種設定を有効にして、このダイアログをクローズします。
Cancel	今回設定した内容を無効にして、このダイアログをクローズします。
Restore	このダイアログをオープンする前の設定状態に戻します。
Help	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

プロジェクト・ファイル・セーブ・ダイアログ

現在のデバッグ環境をプロジェクト・ファイルに保存するダイアログです(「5.17.1 デバッグ環境(プロジェクト・ファイル)」参照)

このダイアログではプロジェクト・ファイルを新規保存,またはファイル名を変更して保存します。

図7 - 10 プロジェクト・ファイル・セーブ・ダイアログ



- ・ オープン方法
- ・ 各エリア説明
- ・ 機能ボタン

オープン方法

[ファイル]メニュー [プロジェクト] [名前を付けて保存...]を選択
(以前にプロジェクト・ファイルをロード,またはセーブして同じファイル名で保存する場合は[ファイル]メニュー [プロジェクト] [上書き保存]を選択)

各エリア説明

- (1) 保存する場所、ファイル名 (ファイル選択エリア)
- (2) ファイルの種類 (拡張子選択エリア)
- (3) Save Level (セーブ・レベル選択エリア)

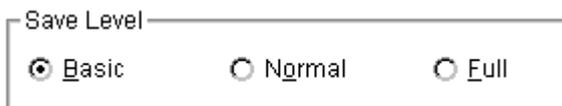
(1) 保存する場所、ファイル名 (ファイル選択エリア)

ファイル名を指定するエリアです。一覧から選択するか、直接入力により指定します。
指定可能文字数は拡張子を含めて 64 文字までです。

(2) ファイルの種類 (拡張子選択エリア)

保存するプロジェクト・ファイルの拡張子 (*.prj) を指定するエリアです。
拡張子を省略した場合には、デフォルトで .prj が付加されます。

(3) Save Level (セーブ・レベル選択エリア)



プロジェクト・ファイルのセーブ・レベルを選択するエリアです。

拡張オプション設定ダイアログと同様です。(8) [Project Save Level \(プロジェクト・セーブ・レベル選択エリア\)](#) を参照してください。

セーブ・レベルを変更した際は、拡張オプション設定ダイアログに反映されます。

機能ボタン

保存	選択したファイルにプロジェクト情報をセーブします。セーブ後、ダイアログをクローズします。
キャンセル	ファイルをセーブせず、このダイアログをクローズします。
ヘルプ	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

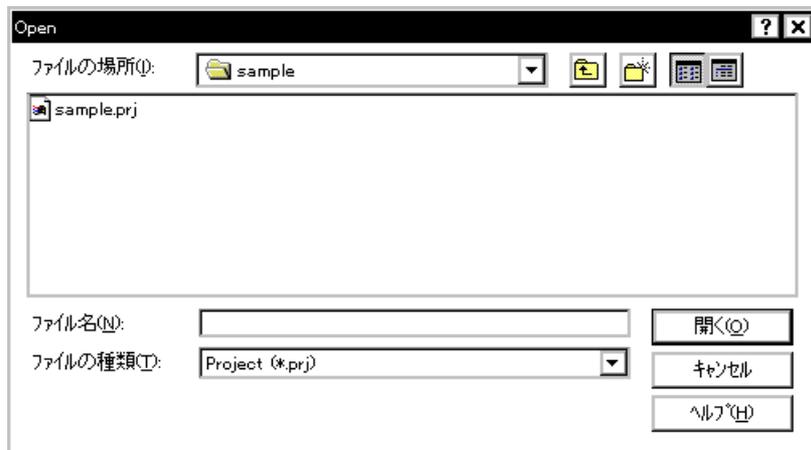
プロジェクト・ファイル・ロード・ダイアログ

ディバグ環境を指定したプロジェクト・ファイルに保存されたディバグ環境に復元するダイアログです(「5.17.1 ディバグ環境 (プロジェクト・ファイル)」参照)。

プロジェクト・ファイルロード後、アクティブなソース・テキスト・ウィンドウがある場合、一番上に表示されます。

注意 SM plus 起動後に、起動時のターゲット・デバイスと異なる設定のプロジェクト・ファイルをロードした場合には、起動時に指定したターゲット・デバイスとなります。

図 7 - 11 プロジェクト・ファイル・ロード・ダイアログ



- オープン方法
- 各エリア説明
- 機能ボタン

オープン方法

 ボタンをクリック, または [ファイル] メニュー [プロジェクト] [開く ...] を選択

各エリア説明

(1) ファイルの場所、ファイル名（ファイル選択エリア）

(2) ファイルの種類（拡張子選択エリア）

(1) ファイルの場所、ファイル名（ファイル選択エリア）

ファイル名を指定するエリアです。

一覧から選択するか、直接入力により指定します。

指定可能文字数は拡張子を含めて 64 文字までです。

(2) ファイルの種類（拡張子選択エリア）

ロードするプロジェクト・ファイルの拡張子（*.prj）を指定します。

機能ボタン

開く	選択したファイルをロードします。ロード後、ダイアログをクローズします。
キャンセル	ファイルをロードせず、このダイアログをクローズします。
ヘルプ	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

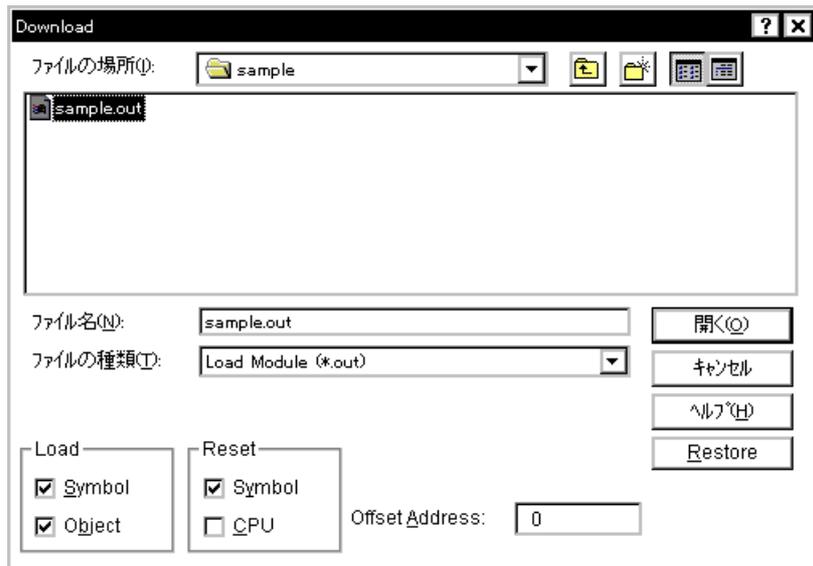
ダウンロード・ダイアログ

ダウンロードするファイル名、およびファイル形式を選択し、メモリ内容等をシミュレータへダウンロードします（「5.2 ダウンロード/アップロード機能」参照）。

ロード・モジュール・ファイルをロードした場合には、該当するソース・ファイルを検索し、自動的にソース・テキスト・ウィンドウをオープンします。

注意 ロード・モジュール・ファイル以外をロードした場合には、ソース・ディバグができません。

図7 - 12 ダウンロード・ダイアログ



参考 ダウンロード中は、ダウンロードの進捗を表示する次のダイアログがオープンし、常にキャンセルを受け付けます。このダイアログはダウンロード終了とともにクローズします。

図7 - 13 ダウンロード・ダイアログ（ダウンロード中）



- オープン方法
- 各エリアの説明
- 機能ボタン

オープン方法



ボタンをクリック，または[ファイル]メニュー [ダウンロード...]を選択

各エリアの説明

- (1) ファイルの場所，ファイル名
- (2) ファイルの種類
- (3) Load (ロード条件指定エリア)
- (4) Reset (リセット条件指定エリア)
- (5) Offset Address (オフセット指定エリア)

(1) ファイルの場所，ファイル名

ファイル名を指定します。一覧からの選択，または直接入力により指定します。

なお，' ' (ダブルクォーテーション) で区切ることにより複数ファイルの選択が可能です。一覧からは Shift キーや Ctrl キーを押しながら選択します。

ロードできるロード・モジュール・ファイルは最大 20 個です。

指定できる文字数は，拡張子を含めて 64 文字までです。

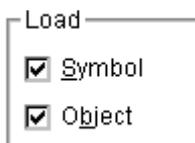
(2) ファイルの種類

ダウンロードするファイルの種類 (拡張子) を指定します (「表 5 - 2 ダウンロード/アップロードできるファイルの種類」参照)。

備考 これらはデフォルトの拡張子であり，これら以外の拡張子も使用することができます。

また，[ディバッガ・オプション設定ダイアログ](#)で表示ロード・モジュールのデフォルト拡張子を指定することもできます。

(3) Load (ロード条件指定エリア)



ロード条件を指定するエリアです。

この指定は，ロード・モジュール・ファイルをダウンロードする場合のみ有効です。

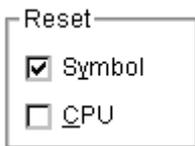
(a) Symbol

シンボル情報を読む場合チェックします。

なお，複数のロード・モジュール・ファイルから構成されるプログラムをデバッグする場合などに，シンボル情報が不要なモジュールがあれば，このチェックを外します。これにより，メモリの使用量を軽減することができます。

(b) Object

オブジェクト情報を読む場合チェックします。

(4) Reset (リセット条件指定エリア)


リセット条件を指定するエリアです。

この指定は、ロード・モジュール・ファイルをダウンロードする場合のみ有効です。

(a) Symbol

シンボル情報をリセットする場合チェックします。

注意 複数のロード・モジュール・ファイルから構成されるプログラムをデバッグする場合には、シンボル情報をリセットせずに個々のロード・モジュール・ファイルをロードしてください。

また、複数のロード・モジュール・ファイルをダウンロードする場合には、配置アドレスが重ならないようにしてください。

(b) CPU

CPU リセットをする場合チェックします。

(5) Offset Address (オフセット指定エリア)

Offset Address:

ロードするときのオフセット・アドレスを指定するエリアです。

なお、バイナリ・データの場合は、開始アドレスを指定します。

指定はシンボルや式でも可能です(「表 7 - 10 シンボルでの指定方法」参照)。

数値入力時のデフォルト進数は 16 進です。

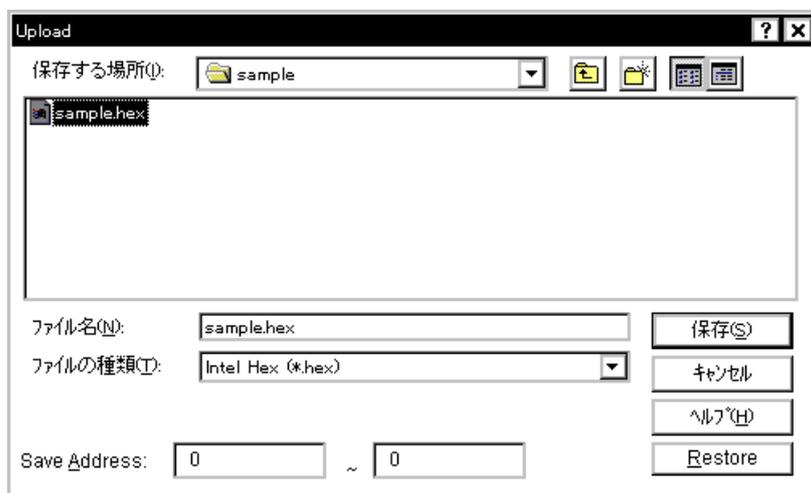
機能ボタン

開く	選択したファイルをロードします。ロード後、ダイアログをクローズします。
キャンセル	何もせずにこのダイアログをクローズします。
ヘルプ	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。
Restore	入力したデータを元に戻します。

アップロード・ダイアログ

保存するファイル名，およびファイル形式を設定しメモリ内容等をファイルへ保存します（「5.2 ダウンロード / アップロード機能」参照）。

図7 - 14 アップロード・ダイアログ



- ・ オープン方法
- ・ 各エリア説明
- ・ 機能ボタン

オープン方法

[ファイル]メニュー [アップロード...]を選択

各エリア説明

- (1) 保存する場所，ファイル名（保存ファイル名指定エリア）
- (2) ファイルの種類（拡張子選択エリア）
- (3) Save Address（セーブ範囲設定エリア）

(1) 保存する場所、ファイル名（保存ファイル名指定エリア）

ファイル名を指定するエリアです。一覧から選択するか直接入力により指定します。
指定可能文字数は拡張子を含めて 64 文字までです。

(2) ファイルの種類（拡張子選択エリア）

保存するファイルの種類（拡張子）を指定するエリアです。

拡張子により保存されるデータの形式（フォーマット）が決まります（「表 5 - 2 ダウンロード/アップロードできるファイルの種類」参照）。

ただし," All (*.*)" を選択した場合は、デフォルトのインテル拡張ヘキサ・フォーマットで保存されます。

備考 リスト以外の拡張子の使用も可能です。

(3) Save Address（セーブ範囲設定エリア）

Save Address: ~

保存するアドレス範囲を指定するエリアです。

指定はシンボルや式でも可能です（「表 7 - 10 シンボルでの指定方法」参照）。

数値入力時のデフォルト進数は 16 進です。

機能ボタン

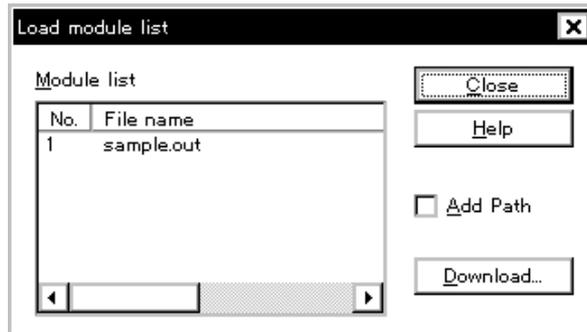
保存	設定にしたがいファイルに保存します。
キャンセル	ファイルに保存せずにダイアログをクローズします。
ヘルプ	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。
Restore	入力したデータを元に戻します。

ロード・モジュール一覧ダイアログ

ダウンロード済みのロード・モジュール・ファイル名、およびファイル・パスを確認することができます（「5.2 ダウンロード/アップロード機能」参照）。

また、<Download...> ボタンにより、[ダウンロード・ダイアログ](#)をオープンし、ロード・モジュールのダウンロードを行うことができます。

図7 - 15 ロード・モジュール一覧ダイアログ



- ・ [オープン方法](#)
- ・ [各エリア説明](#)
- ・ [機能ボタン](#)

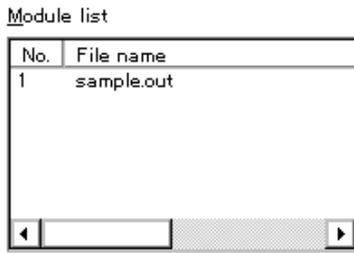
オープン方法

[ファイル]メニュー [ロードモジュール...]を選択

各エリア説明

- (1) Module list (ファイル名表示エリア)
- (2) Add Path (パス名付加チェック・ボックス)

(1) Module list (ファイル名表示エリア)



ダウンロード済みのロード・モジュール・ファイル名を表示するエリアです。

(a) No.

読み込みを行った順番を示します。

(b) File name

(2) Add Path (パス名付加チェック・ボックス) がチェックされているときはフル・パスで、チェックされていない場合にはファイル名のみを表示します。

注意 リセット確認ダイアログでシンボル情報をリセットした場合、また、ダウンロード・ダイアログでシンボル情報をリセットしてダウンロードしたときは、それ以前にダウンロードされていたロード・モジュール・ファイル名がクリアされます。

(2) Add Path (パス名付加チェック・ボックス)

Add Path

(1) Module list (ファイル名表示エリア) にロード・モジュール・ファイル名をパス付きで表示させる場合、チェックします。

機能ボタン

Close	このダイアログをクローズします。
Help	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。
Download...	ダウンロード・ダイアログをオープンします。 新たにロード・モジュールをダウンロードすることができます。新たにダウンロードしたファイル名は、ダウンロード・ダイアログをクローズした際、追加されます。

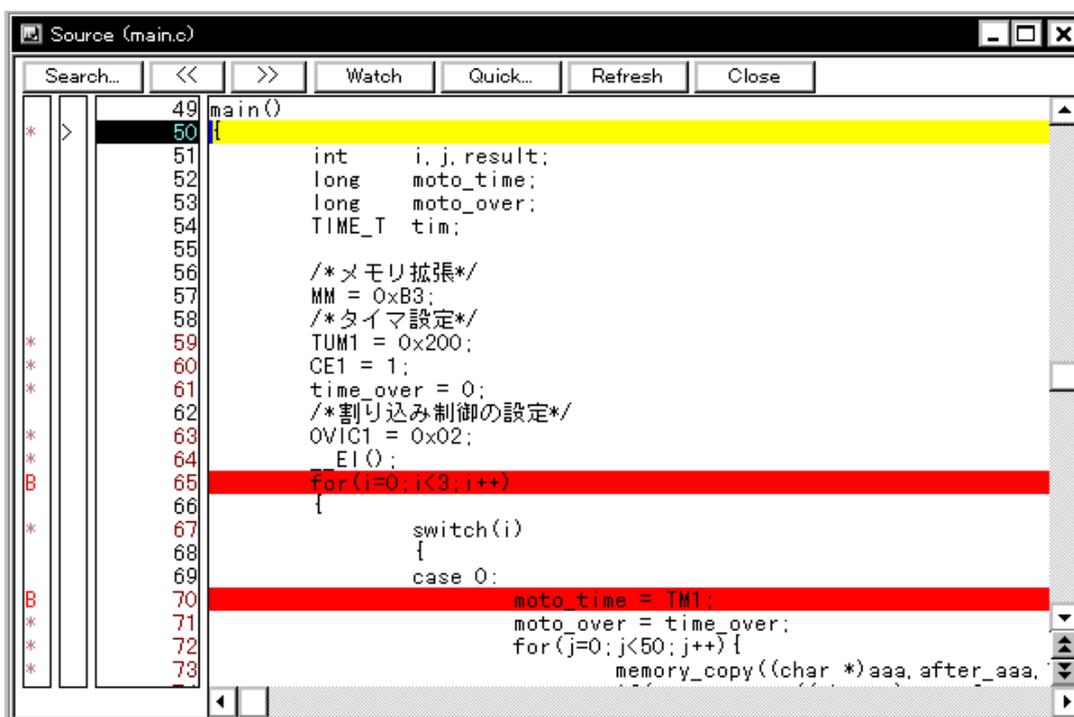
ソース・テキスト・ウィンドウ

ソース・ファイル、およびテキスト・ファイルの表示を行います(「5.3 ソース表示 逆アセンブル表示機能」参照)。このウィンドウでは、ブレーク・ポイントの設定、混合表示モード(ソース・テキスト・ウィンドウ)のほか、コンテキスト・メニュー、機能ボタン等によるさまざまな操作が可能です。

また、このウィンドウには、アクティブ状態とスタティック状態の2つの状態があり、アクティブ状態時には、トレース結果とウィンドウの連結機能を持ちます。また、ドラッグ & ドロップ機能により、ウィンドウ内の選択した項目を他ウィンドウで使用することができます(「5.18 ウィンドウ共通機能」参照)。

注意 インクルード・ファイル内にプログラム・コードを記述し、複数のファイルでインクルードした場合には、行番号とアドレスとの対応関係が1対1にならなくなります。このようなインクルード・ファイル内では、行番号とアドレスとの対応関係を使用する機能は正しく動作しません。

図7-16 ソース・テキスト・ウィンドウ



- オープン方法
- 各エリア説明
- [表示]メニュー(ソース・テキスト・ウィンドウ専用部)
- コンテキスト・メニュー
- 機能ボタン

オープン方法

 ボタンをクリック，または[ブラウズ]メニュー [ソース]を選択(ロード・モジュール・ファイルをダウンロード後，該当ソース・ファイルがある場合には自動的にオープン)

各エリア説明

- (1) ポイント・マーク・エリア
- (2) カレントPC マーク・エリア
- (3) 行番号 / アドレス表示エリア
- (4) ソース・テキスト表示エリア

(1) ポイント・マーク・エリア



プログラム・コード(*)とイベント設定状態，プログラム・コードの表示，およびブレーク・ポイントの設定を行うエリアです。

プログラム・コードは，ロード・モジュールがダウンロードされシンボル情報が読み込まれている場合にのみ表示されます。このプログラム・コード上をマウスでクリックすることにより，ブレーク・ポイントの設定 / 削除が可能です('*'が表示されていない行では '*' が表示されている上下どちらかの行に対して行われます (「5.4.2 ブレーク・ポイントの設定」参照))。

対応する行にイベントが設定されている場合，次表に示すマークが表示されます。'B'マークは，ブレーク・ポイントの種類や状態により表示色が異なります(このエリアでブレーク・ポイントを設定した場合，設定と同時に有効になります)。

表7 - 9 イベント設定状態

マーク	意味
B (赤)	有効なハードウェア・ブレーク (実行後) 設定
B (黒)	無効なハードウェア・ブレーク イベント・マネージャやブレーク・ダイアログで有効にすることができます。
E	イベント条件設定
L	イベント・リンクのイベント設定
T	トレース・イベント設定
Ti	タイマ・イベント設定

表7 - 9 イベント設定状態

マーク	意味
S	スナップショット・イベント設定
U	スタブ・イベント設定
A	複数のイベント設定

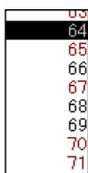
参考 イベントのアドレス条件が範囲アドレス指定の場合、範囲の下位アドレスが対象となります。
また、アドレス条件のマスク指定は反映されません。

(2) カレント PC マーク・エリア



現在のカレント PC 値 (PC レジスタ値) を示すマーク '>' を表示するエリアです。
このマークをクリックすることにより、PC レジスタ値がポップアップ・ウィンドウで表示されます。
また、このエリアをダブルクリックすることにより指定した行までプログラム実行します。

(3) 行番号 / アドレス表示エリア



ソース・ファイルやテキスト・ファイルの行番号を表示するエリアです。

赤色は対応するプログラム・コードが存在する行番号を、黒色は存在しない行番号を示します。なお、**混合表示モード (ソース・テキスト・ウィンドウ)** 時には、逆アセンブル表示のアドレスが灰色で表示されます。

(4) ソース・テキスト表示エリア

```
main()
{
    int    i, j, result;
    long   moto_time;
    long   moto_over;
    TIME_T tim;

    /*メモリ拡張*/
    MM = 0xB3;
    /*タイマ設定*/
    TUM1 = 0x200;
    CE1 = 1;
    time_over = 0;
    /*割り込み制御の設定*/
    OVIC1 = 0x02;
    _E1();
    for(i=0; i<3; i++)
```

ソース・ファイルやテキスト・ファイルを表示するエリアです。

黄色はカレント PC 行を、赤色は有効なブレーク・ポイント設定行を示します。なお、**混合表示モード (ソース・テキスト・ウィンドウ)** 時のソース行は通常色で表示されます。

また、このエリアでは、カーソルの置かれた行 (プログラム・コードの先頭アドレス) / アドレスを対象として、次の機能を備えています。

[カーソル位置から実行], [カーソル位置まで実行] 機能 (「表 5 - 4 実行の種類」参照)

ドラッグ & ドロップ機能

コンテキスト・メニュー

注意 これら機能においては、ソース行にプログラム・コードが存在しない場合は、プログラム・コードが存在する上下どちらかの行の先頭アドレスが対象となります。

なお、次の場合にはこれらの機能を実行することができません (対応するメニューは選択不可)。

- ・ソース・ファイル以外を表示している場合
- ・ユーザ・プログラムが実行中の場合

[表示]メニュー (ソース・テキスト・ウィンドウ専用部)

ソース・テキスト・ウィンドウのアクティブ時には、共通の [表示]メニューに以下の項目が追加されます。

ブレークイベント作成	選択している変数に対してブレーク・イベントを設定します。
この変数へのアクセス	Read / Write アクセスのブレーク・イベントを設定します。
この変数への書き込み	Write アクセスのブレーク・イベントを設定します。
この変数からの読み出し	Read アクセスのブレーク・イベントを設定します。
解除	選択している変数に対して設定されているブレーク・イベントを削除します。
イベント?	カーソル位置の行、または選択した変数名のイベント情報を表示します。イベントが設定されている場合、 イベント・ダイアログ がオープンします。
混合表示	アセンブル表示の混合表示 / 非表示を切り替えます。 チェックあり：混合表示 チェックなし：非表示 (デフォルト)

コンテキスト・メニュー

移動 ...	表示位置を移動します。 ソース指定ダイアログ をオープンします。
混合表示	混合表示モード (ソース・テキスト・ウィンドウ) に切り替えます。 チェックあり：混合表示 チェックなし：非表示 (デフォルト)
ウォッチ登録 ...	指定したデータを ウォッチ・ウィンドウ に追加します。 ウォッチ登録ダイアログ をオープンします。
シンボル変換 ...	指定した変数や関数のアドレス、またはシンボルの値を表示します。 シンボル変換ダイアログ をオープンします。
この変数へのアクセスでブレーク	Read / Write アクセスのブレーク・イベントを設定します。
この変数への書き込みでブレーク	Write アクセスのブレーク・イベントを設定します。
この変数からの読み出しでブレーク	Read アクセスのブレーク・イベントを設定します。

解除	設定されているブレーク・イベントを削除します。
イベント?	カーソル位置の行、または選択した変数のイベント情報を表示します。 イベントが設定されている場合、 イベント・ダイアログ がオープンします。
カーソル位置まで実行	カレント PC からカーソル位置までプログラムを実行します（「 表 5 - 3 ブレークの種類 」参照）
PC 値変更	カーソル位置のアドレスを PC に設定します。
ブレークポイント	カーソル位置のブレーク・ポイントを設定 / 削除します。
アセンブル	カーソル位置のデータ値をジャンプ先アドレスとして、そのアドレスから逆アセンブル表示します（「 5.18.2 ジャンプ機能 」参照）。 逆アセンブル・ウィンドウ をオープンします。 アクティブ状態の逆アセンブル・ウィンドウが表示されている場合は、そのウィンドウを最前面（操作対象）に表示します。
メモリ	カーソル位置のデータ値をジャンプ先アドレスとして、そのアドレスからメモリ内容を表示します（「 5.18.2 ジャンプ機能 」参照）。 メモリ・ウィンドウ をオープンします。 アクティブ状態のメモリ・ウィンドウが表示されている場合は、そのウィンドウを最前面（操作対象）に表示します。
カバレッジ	カーソル位置のデータ値をジャンプ先アドレスとして、そのアドレスからカバレッジ測定結果を表示します（「 5.18.2 ジャンプ機能 」参照）。 カバレッジ・ウィンドウ をオープンします。 アクティブ状態のカバレッジ・ウィンドウが表示されている場合は、そのウィンドウを最前面（操作対象）に表示します。

機能ボタン

Search...	ソース・サーチ・ダイアログ をオープンし、文字列を検索します。 テキストが選択されていた場合はそのテキストを検索対象として、選択されていない場合には空欄の状態オープンされます。 検索方法は、ソース・サーチ・ダイアログ上で指定します。検索結果は、ソース・テキスト・ウィンドウ上で反転表示されます。 [表示]メニュー [検索 ...] 選択時と同様の動作です。
<<	ソース・サーチ・ダイアログ で設定した検索条件に一致するテキスト、カーソル位置のアドレスから前方向（表示の上）に検索します。 検索中は <Stop> ボタンに変化します。
>>	ソース・サーチ・ダイアログ で設定した検索条件に一致する内容を、カーソル位置のアドレスから後ろ方向（表示の下）に検索します。 検索中は <Stop> ボタンに変化します。
Stop（検索中）	検索を中断します。
Watch	選択した変数などを ウォッチ・ウィンドウ に追加します。ウォッチ・ウィンドウがオープンしていない場合はオープンします。 テキストが選択されていない場合、ウィンドウのオープンのみを行います。 [表示]メニュー [ウォッチ追加] 選択時と同様の動作です。
Quick...	選択した変数などの内容を クイック・ウォッチ・ダイアログ で一時的に表示します。 テキストが選択されていない場合、ダイアログのオープンのみを行います。 [表示]メニュー [クイックウォッチ] 選択時と同様の動作です。
Refresh	ウィンドウの内容を最新のデータに更新します。
Close	このウィンドウをクローズします。

ソース・サーチ・ダイアログ

ソース・テキスト・ウィンドウ内のファイル内容を検索します（「5.3.1 ソース表示」参照）。

各項目を設定し、<Find Next> ボタンをクリックすることにより検索を開始します。

また、<Set Find> ボタンをクリックすることで、ソース・テキスト・ウィンドウ上の方向ボタン（<< , >>）での検索が可能になります。

図7 - 17 ソース・サーチ・ダイアログ



- ・ オープン方法
- ・ 各エリア説明
- ・ 機能ボタン

オープン方法

ソース・テキスト・ウィンドウをカレント・ウィンドウにし、[表示]メニュー [検索...] を選択、または同ウィンドウ上の <Search...> ボタンをクリック

各エリア説明

- (1) Find What (サーチ・データ指定エリア)
- (2) Match Case (サーチ条件指定エリア)
- (3) Direction (サーチ方向指定エリア)
- (4) File (サーチ・ファイル指定エリア)

(1) Find What (サーチ・データ指定エリア)

Find What:

サーチ・データを指定するエリアです。

デフォルトでは呼び出したウィンドウ内で選択した文字列が表示されますが、必要に応じて変更可能です。データは最大 256 文字まで指定することができます。入力履歴は最大 16 個まで残すことができます。

(2) Match Case (サーチ条件指定エリア)

Match Case

指定したサーチ・データの大文字、小文字を区別して検索する場合、チェックします。

(3) Direction (サーチ方向指定エリア)

Direction
 Up Down

検索方向を選択するエリアです。

(a) Up

現在カーソルのある位置より前（表示の上）方向に検索します（前方検索）。

(b) Down

現在カーソルのある位置より後ろ（表示の下）方向に検索します（後方検索）。

(4) File (サーチ・ファイル指定エリア)

File:

検索ファイルを指定するエリアです。

指定は、<Browse...> ボタンでの指定、または直接入力により行います。デフォルトでは呼び出したウィンドウ内を検索されます。

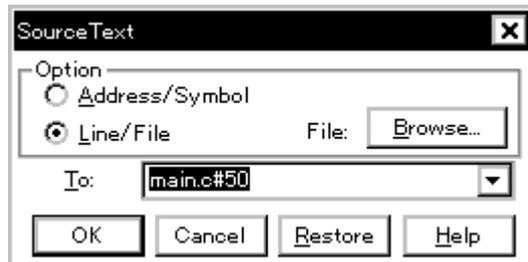
機能ボタン

Find Next	設定に従い検索します。 検索の結果、一致する文字列は反転表示されます。 連続して検索する場合には、再度このボタンをクリックします。
Set Find	指定された条件を検索条件として設定し、ダイアログをクローズします。
Stop (検索中)	検索を中断します。
Cancel	このダイアログをクローズします。 データ検索中は <Stop> ボタンに変化します。
Help	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

ソース指定ダイアログ

ソース・テキスト・ウィンドウに表示するファイルの指定、および表示開始位置を指定します（「5.3.1 ソース表示」参照）。

図7 - 18 ソース指定ダイアログ



- ・ オープン方法
- ・ 各エリア説明
- ・ 機能ボタン

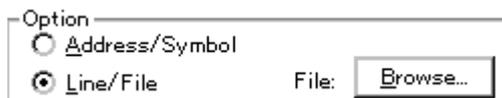
オープン方法

ソース・テキスト・ウィンドウをカレント・ウィンドウにし、[表示]メニュー [移動...]を選択

各エリア説明

- (1) Option (入力モード選択エリア)
- (2) To (ファイル/アドレス指定エリア)

(1) Option (入力モード選択エリア)



移動先を指定する際の入力モードを選択するエリアです。

(a) Address/Symbol

移動先をアドレス（またはシンボル）で指定する場合、選択します。

(b) Line/File

移動先を行番号（またはファイル名）で指定する場合、選択します。ファイル名の検索は <Browse...> ボタンで行います。

(2) To (ファイル/アドレス指定エリア)

To:

表示ファイル名や表示アドレスを指定するエリアです。

入力履歴は最大 16 個まで残すことができます。

(a) (a) Address/Symbol を選択した場合

表示を開始するアドレスを指定します。

数値入力時のデフォルト進数は 16 進です。シンボルでの指定方法も可能です。

<OK> ボタンをクリックすることにより、指定されたアドレス値に対応するソース行が見えるようにソース・テキストが表示されます。

(b) (b) Line/File を選択した場合

表示を開始する行番号（またはファイル名）を指定します。

行番号の指定は **[[パス名]ファイル名]#行番号**で行います。

数値入力時のデフォルト進数は 10 進数です。ファイル名は省略が可能です。

ファイル名の指定はファイル名のみ、または絶対パスおよび相対パスで行います。

ファイル名のみ、あるいは相対パスを指定した場合、**デバッガ・オプション設定ダイアログ**で指定したソース・パス内のファイルが検索されます。

<OK> ボタンをクリックすることにより、指定した行番号を先頭行に指定したファイルが表示されます。ファイル名の省略時には現在表示しているファイルが指定行から表示されます。また、行番号の省略時にはファイルの先頭行から表示されます。

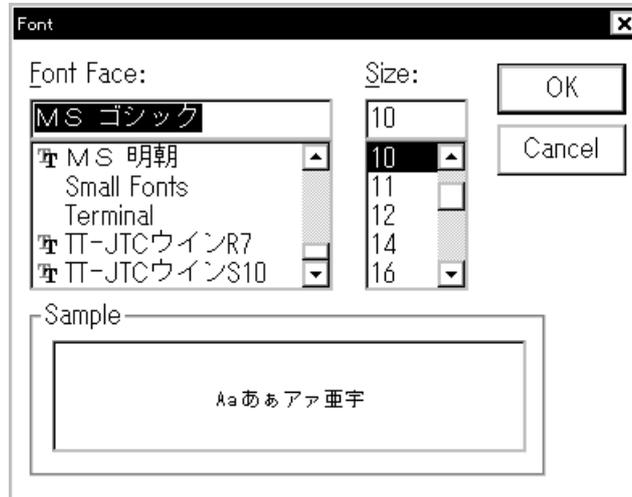
機能ボタン

OK	指定した位置からソース・テキスト表示を行います。
Cancel	このダイアログをクローズします。
Restore	入力したデータを元に戻します。
Help	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

フォント選択ダイアログ

ソース・テキスト・ウィンドウの表示フォント，およびフォント・サイズを選択します。

図7 - 19 フォント選択ダイアログ



- オープン方法
- 各エリア説明
- 機能ボタン

オープン方法

ディバッガ・オプション設定ダイアログ上の <Font...> ボタンをクリック

各エリア説明

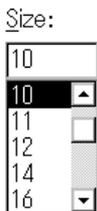
- (1) Font Face (フォント名指定エリア)
- (2) Size (フォント・サイズ指定エリア)
- (3) Sample (サンプル表示エリア)

(1) Font Face (フォント名指定エリア)

現在利用可能なフォントの中から指定するフォントを選択するエリアです。

ドロップダウン・リストには等幅なフォント（ストローク幅が一定のフォント，固定ピッチ・フォント）のみ表示されます。このエリアは直接入力可能です。

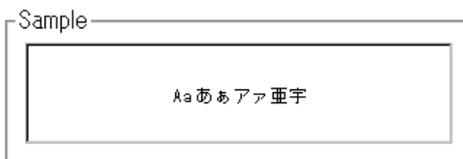
フォント名を選択することにより，選択フォントで利用可能なフォント・サイズが **(2) Size (フォント・サイズ指定エリア)** に表示されます。

(2) Size (フォント・サイズ指定エリア)

フォント・サイズを指定します（単位：pt）。

ドロップダウン・リストには，**(1) Font Face (フォント名指定エリア)** での選択フォントで利用可能なフォント・サイズが表示されます。

このエリアは直接入力可能です。

(3) Sample (サンプル表示エリア)

(1) Font Face (フォント名指定エリア) と **(2) Size (フォント・サイズ指定エリア)** で指定されたフォント名とフォント・サイズでサンプル文字列が表示されます。

機能ボタン

OK	指定に従いソース・テキスト・ウィンドウの表示を変更します。 このダイアログをクローズします。
Cancel	フォントを変更せずにダイアログをクローズします。

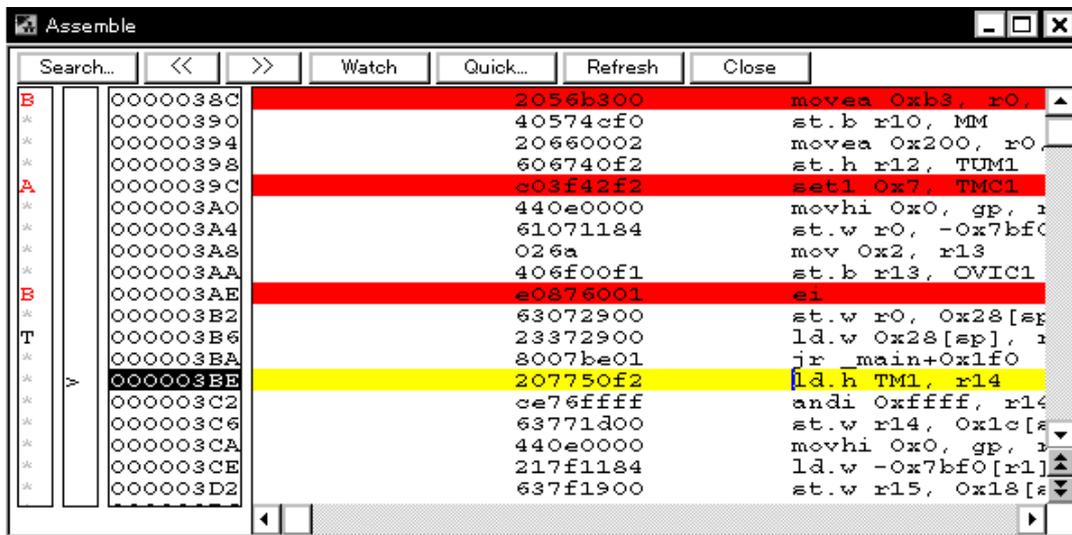
逆アセンブル・ウィンドウ

プログラムの逆アセンブル表示を行います。また、[オンライン・アセンブル](#)を行います（「[5.3 ソース表示](#)、[逆アセンブル表示機能](#)」参照）。オンライン・アセンブルの結果はメモリ・ウィンドウにも反映されます。

このウィンドウでは、[ブレーク・ポイントの設定](#)のほか、[コンテキスト・メニュー](#)、[機能ボタン](#)等によるさまざまな操作が可能です。

このウィンドウには、[アクティブ状態](#)と[スタティック状態](#)の2つの状態があり、アクティブ状態時には、[トレース結果とウィンドウの連結機能](#)を持ちます。また、[ドラッグ & ドロップ機能](#)により、ウィンドウ内の選択した項目を他ウィンドウで使用することができます（「[5.18 ウィンドウ共通機能](#)」参照）。

図7 - 20 逆アセンブル・ウィンドウ



- オープン方法
- 各エリア説明
- [表示]メニュー（逆アセンブル・ウィンドウ専用部分）
- コンテキスト・メニュー
- 機能ボタン
- 関連操作

オープン方法

 ボタンをクリック、または[ブラウズ]メニュー [アセンブル]を選択

各エリア説明

- (1) ポイント・マーク・エリア
- (2) カレント PC マーク・エリア
- (3) アドレス指定エリア
- (4) 逆アセンブル表示エリア

(1) ポイント・マーク・エリア



イベント設定状態の表示，およびブレーク・ポイントの設定を行うエリアです。

(2) カレント PC マーク・エリア



現在のカレント PC 値 (PC レジスタ値) を示すマーク '>' を表示するエリアです。

このエリアをダブルクリックすることにより指定した行までユーザ・プログラムを実行します。

(3) アドレス指定エリア



逆アセンブル開始アドレスを表示するエリアです。

(4) 逆アセンブル表示エリア

026a	mov 0x2, r13
406f00f1	st.b r13, OVIC1
a0876001	ai
63072900	st.w r0, 0x28[sp]
23372900	ld.w 0x28[sp], r0
8007be01	jr _main+0x1f0
207750f2	ld.h TML, r14
ce76ffff	andi 0xffff, r14
63771d00	st.w r14, 0x1c[sp]
440e0000	movhi 0x0, gp, 2
217f1184	ld.w -0x7bf0[r1], r0
637f1900	st.w r15, 0x18[sp]

アドレスのラベル，コード・データ，および逆アセンブルされたニモニクを表示するエリアです。

黄色はカレント PC 行を，赤色は有効なブレーク・ポイント設定行を示します。

ニモニク欄はオンライン・アセンブル可能です。

また，このエリアでは次の機能を備えています。

[カーソル位置から実行]，[カーソル位置まで実行] 機能 (「表 5 - 4 実行の種類」参照)

ドラッグ & ドロップ機能

コンテキスト・メニュー

[表示]メニュー（逆アセンブル・ウィンドウ専用部分）

逆アセンブル・ウィンドウのアクティブ時には、共通の[表示]メニューに以下の項目が追加されます。

イベント？	カーソル位置のアドレスのイベント情報を表示します。 イベントが設定されている場合、 イベント・ダイアログ がオープンします。
-------	---

コンテキスト・メニュー

ウィンドウ上で、マウスの右ボタンをクリックした際に表示されるメニューです。

各メニュー項目は、クリックしたマウス・ポインタの位置ではなく、選択されている行、または項目に対して機能します（同名のメイン・メニューを選択した際と同じ動作）。

移動 ...	表示位置を移動します。 アドレス指定ダイアログ をオープンします。
ウォッチ登録 ...	指定したデータをウォッチ・ウィンドウに追加します。 ウォッチ登録ダイアログ をオープンします。
シンボル変換 ...	指定した変数や関数のアドレス、指定したシンボルの値を表示します。 シンボル変換ダイアログ をオープンします。
カーソル位置まで実行	カレント PC からカーソル位置までプログラムを実行します。
PC 値変更	カーソル位置のアドレスを PC に設定します。
ブレークポイント	カーソル位置のブレーク・ポイントを設定 / 削除します。
ソース	カーソル位置のデータ値をジャンプ先アドレスとして、該当するソース・テキストおよびソース行を表示します（「 5.18.2 ジャンプ機能 」参照）。 ただし、ジャンプ先アドレスに行情報がない場合には、ジャンプすることはできません。 ソース・テキスト・ウィンドウ をオープンします。 アクティブ状態のソース・テキスト・ウィンドウが表示されている場合は、そのウィンドウを最前面（操作対象）に表示します。
メモリ	カーソル位置のデータ値をジャンプ先アドレスとして、そのアドレスからメモリ内容を表示します（「 5.18.2 ジャンプ機能 」参照）。 メモリ・ウィンドウ をオープンします。 アクティブ状態のメモリ・ウィンドウが表示されている場合は、そのウィンドウを最前面（操作対象）に表示します。
カバレッジ	カーソル位置のデータ値をジャンプ先アドレスとして、そのアドレスからカバレッジ測定結果を表示します（「 5.18.2 ジャンプ機能 」参照）。 カバレッジ・ウィンドウ をオープンします。 アクティブ状態のカバレッジ・ウィンドウが表示されている場合は、そのウィンドウを最前面（操作対象）に表示します。

機能ボタン

Search...	逆アセンブル・サーチ・ダイアログをオープンし、二モニックの文字列を検索します。 検索方法は、逆アセンブル・サーチ・ダイアログで指定します。検索結果は、逆アセンブル・ウィンドウ上で反転表示されます。 [表示]メニュー [検索...] 選択時と同様の動作です。
<<	逆アセンブル・サーチ・ダイアログで設定した検索条件に一致する内容を、カーソル位置のアドレスから前方向（表示の上）に検索します。 検索中は <Stop> ボタンに変化します。
>>	逆アセンブル・サーチ・ダイアログで設定した検索条件に一致する内容を、カーソル位置のアドレスから後ろ方向（表示の下）に検索します。 検索中は <Stop> ボタンに変化します。
Stop（検索中）	検索を中断します。
Watch	逆アセンブル表示エリアで選択したシンボルなどをウォッチ・ウィンドウに追加します。ウォッチ・ウィンドウがオープンしていない場合はオープンします。 逆アセンブル表示エリアでテキストが選択されていない場合、ウォッチ・ウィンドウのオープンのみ行います。 [表示]メニュー [ウォッチ追加] 選択時と同様の動作です。
Quick...	逆アセンブル・テキスト表示エリアで選択したシンボルなどの内容をクイック・ウォッチ・ダイアログで一時的に表示します。逆アセンブル・テキスト表示エリアでテキストが選択されていない場合、クイック・ウォッチ・ダイアログのオープンのみ行います。 [表示]メニュー [クイックウォッチ] 選択時と同様の動作です。
Refresh	ウィンドウの内容を最新のデータに更新します。
Close	このウィンドウをクローズします。

関連操作

(1) オンライン・アセンブル

オンライン・アセンブルは、カーソルを二モニック欄へ移動し直接入力することにより行います（編集時の上書きモードと挿入モードは Insert キーで切り替え可能）。

二モニック欄で変更を行いカーソルを別の行に移動させる際、変更内容がチェックされます。変更内容が不正である場合は、変更を行った行のコード・データが '*' になります。

二モニック欄で変更した内容は Enter キーでメモリに書き込まれます。Enter キーを押した場合も変更内容がチェックされます。1 行でも不正な行があると、変更内容はメモリに書き込まれません。変更内容の破棄は ESC キーで行います。

変更内容に不正がなかった場合は、Enter キーを押すことにより変更内容がメモリに書き込まれ、次の行へカーソルが移動します。

注意 変更した結果、変更前の命令のバイト数に対して、変更後の命令のバイト数が少ない場合は、残されたバイトが nop 命令に置き替わります。また、変更した結果、変更前の命令のバイト数に対して、変更後の命令のバイト数が多い場合は、次の命令を上書きします。この場合も残されたバイトは nop 命令に置き替わります。ソース行をまたがる場合でも同様に上書きされます。

逆アセンブル・サーチ・ダイアログ

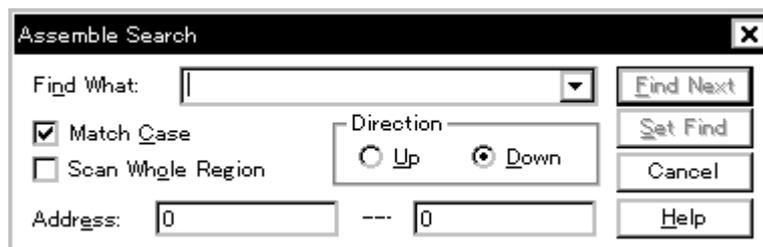
逆アセンブル・ウィンドウの内容を検索します(「5.3.2 逆アセンブル表示」参照)。

入力文字列と逆アセンブラ文字列に含まれる連続した空白文字は、1つの空白文字として比較します。

各項目を設定し、<Find Next> ボタンをクリックすることにより検索を開始します。

また、<Set Find> ボタンをクリックすることで、逆アセンブル・ウィンドウ上の方向ボタン(<<, >>)での検索が可能になります。

図7 - 21 逆アセンブル・サーチ・ダイアログ



- [オープン方法](#)
- [各エリア説明](#)
- [機能ボタン](#)

オープン方法

逆アセンブル・ウィンドウをカレント・ウィンドウにし、[表示]メニュー [検索...]を選択、または同ウィンドウ上の<Search...> ボタンをクリック

各エリア説明

- (1) Find What (サーチ・データ指定エリア)
- (2) Match Case (サーチ条件指定エリア)
- (3) Scan Whole Region (サーチ条件指定エリア)
- (4) Direction (サーチ方向指定エリア)
- (5) Address (サーチ範囲指定エリア)

(1) Find What (サーチ・データ指定エリア)Find What:

サーチ・データを指定するエリアです (最大 256 文字)。

デフォルトでは、呼び出したウィンドウ内で選択した文字列が表示されますが、必要に応じて変更可能です。入力履歴は最大 16 個まで残すことができます。

(2) Match Case (サーチ条件指定エリア) Match Case

指定したサーチ・データの大文字、小文字を区別する場合チェックします。

(3) Scan Whole Region (サーチ条件指定エリア) Scan Whole Region

指定した範囲全体を検索する場合チェックします。

(4) Direction (サーチ方向指定エリア)
 Direction
 Up Down

検索方向を選択するエリアです。

(a) Up

現在カーソルのある位置より前 (表示の上) 方向に検索します (前方検索)。

(b) Down

現在カーソルのある位置より後ろ (表示の下) 方向に検索します (後方検索)。

(5) Address (サーチ範囲指定エリア)Address: ---

検索するアドレスを指定するエリアです。

数値入力時のデフォルト進数は 16 進です。 [シンボルでの指定方法](#)も可能です。

機能ボタン

Find Next	指定に従い検索します。 検索の結果、一致する文字列を反転表示されます。 連続して検索する場合には、再度このボタンを押します。
Set Find	指定された条件を検索条件として設定し、ダイアログをクローズします。
Stop (検索中)	検索を中断します。
Cancel	このダイアログをクローズします。 データ検索中は <Stop> ボタンに変化します。
Help	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

アドレス指定ダイアログ

メモリ・ウィンドウ、逆アセンブル・ウィンドウ、カバレッジ・ウィンドウ、または周辺 I/O レジスタ・ウィンドウの表示開始アドレスを指定します。

図7 - 22 アドレス指定ダイアログ (例:メモリ・ウィンドウ)



- ・ オープン方法
- ・ 各エリア説明
- ・ 機能ボタン

オープン方法

対象ウィンドウをカレント・ウィンドウにし、[表示]メニュー [移動...]を選択

各エリア説明

(1) To (アドレス指定エリア)

To:

アドレスを指定するエリアです。

デフォルトでは呼び出したウィンドウ内で選択した文字列、またはカレント PC 値等が表示されますが、必要に応じて変更可能です。数値入力時のデフォルト進数は 16 進です。[シンボルでの指定方法](#)も可能です。

入力履歴は最大 16 個まで残すことができます。

機能ボタン

OK	指定したアドレスからメモリ表示、逆アセンブル表示、カバレッジ表示、および I/O レジスタ表示を行います。
Cancel	このダイアログをクローズします。
Restore	入力したデータを元に戻します。
Help	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

シンボル変換ダイアログ

指定した変数や関数のアドレス、シンボルの値を表示します(「5.3 ソース表示、逆アセンブル表示機能」参照)。

図 7 - 23 シンボル変換ダイアログ



- オープン方法
- 各エリア説明
- 機能ボタン

オープン方法

[表示]メニュー [シンボル変換...]を選択

各エリア説明

- (1) Symbol (シンボル指定エリア)
- (2) 変換結果表示エリア
- (3) Radix (表示進数指定エリア)

(1) Symbol (シンボル指定エリア)

Symbol:

変換する変数、関数名、シンボル名、または行番号などを指定するエリアです。

数値入力時のデフォルト進数は10進です。入力履歴は最大16個まで残すことができます。

このエリアを指定し <OK> ボタンをクリックすることにより、変換結果が (2) 変換結果表示エリアに表示されます。

このほかに、I/Oポート名、周辺I/Oレジスタ名、レジスタ名、PSWフラグ名、または式を指定することもできます。指定方法を次に示します。

表7 - 10 シンボルでの指定方法

変換の対象	指定方法
変数	var file#var (ファイル名を付けてスタティック変数を指定する場合) func#var (関数名を付けてスタティック変数を指定する場合) file#func#var (ファイル名, 関数名を付けてスタティック変数を指定する場合)
関数	func file#func (ファイル名を付けてスタティック関数を指定する場合)
ラベル	label file#label (ファイル名を付けてローカル・ラベルを指定する場合)
ソース・ファイルの行番号	prog\$file#no file#no
I/O Port	portname
I/O Register	I/O regname
Register	regname
PSW Flag	pswname

備考 1 var : 変数名, func : 関数, file : ファイル名, label : ラベル名, portname : I/O ポート名, I/O regname : 周辺 I/O レジスタ名, regname : レジスタ, pswname : PSW フラグ名, no : ソース・ファイルの行番号

備考 2 セパレータ '#'

ファイル名と変数, 関数名, 行番号とのセパレータとして使用します。

指定されたシンボルがスコープ内に見つからなかった場合, すべてのシンボル (スタティック変数, スタティック関数, ローカル・ラベル) を検索します。

備考 3 セパレータ '\$'

複数のロード・モジュールを読み込んでいる場合に, ロード・モジュール名とファイル名, 変数, 関数名, シンボル名とのセパレータとして使用します。

デフォルトではシンボル名優先になっています。なお, 一時的に優先順位を変えたい場合, シンボルの先頭に '\$' を付加することによりレジスタ名優先になります。

(2) 変換結果表示エリア



(1) Symbol (シンボル指定エリア) で指定した変数, 関数のアドレス, シンボルの値, 行番号のアドレス, 式の値などを表示するエリアです。なお, I/O ポート名, 周辺 I/O レジスタ名を指定した場合にはアドレス値を, レジスタ名はレジスタ内容を, PSW フラグ名はフラグ値がそれぞれ表示されます。

(3) Radix (表示進数指定エリア)Radix: Hex Dec Oct Bin

(2) 変換結果表示エリアの表示進数を選択するエリアです。

Hex	16 進数 (デフォルト)
Dec	10 進数
Oct	8 進数
Bin	2 進数

機能ボタン

OK	シンボル指定エリアの内容を変更したときは、そのシンボルを変換します。 変換後、(1) Symbol (シンボル指定エリア) が未変更のときは、ダイアログをクローズします。
Cancel	このダイアログをクローズします。
Restore	入力したデータを元に戻します。 すでに <OK> ボタンを押している場合には、<OK> ボタンを押した直後の状態にデータを戻します。
Help	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

ウォッチ・ウィンドウ

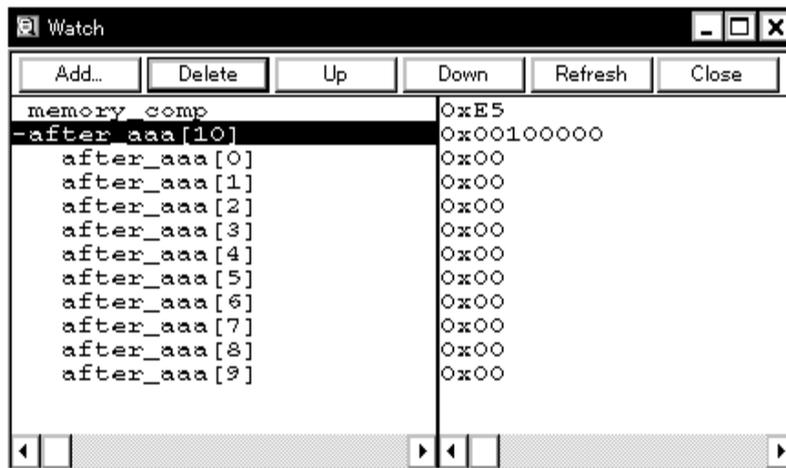
指定されたデータの表示、および変更を行うウィンドウです（「5.6 ウォッチ機能」参照）。

ウォッチ・データの登録は、ソース・テキスト・ウィンドウ、または逆アセンブル・ウィンドウ上の <Watch...> ボタンにより行います（「5.6.3 ウォッチ・データの登録、削除」参照）。

このウィンドウでは、コンテキスト・メニューにより変数へのブレーク・ポイント設定が容易に行えます。

注意 同名のローカル変数とグローバル変数が存在する場合には、ローカル変数が優先されます。

図7 - 24 ウォッチ・ウィンドウ



- オープン方法
- 各エリア説明
- [表示]メニュー（ウォッチ・ウィンドウ専用部分）
- コンテキスト・メニュー
- 機能ボタン

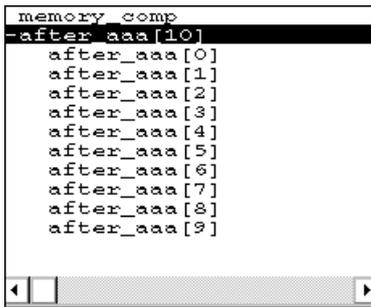
オープン方法

 ボタンをクリック，または[ブラウザ]メニュー [ウォッチ]を選択

各エリア説明

- (1) 左欄（シンボル名表示エリア）
- (2) 右欄（データ値表示 / 設定エリア）

(1) 左欄 (シンボル名表示エリア)



変数名，シンボル名，およびその型や構造体 / 共用体のタグ名を表示，変更するエリアです。

登録済み表示データの変更は，変更項目を選択し，**コンテキスト・メニュー** [ウォッチ変更...]を選択することにより行います。この際，配列の要素や，構造体 / 共用体のメンバなど，開かれた階層の行は変更できません。表示内容は，先頭に不可された文字により，次の意味を持ちます。

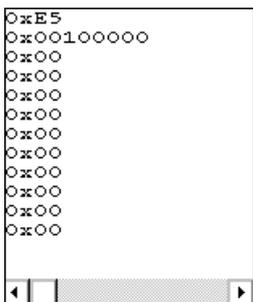
表 7 - 11 ウォッチ・ウィンドウ表示形式 (シンボル)

先頭文字	意味	
+	配列，ポインタ型変数，および構造体 / 共用体を示す。 ダブルクリックにより下記のように展開表示 (先頭文字が '+' '-') されます。	
	配列	変数の全要素が配列変数の型にしたがって表示
	ポインタ型変数	ポインタで示されるデータが表示
	構造体 / 共用体	構造体 / 共用体の全メンバがメンバ変数の型にしたがって表示 ただし，構造体 / 共用体内に構造体 / 共用体が定義されている場合， 内部の構造体 / 共用体の構造体 / 共用体名までが表示される。 内部の構造体 / 共用体も，同様に '+' 表示の展開が可能。
	展開表示された変数を示す。 ダブルクリックにより，展開表示が解除 (先頭文字が '-' '+') されます。	

備考 配列の要素数が，展開する時間が一定時間を超える程多い場合には，展開時に警告が表示されます。

ウォッチ・ウィンドウから変数，またはシンボルにアクセス系のブレーク・ポイントを設定した場合，このエリアは，金色で強調表示されます。

(2) 右欄 (データ値表示 / 設定エリア)



データ値の表示と変更を行うエリアです。値は，実行の停止とともに更新されます。

表示形式は次の通りです。

表7 - 12 ウォッチ・ウィンドウ表示形式(データ)

表示データ	内容
整数	16 進数 (0xxxxx) 10 進数 (xxxx) 8 進数 (0xxxx) 2 進数 (0bxxxx) 参考: コンテキスト・メニューにより, 変数ごとの変更が可能
列挙型	メンバ名
スコープ指定されているデータ	指定されたスコープにしたがって表示
浮動小数点型	単精度 / 倍精度に対応 入力 / 表示形式ともに次の通り [+ -] inf [+ -] nan [+ -] 整数部 e [+ -] 指数部 [+ -] 整数部 . 小数部 [e [+ -] 指数部
'?'	スコープの変化や最適化コンパイルなどにより無効になったデータ

[ファイル]メニュー [名前を付けて保存...]により保存可能です。なお、データ値の取得に失敗した場合は、空欄になります。

値の変更は直接入力により行います。変更箇所は赤色で表示されEnterキーを押すことにより、ターゲット・メモリに書き込まれます。書き込み前の内容はESCキーにより破棄できます。

[表示]メニュー(ウォッチ・ウィンドウ専用部分)

ウォッチ・ウィンドウのアクティブ時には、共通の[表示]メニューに以下の項目が追加されます。作用対象は、選択している項目のみです。

ブレイクイベント作成	選択している項目に対してブレイク・イベントを設定します。
この変数へのアクセス	Read / Write アクセスのブレイク・イベントを設定します。
この変数への書き込み	Write アクセスのブレイク・イベントを設定します。
この変数からの読み出し	Read アクセスのブレイク・イベントを設定します。
解除	選択項目に対して設定されているブレイク・イベントを削除します。
イベント?	選択した変数名のイベント情報を表示します。イベントが設定されている場合、イベント・ダイアログをオープンします。
2 進	2 進数表示
8 進	8 進数表示
10 進	10 進数表示
16 進	16 進数表示
文字列	文字列表示

自動	変数ごとの既定値で表示 (デフォルト) シンボルの場合は、 ディバッガ・オプション設定ダイアログ の設定にしたがって表示
バイト	8 ビット単位で表示
ハーフワード	16 ビット単位で表示
ワード	32 ビット単位で表示
適合	変数ごとの既定値で表示 (デフォルト) C 言語のシンボルの場合は、この項目のみ有効となります。
アップ	1 行上に移動
ダウン	1 行下に移動
強制読み込み	読み込むと値が変化するために読み込み禁止にしている周辺 I/O レジスタ、または I/O ポート追加ダイアログ で追加した I/O ポート、I/O プロテクト領域のデータを強制的に読み込みます。

コンテキスト・メニュー

ウィンドウ上で、マウスの右ボタンをクリックした際に表示されるメニューです。

各メニュー項目は、クリックしたマウス・ポインタの位置ではなく、選択されている行、または項目に対して機能します (同名のメイン・メニューを選択した際と同じ動作)。

この変数へのアクセスでブレーク	選択している変数に対する Read/Write アクセスのブレーク・イベントを設定します。
この変数への書き込みでブレーク	選択している変数に対する Write アクセスのブレーク・イベントを設定します。
この変数からの読み出しでブレーク	選択している変数に対する Read アクセスのブレーク・イベントを設定します。
解除	選択している変数に対して設定されているブレーク・イベントを削除します。
イベント?	カーソル位置の行、または選択した変数名のイベント情報を表示します。 イベントが設定されている場合、 イベント・ダイアログ がオープンします。
ウォッチ変更 ...	選択したデータの変更を行います。 ウォッチ変更ダイアログ をオープンします。
ウォッチ削除	選択したウォッチ・データをウィンドウから削除します。
2 進	選択行を 2 進数表示
8 進	選択行を 8 進数表示
10 進	選択行を 10 進数表示
16 進	選択行を 16 進数表示
文字列	選択行を文字列表示
自動	選択行を変数ごとの既定値で表示 シンボルの場合は、 ディバッガ・オプション設定ダイアログ の設定にしたがって表示 (デフォルト)
バイト	選択行を 8 ビット単位で表示

ハーフワード	選択行を 16 ビット単位で表示
ワード	選択行を 32 ビット単位で表示
適合	選択行を変数ごとの既定値で表示 C 言語のシンボルの場合は、この項目のみ有効となります。 アセンブラのシンボルの場合は、 デバッガ・オプション設定ダイアログ の設定にしたがって表示（デフォルト）
アップ	選択行を 1 行上に移動
ダウン	選択行を 1 行下に移動

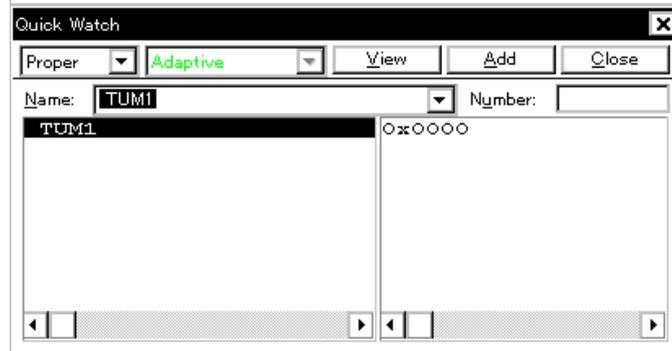
機能ボタン

Add	ウォッチ登録ダイアログ をオープンします。 ウォッチ登録ダイアログ 上でデータを指定し、<Add> ボタンをクリックした場合には、指定したデータがウォッチ・ウィンドウに追加されます。
Delete	選択したウォッチ・データをウィンドウから削除します。
Up	選択行を 1 行上に移動します。
Down	選択行を 1 行下に移動します。
Refresh	ウィンドウの内容を最新のデータに更新します。
Close	このウィンドウをクローズします。

クイック・ウォッチ・ダイアログ

指定されたデータの一時的な表示，および変更を行います（「5.6 ウォッチ機能」参照）。

図7 - 25 クイック・ウォッチ・ダイアログ



- オープン方法
- 各エリア説明
- 機能ボタン

オープン方法

ソース・テキスト・ウィンドウ / 逆アセンブル・ウィンドウをカレント・ウィンドウにし，[表示]メニュー [クイックウォッチ ...] を選択，または同ウィンドウ上の <Quick...> ボタンをクリック

各エリア説明

- (1) Name (シンボル指定エリア)
- (2) シンボル名表示エリア
- (3) データ値表示 / 設定エリア
- (4) 表示進数選択エリア (左の一番上の欄)
- (5) 表示サイズ選択エリア (左上から2番目の欄)
- (6) Number (表示個数指定エリア)

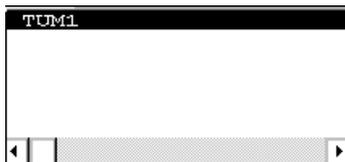
(1) Name (シンボル指定エリア)

Name:

表示データを指定します。

デフォルトでは、呼び出したウィンドウ内での選択文字列が表示されますが、必要に応じて変更可能です。入力履歴は最大 16 個まで残すことができます。

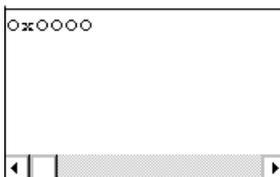
このエリアの内容を変更し、<View>ボタンをクリックすることにより指定されたデータが下欄に表示されます。

(2) シンボル名表示エリア

変数名やシンボル名を表示するエリアです。

表示内容はウォッチ・ウィンドウと同様です。

なお、このエリアを直接編集することはできません。

(3) データ値表示 / 設定エリア

データ値を表示、および変更するエリアです。

表示内容や変更方法はウォッチ・ウィンドウと同じです。

(4) 表示進数選択エリア (左の一番上の欄)

表示進数を選択します。

Proper	変数の場合：変数ごとの規定値で表示 シンボルの場合： デバッガ・オプション設定ダイアログ で設定された進数で表示
Hex	16 進で表示 (0xxxx)
Dec	10 進で表示 (xxxx)
Oct	8 進で表示 (0xxxx)
Bin	2 進で表示 (0bxxxx)
String	文字列で表示

(5) 表示サイズ選択エリア (左上から 2 番目の欄)



表示サイズを選択します。

C の変数やレジスタなど表示するサイズが固定である場合は選択不可です。

Adaptive	変数の場合：変数ごとの規定値で表示 シンボルの場合： デバッグ・オプション設定ダイアログ で設定されたサイズで表示
Byte	8 ビットで表示
Half Word	16 ビットで表示
Word	32 ビットで表示

(6) Number (表示個数指定エリア)

Number:

表示するデータの個数を指定します (空欄, または 1 - 256)。

空欄を指定した場合は単変数として, 1 以上を指定した場合は配列変数として [ウォッチ・ウィンドウ](#) に表示されます。

配列変数として表示された場合, データの先頭に '+' が表示され, [ダブルクリック](#) することによりデータの全要素がデータの型に従って展開表示されます (データの先頭文字は '-' 表示に切り替わります)。

C の変数やレジスタなど, 表示する個数が固定である場合は指定が無効になります。

機能ボタン

View	(1) Name (シンボル指定エリア) で指定したデータを下欄に表示します。
Add	(1) Name (シンボル指定エリア) で指定したデータを ウォッチ・ウィンドウ に登録します。
Close	このダイアログをクローズします。 ターゲット・メモリに書き込まれていない変更内容は破棄されます。

ウォッチ登録ダイアログ

ウォッチ・ウィンドウに表示するデータの登録を行います（「5.6 ウォッチ機能」参照）。
同名のシンボル名のデータを複数登録することができます。

図7 - 26 ウォッチ登録ダイアログ



- [オープン方法](#)
- [各エリア説明](#)
- [機能ボタン](#)

オープン方法

[表示]メニュー [ウォッチ登録...]を選択, またはウォッチ・ウィンドウ上の <Add> ボタンをクリック

各エリア説明

- (1) Name (シンボル指定エリア)
- (2) Radix (表示進数選択エリア)
- (3) Size (表示サイズ指定エリア)
- (4) Number (表示個数指定エリア)

(1) Name (シンボル指定エリア)

Name:

ウォッチ・ウィンドウに登録する表示データを指定します。

デフォルトでは、呼び出したウィンドウ内での選択文字列が表示されますが、必要に応じて変更可能です。
入力履歴は最大 16 個まで残すことができます。

入力形式は次の通りです。

• C 言語の変数名

変数式 : 変数名	
変数式 [定数値 変数名]	配列の要素
変数式 . メンバ名	構造体 / 共用体の実体のメンバ
変数式 -> メンバ名	ポインタの指す構造体 / 共用体のメンバ
* 変数式	ポインタ変数の値
& 変数式	変数が配置されたアドレス

- レジスタ名
- IOR 名, IOR ビット名
- ラベル, および即値のアドレス
- レジスタ名 . ビット
- ラベル名 . ビット, 即値のアドレス . ビット
- スコープの指定

スコープ指定した場合の扱いについては次の通りです。

表 7 - 13 スコープで指定した場合の変数の扱い

スコープ指定	プログラム名	ファイル名	関数名	変数名
prog\$file#func#var	prog	file	func	var
prog\$file#var	prog	file	グローバル	var
prog\$func#var	prog	グローバル	func	var
prog\$var	prog	グローバル	グローバル	var
file#func#var	カレント	file	func	var
file#var	カレント	file	グローバル	var
func#var	カレント	カレント	func	var
var	カレント	カレント	カレント	var

(2) Radix (表示進数選択エリア)

Radix: Proper Hex Dec Oct Bin String

表示進数を選択します。

Proper	変数の場合 : 変数ごとの規定値で表示 シンボルの場合 : デバッガ・オプション設定ダイアログ で設定された進数で表示
Hex	16 進で表示 (0x xxxx)
Dec	10 進で表示 (xxxx)
Oct	8 進で表示 (0 xxxx)

Bin	2進で表示 (0bxxxx)
String	文字列で表示

(3) Size (表示サイズ指定エリア)

Size: Adaptive Byte Half Word Word

表示サイズを選択します。

C の変数やレジスタなど表示するサイズが固定である場合は選択不可です。

Adaptive	変数の場合：変数ごとの規定値で表示 シンボルの場合： ディバッガ・オプション設定ダイアログ で設定されたサイズで表示
Byte	8 ビットで表示
Half Word	16 ビットで表示
Word	32 ビットで表示

(4) Number (表示個数指定エリア)

Number:

表示するデータの個数を指定します (空欄, または 1 - 256)。

空欄を指定した場合は単変数として, 1 以上を指定した場合は配列変数として[ウォッチ・ウィンドウ](#)に表示されます。ただし, [ウォッチ・ウィンドウ](#)に表示できるのは最大 10000 行までです。

配列変数として表示された場合, データの先頭に '+' が表示され, [ダブルクリック](#)することによりデータの全要素がデータの型に従って展開表示されます (データの先頭文字は '-' 表示に切り替わります)。

C の変数やレジスタなど, 表示する個数が固定である場合は指定が無効になります。

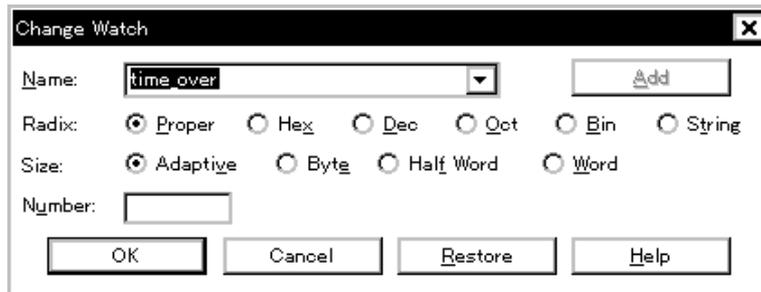
機能ボタン

Add	指定したデータを ウォッチ・ウィンドウ に追加します。 このダイアログはオープンしたままです。
OK	指定したデータを ウォッチ・ウィンドウ に追加します。 このダイアログをクローズします。
Cancel	このダイアログをクローズします。
Restore	入力したデータを元に戻します。
Help	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

ウォッチ変更ダイアログ

ウォッチ・ウィンドウで選択されている行のデータ変更を行います（「5.6 ウォッチ機能」参照）。配列の要素や、構造体、共用体のメンバなど開かれた階層の行を変更することはできません。表示データの変更により、選択されている行の内容が変更後のデータで置き換えられます。シンボル名を変更した結果、すでに同名のシンボル名のデータが存在しても変更を許可します。

図7 - 27 ウォッチ変更ダイアログ



- ・ オープン方法
- ・ 各エリア説明
- ・ 機能ボタン

オープン方法

ウォッチ・ウィンドウをカレント・ウィンドウにし、[表示]メニュー [ウォッチ変更 ...] を選択

各エリア説明

各エリアの説明は、ウォッチ登録ダイアログの各エリアと同様です。

- (1) Name (シンボル指定エリア)
- (2) Radix (表示進数選択エリア)
- (3) Size (表示サイズ指定エリア)
- (4) Number (表示個数指定エリア)

機能ボタン

Add	選択不可
OK	現在選択されている登録内容を、指定されたデータに置き換えます。 このダイアログをクローズします。
Cancel	このダイアログをクローズします。
Restore	入力したデータを元に戻します。
Help	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

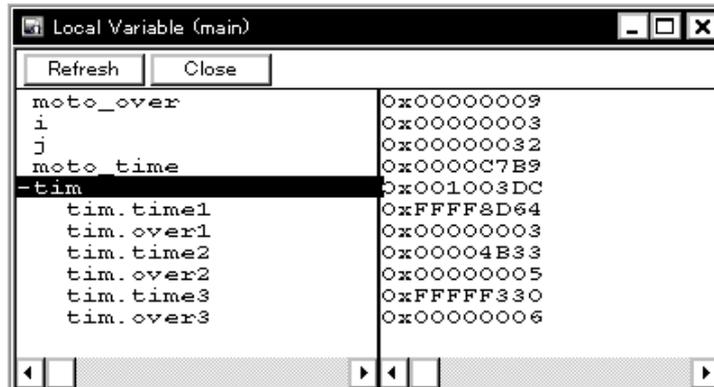
ローカル変数ウィンドウ

カレント関数内ローカル変数の表示と変更を行います（「5.6 ウォッチ機能」参照）。

スタック・トレース・ウィンドウのジャンプ機能と連動し、ソース・テキスト・ウィンドウへジャンプした場合は、ジャンプした関数内のローカル変数を表示します。

このウィンドウでは、コンテキスト・メニュー、機能ボタン等によるさまざまな操作が可能です。

図7 - 28 ローカル変数ウィンドウ



- オープン方法
- 各エリア説明
- コンテキスト・メニュー
- 機能ボタン

オープン方法

 ボタンをクリック，または[ブラウザ]メニュー [ローカル変数] を選択

各エリア説明

- (1) 左欄（ローカル変数名表示エリア）
- (2) 右欄（ローカル変数値表示 / 設定エリア）

(1) 左欄 (ローカル変数名表示エリア)

```

moto_over
i
j
moto time
-tim
  tim.time1
  tim.over1
  tim.time2
  tim.over2
  tim.time3
  tim.over3

```

ローカル変数名を表示するエリアです(「表7 - 11 ウォッチ・ウィンドウ表示形式(シンボル)」参照)。

Auto 変数, 内部 Static 変数, Register 変数の表示が可能です。

このエリアを直接編集することはできません。

(2) 右欄 (ローカル変数値表示 / 設定エリア)

```

0x00000009
0x00000003
0x00000032
0x0000C7B9
0x001003DC
0xFFFF8D64
0x00000003
0x00004B33
0x00000005
0xFFFFF330
0x00000006

```

ローカル変数値の表示と変更を行うエリアです(「表7 - 12 ウォッチ・ウィンドウ表示形式(データ)」参照)。

コンテキスト・メニューにより変数ごとに表示進数の変更が可能です。

値の変更は直接入力により行います。変更箇所は赤色で表示され Enter キーを押すことにより, ターゲット・メモリに書き込まれます。書き込み前の内容は ESC キーにより破棄できます。

[表示] メニュー (ローカル変数ウィンドウ専用部分)

ローカル変数ウィンドウのアクティブ時には, 共通の [表示] メニューに以下の項目が追加されます。

2 進	2 進数表示
8 進	8 進数表示
10 進	10 進数表示
16 進	16 進数表示
文字列	文字列で表示
自動	変数ごとの既定値で表示 (デフォルト)

コンテキスト・メニュー

ウィンドウ上で、マウスの右ボタンをクリックした際に表示されるメニューです。

各メニュー項目は、クリックしたマウス・ポインタの位置ではなく、選択されている行、または項目に対して機能します（同名のメイン・メニューを選択した際と同じ動作）。

ウォッチ登録 ...	ウォッチ・ウィンドウに登録する変数を指定します。 ウォッチ登録ダイアログをオープンします。
2 進	選択行を 2 進数表示
8 進	選択行を 8 進数表示
10 進	選択行を 10 進数表示
16 進	選択行を 16 進数表示
文字列	選択行を文字列表示
自動	選択行を変数ごとの既定値で表示 シンボルの場合は、 デバッガ・オプション設定ダイアログ の設定にしたがって表示 (デフォルト)

機能ボタン

Refresh	ウィンドウの内容を最新のデータに更新します。
Close	このウィンドウをクローズします。

メモリ・ウィンドウ

メモリ内容の表示、および変更を行います（「5.7 メモリ操作機能」参照）。

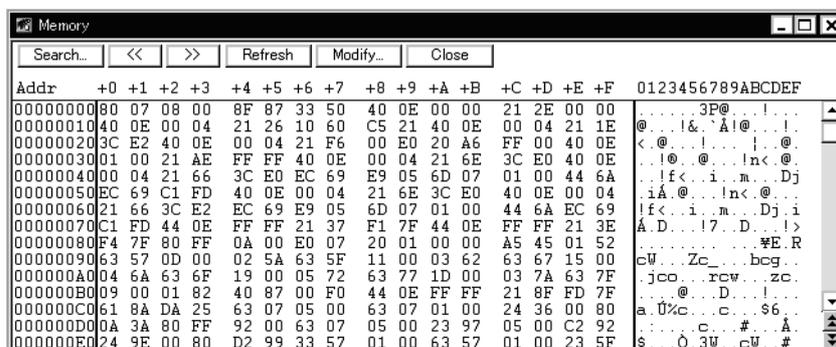
このウィンドウでは、[コンテキスト・メニュー](#)、[機能ボタン](#)等によるさまざまな操作が可能です。

また、このウィンドウには、[アクティブ状態とスタティック状態](#)の2つの状態があり、アクティブ状態時には、[トレース結果とウィンドウの連結機能](#)と[ジャンプ機能](#)を持ちます（「5.18 ウィンドウ共通機能」参照）。

参考 ウィンドウをオープンした際の表示開始位置は、次のようになります。

初回	リアルタイム RAM サンプリング領域の先頭アドレスから表示
2回目以降	最後にアクティブ状態のウィンドウが閉じたアドレスから表示 (アクティブ状態のウィンドウが一度も閉じていない場合は、初回の表示開始位置から表示)

図 7 - 29 メモリ・ウィンドウ



- [オープン方法](#)
- [各エリア説明](#)
- [\[表示\]メニュー（メモリ・ウィンドウ専用部分）](#)
- [コンテキスト・メニュー](#)
- [機能ボタン](#)

オープン方法



ボタンをクリック，または[ブラウズ]メニュー [メモリ...]を選択

各エリア説明

- (1) Addr (アドレス表示エリア)
- (2) +0 +1 +2.... (メモリ表示エリア)
- (3) 0 1 2 3.... (アスキー表示エリア)

(1) Addr (アドレス表示エリア)

```

Addr
00FFFE000
00FFFE010
00FFFE020
00FFFE030
00FFFE040
00FFFE050
00FFFE060
00FFFE070

```

メモリ・アドレスを表示するエリアです。

(2) +0 +1 +2.... (メモリ表示エリア)

+0	+1	+2	+3	+4	+5	+6	+7	+8	+9	+
00	20	00	00	00	00	08	00	00	00	d
00	00	04	00	00	00	00	00	0c	08	d
02	00	00	00	40	00	00	80	00	00	d
02	02	00	00	60	00	02	01	00	00	d
00	00	00	00	00	00	00	00	00	08	d
00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	d

メモリ内容の表示と変更を行うエリアです。

変更は直接入力により行います。変更箇所は赤色で表示され Enter キーを押すことにより、ターゲット・メモリに書き込まれます。書き込み前の内容は ESC キーにより破棄できます。一度に変更できるのは 256 バイトまでです。

(3) 0 1 2 3.... (アスキー表示エリア)

```

0123456789ABCDEF
. . . . .
. . . @ . . . . .
. . . . .
. . . . .
. . . . .
. . . . .
. . . . .
. . . . .

```

メモリ内容のアスキー表示と変更を行うエリアです。

このエリアは、[表示]メニュー [アスキー表示]を選択することにより表示されます。

メモリ内容をアスキー文字にて変更することができます。

変更方法は (2) +0 +1 +2.... (メモリ表示エリア) と同じです。

[表示]メニュー（メモリ・ウィンドウ専用部分）

メモリ・ウィンドウのアクティブ時には、共通の[表示]メニューに以下の項目が追加されます。

2進	2進数表示
8進	8進数表示
10進	10進数表示
16進	16進数表示（デフォルト）
ニブル	4ビット単位で表示
バイト	8ビット単位で表示（デフォルト）
ハーフワード	16ビット単位で表示
ワード	32ビット単位で表示
アスキー表示	アスキー文字の表示 / 非表示を切り替えます。 チェックあり：表示 チェックなし：非表示（デフォルト）
リトル・エンディアン	リトル・エンディアンで表示（デフォルト）
ビッグ・エンディアン	ビッグ・エンディアンで表示

コンテキスト・メニュー

ウィンドウ上で、マウスの右ボタンをクリックした際に表示されるメニューです。

各メニュー項目は、クリックしたマウス・ポインタの位置ではなく、選択されている行、または項目に対して機能します（同名のメイン・メニューを選択した際と同じ動作）。

移動 ...	表示位置を移動します。 アドレス指定ダイアログ をオープンします。
2進	2進数表示
8進	8進数表示
10進	10進数表示
16進	16進数表示（デフォルト）
ニブル	4ビット単位で表示
バイト	8ビット単位で表示（デフォルト）
ハーフワード	16ビット単位で表示
ワード	32ビット単位で表示
アスキー表示	アスキー文字の表示 / 非表示を切り替えます。 チェックあり：表示 チェックなし：非表示（デフォルト）

機能ボタン

Search...	<p>メモリ・サーチ・ダイアログをオープンして、メモリ表示内容の文字列、またはメモリ内容を検索します。</p> <p>選択したデータ（メモリ値）が検索対象としてメモリ・サーチ・ダイアログに表示されます。データを指定しないで開いた場合、キー入力でデータ指定します。</p> <p>検索の結果は、メモリ・ウィンドウ上で反転表示されます。</p>
<<	<p>メモリ・サーチ・ダイアログで設定した検索条件に一致するメモリ内容を、カーソル位置のアドレスから前方向（表示の上）に検索します。</p> <p>検索中は <Stop> ボタンに変化します。</p>
>>	<p>メモリ・サーチ・ダイアログで設定した検索条件に一致するメモリ内容を、カーソル位置のアドレスから後ろ方向（表示の下）に検索します。</p> <p>検索中は <Stop> ボタンに変化します。</p>
Stop（検索中）	検索を中断します。
Refresh	ウィンドウの内容を最新のデータに更新します。
Modify...	DMM ダイアログをオープンします。
Close	このウィンドウをクローズします。

メモリ・サーチ・ダイアログ

カーソルのあるメモリ・ウィンドウのメモリ内容を検索します（「5.7 メモリ操作機能」参照）。

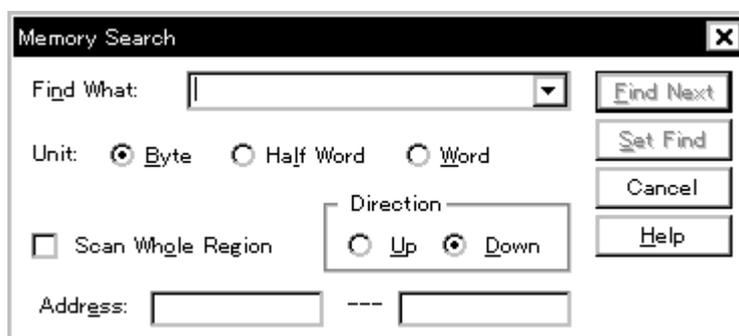
メモリ・ウィンドウの (2) +0 +1 +2... (メモリ表示エリア) にカーソルがある場合は、指定されたデータをバイナリ・データ列と見なし、(3) 0 1 2 3... (アスキー表示エリア) ではアスキー文字列と見なし、それぞれのエリア内を検索します。

各項目を設定し、<Find Next> ボタンをクリックすることにより検索が開始されます。

また、<Set Find> ボタンをクリックすることで、メモリ・ウィンドウ上の方向ボタン (<<, >>) での検索が可能になります。

注意 ノンマップ領域、周辺 I/O レジスタ領域、I/O プロテクト領域は検索しません。

図 7 - 30 メモリ・サーチ・ダイアログ



- ・ オープン方法
- ・ 各エリア説明
- ・ 機能ボタン

オープン方法

メモリ・ウィンドウをカレント・ウィンドウにし、[表示]メニュー [検索...] を選択、または同ウィンドウ上の <Search...> ボタンをクリック

各エリア説明

- (1) Find What (サーチ・データ指定エリア)
- (2) Unit (サーチ条件指定エリア)
- (3) Scan Whole Region (サーチ条件指定エリア)
- (4) Direction (サーチ方向指定エリア)
- (5) Address (サーチ範囲指定エリア)

(1) Find What (サーチ・データ指定エリア)Find What:

サーチ・データを指定します。

デフォルトでは呼び出したウィンドウ内で選択した文字列が表示されますが、必要に応じて変更可能です。入力履歴は最大 16 個まで残すことができます。

(a) (2) +0 +1 +2... (メモリ表示エリア) 検索時

データは最大 16 個まで指定することができます。個々のデータは "空白文字" で区切って指定します。

(b) (3) 0 1 2 3... (アスキー表示エリア) 検索時

データは最大 256 文字まで指定することができます。データ中の "空白文字" は空白文字として扱われます。

(2) Unit (サーチ条件指定エリア)Unit: Byte Half Word Word

(2) +0 +1 +2... (メモリ表示エリア) 検索時に、指定したサーチ・データの個々のデータを何ビットのデータと解釈して検索するかを次の中から選択します。

Byte	8 ビット・データとして検索 (デフォルト)
Half Word	16 ビット・データとして検索
Word	32 ビット・データとして検索

(3) Scan Whole Region (サーチ条件指定エリア) Scan Whole Region

指定した範囲全体を検索する場合チェックします。

(4) Direction (サーチ方向指定エリア)Direction: Up Down

検索する方向を選択するエリアです。

Up	前方検索 現在カーソルのある位置より前 (表示の上) 方向に検索します。
Down	後方検索 (デフォルト) 現在カーソルのある位置より後ろ (表示の下) 方向に検索します。

(5) Address (サーチ範囲指定エリア)Address: ---

検索するアドレスを指定するエリアです。

数値入力時のデフォルト進数は 16 進です。シンボルでの指定方法も可能です。

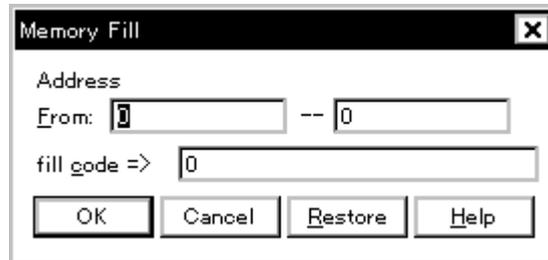
機能ボタン

Find Next	指定したサーチ・データを条件にしたがって検索します。 検索の結果、一致する文字列を反転表示します。連続して検索する場合には、再度このボタンを押します。
Set Find	指定された条件を検索条件として設定し、ダイアログをクローズします。
Stop (検索中)	検索を中断します。
Cancel	このダイアログをクローズします。 データ検索中は <Stop> ボタンに変化します。
Help	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

メモリ・フィル・ダイアログ

メモリ・ウィンドウのメモリ内容を指定コード (fill code) で初期化します (「5.7 メモリ操作機能」参照)。

図 7 - 31 メモリ・フィル・ダイアログ



- ・ オープン方法
- ・ 各エリア説明
- ・ 機能ボタン

オープン方法

[編集]メニュー [メモリ] [初期化 ...] を選択

各エリア説明

(1) Address (アドレス範囲指定エリア)

(2) fill code (データ指定エリア)

(1) Address (アドレス範囲指定エリア)

Address
From: --

初期化するアドレス範囲 (先頭アドレス -- 終了アドレス) を指定するエリアです。
数値入力時のデフォルト進数は 16 進です。 [シンボルでの指定方法](#)も可能です。

(2) fill code (データ指定エリア)

fill code =>

(1) Address (アドレス範囲指定エリア) を初期化するコード (fill code) を指定するエリアです。
fill code は最大 16 個までのバイナリ・データ列 (バイト・データ列) での指定が可能です。
個々のデータは "空白文字" で区切って指定します。

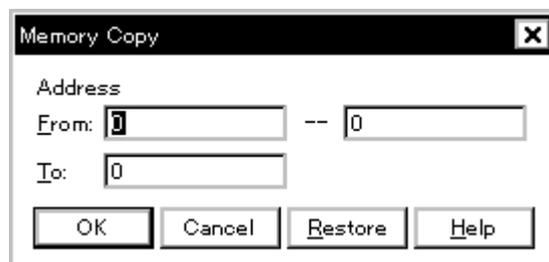
機能ボタン

OK	指定に従い、メモリの初期化を行います。
Stop (初期化中)	メモリの初期化を中断します。 メモリ初期化中は、<Cancel> ボタンが <Stop> ボタンに変化します。
Cancel	このダイアログをクローズします。 メモリ初期化中は <Stop> ボタンに変化します。
Restore	入力したデータを元に戻します。
Help	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

メモリ・コピー・ダイアログ

メモリ・ウィンドウのメモリ内容のコピーを行います（「5.7 メモリ操作機能」参照）。

図7 - 32 メモリ・コピー・ダイアログ



- オープン方法
- 各エリア説明
- 機能ボタン

オープン方法

[編集]メニュー [メモリ] [複写 ...]を選択

各エリア説明

(1) Address (アドレス範囲指定エリア)

Address
From: --
To:

メモリ内容のコピー元、およびコピー先アドレスを指定するエリアです。
数値入力時のデフォルト進数は16進です。[シンボルでの指定方法](#)も可能です。

(a) From:

コピー元のアドレス範囲（先頭アドレス -- 終了アドレス）を指定します。

(b) To

コピー先の先頭アドレスを指定します。

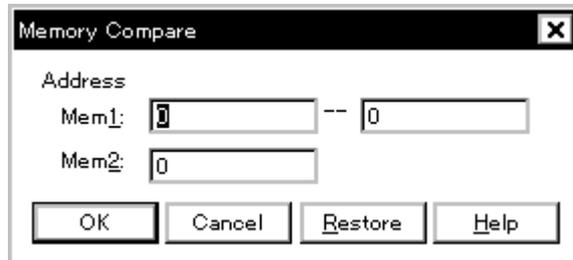
機能ボタン

OK	設定に従い、メモリのコピーを行います。
Stop (コピー中)	メモリのコピーを中断します。 メモリのコピー中は、<Cancel> ボタンが <Stop> ボタンに変化します。
Cancel	このダイアログをクローズします。 メモリのコピー中は <Stop> ボタンに変化します。
Restore	入力したデータを元に戻します。
Help	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

メモリ比較ダイアログ

メモリ・ウィンドウのメモリ内容の比較を行います（「5.7 メモリ操作機能」参照）。

図7 - 33 メモリ比較ダイアログ



- オープン方法
- 各エリア説明
- 機能ボタン

オープン方法

[編集]メニュー [メモリ] [比較...]を選択

各エリア説明

(1) Address (比較範囲指定エリア)

Address

Mem1: --

Mem2:

メモリ内容の比較元アドレス，および比較先アドレスを指定するエリアです。
数値入力時のデフォルト進数は16進です。[シンボルでの指定方法](#)も可能です。

(a) Mem1

比較元のアドレス範囲（先頭アドレス -- 終了アドレス）を指定します。

(b) Mem2

比較先の先頭アドレスを指定します。

機能ボタン

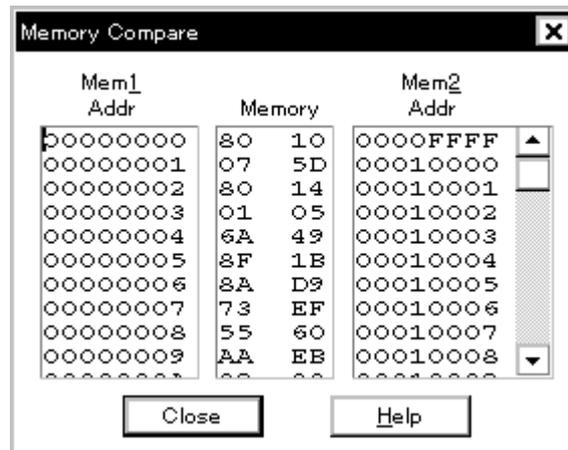
OK	メモリの比較を行います。 メモリを比較した結果、相違がなかった場合には、" Wf200 : 違いはありませんでした。" のメッセージを表示します。相違があった場合には、 メモリ比較結果ダイアログ をオープンします。 <OK> ボタンを押すことによりメモリ比較を終了します。
Stop (比較中)	メモリ比較を中断します。 メモリ比較中は、<Cancel> ボタンが <Stop> ボタンに変化します。
Cancel	このダイアログをクローズします。 メモリ比較中は <Stop> ボタンに変化します。
Restore	入力したデータを元に戻します。
Help	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

メモリ比較結果ダイアログ

メモリの比較結果を表示します（「5.7 メモリ操作機能」参照）。

このダイアログは、メモリ比較ダイアログにてメモリ比較を行った結果、メモリ内容に相違があったときに表示されます。

図 7 - 34 メモリ比較結果ダイアログ



- 各エリア説明
- 機能ボタン

各エリア説明

(1) Mem1, Mem2 (比較結果表示エリア)

Mem1 Addr	Memory	Mem2 Addr
00000000	80 10	0000FFFF
00000001	07 5D	00010000
00000002	80 14	00010001
00000003	01 05	00010002
00000004	6A 49	00010003
00000005	8F 1B	00010004
00000006	8A D9	00010005
00000007	73 EF	00010006
00000008	55 60	00010007
00000009	AA EB	00010008

メモリ比較結果を表示するエリアです。比較結果に違いのあった部分のみが表示されます。

(a) Mem1 Addr

違いのあった比較元アドレスを表示しています。

(b) Memory

違いのあったデータ内容を表示しています（左：比較元データ，右：比較先データ）。

(c) Mem2 Addr

違いのあった比較先アドレスを表示しています。

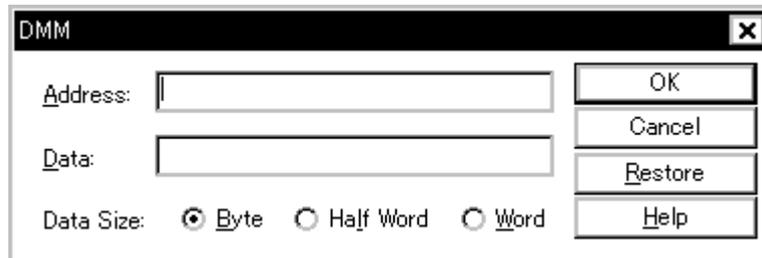
機能ボタン

Close	このダイアログをクローズします。
Help	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

DMM ダイアログ

DMM (Dynamic Memory Modification) を行うアドレスとデータを設定するダイアログです (「5.7 メモリ操作機能」参照)。

図 7 - 35 DMM ダイアログ



- [オープン方法](#)
- [各エリア説明](#)
- [機能ボタン](#)

オープン方法

[編集]メニュー [メモリ] [変更...], または[メモリ・ウィンドウ](#)上の <Modify...> ボタンをクリック

各エリア説明

- (1) [Address \(アドレス設定エリア\)](#)
- (2) [Data \(データ設定エリア\)](#)
- (3) [Data Size \(データ・サイズ設定エリア\)](#)

(1) Address (アドレス設定エリア)

Address:

データを書き込むアドレスを指定するエリアです。

数値入力時のデフォルト進数は 16 進です。 [シンボルでの指定方法](#)も可能です。

(2) Data (データ設定エリア)

Data:

(1) [Address \(アドレス設定エリア\)](#) で指定したメモリ・アドレスに書き込むデータを指定するエリアです。

数値入力時のデフォルト進数は 16 進です。一度に指定できるのは 1 個のバイナリ・データ列です。データ・サイズは、(3) [Data Size \(データ・サイズ設定エリア\)](#) で指定します。

(3) Data Size (データ・サイズ設定エリア)Data Size: Byte Half Word Word

(2) Data (データ設定エリア) で指定したデータを書き込む際のデータ・サイズを選択するエリアです。

Byte	8 ビット・データとして書き込む
Half Word	16 ビット・データとして書き込む
Word	32 ビット・データとして書き込む

機能ボタン

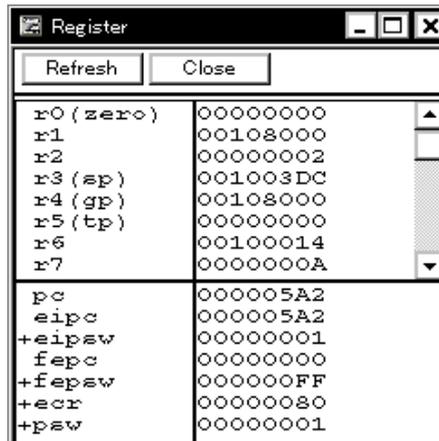
OK	設定に従いデータの書き込みを行います。
Cancel	このダイアログをクローズします。
Restore	入力したデータを元に戻します。
Help	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

レジスタ・ウィンドウ

レジスタ（プログラム・レジスタ，システム・レジスタ）の表示，および変更を行います（「5.8 レジスタ操作機能」参照）。

このウィンドウでは，[コンテキスト・メニュー](#)，[機能ボタン](#)等による操作が可能です。
各エリアは[ジャンプ機能](#)のジャンプ・ポインタになります。

図7 - 36 レジスタ・ウィンドウ



Register	
Refresh Close	
r0 (zero)	00000000
r1	00108000
r2	00000002
r3 (sp)	001003DC
r4 (gp)	00108000
r5 (tp)	00000000
r6	00100014
r7	0000000A
pc	000005A2
eipc	000005A2
+eipaw	00000001
fepc	00000000
+fepaw	000000FF
+ecr	00000080
+paw	00000001

- オープン方法
- 各エリア説明
- [表示]メニュー（レジスタ・ウィンドウ専用部分）
- コンテキスト・メニュー
- 機能ボタン

オープン方法

 ボタンをクリック，または[ブラウズ]メニュー [レジスタ]を選択

各エリア説明

- (1) 左欄上（プログラム・レジスタ表示エリア）
- (2) 左欄下（システム・レジスタ表示エリア）

(1) 左欄上 (プログラム・レジスタ表示エリア)

r0 (zero)	00000000
r1	00108000
r2	00000002
r3 (sp)	001003DC
r4 (gp)	00108000
r5 (tp)	00000000
r6	00100014
r7	0000000A

プログラム・レジスタの表示と変更を行うエリアです。

レジスタ値は直接入力により変更可能です。変更箇所は赤色で表示され Enter キーを押すことによりターゲット・メモリに書き込まれます。書き込み前の内容は ESC キーにより破棄できます。

注意 不正な値(0xFFFFFFFF を超える値)を入力したことによりレジスタのオーバーフローが生じた場合には、レジスタの値は、0xFFFFFFFF に変更されます。

(2) 左欄下 (システム・レジスタ表示エリア)

pc	000005A2
eipc	000005A2
+eipsw	00000001
fepc	00000000
+fepsw	000000FF
+ecr	00000080
+psw	00000001

システム・レジスタの表示と変更を行うエリアです。

'+' は展開表示可能なレジスタを示し、ダブルクリックすることによりフラグ名とフラグ値に展開表示されます ('+' ' -')。再度ダブルクリックすることにより展開表示が解除されます。

レジスタ値は直接入力により変更可能です。変更箇所は赤色で表示され Enter キーを押すことによりターゲット・メモリに書き込まれます。書き込み前の内容は ESC キーにより破棄できます。

注意 不正な値(0xFFFFFFFF を超える値)を入力したことによりレジスタのオーバーフローが生じた場合には、レジスタの値は、0xFFFFFFFF に変更されます。

[表示]メニュー (レジスタ・ウィンドウ専用部分)

レジスタ・ウィンドウのアクティブ時には、共通の [表示]メニューに以下の項目が追加されます。

2 進	2 進数表示
8 進	8 進数表示
10 進	10 進数表示
16 進	16 進数表示 (デフォルト)
ピックアップ	レジスタ選択ダイアログで選択したレジスタのみを表示します。 チェックあり：選択したもののみ表示 チェックなし：すべてを表示 (デフォルト)
表示選択 ...	レジスタ選択ダイアログをオープンします。

コンテキスト・メニュー

ウォッチ登録 ...	選択文字列をウォッチ・ウィンドウに追加します。 ウォッチ登録ダイアログ をオープンします。
2 進	選択行を 2 進数表示
8 進	選択行を 8 進数表示
10 進	選択行を 10 進数表示
16 進	選択行を 16 進数表示 (デフォルト)
ピックアップ	レジスタ選択ダイアログ で選択したレジスタのみを表示します。 チェックあり: 選択したもののみ表示 チェックなし: すべてを表示 (デフォルト)
表示選択 ...	表示レジスタを選択します。 レジスタ選択ダイアログ をオープンします。

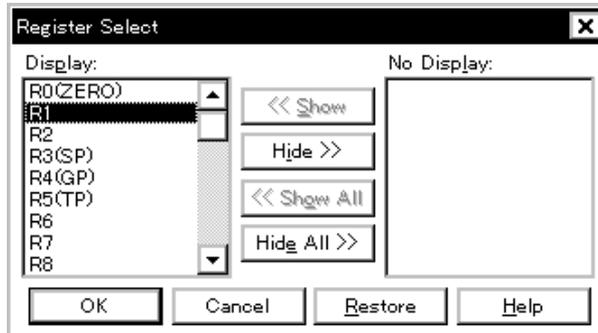
機能ボタン

Refresh	ウィンドウの内容を最新のデータに更新します。
Close	このウィンドウをクローズします。

レジスタ選択ダイアログ

レジスタ・ウィンドウに表示しないレジスタを選択します（「5.8 レジスタ操作機能」参照）。

図7 - 37 レジスタ選択ダイアログ



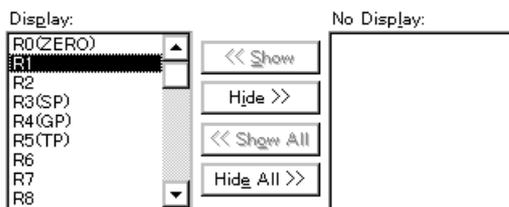
- ・ オープン方法
- ・ 各エリア説明
- ・ 機能ボタン

オープン方法

レジスタ・ウィンドウをカレント・ウィンドウにし、[表示]メニュー [表示選択...]を選択

各エリア説明

(1) Display , No Display (表示レジスタ選択エリア)



レジスタ・ウィンドウに表示しないレジスタを選択するエリアです。

(a) Display

レジスタ・ウィンドウに表示されているレジスタのリストです。

(b) No Display

レジスタ・ウィンドウに表示されていないレジスタのリストです。

(c) ボタン

レジスタ・ウィンドウの表示レジスタを変更する際、次のボタンをクリックします。

<< Show	(b) No Display のリストから選択されたレジスタを (a) Display へ移動
Hide >>	(a) Display のリストから選択されたレジスタを (b) No Display へ移動
<< Show All	すべてのレジスタを (a) Display へ移動
Hide All >>	すべてのレジスタを (b) No Display へ移動

リストからレジスタを選択する際に、Ctrl キーや Shift キーを押しながらクリックすることで、複数レジスタの選択が可能です。

機能ボタン

OK	レジスタ・ウィンドウに、選択結果を反映しこのダイアログをクローズします。
Cancel	変更を取り消して、このダイアログをクローズします。
Restore	変更を元に戻します。
Help	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

周辺 I/O レジスタ・ウィンドウ

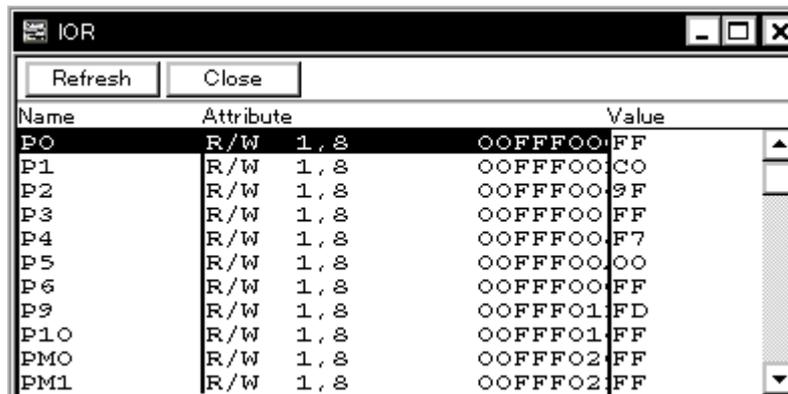
周辺 I/O レジスタ，および I/O ポート追加ダイアログで登録した I/O ポート値の表示，変更を行うダイアログです（「5.8 レジスタ操作機能」参照）。

このウィンドウでは，[コンテキスト・メニュー](#)，[機能ボタン](#)等による操作が可能です。

注意 読み込み専用の周辺 I/O レジスタ，および I/O ポートの値は変更することができません。また，読み込み動作によってデバイスが動作してしまう周辺 I/O レジスタ，および I/O ポートは，読み込み保護の対象となり読み込みを行いません。このようなレジスタを読み込みたい場合には，該当レジスタを選択し，[コンテキスト・メニュー](#)から [強制読み込み] を実行してください。

備考 プログラマブル I/O レジスタをサポートしている品種で，[コンフィグレーション・ダイアログ](#)でプログラマブル I/O 領域を設定している場合，プログラマブル I/O レジスタの表示も行います。I/O ポート・アドレスが不定値となった場合，I/O ポート名は淡色表示となります。

図 7 - 38 周辺 I/O レジスタ・ウィンドウ



Name	Attribute	Value
P0	R/W 1, 8	00FFFF00FF
P1	R/W 1, 8	00FFFF00C0
P2	R/W 1, 8	00FFFF009F
P3	R/W 1, 8	00FFFF00FF
P4	R/W 1, 8	00FFFF00F7
P5	R/W 1, 8	00FFFF0000
P6	R/W 1, 8	00FFFF00FF
P9	R/W 1, 8	00FFFF01FD
P10	R/W 1, 8	00FFFF01FF
PM0	R/W 1, 8	00FFFF02FF
PM1	R/W 1, 8	00FFFF02FF

- [オープン方法](#)
- [各エリア説明](#)
- [コンテキスト・メニュー](#)
- [機能ボタン](#)

オープン方法

 ボタンをクリック，または [ブラウズ] メニュー [I/O レジスタ] を選択

各エリア説明

- (1) Name (周辺 I/O レジスタ名表示エリア)
- (2) Attribute (アトリビュート表示エリア)
- (3) Value (周辺 I/O レジスタ内容表示エリア)

(1) Name (周辺 I/O レジスタ名表示エリア)

Name
PO
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P10
PM0
PM1

周辺 I/O レジスタ名や I/O ポート名を表示するエリアです。

V850E 使用時では、プログラマブル周辺 I/O レジスタと拡張周辺 I/O レジスタの表示を行います。

I/O ポート・アドレスが不定値となった場合には淡色表示されます。

(2) Attribute (アトリビュート表示エリア)

Attribute
R/W 1,8 00FFFF00
R/W 1,8 00FFFF01
R/W 1,8 00FFFF01
R/W 1,8 00FFFF02
R/W 1,8 00FFFF02

周辺 I/O レジスタ、I/O ポートの属性を表示するエリアです。

左から、リード/ライト属性、アクセス・タイプ、絶対アドレスを示しています。

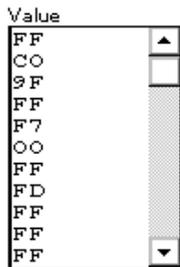
ビット周辺 I/O レジスタの場合には、ビット・オフセットも表示します。

[表示]メニュー [属性]にて、このエリアの表示/非表示が選択できます。

リード/ライト属性	
R	読み出しのみ可能
W	書き込みのみ可能
R/W	読み出し/書き込み可能
*	読み込み動作によって、デバイスが動作してしまうのを防ぐために、エミュレーション・レジスタから読み出しを行うレジスタ。 直接周辺 I/O レジスタから読み出すには、[表示]メニュー [強制読み込み]を実行してください。 また、書き込み専用の周辺 I/O レジスタであってもエミュレーション・レジスタを介して、値を読み出すことができます。 この機能はデバイスによりサポートされない場合があります。

アクセス・タイプ	
1	Bit アクセス可能
8	Byte アクセス可能
16	Half Word アクセス可能
32	Word アクセス可能

(3) Value (周辺 I/O レジスタ内容表示エリア)



周辺 I/O レジスタ，および I/O ポートの内容表示と変更を行うエリアです。

属性によって，表示形式が次のように異なります。

黒色表示	読み出し専用，または読み出し / 書き込み可能な周辺 I/O レジスタ，I/O ポート
--	書き込み専用の周辺 I/O レジスタ，I/O ポート
**	読み出すと値が変化する周辺 I/O レジスタ，I/O ポート

値の変更は直接入力により行います。変更箇所は赤色で表示され Enter キーを押すことにより，ターゲット・メモリに書き込まれます。書き込み前の内容は ESC キーにより破棄できます。なお，読み出し専用の周辺 I/O レジスタや I/O ポートの場合，値を変更することはできません。

読み込み保護された周辺 I/O レジスタ，および I/O ポートは，[コンテキスト・メニュー](#) [強制読み込み] を選択することで値の読み込みが可能です。

[表示] メニュー (周辺 I/O レジスタ・ウィンドウ専用部分)

周辺 I/O レジスタ・ウィンドウのアクティブ時には，共通の [\[表示\] メニュー](#) に以下の項目が追加されます。

2 進	2 進数表示
8 進	8 進数表示
10 進	10 進数表示
16 進	16 進数表示 (デフォルト)
名前順	アルファベット順に表示
アドレス順	アドレス順に表示 (デフォルト)
ソートしない	並べ替えをしない

属性	属性フィールド (Attribute) の表示 / 非表示をします。 チェックあり：表示 (デフォルト) チェックなし：非表示
ピックアップ	周辺 I/O レジスタ選択ダイアログで選択したレジスタのみを表示します。 チェックあり：選択したもののみ表示 チェックなし：すべてを表示 (デフォルト)
表示選択 ...	周辺 I/O レジスタ選択ダイアログをオープンします。
強制読み込み	読み込むと値が変化するために読み込み禁止にしている周辺 I/O レジスタ, または I/O ポート追加ダイアログで追加した I/O ポート, I/O プロテクト領域のデータを強制的に読み込みます。

コンテキスト・メニュー

移動 ...	表示位置を移動します。 アドレス指定ダイアログをオープンします。
ウォッチ登録 ...	選択文字列をウォッチ・ウィンドウに追加します。 ウォッチ登録ダイアログをオープンします。
I/O ポート追加 ...	ユーザ定義の I/O ポートを追加します。 I/O ポート追加ダイアログをオープンします。
2 進	選択行を 2 進数表示
8 進	選択行を 8 進数表示
10 進	選択行を 10 進数表示
16 進	選択行を 16 進数表示 (デフォルト)
名前順	アルファベット順に表示
アドレス順	アドレス順に表示 (デフォルト)
ソートしない	並べ替えをしない
属性	(2) Attribute (アトリビュート表示エリア) の表示 / 非表示を切り替えます。
ピックアップ	周辺 I/O レジスタ選択ダイアログで選択したレジスタの表示 / すべて表示を切り替えます。
表示選択 ...	表示レジスタ, および I/O ポートを選択します。 周辺 I/O レジスタ選択ダイアログをオープンします。
強制読み込み	読み込むと値が変化するために読み込み禁止にしている周辺 I/O レジスタ, または I/O ポート追加ダイアログで追加した I/O ポート, I/O プロテクト領域のデータを強制的に読み込みます。

機能ボタン

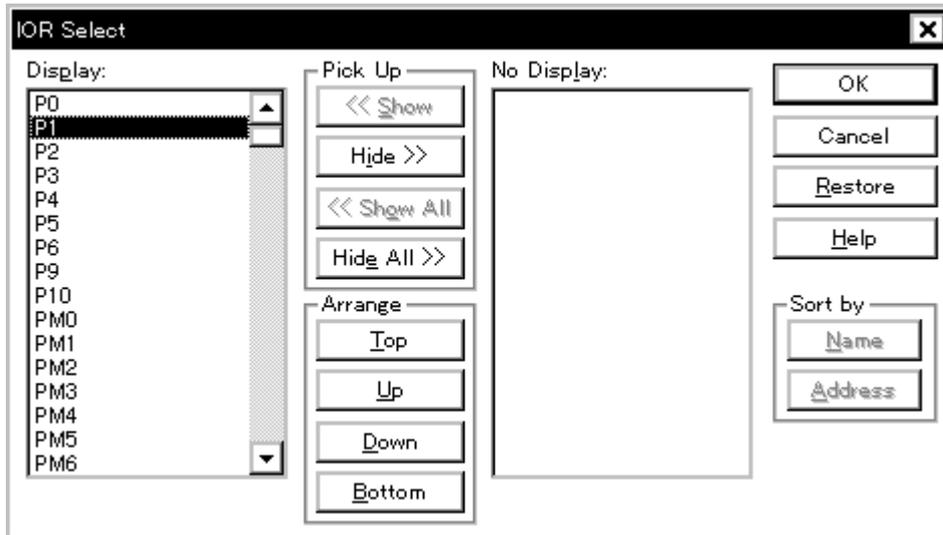
Refresh	ウィンドウの内容を最新のデータに更新します。
Close	このウィンドウをクローズします。

周辺 I/O レジスタ選択ダイアログ

周辺 I/O レジスタ・ウィンドウに表示しない周辺 I/O レジスタ, および I/O ポートを選択します(「5.8 レジスタ操作機能」参照)。

また, 表示順序の指定を行います。

図 7 - 39 周辺 I/O レジスタ選択ダイアログ



- ・ オープン方法
- ・ 各エリア説明
- ・ 機能ボタン

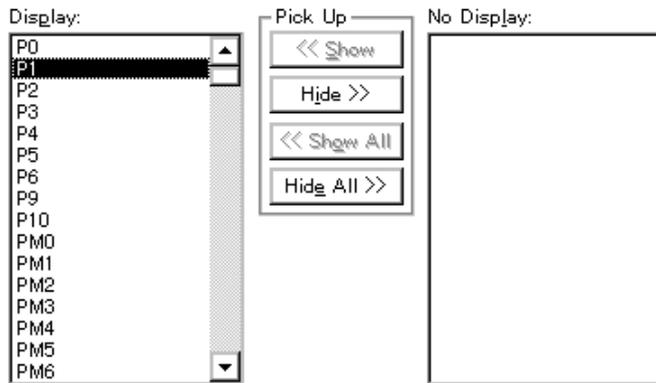
オープン方法

周辺 I/O レジスタ・ウィンドウをカレント・ウィンドウにし, [表示]メニュー [表示選択...] を選択

各エリア説明

- (1) Display , Pick Up , No Display (表示周辺 I/O レジスタ選択エリア)
- (2) Arrange (表示順序指定ボタン)
- (3) Sort by (非表示リスト表示順変更ボタン)

(1) Display , Pick Up , No Display (表示周辺 I/O レジスタ選択エリア)



周辺 I/O レジスタ・ウィンドウに表示しないレジスタ / I/O ポートを選択するエリアです。

(a) Display

周辺 I/O レジスタ・ウィンドウに表示されているレジスタ / I/O ポートのリストです。

(b) No Display

周辺 I/O レジスタ・ウィンドウに表示されていないレジスタ / I/O ポートのリストです。

(c) Pick Up

周辺 I/O レジスタ・ウィンドウの表示レジスタ / I/O ポートを変更する際、次のボタンをクリックします。

<< Show	(b) No Display のリストから選択されたレジスタ / I/O ポートを (a) Display へ移動
Hide >>	(a) Display のリストから選択されたレジスタ / I/O ポートを (b) No Display へ移動
<< Show All	すべてのレジスタ / I/O ポートを (a) Display へ移動
Hide All >>	すべてのレジスタ / I/O ポートを (b) No Display へ移動

リストから項目を選択する際に、Ctrl キーや Shift キーを押しながらクリックすることで複数選択が可能です。

(2) Arrange (表示順序指定ボタン)



(a) Display リスト内の表示順序を変更する際、次のボタンをクリックします。

Top	選択されたレジスタ / I/O ポートをリストの最上行に移動
Up	選択されたレジスタ / I/O ポートを 1 行上に移動
Down	選択されたレジスタ / I/O ポートを 1 行下に移動
Bottom	選択されたレジスタ / I/O ポートをリストの最下行に移動

(3) Sort by (非表示リスト表示順変更ボタン)

(b) **No Display** リスト内の表示順序を変更する際、次のボタンをクリックします。

Name	アルファベット順に表示
Address	アドレス順に表示

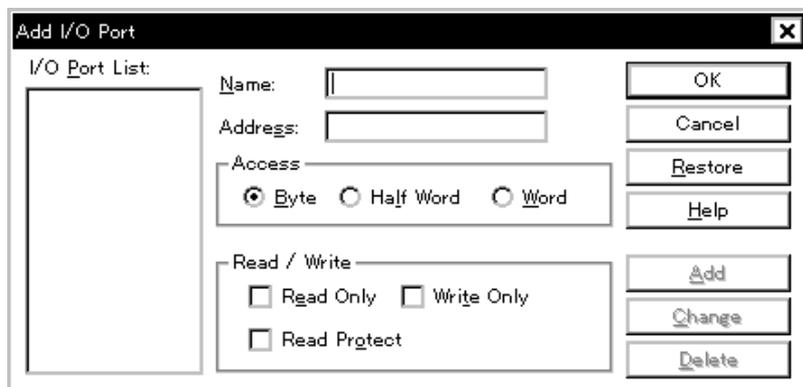
機能ボタン

OK	周辺 I/O レジスタ・ウィンドウ に選択結果を反映しこのダイアログをクローズします。
Cancel	変更を取り消して、このダイアログをクローズ します。
Restore	変更を元に戻します。
Help	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

I/O ポート追加ダイアログ

周辺 I/O レジスタ・ウィンドウに追加する I/O ポートの登録を行います（「5.8 レジスタ操作機能」参照）。

図 7 - 40 I/O ポート追加ダイアログ



- [オープン方法](#)
- [各エリア説明](#)
- [機能ボタン](#)

オープン方法

[オプション]メニュー [I/O ポート追加 ...]を選択

各エリア説明

- (1) I/O Port List (I/O ポート選択エリア)
- (2) Name (I/O ポート名指定エリア)
- (3) Address (I/O ポート・アドレス指定エリア)
- (4) Access (アクセス・サイズ指定エリア)
- (5) Read/Write (アクセス属性指定エリア)

(1) I/O Port List (I/O ポート選択エリア)

I/O Port List:



現在登録されている I/O ポートの一覧を表示するエリアです。

新規登録によりこのリストに追加されます。登録済みの I/O ポートは機能ボタンにより 変更 / 削除が可能です。

(2) Name (I/O ポート名指定エリア)

Name:

追加する I/O ポート名を入力するエリアです (最大 15 文字)。

(3) Address (I/O ポート・アドレス指定エリア)

Address:

追加する I/O ポート・アドレスを指定するエリアです。

指定できるアドレスは IOR 領域です。

数値入力時のデフォルト進数は 16 進です。シンボルでの指定方法も可能です。

(4) Access (アクセス・サイズ指定エリア)

Access

Byte Half Word Word

追加する I/O ポートのアクセス・サイズを次の中から選択します。

Byte	8 ビット (デフォルト)
Half Word	16 ビット
Word	32 ビット

(5) Read/Write (アクセス属性指定エリア)

Read / Write

Read Only Write Only

Read Protect

追加する I/O ポートのアクセス属性を指定します。

デフォルトでは、すべて非チェック状態 (読み出し / 書き込み共に許可) です。

Read Only	読み出し専用
Write Only	書き込み専用
Read Protect	読み出し保護

機能ボタン

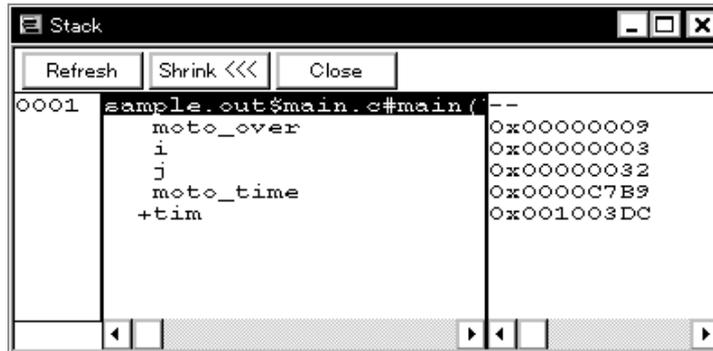
OK	周辺 I/O レジスタ・ウィンドウに追加結果を反映し、このダイアログをクローズします。
Cancel	変更を取り消して、このダイアログをクローズします。
Restore	変更を元に戻します。
Help	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。
Add	指定したアドレスの I/O ポートを追加します。
Change	(1) I/O Port List (I/O ポート選択エリア) で選択している I/O ポートの設定を変更します。
Delete	(1) I/O Port List (I/O ポート選択エリア) で選択している I/O ポートを削除します。

スタック・トレース・ウィンドウ

現在のユーザ・プログラムのスタック内容の表示、および変更を行います（「5.9 スタック・トレース表示機能」参照）。

ジャンプ機能により、スタック内容に対応するウィンドウへのジャンプが可能です。
このウィンドウでは、コンテキスト・メニュー、機能ボタン等による操作が可能です。

図7 - 41 スタック・トレース・ウィンドウ



- オープン方法
- 各エリア説明
- コンテキスト・メニュー
- 機能ボタン

オープン方法

 ボタンをクリック，または [ブラウザ] メニュー [スタック] を選択

各エリア説明

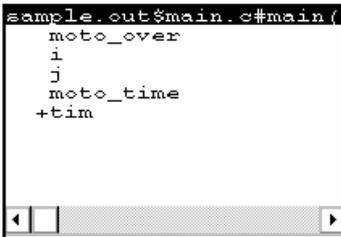
- (1) 左の欄（スタック・フレーム番号表示エリア）
- (2) 中央の欄（スタック・フレーム内容表示エリア）
- (3) 右の欄（スタック内容表示 / 設定エリア）

(1) 左の欄 (スタック・フレーム番号表示エリア)



スタック・フレーム番号の表示を行うエリアです。

(2) 中央の欄 (スタック・フレーム内容表示エリア)



スタック・フレーム内容を表示するエリアです。

関数名、またはローカル変数名を表示します。ただし、このエリアを直接編集することはできません。

(a) スタック内容が関数の場合

[プログラム名\$ファイル名#関数名(引数リスト)#行番号]と表示されます。

この行をダブルクリックすると、[ジャンプ機能](#)によりソース・テキスト・ウィンドウへジャンプします(ジャンプした関数内のローカル変数がローカル変数ウィンドウに表示されます)。

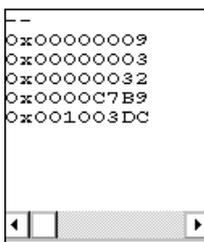
関数にローカル変数がある場合は、ローカル変数を次行以降に表示します。

(b) スタック内容がローカル変数の場合

型と変数名が表示されます([ウォッチ・ウィンドウ表示形式\(シンボル\)](#)参照)。

なお、内部 Static 変数、Register 変数は表示しません。

(3) 右の欄 (スタック内容表示 / 設定エリア)



スタック内容の表示、および変更を行うエリアです。

(a) スタック内容が関数の場合

'--'が表示され変更不可です。

(b) スタック内容がローカル変数の場合

変数値を表示します ([ウォッチ・ウィンドウ表示形式 \(データ\)](#) 参照)。

[コンテキスト・メニュー](#)により、表示進数を変数ごとに切り替えることができます。

変数値の変更は直接入力により可能です。変更箇所は赤色で表示され Enter キーを押すことにより、ターゲット・メモリに書き込まれます。書き込み前の内容は ESC キーにより破棄できます。

[表示]メニュー (スタック・トレース・ウィンドウ専用部分)

スタック・トレース・ウィンドウのアクティブ時には、共通の [\[表示\]メニュー](#) に以下の項目が追加されます。

2 進	2 進数表示
8 進	8 進数表示
10 進	10 進数表示
16 進	16 進数表示
文字列	文字列で表示
自動	変数ごとの既定値で表示 (デフォルト)

コンテキスト・メニュー

2 進	選択行を 2 進数表示
8 進	選択行を 8 進数表示
10 進	選択行を 10 進数表示
16 進	選択行を 16 進数表示
文字列	選択行を文字列表示
自動	選択行を変数ごとの既定値で表示 シンボルの場合は、 デバッガ・オプション設定ダイアログ の設定にしたがって表示 (デフォルト)
ソース	カーソル位置のデータ値をジャンプ先アドレスとして、該当するソース・テキストおよびソース行を表示します (ジャンプした関数内のローカル変数を ローカル変数ウィンドウ に表示)。 ただし、ジャンプ先アドレスに行情報がない場合には、ジャンプすることはできません。 ソース・テキスト・ウィンドウ をオープンします。 アクティブ状態のソース・テキスト・ウィンドウが表示されている場合は、そのウィンドウを最前面 (操作対象) に表示します。
アセンブル	カーソル位置のデータ値をジャンプ先アドレスとして、そのアドレスから逆アセンブル表示します。 逆アセンブル・ウィンドウ をオープンします。 アクティブ状態の逆アセンブル・ウィンドウが表示されている場合は、そのウィンドウを最前面 (操作対象) に表示します。

メモリ	カーソル位置のデータ値をジャンプ先アドレスとして、そのアドレスからメモリ内容を表示します。 メモリ・ウィンドウをオープンします。 アクティブ状態のメモリ・ウィンドウが表示されている場合は、そのウィンドウを最前面（操作対象）に表示します。
カバレッジ	カーソル位置のデータ値をジャンプ先アドレスとして、そのアドレスからカバレッジ測定結果を表示します。 カバレッジ・ウィンドウをオープンします。 アクティブ状態のカバレッジ・ウィンドウが表示されている場合は、そのウィンドウを最前面（操作対象）に表示します。

機能ボタン

Refresh	ウィンドウの内容を最新のデータに更新します。
Shrink <<<	選択した関数に対するローカル変数リストの展開表示を解除します。
Expand >>> (展開表示解除中)	選択した関数に対するローカル変数リストを展開表示します。
Close	このウィンドウをクローズします。

タイマ・ダイアログ

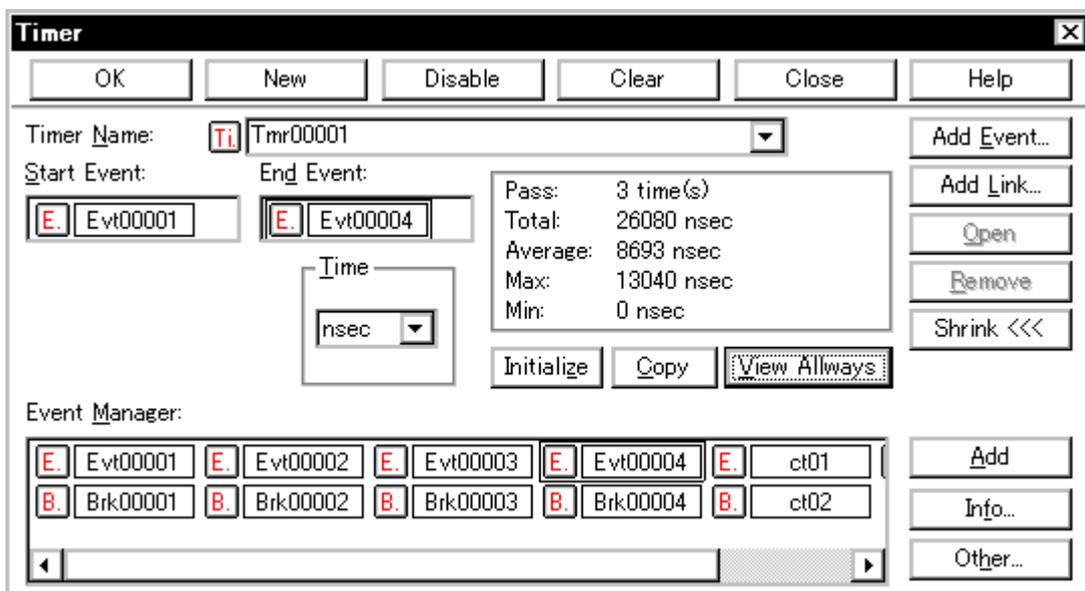
タイマ・イベント条件の登録，設定，および実行時間測定結果の表示を行います（「5.13 イベント機能」，「5.10 タイマ機能」参照）。

タイマ・イベント条件の登録，設定は，このダイアログ上で各項目を設定し，<OK> ボタンをクリックすることにより行います（最大 256 個）。登録したタイマ・イベント条件は，[イベント・マネージャ](#)で管理されます。

なお，同時に設定可能な（有効になる）タイマ・イベント条件数には制限があります（「5.13.4 各種イベント条件の有効イベント数」参照）。

実行時間測定結果の表示は，設定したタイマ・イベント条件を選択することにより表示されます。

図 7 - 42 タイマ・ダイアログ



- オープン方法
- 各エリア説明
- 機能ボタン（イベント関連）

オープン方法

 ボタンをクリック，または[イベント]メニュー [タイマ...]を選択

各エリア説明

- (1) Timer Name (タイマ・イベント名設定エリア)
- (2) Start Event , End Event (タイマ条件設定エリア)
- (3) Time (タイマ表示単位選択エリア)
- (4) 実行時間表示エリア
- (5) Event Manager (イベント・マネージャ・エリア)

(1) Timer Name (タイマ・イベント名設定エリア)

Timer Name:

タイマ・イベント名の設定を行います。

名前は最大 8 文字までの英数字を直接入力してください。

すでに作成してあるイベント条件の内容を表示するときは、ドロップダウン・リストから選択します。

このエリアの左側のマークは、イベント条件の使用状況を示します(「表 5 - 13 イベント・アイコン」参照)。また、灰色のマークは、そのイベント条件が編集途中で未登録の状態を示しています。

このマークをクリックすることにより、イベント条件の有効/無効を切り替えることができます。

(2) Start Event , End Event (タイマ条件設定エリア)

Start Event: End Event:

時間測定開始条件用、停止条件用のイベント条件を設定します。

このエリアに登録できるイベント条件、およびイベント・リンク条件の個数は、開始条件、停止条件ともに 1 個です。イベント条件の設定は、イベント・マネージャ・エリアから、設定するイベント・アイコンをドラッグして、このエリア上にドロップすることにより簡単に行えます。詳細は、「5.13.3 各種イベント条件の設定」を参照してください。

(3) Time (タイマ表示単位選択エリア)

Time

タイマ測定結果の表示単位を選択します。

nsec	ナノ秒単位 (デフォルト)
usec	マイクロ秒単位
msec	ミリ秒単位
sec	秒単位
min	分単位
clock	クロック数

(4) 実行時間表示エリア

Pass:	3 time(s)
Total:	26080 nsec
Average:	8693 nsec
Max:	13040 nsec
Min:	0 nsec

Initialize Copy View Always

プログラムの実行時間測定結果を表示します（「5.10.3 測定可能時間」参照）。

測定を行っていない、あるいは測定結果をクリアした場合には、空欄で表示されます。

Pass	通過回数 ^注
Total	開始イベントと終了イベント条件で指定した測定区間の累積実行時間
Average	平均実行時間 ^注
Max	最大実行時間 ^注
Min	最小実行時間 ^注

注 Run-Break 時間測定時は表示されない。

(a) 機能ボタン

Initialize	測定結果をクリアします。
Copy	測定結果をクリップ・ボードにコピーします。
View Always	タイマ測定結果ダイアログ をオープンします。

(5) Event Manager (イベント・マネージャ・エリア)

登録されているイベント一覧を表示するエリアです（「表 5 - 13 イベント・アイコン」, 「(4) イベント・マネージャ・エリアでの操作」参照）。

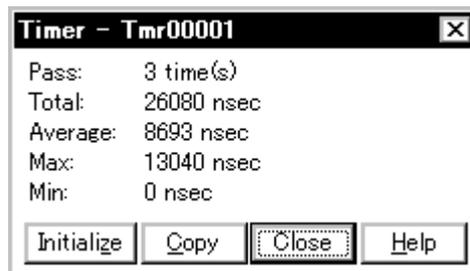
タイマ測定結果ダイアログ

実行時間測定結果の表示を行います（「5.10 タイマ機能」参照）。

タイマ・ダイアログの <View Always> ボタンをクリックすることにより、タイマ・イベント条件に対して 1 対 1 に対応してオープンします（複数オープン可能）。

同時にオープンできるのは 257 個まで（Run-Break イベント含む）ですが、同時に測定できる数は「5.13.4 各種イベント条件の有効イベント数」によります。

図 7 - 43 タイマ測定結果ダイアログ



- ・ オープン方法
- ・ 各エリア説明
- ・ 機能ボタン

オープン方法

タイマ・ダイアログ上で、タイマ・イベント条件を選択し <View Always> ボタンをクリック

各エリア説明

(1) 実行時間表示エリア

タイマ・ダイアログと同様です。(4) 実行時間表示エリアを参照してください。

機能ボタン

Initialize	測定結果をクリアします。
Copy	測定結果をクリップ・ボードにテキスト形式でコピーします。
Close	このダイアログをクローズします。
Help	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

トレース・ウィンドウ

トレース結果を表示します（「5.11 トレース機能」参照）。

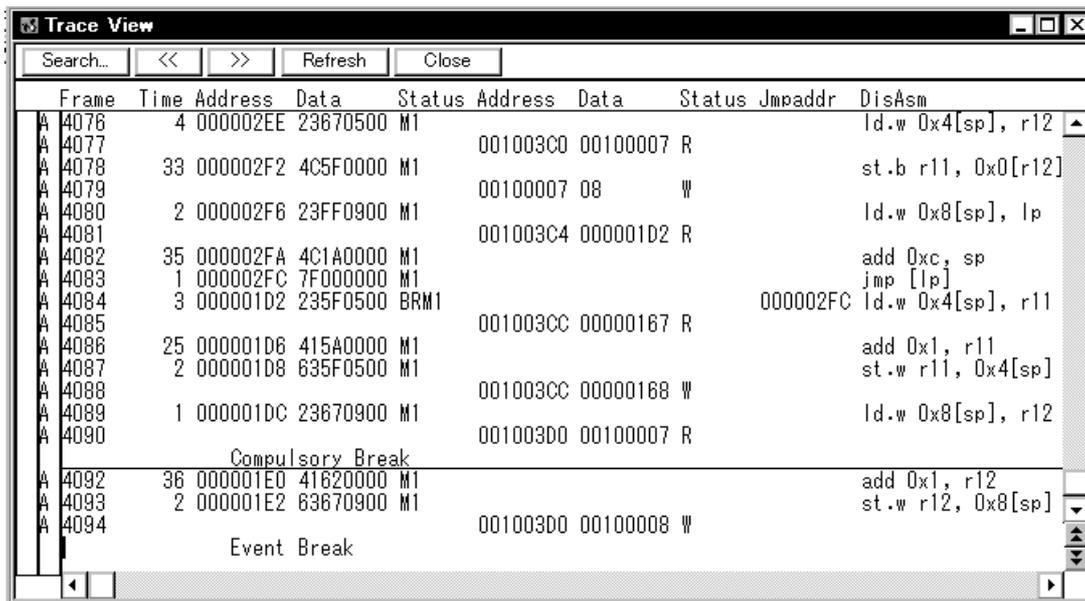
表示更新は、ブレーク時、またはステップ実行時に行われます。

このウィンドウでは、トレース結果と混合させたソース・ファイルの表示を行う混合表示モード（トレース・ウィンドウ）があります。

また、他ウィンドウとの連結機能を持ちます（「5.18.3 トレース結果とウィンドウの連結機能」参照）。

コンテキスト・メニュー、機能ボタン等によるさまざまな操作が可能です。

図7 - 44 トレース・ウィンドウ



- オープン方法
- 各エリア説明
- [表示]メニュー（トレース・ウィンドウ専用部分）
- コンテキスト・メニュー
- 機能ボタン

オープン方法



ボタンをクリック，または[ブラウザ]メニュー [トレース]を選択

各エリア説明

- (1) ポイント・マーク表示エリア
- (2) トレース・モード表示エリア
- (3) トレース結果表示エリア

(1) ポイント・マーク表示エリア

イベント設定状態を表示するエリアです。

対応するトレース・アドレスに、実行イベント、またはアクセス・イベントが設定されている場合、イベントの種類に対応するマークが表示されます。

なお、表示されるマークはトレース時のものではなくトレース結果表示時に設定されているイベントです。

(2) トレース・モード表示エリア

トレース・モードの種類を表示するエリアです。

A	無条件トレース, またはセクション・トレースされたフレーム
Q	クオリファイ・トレースされたフレーム
S	ステップ実行フレーム
T	ディレイ・トリガ・フレーム

(3) トレース結果表示エリア

Frame	Time	Address	Data	Status	Address	Data	Status	Jumpaddr	DisAsm
4083	1	000002FC	7F000000	M1					jmp [lp]
4084	3	000001D2	235F0500	BRM1				000002FC	ld.w 0x4[sp], r11
4085					001003CC	00000167	R		
4086	25	000001D6	415A0000	M1					add 0x1, r11
4087	2	000001D8	635F0500	M1					st.w r11, 0x4[sp]
4088					001003CC	00000168	W		

(a) (b) (c) (d) (e) (f)

トレース結果を表示するエリアです。

SM plus では、プログラム実行の切れ目として1本の横線(ブロック情報)が表示されます。

なお、トレーサ停止時には「表7-14 トレーサ停止要因」が表示されます。

表7-14 トレーサ停止要因

要因表示	意味
Event Break	イベントによるブレーク
Trace Full Break	トレース・メモリ・フルによるブレーク
Non Map Break	ノンマップ・ブレークをアクセスした
Write Protect	ライトプロテクト領域に対してライトしようとした
IOR Illegal	周辺 I/O レジスタに対してイリーガルなアクセスを行った
Relocation Break	初期設定と異なるリロケーション命令を実行した
Step Break	ステップ実行ブレーク
Compulsory Break	マニュアル・ブレーク

表 7 - 14 トレーサ停止要因

要因表示	意味
Stack Overflow	スタック・オーバフローによるブレイク
Uninitialize Memory read	初期化していないメモリをリードした
Time Over Break	実行時間オーバによるブレイク
Target VCC Break	ターゲット VCC ブレイク
Latchup Break	ラッチアップ・ブレイク
Target Reset Error	ターゲット・リセット・エラーによるブレイク
Target Clock	ターゲット・クロック・ブレイク
Trace Stop	トレース・ストップ
Security Protect	セキュリティ保護領域に対してアクセスを行った

各エリアの表示 / 非表示は、[トレース表示選択ダイアログ](#)で選択できます。

(a) Frame (トレース・フレーム番号表示)

トレース・フレーム番号を表示するエリアです。

(b) Time (タイムタグ表示)

1つ前のトレース内容の実行開始から現在のトレース内容の実行開始までに、ターゲット・チップが何クロックを要したかを表示するエリアです。

表示内容は、[トレース表示選択ダイアログ](#)でクロック数表示または時間表示に切り替え可能です。

[拡張オプション設定ダイアログ](#)で、カウント数の分周率を最大 1M 分周まで選択可能です。また累積表示の設定が可能です。

クロック数とタイムタグ値は次のように対応しています。

表 7 - 15 クロック数とタイムタグ値

クロック数	タイムタグ値			
	分周率 1	分周率 2	分周率 4	分周率 8
1	1	1	1	1
2	2	2	2	2
3	3	2	2	2
4	4	3	2	2
5	5	3	2	2
6	6	4	3	2
7	7	4	3	2
8	8	5	3	2
9	9	5	3	2

(c) Address Data Status (フェッチ系アクセス表示)

プログラムのフェッチ結果、およびスナップ内容を表示するエリアです。

(i) Status の表示により、(ii) Address Data の表示内容が異なります。

(i) Status

ステータスの種類には次のものがあります。

プログラムフェッチ表示

BRM1	分岐後の最初の命令の1バイト目のフェッチ フェッチ・アドレスがシンボルの先頭の場合は、1行を青色で強調表示にします。
M1	命令の1バイト目のフェッチ
空白	命令の6バイト目 / 8バイト目のフェッチ V850E 接続時

スナップ表示

SNAP	スナップ表示
------	--------

参考 6バイト長、8バイト長の命令コードを表示する場合は、先頭4バイトは1フレーム目に、残りバイトは2フレーム目、3フレーム目に表示されます。また、2命令が同時に実行された場合は、1フレーム表示が2行になり、下位アドレス側の命令コードが1行目に、上位アドレス側の命令コードが2行目に表示されます。

(ii) Address Data

アドレスとデータを表示するエリアです。(i) Status の表示により、次のように表示内容が異なります。

プログラムフェッチ表示

Address	フェッチ・アドレス表示
Data	フェッチ・データ表示

スナップ表示

項目	スナップ種別	表示内容
Address	レジスタ	レジスタ名
	周辺 I/O レジスタ	周辺 I/O レジスタ名
	メモリ	メモリ・アドレス
Data	レジスタ	レジスタ値
	周辺 I/O レジスタ	周辺 I/O レジスタ値
	メモリ	メモリ内容

(c) Address Data Status (データ系アクセス表示)

データのアクセス結果を表示するエリアです。

Status

R	データ・リード
W	データライト

(d) Jmpaddress (分岐元アドレス表示)

分岐元の最終アドレスを表示するエリアです。

(i) **Status** が、BRM1 の時のみ表示します。

(e) DisAsm (二モニック表示)

逆アセンブル結果を表示するエリアです ((i) **Status** が、BRM1, M1 の時のみ表示)。

2 命令同時実行時の命令コードを表示する場合、一方の命令を 1 行目に表示し、同時に実行された命令を 2 行目に表示します (V850E 接続時のみ表示)。

[表示]メニュー (トレース・ウィンドウ専用部分)

トレース・ウィンドウのアクティブ時には、共通の **[表示]メニュー** に以下の項目が追加されます。

表示選択 ...	表示内容の選択を行います。 トレース表示選択ダイアログ をオープンします。
ピックアップ	ピックアップ表示の設定を行います。
ピックアップしない	ピックアップ表示しません (デフォルト)。
検索条件一致	検索条件に一致したフレームをピックアップ表示します。
スナップ	スナップ・フレームをピックアップ表示します。
BRM1	プログラム分岐後の最初の M1 フェッチ・フレームをピックアップ表示します。
混合表示	ソース表示の混合表示 / 非表示を切り替えます。 チェックあり：混合表示 チェックなし：非表示 (デフォルト)
ウィンドウ連結	トレース・ウィンドウ と次のウィンドウの連結を設定します (「 5.18.3 トレース結果とウィンドウの連結機能 」参照)。 チェックのあるウィンドウと連動します。
ソース	ソース・テキスト・ウィンドウ と連結
アセンブル	逆アセンブル・ウィンドウ と連結
メモリ	メモリ・ウィンドウ と連結
カバレッジ	カバレッジ・ウィンドウ と連結

コンテキスト・メニュー

移動 ...	表示位置を移動します。 フレーム指定ダイアログ をオープンします。
トレースクリア	トレース・データをクリアします。
表示選択 ...	表示内容の選択を行います。 トレース表示選択ダイアログ をオープンします。
ピックアップ	ピックアップ表示の設定を行います。
ピックアップしない	ピックアップ表示しません (デフォルト)
検索条件一致	検索条件に一致したフレームをピックアップ表示します。
スナップ	スナップ・フレームをピックアップ表示します。
BRM1	プログラム分岐後の最初の M1 フェッチ・フレームをピックアップ表示します。
混合表示	ソース表示の混合表示 / 非表示を切り替えます。 チェックあり: 混合表示 チェックなし: 非表示 (デフォルト)
ウィンドウ連結	トレース・ウィンドウと次のウィンドウの連結を設定します (「5.18.3 トレース結果とウィンドウの連結機能」 参照)。
ソース	ソース・テキスト・ウィンドウ と連結
アセンブル	逆アセンブル・ウィンドウ と連結
メモリ	メモリ・ウィンドウ と連結
カバレッジ	カバレッジ・ウィンドウ と連結
ソース	カーソル位置のデータ値をジャンプ先アドレスとして、該当するソース・テキストおよびソース行を表示します (「5.18.2 ジャンプ機能」 参照)。 ただし、ジャンプ先アドレスに行情報がない場合には、ジャンプすることはできません。 ソース・テキスト・ウィンドウ をオープンします。 アクティブ状態のソース・テキスト・ウィンドウが表示されている場合は、そのウィンドウを最前面 (操作対象) に表示します。
アセンブル	カーソル位置のデータ値をジャンプ先アドレスとして、そのアドレスから逆アセンブル表示します (「5.18.2 ジャンプ機能」 参照)。 逆アセンブル・ウィンドウ をオープンします。 アクティブ状態の逆アセンブル・ウィンドウが表示されている場合は、そのウィンドウを最前面 (操作対象) に表示します。
メモリ	カーソル位置のデータ値をジャンプ先アドレスとして、そのアドレスからメモリ内容を表示します (「5.18.2 ジャンプ機能」 参照)。 メモリ・ウィンドウ をオープンします。 アクティブ状態のメモリ・ウィンドウが表示されている場合は、そのウィンドウを最前面 (操作対象) に表示します。
カバレッジ	カーソル位置のデータ値をジャンプ先アドレスとして、そのアドレスからカバレッジ測定結果を表示します (「5.18.2 ジャンプ機能」 参照)。 カバレッジ・ウィンドウ をオープンします。 アクティブ状態のカバレッジ・ウィンドウが表示されている場合は、そのウィンドウを最前面 (操作対象) に表示します。

機能ボタン

Search...	<p>トレース・サーチ・ダイアログをオープンして、トレース結果の検索、またはピックアップを行います。</p> <p>検索結果は、トレース・ウィンドウ上で反転表示されます。</p> <p>このボタンは、スナップ・フレームや BRM1 フレームをピックアップ表示している時は、選択不可です。</p> <p>[表示]メニュー [検索...] 選択時と同様の動作です。</p>
<<	<p>トレース・サーチ・ダイアログで設定した検索条件に一致するトレース結果を、カーソル位置のフレームから前方向（表示の上）に検索します。</p> <p>このボタンは、ピックアップ表示時には選択不可です。</p>
>>	<p>トレース・サーチ・ダイアログで設定した検索条件に一致するトレース結果を、カーソル位置のフレームから後ろ方向（表示の下）に検索します。</p> <p>このボタンは、ピックアップ表示時には選択不可です。</p>
Refresh	<p>ウィンドウの内容を最新のデータに更新します。</p>
Close	<p>このウィンドウをクローズします。</p>

トレース・サーチ・ダイアログ

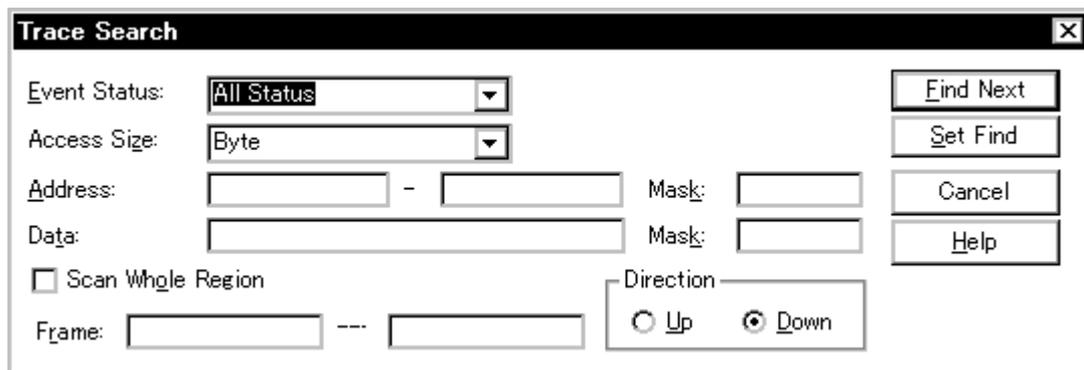
トレース・ウィンドウ上のトレース・データの検索やピックアップを行います（「5.11 トレース機能」参照）。このダイアログは、[表示]メニュー [ピックアップ] [ピックアップしない]を選択してからこのダイアログをオープンすると、トレース・データ検索用として、[表示]メニュー [ピックアップ] [検索条件一致...]を選択してからこのダイアログをオープンするとピックアップ表示用としてオープンします。

各項目を設定し、<Find Next> ボタンをクリックすることにより、検索を開始します。

また、<Set Find> ボタンをクリックすることで、トレース・ウィンドウ上の方向ボタン（<< , >>）での検索が可能になります。

注意 メニュー・バーやトレース表示選択ダイアログで、スナップ・フレームやプログラム分岐後の最初のM1フェッチ・フレーム（BRM1）のピックアップが指定されている場合は、このダイアログを呼び出すことはできません。

図7 - 45 トレース・サーチ・ダイアログ



- [オープン方法](#)
- [各エリア説明](#)
- [機能ボタン](#)

オープン方法

トレース・ウィンドウをカレント・ウィンドウにし、[表示]メニュー [検索...]を選択、または<Search> ボタンをクリック

各エリア説明

- (1) Event Status (ステータス選択エリア)
- (2) Access Size (アクセス・サイズ選択エリア)
- (3) Address ,Mask (アドレス設定エリア)
- (4) Data ,Mask (データ設定エリア)
- (5) Scan Whole Region (サーチ条件指定エリア)
- (6) Direction (サーチ方向指定エリア)
- (7) Frame (サーチ範囲指定エリア)

(1) Event Status (ステータス選択エリア)

Event Status:

ステータス条件の選択を行うエリアです。

省略した場合には、すべてのフレーム (All status) を検索対象とします。

All status	すべてのフレーム (省略時選択)
BRM1 Fetch	プログラム分岐後の最初の M1 フェッチ
M1 Fetch	M1 フェッチ (BRM1 を含む)
R/W	データ・リード/ライト (R, W を含む)
Read	データ・リード
Write	データ・ライト

(2) Access Size (アクセス・サイズ選択エリア)

Access Size:

アクセス・サイズ条件の選択を行うエリアです。

この選択により、トレース・データを検索する際のデータ条件のアクセス幅が決定されます。

Byte	データ条件を 8 ビット幅で検索 (8 ビット・アクセス時のみ)
Half Word	データ条件を 16 ビット幅で検索 (16 ビット・アクセス時のみ)
Word	データ条件を 32 ビット幅で検索 (32 ビット・アクセス時のみ)
No Condition	アクセス・サイズの検索をしない (Data エリアは入力不可)

Bit	<p>データ条件を1ビット幅で検索(8ビット・アクセス時のみ) この場合、データ条件を1ビット幅で検索しますが、シミュレータの動作上、ビットそのものへのアクセスは直接トレースされないため、SM plusは内部的にアドレス条件、データ条件を次のように設定することで疑似的なビット・アクセスを検索しています。</p> <p>入力例) アドレス: FE20.1 データ: 1</p> <p>トレース検索の設定) アドレス: FE20 データ: 00000010B マスク: 11111101B</p> <p>そのため、同一アドレスの他のビットに対するアクセスや、同一アドレスの8ビット全体に対するアクセスでも、指定した[アドレス・ビット]の値が一致している場合には、指定したステータスに従ってトレース・データが検索されます。</p>
-----	---

注意 ステータス条件にアクセス・イベントを指定した場合、Bit の選択肢は表示されません。また、Bit を指定してもエラーとなります。

設定を省略した場合は、アドレス条件およびデータ条件から次のように設定されます。

- アドレス条件がビット設定の場合、Bit
- データ条件が8ビットの場合、Byte
- データ条件が16ビットの場合、Half Word
- データ条件が32ビットの場合、Word
- データ条件の指定が省略された場合、No Condition

(3) Address ,Mask (アドレス設定エリア)

Address: - Mask:

アドレス条件を指定するエリアです。

数値入力時のデフォルト進数は16進です。シンボルでの指定方法も可能です。

設定範囲は次のようになります。

表7 - 16 アドレス条件の設定範囲(トレース)

設定範囲	条件
0 アドレス値 0xFFFFFFFF	なし
0 マスク値 0xFFFFFFFF	なし

(a) Address

アドレス条件のアドレス値(下位アドレス-上位アドレス)を設定するエリアです(省略可)。

次の3種類の設定が可能です。

(i) ポイント設定

下位アドレスのみに値を設定するか、下位アドレスと上位アドレスに同じ値を設定します。

(ii) 範囲設定

下位アドレスと上位アドレスに値を設定します。マスク設定不可。

(iii) ビット設定

下位アドレスのみに値を設定するか、下位アドレスと上位アドレスに同じ値を設定します。

値は " address.bit " の形式で指定します。マスク設定不可。

なお、ビット位置を示す bit の値は 0 bit 7 でなければなりません。

(d) Mask

アドレス値に対するマスク値を設定します ((i) ポイント設定の場合のみ可)。

マスク値の設定を省略した場合にはマスクを行いません。

マスク値が 1 となるビットは、アドレス値が 0 または 1 のどちらであっても構いません。

例 1)

Address	0x4000 - 0x4000
Mask	0xFF

このように設定した場合、0x4000 - 0x40FF 番地までが条件と一致します。

例 2)

Address	0x4000 - 0x4000
Mask	0x101

このように設定した場合、0x4000、0x4001、0x4100、0x4101 番地が条件と一致します。

(4) Data, Mask (データ設定エリア)

Data: Mask:

データ条件を設定するエリアです。

数値入力時のデフォルトの進数は 16 進です。

設定範囲は (2) Access Size (アクセス・サイズ選択エリア) での指定により異なります (「表 7 - 22 データ条件の設定範囲」参照)。

(a) Data

データ条件を設定するデータ値を指定します。シンボルでの指定方法も可能です。

(b) Mask

データ値に対するマスク値を設定します。

マスク設定を行うと、マスク値が 1 となるビットは、データ値が 0 または 1 のいずれであっても構いません。

例 1)

Data	0x4000
Mask	0xFF

このように設定した場合、0x4000 - 0x40FF 番地までが条件と一致します。

例 2)

Data	0x4000
Mask	0x101

このように設定した場合、0x4000, 0x4001, 0x4100, 0x4101 番地が条件と一致します。

(5) Scan Whole Region (サーチ条件指定エリア)

Scan Whgle Region

指定した範囲全体を検索する場合、チェックします。

(6) Direction (サーチ方向指定エリア)

Direction

Up Down

検索する方向を選択するエリアです。

Up	前方検索 現在カーソルのある位置より前 (表示の上) 方向に検索します。
Down	後方検索 (デフォルト) 現在カーソルのある位置より後ろ (表示の下) 方向に検索します。

(7) Frame (サーチ範囲指定エリア)

Frame: ---

検索するフレーム番号を指定するエリアです。

数値入力時のデフォルト進数は 10 進です。 [フレーム番号の指定形式](#)での指定も可能です。

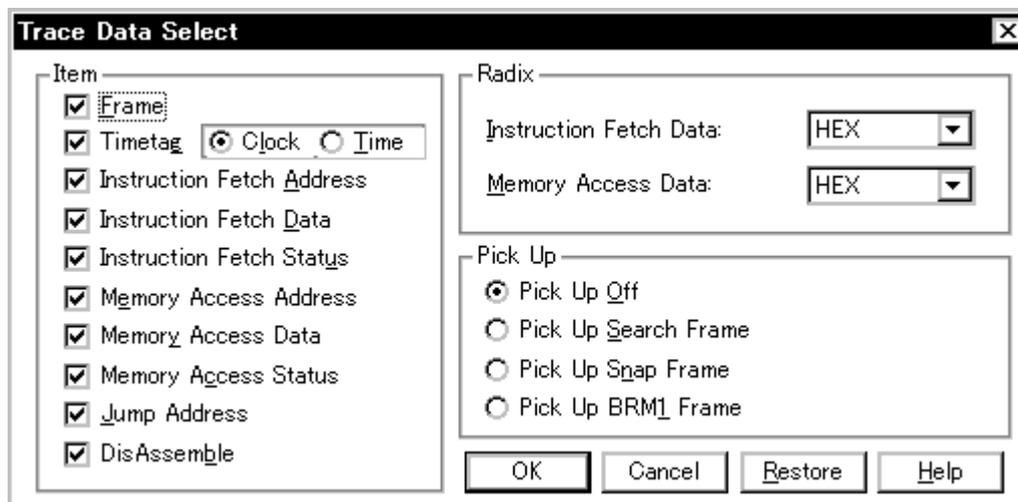
機能ボタン

Find Next	指定したサーチ・データを条件に従って検索します。 検索の結果、一致するフレームを反転表示します。連続して検索する場合には、再度このボタンを押します。
Set Find	指定された条件を検索条件として設定しダイアログをクローズします。
Pick Up (Stop (検索中))	指定したサーチ・データの条件に従って、ピックアップします。 検索の結果、一致するフレームをピックアップします。条件を変えてピックアップする場合には、再度このボタンを押します。
Cancel	このダイアログをクローズします。
Help	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

トレース表示選択ダイアログ

トレース・ウィンドウに表示する項目を選択します（「5.11 トレース機能」参照）。

図 7 - 46 トレース表示選択ダイアログ



- ・ オープン方法
- ・ 各エリア説明
- ・ 機能ボタン

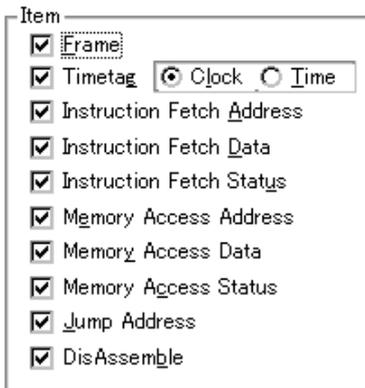
オープン方法

トレース・ウィンドウをカレント・ウィンドウにし、[表示]メニュー [表示選択...]を選択

各エリア説明

- (1) Item (トレース表示項目選択エリア)
- (2) Radix (トレース表示進数選択エリア)
- (3) Pick Up (ピックアップ選択エリア)

(1) Item (トレース表示項目選択エリア)



トレース・ウィンドウに表示する項目を選択するエリアです。チェックを外すことにより該当エリアが非表示になります。

Frame	(a) Frame (トレース・フレーム番号表示) フィールド
Timetag	(b) Time (タイムタグ表示) フィールド クロック表示 (Clock) / 時間表示 (Time) の選択が可能です。
Instruction Fetch Address	(c) Address Data Status (フェッチ系アクセス表示) の Address フィールド
Instruction Fetch Data	(c) Address Data Status (フェッチ系アクセス表示) の Data フィールド
Instruction Fetch Status	(c) Address Data Status (フェッチ系アクセス表示) の Status フィールド
Memory Access Address	(c) Address Data Status (データ系アクセス表示) の Address フィールド
Memory Access Data	(c) Address Data Status (データ系アクセス表示) の Data フィールド
Memory Access Status	(c) Address Data Status (データ系アクセス表示) の Status フィールド
Jump Address	(d) Jmpaddress (分岐元アドレス表示) フィールド
DisAssemble	(e) DisAsm (ニモニク表示) フィールド

(2) Radix (トレース表示進数選択エリア)



表示進数を選択するエリアです。

次の表示フィールドに対する変更が可能です。

Instruction Fetch Data	(c) Address Data Status (フェッチ系アクセス表示) の Data フィールド
Memory Access Data	(c) Address Data Status (データ系アクセス表示) の Data フィールド

Hex	16 進表示 (デフォルト)
Dec	10 進数表示
Oct	8 進数表示
Bin	2 進数表示

(3) Pick Up (ピックアップ) 選択エリア

Pick Up

Pick Up Off

Pick Up Search Frame

Pick Up Snap Frame

Pick Up BRM1 Frame

ピックアップ条件を選択するエリアです。

Pick Up Off	ピックアップ表示しない (デフォルト)
Pick Up Search Frame	検索条件に一致した、フレームをピックアップ表示する
Pick Up Snap Frame	スナップ・フレームをピックアップ表示する
Pick Up BRM1 Frame	プログラム分岐後の最初の M1 フェッチ・フレームをピックアップ表示する

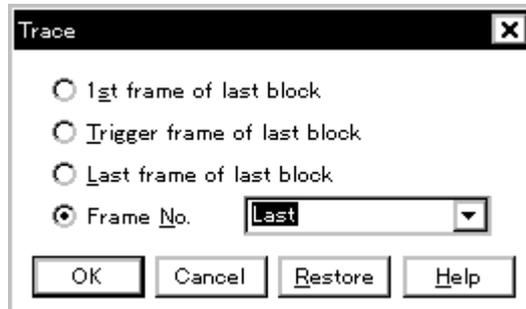
機能ボタン

OK	トレース・ウィンドウに選択結果を反映します。
Cancel	このダイアログをクローズします。
Restore	変更を元に戻します。
Help	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

フレーム指定ダイアログ

トレース・ウィンドウの表示開始位置を指定します（「5.11 トレース機能」参照）。

図7 - 47 フレーム指定ダイアログ



- ・ オープン方法
- ・ 各エリア説明
- ・ 機能ボタン

オープン方法

トレース・ウィンドウをカレント・ウィンドウにし、[表示]メニュー [移動...]を選択

各エリア説明

(1) フレーム選択エリア

- 1st frame of last block
- Trigger frame of last block
- Last frame of last block
- Frame No.

移動先のフレームを選択するエリアです。

(a) 1st frame of last block

トレース・データ中の最新のブロックの中で、最初のフレームに移動させる場合、選択します。

(b) Trigger frame of last block

トレース・データ中の最新のブロック・フレームの中で、トリガ・フレームに移動させる場合、選択します。

(c) Last frame of last block

トレース・データの最後のフレームに移動させる場合、選択します。

(d) Frame No.

指定したフレーム番号に移動させる場合、選択します。

指定は、ドロップダウン・リストからの選択、または直接入力により行います。

デフォルトでは、呼び出したウィンドウ内で選択した文字列、または "Last" が表示されます。

数値入力時のデフォルト進数は 10 進です。

0 を指定した場合、トレース・データの最初のフレームに移動します。

なお、次表の形式でも指定可能です。入力履歴は最大 16 個まで残すことができます。

表 7 - 17 フレーム番号の指定形式

指定	短縮形	内容
+ 数値	なし	カーソル位置のフレームから指定されたフレーム数 (数値) だけ後ろ方向 (表示の下方) へ移動
- 数値	なし	カーソル位置のフレームから指定されたフレーム数 (数値) だけ前方向 (表示の上方向) へ移動
Top	O	トレース・データの最初のフレームに移動
First	S	カレント・トレース・ブロックの先頭フレームに移動
Trigger	T	カレント・トレース・ブロックのトリガ・フレームへ移動
Last	L	カレント・トレース・ブロックの最終フレームに移動
Bottom	B	トレース・データの最後のフレームに移動

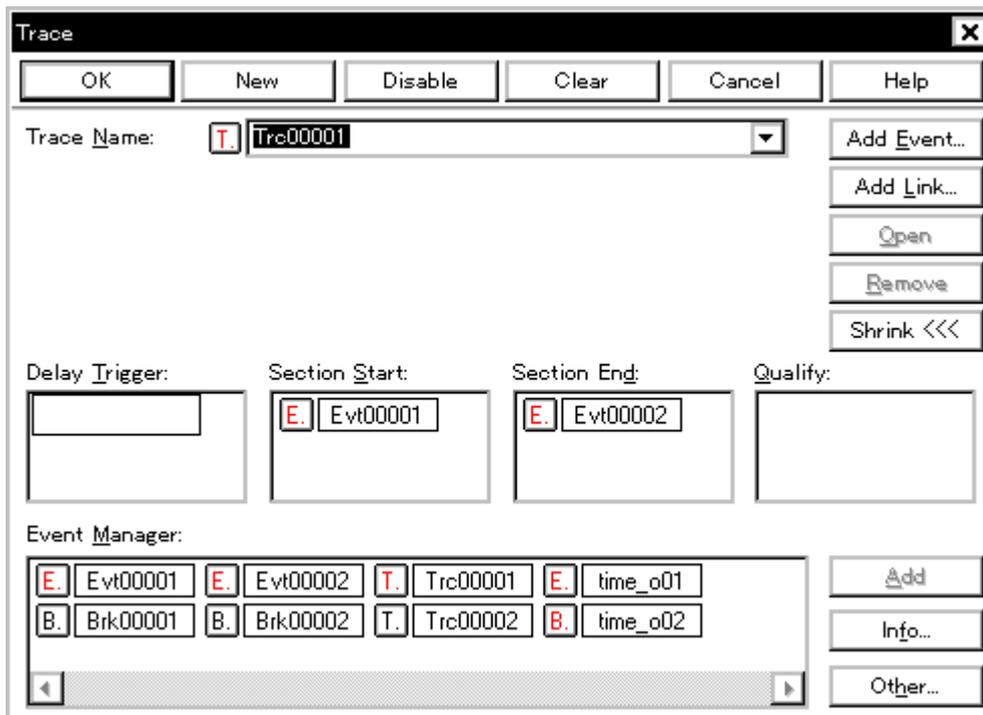
機能ボタン

OK	指定した位置からトレース表示を行います。
Cancel	このダイアログをクローズします。
Restore	入力したデータを元に戻します。
Help	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

トレース・ダイアログ

トレース・イベント条件の登録、設定、および表示を行います(「5.13 イベント機能」、「5.11 トレース機能」参照)。
 トレース・イベント条件の登録、設定は、このダイアログ上で各項目を設定し、<OK> ボタンをクリックすることにより行います(最大 256 個)。登録したトレース・イベント条件は、イベント・マネージャで管理されます。
 なお、同時に設定可能な(有効になる)トレース・イベント条件数には制限があります(「5.13.4 各種イベント条件の有効イベント数」参照)。

図 7 - 48 トレース・ダイアログ



- オープン方法
- 各エリア説明
- 機能ボタン(イベント関連)

オープン方法



ボタンをクリック,または[イベント]メニュー [トレース...]を選択

各エリア説明

- (1) Trace Name (トレース・イベント名設定エリア)
- (2) Delay Trigger (ディレイ・トリガ条件設定エリア)
- (3) Section Start , Section End (セクション・トレース範囲条件設定エリア)
- (4) Qualify (クオリファイ・トレース条件設定エリア)
- (5) Event Manager (イベント・マネージャ・エリア)

(1) Trace Name (トレース・イベント名設定エリア)

Trace Name: 

トレース・イベント名の設定を行います。

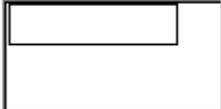
名前は最大 8 文字までの英数字を直接入力してください。

すでに登録済みのイベント条件の内容を表示するときは、ドロップダウン・リストから選択します。

このエリアの左側のマークは、イベント条件の使用状況を示します(「表 5 - 13 イベント・アイコン」参照)。また、灰色のマークは、そのイベント条件が編集中で未登録の状態を示しています。

このマークをクリックすることにより、イベント条件の有効/無効を切り替えることができます。

(2) Delay Trigger (ディレイ・トリガ条件設定エリア)

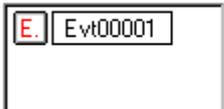
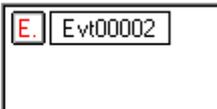
Delay Trigger:


ディレイ・トリガ・イベント条件を設定します(「5.11.5 条件トレースの設定」参照)。

このエリアに設定できるイベント条件の個数は 64 個、イベント・リンク条件の個数は 16 個までです。

イベント条件の設定は、イベント・マネージャ・エリアから、設定するイベント・アイコンをドラッグして、このエリア上にドロップすることにより簡単に行えます。詳細は、「5.13.3 各種イベント条件の設定」を参照してください。

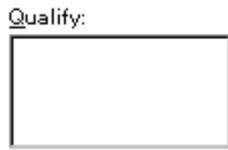
(3) Section Start , Section End (セクション・トレース範囲条件設定エリア)

Section Start:  Section End: 

セクション・トレース開始用、終了用のイベント条件を設定します(「5.11.5 条件トレースの設定」参照)。

このエリアに設定できるイベント条件の個数は 64 個、イベント・リンク条件の個数は 16 個までです。

設定は、イベント・マネージャ・エリアから、設定するイベント・アイコンをドラッグし、このエリア上にドロップすることにより簡単に行えます。詳細は、「5.13.3 各種イベント条件の設定」を参照してください。

(4) Qualify (クオリファイ・トレース条件設定エリア)

クオリファイ・トレース用のイベント条件を設定します(「[5.11.5 条件トレースの設定](#)」参照)。

イベントを複数設定した場合には、それぞれイベントが成立するごとにトレースします。

このエリアに設定できるイベント条件の個数は64個、イベント・リンク条件の個数は16個までです。

設定は、イベント・マネージャ・エリアから、設定するイベント・アイコンをドラッグし、このエリア上にドロップすることにより簡単に行えます。詳細は、「[5.13.3 各種イベント条件の設定](#)」を参照してください。

(5) Event Manager (イベント・マネージャ・エリア)

登録されているイベント一覧を表示するエリアです(「[表 5 - 13 イベント・アイコン](#)」,「[\(4\) イベント・マネージャ・エリアでの操作](#)」参照)。

ディレイ・カウント設定ダイアログ

ディレイ・カウント値の設定、および表示を行います（「5.11 トレース機能」参照）。

ディレイ・カウントを設定することにより、[トレース・ダイアログ](#)で設定したディレイ・トリガ・イベント条件成立後、指定したディレイ・カウント値分のトレースを行うことができます。

なお、ディレイ・トリガ・イベント条件は、[実行]メニュー [ディレイ・トリガ・ストップ]、または[ディレイ・トリガ・ブレーク]を選択している場合のみ有効になります。

図7 - 49 ディレイ・カウント設定ダイアログ



- ・ [オープン方法](#)
- ・ [各エリア説明](#)
- ・ [機能ボタン](#)

オープン方法

[イベント]メニュー [ディレイカウント...]を選択

各エリア説明

(1) Delay Count (ディレイ・カウント設定エリア)

Delay Count

ディレイ・カウント値を指定するエリアです（単位：フレーム）。

設定可能範囲は0（デフォルト）- 32767 です。

機能ボタン

OK	設定を有効にしてこのダイアログをクローズします。
Restore	設定を元に戻します。
Cancel	このダイアログをクローズします。
Help	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

カバレッジ・ウィンドウ

カバレッジ結果の表示を行います（「5.12 カバレッジ測定機能」参照）。

表示記号の詳細は「表7 - 18 カバレッジ・データのステータス一覧」を参照してください。

このウィンドウでは、コンテキスト・メニュー、機能ボタン等によるさまざまな操作が可能です。

このウィンドウには、アクティブ状態とスタティック状態の2つの状態があり、アクティブ状態時には、トレース結果とウィンドウの連結機能を持ちます（「5.18 ウィンドウ共通機能」参照）。

図7 - 50 カバレッジ・ウィンドウ

Addr	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
00000000	⊗	⊗	⊗	⊗	A	A	⊗	⊗	R	R	.	.	X	X	X	
00000010	.	.	R	R	W	W	W	W	A	A	A	A	A	A	W	
00000020	A	A	A	A	.	R	W	.	W	W	
00000030	X	X	X	X	X	X	.	.	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	#	#	
00000040	⊗	⊗	A	A	A	A	A	A	R	A	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	
00000050	⊗	⊗	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	
00000060	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	
00000070	#	⊗	A	A	X	⊗	A	A	A	A	⊗	⊗	A	A	⊗	
00000080	⊗	⊗	⊗	⊗	#	#	#	#	X	X	X	X	X	X	X	
00000090	⊗	⊗	⊗	⊗	X	X	X	X	⊗	⊗	⊗	⊗	#	X	X	
000000A0	⊗															

- ・ オープン方法
- ・ 各エリア説明
- ・ [表示]メニュー（カバレッジ・ウィンドウ専用部分）
- ・ コンテキスト・メニュー
- ・ 機能ボタン

オープン方法

 ボタンをクリック，または[ブラウザ]メニュー [カバレッジ]を選択

各エリア説明

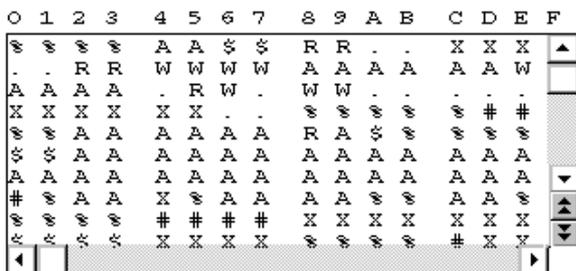
- (1) Addr（アドレス表示エリア）
- (2) 01234...（カバレッジ表示エリア）

(1) Addr (アドレス表示エリア)



カバレッジ・アドレスを表示するエリアです。

(2) 01234... (カバレッジ表示エリア)



カバレッジ結果を表示するエリアです。

このエリアは、[ジャンプ機能](#)を持っています。

なお、表示モードの切り替えは、[表示]メニューにより指定します。

表7 - 18 カバレッジ・データのステータス一覧

表示	意味
1 バイト表示モード	
.	実行，リード，ライトすべてなし
X	実行のみ
R	リードのみ
W	ライトのみ
A	リードとライトのみ
\$	実行とリードのみ
#	実行とライトのみ
%	実行，リード，ライトすべてあり
64/1024 バイト表示モード	
.	64/1024 バイト内の全アドレスについて実行，リード，ライトすべてなし
X	64/1024 バイト内の全アドレスを実行
R	64/1024 バイト内の全アドレスをリード
W	64/1024 バイト内の全アドレスをライト

表7 - 18 カバレッジ・データのステータス一覧

表示	意味
A	64/1024 バイト内の全アドレスでリードとライトの両方を行った
\$	64/1024 バイト内の全アドレスで実行とリードの両方を行った
#	64/1024 バイト内の全アドレスで実行とライトの両方を行った
%	64/1024 バイト内の全アドレスで実行、リード、ライトのすべてを行った

[表示]メニュー（カバレッジ・ウィンドウ専用部分）

カバレッジ・ウィンドウのアクティブ時には、共通の [表示] メニューに以下の項目が追加されます。

1 バイト	1 バイト単位で表示（デフォルト）
64 バイト	64 バイト単位で表示
1024 バイト	1024 バイト単位で表示

コンテキスト・メニュー

移動	表示位置を移動します。 アドレス指定ダイアログ をオープンします。
1 バイト	1 バイト単位で表示（デフォルト）
64 バイト	64 バイト単位で表示
1024 バイト	1024 バイト単位で表示
ソース	カーソル位置のデータ値をジャンプ先アドレスとして、該当するソース・テキストおよびソース行を表示します（「 5.18.2 ジャンプ機能 」参照）。 ただし、ジャンプ先アドレスに行情報がない場合には、ジャンプすることはできません。 ソース・テキスト・ウィンドウ をオープンします。 アクティブ状態のソース・テキスト・ウィンドウが表示されている場合は、そのウィンドウを最前面（操作対象）に表示します。
アセンブル	カーソル位置のデータ値をジャンプ先アドレスとして、そのアドレスから逆アセンブル表示します（「 5.18.2 ジャンプ機能 」参照）。 逆アセンブル・ウィンドウ をオープンします。 アクティブ状態の逆アセンブル・ウィンドウが表示されている場合は、そのウィンドウを最前面（操作対象）に表示します。
メモリ	カーソル位置のデータ値をジャンプ先アドレスとして、そのアドレスからメモリ内容を表示します（「 5.18.2 ジャンプ機能 」参照）。 メモリ・ウィンドウ をオープンします。 アクティブ状態のメモリ・ウィンドウが表示されている場合は、そのウィンドウを最前面（操作対象）に表示します。
クリア ...	カバレッジ測定結果をクリアします。 カバレッジ・クリア・ダイアログ をオープンします。

選択 ...	1M バイト以上の空間のカバレッジ測定範囲の選択をします。 カバレッジ範囲選択ダイアログ をオープンします。
条件設定 ...	カバレッジ効率の測定条件を設定します。 カバレッジ条件設定ダイアログ をオープンします。
効率表示 ...	カバレッジ効率の表示を行います。 カバレッジ効率表示ダイアログ をオープンします。

機能ボタン

Search	カバレッジ結果を検索します。 カバレッジ・サーチ・ダイアログ をオープンします。 検索の結果は、カバレッジ・ウィンドウ上で反転表示されます。 このボタンは、1 バイト表示モード時のみ有効です。
<<	カバレッジ・サーチ・ダイアログ で設定した検索条件に一致するカバレッジ結果を、カーソル位置のアドレスから前方向（表示の上）に検索します。 検索中は <Stop> ボタンに変化します。検索中は <Stop> ボタンに変化します。 このボタンは、1 バイト表示モード時のみ有効です。
>>	カバレッジ・サーチ・ダイアログ で設定した検索条件に一致するカバレッジ結果を、カーソル位置のアドレスから後ろ方向（表示の下）に検索します。 検索中は <Stop> ボタンに変化します。 このボタンは、1 バイト表示モード時のみ有効です。
Stop（検索中）	検索を中断します。
Refresh	ウィンドウの内容を最新のデータに更新します。
Close	このウィンドウをクローズします。

カバレッジ・サーチ・ダイアログ

カバレッジ・ウィンドウ上のカバレッジ結果を検索します（「5.12 カバレッジ測定機能」参照）。

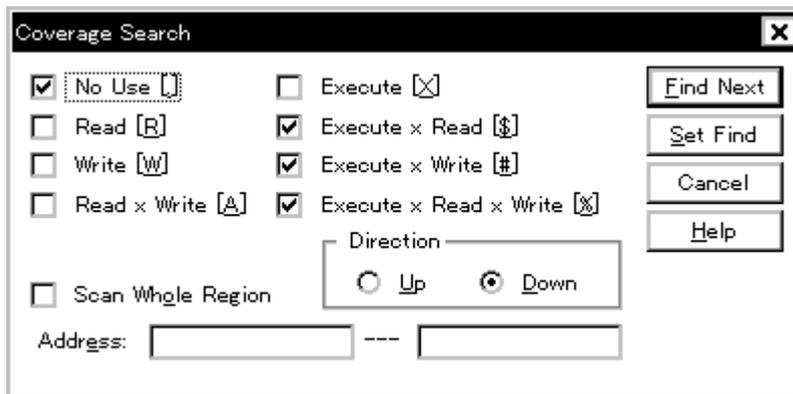
1バイト・モード表示のときのみ呼び出すことができます。

各項目を設定し、<Find Next> ボタンをクリックすることにより、検索を開始します。

また、<Set Find> ボタンをクリックすることで、カバレッジ・ウィンドウ上の方向ボタン（<< , >>）での検索が可能になります。

ノンマップ領域は検索しません。

図7 - 51 カバレッジ・サーチ・ダイアログ



- ・ [オープン方法](#)
- ・ [各エリア説明](#)
- ・ [機能ボタン](#)

オープン方法

カバレッジ・ウィンドウをカレント・ウィンドウにし、[表示]メニュー [検索...]を選択、または同ウィンドウ上の<Search> ボタンをクリック

各エリア説明

- (1) [サーチ・データ指定エリア](#)
- (2) [Scan Whole Region \(サーチ条件指定エリア\)](#)
- (3) [Direction \(サーチ方向指定エリア\)](#)
- (4) [Address \(サーチ範囲指定エリア\)](#)

(1) サーチ・データ指定エリア

- No Use [.] Execute [X]
 Read [R] Execute x Read [\$]
 Write [W] Execute x Write [#]
 Read x Write [A] Execute x Read x Write [%]

検索条件を指定するエリアです。

複数にチェックした場合には、それぞれの条件のうち、どれか1つに合致したものが検索されます（OR 検索）。

No Use [.]	実行，リード，ライトなし
Read [R]	リードのみ
Write [W]	ライトのみ
Read x Write [A]	リードとライト
Execute [X]	実行のみ
Execute x Read [\$]	実行とリード
Execute x Write [#]	実行とライト
Execute x Read x Write [%]	実行，リード，ライトのすべてあり

(2) Scan Whole Region (サーチ条件指定エリア)

- Scan Whole Region

指定した範囲全体を検索する場合，チェックします。

(3) Direction (サーチ方向指定エリア)

Direction

Up Down

検索する方向を指定するエリアです。

Up	前方検索 現在カーソルのある位置より前（表示の上）方向に検索します。
Down	後方検索（デフォルト） 現在カーソルのある位置より後ろ（表示の下）方向に検索します。

(4) Address (サーチ範囲指定エリア)

Address: ---

検索するアドレスを指定するエリアです。

数値入力時のデフォルト進数は16進です。[シンボルでの指定方法](#)も可能です。

機能ボタン

Find Next	指定したサーチ・データを条件に従って検索します。 検索の結果、一致する文字列を反転表示します。連続して検索する場合には、再度このボタンを押します。
Set Find	指定された条件を検索条件として設定し、このダイアログをクローズします。
Stop (検索中)	検索を中断します。
Cancel	このダイアログをクローズします。 データ検索中は <Stop> ボタンに変化します。
Help	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

カバレッジ・クリア・ダイアログ

指定されたアドレス範囲のカバレッジ測定結果をクリアします（「5.12 カバレッジ測定機能」参照）。
これにより、カバレッジ・ウィンドウとカバレッジ効率表示ダイアログの内容が初期化されます。

図7 - 52 カバレッジ・クリア・ダイアログ



- ・ オープン方法
- ・ 各エリア説明
- ・ 機能ボタン

オープン方法

[オプション]メニュー [カバレッジ] [クリア...]を選択

各エリア説明

(1) Address Range (アドレス指定エリア)

Address Range: --

カバレッジ結果をクリアするアドレスを指定するエリアです。

数値入力時のデフォルト進数は16進です。シンボルでの指定方法も可能です。

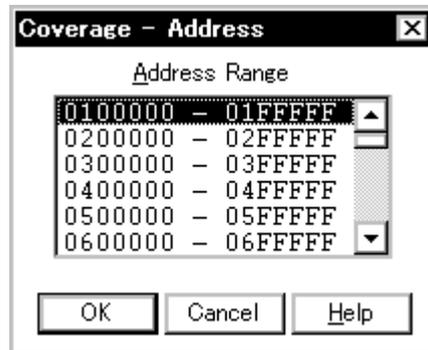
機能ボタン

OK	指定に従いアドレス範囲のカバレッジ結果をクリアします。
Stop (クリア中)	カバレッジ結果のクリアを中断します。
Cancel	このダイアログをクローズします。 クリア中は<Stop>ボタンに変化します。
Restore	入力したデータを元に戻します。
Help	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

カバレッジ範囲選択ダイアログ

カバレッジ・ウィンドウに表示するカバレッジ測定範囲の選択を行います(「5.12 カバレッジ測定機能」参照)。

図7 - 53 カバレッジ範囲選択ダイアログ



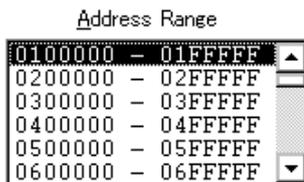
- オープン方法
- 各エリア説明
- 機能ボタン

オープン方法

[オプション]メニュー [カバレッジ] [選択...]を選択

各エリア説明

(1) Address Range (アドレス選択エリア)



任意の 1M バイト空間を選択するエリアです。

エリアを選択し <OK> ボタンをクリックすることによりカバレッジ測定範囲が決定されます。

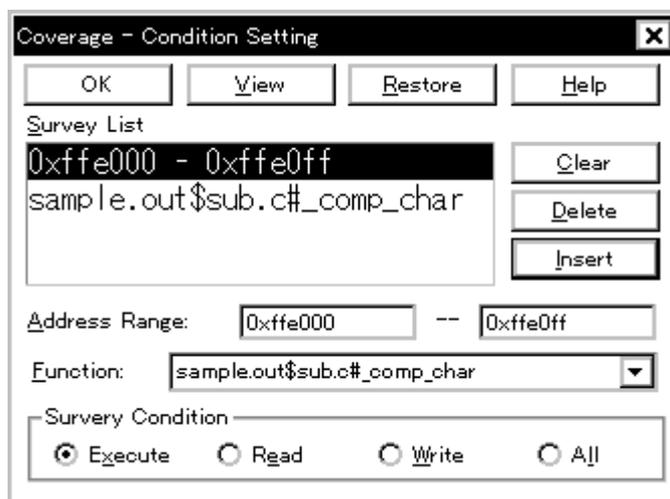
機能ボタン

OK	選択に従いカバレッジ測定範囲を有効にします。
Cancel	このダイアログをクローズします。
Help	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

カバレッジ条件設定ダイアログ

カバレッジ効率表示ダイアログで表示する内容（条件）を指定します（「5.12 カバレッジ測定機能」参照）。最大 16 個まで登録可能です。

図 7 - 54 カバレッジ条件設定ダイアログ



- オープン方法
- 各エリア説明
- 機能ボタン

オープン方法

[オプション] メニュー [カバレッジ] [条件設定 ...] を選択，またはカバレッジ効率表示ダイアログ上の <Condition> ボタンをクリック

各エリア説明

- (1) Survey List (選択リスト表示エリア)
- (2) Address Range , Function (アドレス条件指定エリア)
- (3) Survey Condition (ステータス条件指定エリア)

(1) Survey List (選択リスト表示エリア)



現在選択されている条件のリストを表示するエリアです。
<Clear>、<Delete> ボタンにより、リスト内の編集が可能です。

(2) Address Range , Function (アドレス条件指定エリア)

Address Range: --
Function:

カバレッジ効率のアドレス条件を指定するエリアです。
アドレス条件は、アドレス範囲、または関数で指定することができます。
<Insert> ボタンにより、(1) Survey List (選択リスト表示エリア) に追加されます。

(a) Address Range:

アドレス条件をアドレス範囲で追加する場合、指定します。
数値入力時のデフォルト進数は16進です。シンボルでの指定方法も可能です。

(b) Function:

アドレス条件を関数で追加する場合、指定します。
指定は、ドロップダウン・リストからの選択、または関数単位で入力して行います。
関数名は、ロード・モジュール・ファイルに登録されている関数を指定します。

(3) Survey Condition (ステータス条件指定エリア)

Survey Condition
 Execute Read Write All

カバレッジ効率のステータス条件を選択するエリアです。

Execute	プログラム実行を行った割合
Read	メモリ・リードを行った割合
Write	メモリ・ライトを行った割合
All	プログラム実行、メモリ・リード、メモリ・ライトのいずれかを行った割合

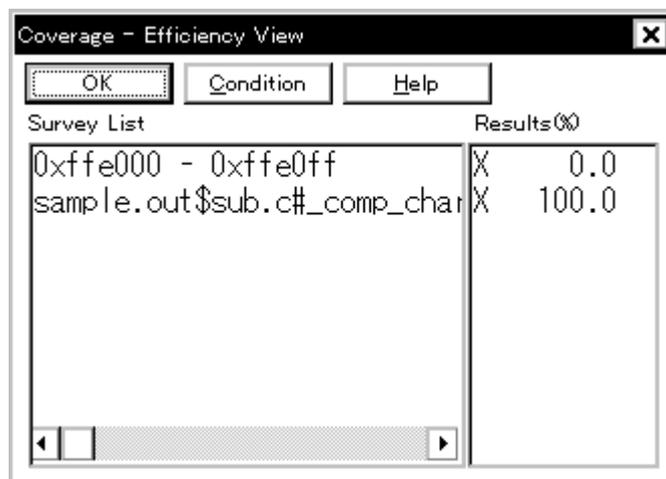
機能ボタン

Clear	(1) Survey List (選択リスト表示エリア) の内容をクリアします。
Delete	(1) Survey List (選択リスト表示エリア) で選択しているアドレス範囲、または関数名をリストから削除します。
Insert	(2) Address Range , Function (アドレス条件指定エリア) で指定したアドレス範囲、または関数名を (1) Survey List (選択リスト表示エリア) に登録します。
OK	このダイアログをクローズします。
View	カバレッジ効率の表示を行います。 カバレッジ効率表示ダイアログをオープンします。
Restore	入力したデータを元に戻します。
Help	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

カバレッジ効率表示ダイアログ

カバレッジ条件設定ダイアログで指定した範囲のカバレッジ結果を、カバレッジ効率表示します（「5.12 カバレッジ測定機能」参照）。

図7 - 55 カバレッジ効率表示ダイアログ



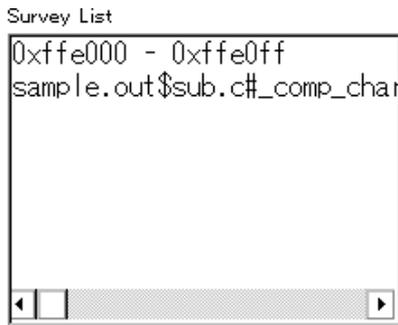
- オープン方法
- 各エリア説明
- 機能ボタン

オープン方法

[オプション] メニュー [カバレッジ] [効率表示 ...] を選択，またはカバレッジ条件設定ダイアログ上の <View> ボタンをクリック

各エリア説明

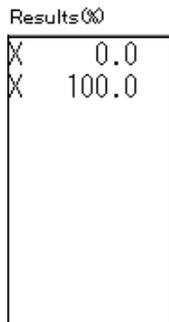
- (1) Survey List (カバレッジ範囲表示エリア)
- (2) Results(%) (カバレッジ効率表示エリア)

(1) Survey List (カバレッジ範囲表示エリア)

カバレッジ効率測定範囲を表示するエリアです。

このエリアには、[カバレッジ条件設定ダイアログ](#)にて指定された領域が表示されます。

関数名で指定された場合、"プログラム名\$ファイル名#関数名"の形式で表示します。

(2) Results(%) (カバレッジ効率表示エリア)

カバレッジ効率を表示するエリアです(「[表7 - 18 カバレッジ・データのステータス一覧](#)」参照)。

カバレッジ効率は指定されたステータス(実行, リード, ライト)が測定範囲中に何%含まれるかを表しています。

機能ボタン

OK	このダイアログをクローズします。
Condition	カバレッジ効率の表示内容を設定します。 カバレッジ条件設定ダイアログ をオープンします。
Help	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

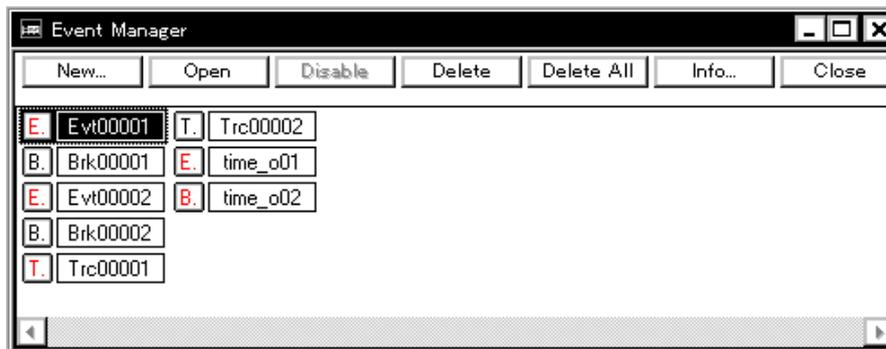
イベント・マネージャ

各種イベント条件の表示（詳細表示）、有効／無効の切り替え、削除等のイベント条件の管理を行います（「5.13 イベント機能」参照）。

このウィンドウでは、コンテキスト・メニュー、機能ボタン（イベント関連）等による操作が可能です。イベント・アイコンはジャンプ機能のジャンプ・ポインタになります。

参考 Run-Break イベントはイベント・マネージャには表示されません。

図 7 - 56 イベント・マネージャ



- ・ オープン方法
- ・ 各エリア説明
- ・ [表示]メニュー（イベント・マネージャ専用部分）
- ・ コンテキスト・メニュー
- ・ 機能ボタン（イベント関連）

オープン方法

 ボタンをクリック、または[イベント]メニュー [イベント・マネージャ]を選択

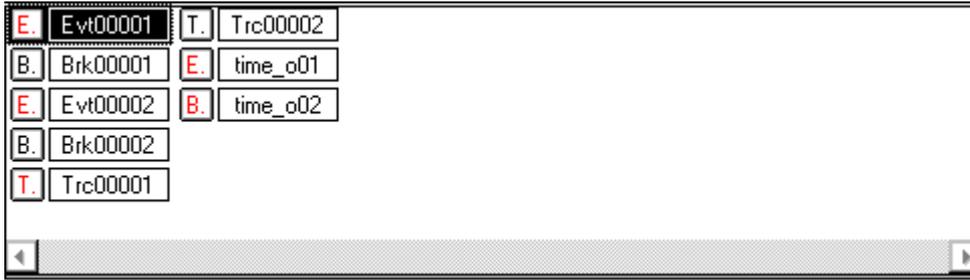
各エリア説明

(1) イベント表示エリア

登録されている各種イベント条件を一覧表示、および詳細表示するエリアです。

詳細表示は、コンテキスト・メニュー [詳細表示]の選択により行います。

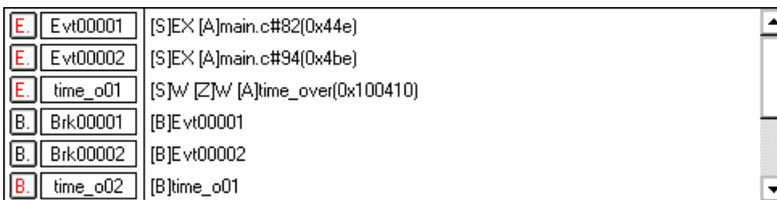
(a) 一覧表示時



イベント・アイコンを表示します (「表 5 - 13 イベント・アイコン」参照)。

イベント・アイコンは、ジャンプ・ポイントとなります (「5.18.2 ジャンプ機能」参照)。

(b) 詳細表示時



イベント内容の詳細を次のようなキー情報をセパレータとして表示します。

表 7 - 19 イベント詳細表示時のセパレータ

キー情報	内容
イベント条件の場合	
[S]	ステータス条件
[Z]	アクセス・サイズ条件
[A]	アドレス条件 シンボルや式の場合 : (実際のアドレス)
[R]	レジスタ条件
[D]	データ条件 シンボルや式の場合 : (実際のアドレス)
[P]	パス・カウント条件
[M]	マスク条件
イベント・リンク条件の場合	
[P1] - [P4]	n 段目のイベント・リンク条件
[D]	ディスエーブル条件
[P]	パス・カウント条件
ブレイク条件の場合	
[B]	ブレイク条件
トレース条件の場合	
[M]	トレース・モード

表7 - 19 イベント詳細表示時のセパレータ

キー情報	内容
[T]	ディレイ・トリガ条件
[D]	ディレイ・カウント
[S]	トレース開始条件
[E]	トレース終了条件
[Q]	クオリファイ・トレース条件
タイマ条件	
[S]	タイマ測定開始条件
[E]	タイマ測定終了条件
[U]	タイマ測定単位
スナップショット条件の場合	
[SN]	スナップ・ショット条件
[R]	レジスタ条件
[M]	メモリ条件 シンボルや式の場合 : (実際のアドレス)
[Z]	アクセス・サイズ条件
[G]	周辺 I/O レジスタ条件
スタブ条件	
[SU]	スタブ条件
[A]	ジャンプ・アドレス シンボルや式の場合 : (実際のアドレス)

[表示]メニュー (イベント・マネージャ専用部分)

イベント・マネージャのアクティブ時には、共通の [\[表示\]メニュー](#) に、以下の項目が追加されます。

すべてのイベントを選択	登録されているすべてのイベントを選択します。
イベント削除	選択されているイベントを削除
名前順	アイコンをイベント名の順に表示
種類順	アイコンをイベント種類の順に表示
並べ替えなし	並べ替えをしない (デフォルト)
詳細表示	詳細表示
一覧表示	一覧表示 (デフォルト)

コンテキスト・メニュー

名前順	アイコンをイベント名の順に表示
種類順	アイコンをイベント種類の順に表示
並べ替えなし	並べ替えない(デフォルト)
詳細表示	詳細表示をします。
一覧表示	一覧表示をします(デフォルト)
ソース	<p>選択イベント位置をジャンプ先アドレスとして、該当するソース・テキストおよびソース行を表示します(「5.18.2 ジャンプ機能」参照)。</p> <p>ただし、ジャンプ先アドレスに行情報がない場合には、ジャンプすることはできません。</p> <p>ソース・テキスト・ウィンドウをオープンします。</p> <p>アクティブ状態のソース・テキスト・ウィンドウが表示されている場合は、そのウィンドウを最前面(操作対象)に表示します。</p>
アセンブル	<p>選択イベント位置をジャンプ先アドレスとして、そのアドレスから逆アセンブル表示します(「5.18.2 ジャンプ機能」参照)。</p> <p>逆アセンブル・ウィンドウをオープンします。</p> <p>アクティブ状態の逆アセンブル・ウィンドウが表示されている場合は、そのウィンドウを最前面(操作対象)に表示します。</p>
メモリ	<p>選択イベント位置をジャンプ先アドレスとして、そのアドレスからメモリ内容を表示します(「5.18.2 ジャンプ機能」参照)。</p> <p>メモリ・ウィンドウをオープンします。</p> <p>アクティブ状態のメモリ・ウィンドウが表示されている場合は、そのウィンドウを最前面(操作対象)に表示します。</p>
カバレッジ	<p>選択イベント位置をジャンプ先アドレスとして、そのアドレスからカバレッジ測定結果を表示します(「5.18.2 ジャンプ機能」参照)。</p> <p>カバレッジ・ウィンドウをオープンします。</p> <p>アクティブ状態のカバレッジ・ウィンドウが表示されている場合は、そのウィンドウを最前面(操作対象)に表示します。</p>

機能ボタン(イベント関連)

ここでは、イベント関連ダイアログ(イベント・マネージャ、イベント・ダイアログ、イベント・リンク・ダイアログ、ブレーク・ダイアログ、トレース・ダイアログ、スナップ・ショット・ダイアログ、スタブ・ダイアログ、タイマ・ダイアログ)の機能ボタンをまとめて記述しています。

OK	<p>(イベント・ダイアログ、イベント・リンク・ダイアログ)</p> <p>編集中のイベント条件があれば、自動的に登録してこのダイアログをクローズします。</p> <p>選択モードの場合</p> <p>イベント条件を選択して、呼び出し元の設定ダイアログ(タイトル・バーに表示)に戻ります。あらかじめ、そのダイアログをオープンしていた場合には、選択モードを通常モードに戻すだけで、このダイアログはクローズしません。それ以外の場合には、このダイアログをクローズします。</p>
	<p>(上記以外のダイアログ)</p> <p>編集中のイベント条件があれば、自動的に登録してこのダイアログをクローズします。各種イベント条件は登録と同時に有効になります。</p>

New	(イベント・マネージャ) 新規イベント種別選択ダイアログをオープンします。 <Event...>, <Event Link...>, <Break...>, <Trace...>, <Snap Shot...>, <Stub...>, <Timer...> の各ボタンを押すことにより, 各種イベント設定ダイアログを新規のイベント名が設定された状態でオープンします。各種設定ダイアログのオープン後はこのダイアログはクローズされます。 <Cancel> を押すことにより, イベント・マネージャに戻ります。
	(上記以外のダイアログ) このダイアログのイベント条件を新規作成状態にします。 イベント名を自動生成して新規のイベント条件を用意します。
Set	(イベント・ダイアログ, イベント・リンク・ダイアログ) 各種イベント条件を登録します。イベント登録後, ダイアログはクローズしないため, 続けて登録可能です。 選択モードの場合 イベント条件を選択します。編集集中のイベント条件があれば, 自動的に登録して選択します。
	(上記以外のダイアログ) 各種イベント条件を登録します。イベント登録後, ダイアログはクローズしないため, 続けて登録可能です。 各種イベント条件は, 登録と同時に有効になります。
Enable / Disable	選択している各種イベント条件の有効 (Enable) / 無効 (Disable) を切り替えます。ただし, イベント条件, イベント・リンク条件はこの対象となりません。 イベント・アイコンのマーク部分をクリックすることでも同じ動作をします。
Clear	イベント条件の内容をクリアします。
Restore	編集したイベント条件の内容を元に戻します。 未登録のイベント条件を表示している場合にはイベント名以外を空欄, あるいはデフォルトの設定にします。
Cancel / Close	このダイアログをクローズします。 編集集中のイベント条件であっても, 登録せずにダイアログをクローズします。
Help	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。
Event Link...	イベント・リンク・ダイアログ をオープンします。
Break...	ブレイク・ダイアログ をオープンします。
Trace...	トレース・ダイアログ をオープンします。
Snap Shot...	スナップ・ショット・ダイアログ をオープンします。
Stub...	スタブ・ダイアログ をオープンします。
Timer...	タイマ・ダイアログ をオープンします。
Manager	イベント・マネージャ をオープンします。
Add Event...	イベント・ダイアログ を選択モードでオープンし, 設定するイベント条件を選択, または新規作成します。追加設定されるエリアは, <Add Event...> ボタンを押した際に選択されていたエリアになります。
Add Link...	イベント・リンク・ダイアログ を選択モードでオープンし, 設定するイベント・リンク条件を選択, または新規作成します。追加設定されるエリアは, <Add Link...> ボタンを押した際に選択されていたエリアになります。
Open	選択しているイベント条件 (1 つ) に対応する各種イベント設定ダイアログをオープンします。各設定ダイアログには, 選択したイベント条件の内容が表示されます。 イベント・アイコンのダブルクリック, および Enter キーも同じ動作をします。

Remove / Delete	<p>選択しているイベント条件を削除します。 イベント条件、またはイベント・リンク条件を削除する時、そのイベントが各種イベント条件として使用されている場合には、エラーとなり削除できません。</p>
Delete All	<p>すべてのイベント条件を削除します。</p>
Expand >>> / Shrink <<<	<p>イベント・マネージャ・エリアを表示 (Expand>>>) / 非表示 (Shrink<<<) します。 ダイアログのサイズが拡張 / 縮小されます。</p>
Add	<p>イベント・マネージャ・エリアで選択しているイベント条件、イベント・リンク条件をフォーカスのある設定エリアに追加設定します。</p>
Info...	<p>表示情報選択ダイアログをオープンします。 このダイアログでは下記ボタンにより表示モードの変更、イベント名の並べ替えを行います。</p> <p style="text-align: center;">図 7 - 57 表示情報選択ダイアログ</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p><Sort by Name> イベントを名前順に並べ変えます。 <Sort by Kind> イベントを種類順に並べ替えます。 <Unsort> 並べ替えを行わず、登録順に表示します。 <Detail> 詳細表示モードにします。 <Overview> 一覧表示モードにします。 <Cancel> このダイアログをクローズします (ESC キーと同様)。</p>
Other...	<p>イベント種別選択ダイアログをオープンします。 <Event...>, <Event Link...>, <Break...>, <Trace...>, <Snap Shot...>, <Stub...>, <Timer...> の各ボタンを押すことにより、各種イベント設定ダイアログを新規のイベント名が設定された状態でオープンします。各種設定ダイアログのオープン後はこのダイアログはクローズされます。 <Manager...> ボタンにより、イベント・マネージャをオープンします。 <Cancel> ボタンによりイベント種別選択ダイアログをクローズします。</p>

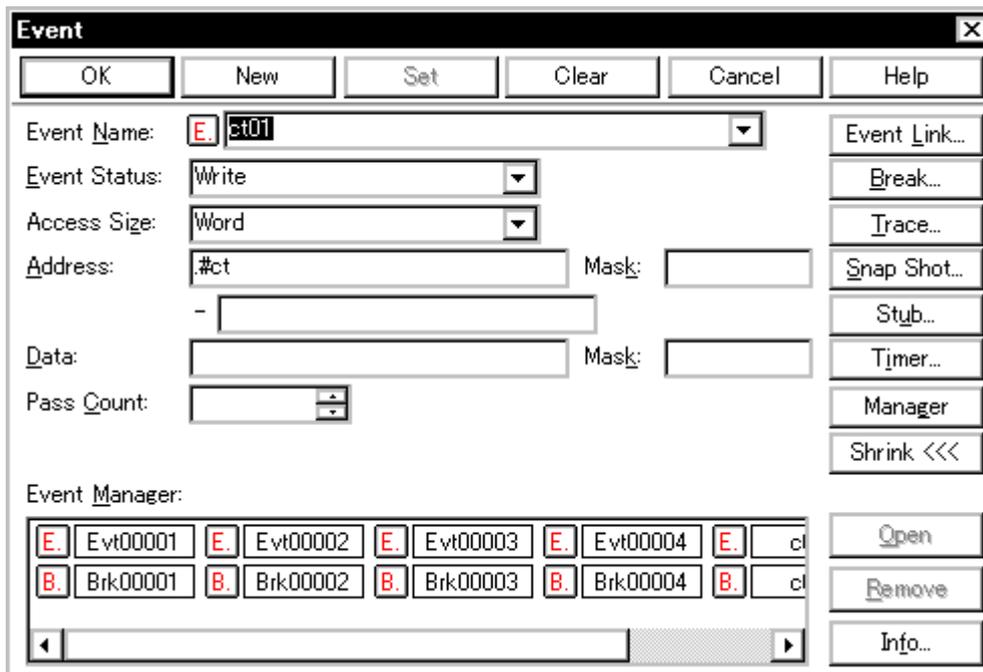
イベント・ダイアログ

イベント条件の登録と表示を行います（「5.13 イベント機能」参照）。

イベント条件の登録は、このダイアログ上で各項目を設定し、<OK> ボタンをクリックすることにより行います。登録したイベント条件は、イベント・マネージャで管理されます。

1つのイベント条件は複数の各種イベント条件として設定することができます。ただし、設定できる（有効になる）各種イベント条件数には制限があります（「5.13.4 各種イベント条件の有効イベント数」参照）。

図7 - 58 イベント・ダイアログ



- オープン方法
- 各エリア説明
- 機能ボタン（イベント関連）

オープン方法

通常モードでオープン

次の方法でイベント・ダイアログをオープンした場合、目的を限定せずにイベント条件を登録することができます。



ボタンをクリック，または[イベント]メニュー [イベント...]を選択

選択モードでオープン

次の方法でイベント・ダイアログをオープンした場合、<OK> ボタンを押すと、呼び出し元の設定ダイアログのイベント条件として登録することができます（タイトル・バーに呼び出し元の設定ダイアログ名が表示されます）。

各種イベント設定ダイアログ上で <Add Event...> ボタンをクリック

各エリア説明

- (1) Event Name (イベント名設定エリア)
- (2) Event Status (ステータス選択エリア)
- (3) Access Size (アクセス・サイズ選択エリア)
- (4) Address , Mask (アドレス設定エリア)
- (5) Data , Mask (データ設定エリア)
- (6) Resister Name (レジスタ設定エリア)
- (7) Pass Count (パス・カウント設定エリア)
- (8) Event Manager (イベント・マネージャ・エリア)

(1) Event Name (イベント名設定エリア)

Event Name: E. time 001

イベント名の指定を行うエリアです。

指定は、最大 8 文字までの英数字を直接入力することにより行います。

作成済みのイベント条件の内容を表示する場合にはドロップダウン・リストから選択します。

選択モードでは、選択したイベント条件を、イベント・ダイアログを呼び出した元の設定ダイアログのイベント条件設定エリアに設定することができます。

このエリアの左側のマークは、イベント条件の使用状況を示します（「表 5 - 13 イベント・アイコン」参照）。なお、灰色の E . マークは、そのイベント条件が編集集中で未登録の状態を示しています。

(2) Event Status (ステータス選択エリア)

Event Status: Write

ステータス条件の選択を行うエリアです。

この選択により実行イベントとアクセス・イベントの種別が決定されます（実行イベントを指定した場合、(3) Access Size (アクセス・サイズ選択エリア)、(5) Data , Mask (データ設定エリア) は入力不可）。

指定できるステータス条件を次に示します。

表7 - 20 ステータス条件

<実行イベント>

Status	短縮形	意味
Execution	EX	プログラム実行

<アクセス・イベント>

Status	短縮形	意味
R/W	RW	データ・リード/ライト
Read	R	データ・リード
Write	W	データ・ライト
Access	AC	すべてのアクセス・ステータス
Register Write	REGW	レジスタ・ライト
Register	REG	レジスタ ^注
Memory	MEM	メモリ ^注
R/W(Data not Equal)	RWND	データ・リード/ライト (データ条件が不一致の時にイベントを発生) V850E 選択時のみ表示
Read(Data not Equal)	RND	データ・リード (データ条件が不一致の時にイベントを発生) V850E 選択時のみ表示
Write(Data not Equal)	WND	データ・ライト (データ条件が不一致の時にイベントを発生) V850E 選択時のみ表示

注 Register, Memory ステータスのイベント条件は、イベント・リンクの Phase1 にのみ使用できます。ブレーク、トレース、スナップショット、スタブ、タイマ、あるいはイベント・リンクの Phase1 以外には使用できません。これらステータスは、イベント・リンクの Phase1 に設定することにより、AND 条件のイベントとして使用することができます。AND 条件のイベントは、イベント・リンクの Phase1 に設定されたイベント条件が同時に成立した時点でのイベントを発生させる機能で、1 つ以上の Register, あるいは Memory ステータスのイベント条件を設定します。その時、Execute ステータスのイベント条件を組み合わせることができます。イベント・リンクの Phase1 に Register, あるいは Memory ステータスのイベント条件を 1 つだけ設定した場合、Register ステータスのイベント条件は Register Write, と Memory ステータスのイベント条件は Write と同様の動作になります。

(3) Access Size (アクセス・サイズ選択エリア)

Access Size:

アクセス・サイズ条件の選択を行うエリアです。

この選択により、アクセス・イベントで検出する際のデータ条件のアクセス幅が決定されます。

Byte	データ条件を 8 ビット幅で検出 (8 ビット・アクセス時のみ)
Half Word	データ条件を 16 ビット幅で検出 (16 ビット・アクセス時のみ)
Word	データ条件を 32 ビット幅で検出 (32 ビット・アクセス時のみ)
No Condition	アクセス・サイズの検出をしない (Data エリアは入力不可)
Bit	<p>データ条件を 1 ビット幅で検出 (8 ビット・アクセス時のみ) この場合、データ条件を 1 ビット幅で検出しますが、シミュレータの動作上、ビットそのものへのアクセスは直接検出されないため、SM plus は内部的にアドレス条件、データ条件を次のように設定することで疑似的なビット・アクセスを検出しています。</p> <p>入力例) アドレス：FE20.1 データ：1</p> <p>トレース検索の設定) アドレス：FE20 データ：00000010B マスク：11111101B</p> <p>そのため、同一アドレスの他のビットに対するアクセスや、同一アドレスの 8 ビット全体に対するアクセスでも、指定した [アドレス・ビット] の値が一致している場合には、指定したステータスに従ってイベントが検出されます。</p>

注意 デバイスの動作上、ビット書き込み時には 8 ビット全体のリード/ライトが行われますが、ステータスにリードまたはリード/ライトを指定している場合、このときのリード動作に対しても、指定した [アドレス・ビット] の値が一致している場合にはイベントが発生します。

設定を省略した場合は、アドレス条件およびデータ条件から次のように設定されます。

- アドレス条件がビット設定の場合、Bit
- データ条件が 8 ビットの場合、Byte
- データ条件が 16 ビットの場合、Half Word
- データ条件が 32 ビットの場合、Word
- データ条件の指定が省略された場合、No Condition

(4) Address , Mask (アドレス設定エリア)

Address: Mask:

-

アドレス条件を指定するエリアです。

数値入力時のデフォルト進数は 16 進です。 [シンボルでの指定方法](#)も可能です。

表 7 - 21 アドレス条件の設定範囲 (イベント)

設定範囲	条件
0 アドレス値 0xFFFFFFFF	なし
0 マスク値 0xFFFFFFFF	なし

(a) Address

アドレス条件のアドレス値 (下位アドレス - 上位アドレス) を設定するエリアです (省略可)。

次の 3 種類の設定が可能です。

注意 イベント設定では、物理アドレスとイメージ空間を区別しているため、28 ビットのアドレス指定をしてください。

(i) ポイント設定

下位アドレスのみに値を設定するか、下位アドレスと上位アドレスに同じ値を設定します。

(ii) 範囲設定

下位アドレスと上位アドレスに値を設定します。マスク設定不可。

(iii) ビット設定

下位アドレスのみに値を設定するか、下位アドレスと上位アドレスに同じ値を設定します。

値は "address.bit" の形式で指定します。マスク設定不可。

なお、ビット位置を示す bit の値は 0 bit 7 でなければなりません。

(d) Mask

アドレス値に対するマスク値を設定します ([\(i\) ポイント設定](#) の場合のみ可)。

マスク値の設定を省略した場合にはマスクを行いません。

マスク値が 1 となるビットは、アドレス値が 0 または 1 のどちらであっても構いません。

例 1)

Address	0x4000 - 0x4000
Mask	0xFF

このように設定した場合、0x4000 - 0x40FF 番地までが条件と一致します。

例 2)

Address	0x4000 - 0x4000
Mask	0x101

このように設定した場合、0x4000、0x4001、0x4100、0x4101 番地が条件と一致します。

(5) Data, Mask (データ設定エリア)

Data: Mask:

データ条件を設定するエリアです。

数値入力時のデフォルトの進数は 16 進です。

設定範囲は (3) Access Size (アクセス・サイズ選択エリア) での指定により、次のようになります。

表 7 - 22 データ条件の設定範囲

Access Size	設定範囲
Byte	0 データ値 0xFF 0 マスク値 0xFF
Half Word	0 データ値 0xFFFF 0 マスク値 0xFFFF
Word	0 データ値 0xFFFFFFFF 0 マスク値 0xFFFFFFFF
Bit	データ値 = 0, 1 マスク値 = 指定不可

(a) Data

データ条件を設定するデータ値を指定します。シンボルでの指定方法も可能です。

(b) Mask

データ値に対するマスク値を設定します。

マスク設定を行うと、マスク値が 1 となるビットは、データ値が 0 または 1 のいずれであっても構いません。

例 1)

Data	0x4000
Mask	0xFF

このように設定した場合、0x4000 - 0x40FF 番地までが条件と一致します。

例 2)

Data	0x4000
Mask	0x101

このように設定した場合、0x4000、0x4001、0x4100、0x4101 番地が条件と一致します。

(6) Register Name (レジスタ設定エリア)Register Name:

(2) Event Status (ステータス選択エリア) で、Register Write(REGW)、Register(REG) を選択した場合に、(4) Address, Mask (アドレス設定エリア) が、このエリアに切り替わります。

レジスタ名は、直接入力するか、あるいはドロップダウン・リストから選択します。
すべての汎用レジスタの指定が可能です。また、機能名称、絶対名称の両方での指定が可能です。
大文字、小文字の区別はしません。

(7) Pass Count (パス・カウント設定エリア)Pass Count:

ユーザ・プログラムの実行中に、イベント条件が何回一致したら条件を成立させるか (パス・カウント) を設定するエリアです (1 - 32767 回)。

省略時には 1 が指定されたこととなります (条件一致とともに条件が成立)。

(8) Event Manager (イベント・マネージャ・エリア)

登録されているイベント一覧を表示するエリアです (「表 5 - 13 イベント・アイコン」, 「(4) イベント・マネージャ・エリアでの操作」参照)。

イベント・リンク・ダイアログ

イベント・リンク条件の登録と表示を行います（「5.13 イベント機能」参照）。

イベント・リンク条件の登録は、このダイアログ上で各項目を設定し、<OK> ボタンをクリックすることにより行います（最大 256 個）。登録したイベント・リンク条件は、[イベント・マネージャ](#)で管理されます。

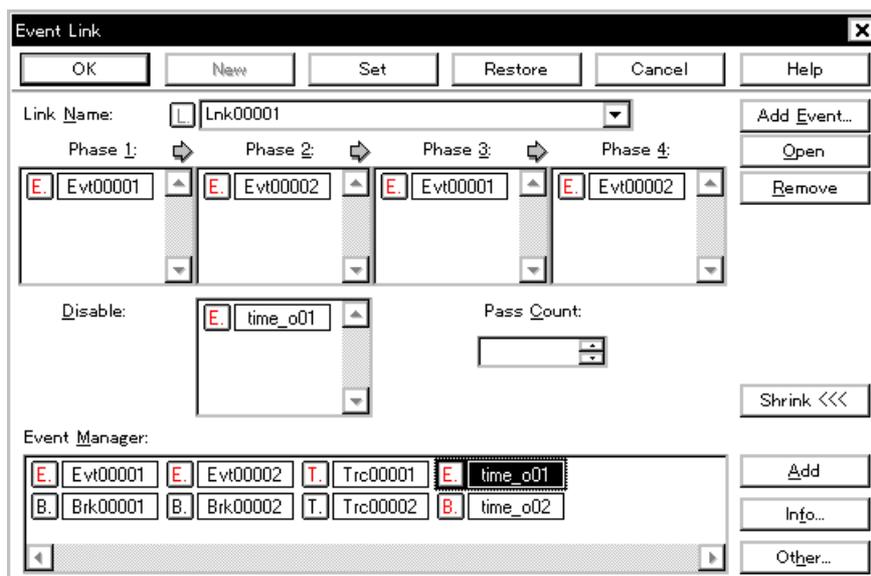
ただし、設定できる（有効になる）イベント・リンク条件には制限があります（「5.13.4 各種イベント条件の有効イベント数」参照）。

イベント・リンク条件を設定できる各種イベント条件は、次の通りです。

表 7 - 23 イベント・リンク条件の設定可能な各種イベント条件

製品名	ブレーク	トレース	スナップ ショット	スタブ	タイマ
SM plus					

図 7 - 59 イベント・リンク・ダイアログ



- オープン方法
- 各エリア説明
- 機能ボタン（イベント関連）

オープン方法

通常モードでオープン

次の方法でイベント・リンク・ダイアログをオープンした場合、目的を限定せずにイベント・リンク条件を登録することができます。

[イベント]メニュー [イベントリンク...]を選択

選択モードでオープン

次の方法でイベント・リンク・ダイアログをオープンした場合、<OK> ボタンを押すと、呼び出し元の設定ダイアログのイベント・リンク条件として登録することができます。

各種イベント設定ダイアログ上で <Add Link...> ボタンをクリック

(タイトル・バーに呼び出し元の設定ダイアログ名が表示)

各エリア説明

- (1) Link Name (イベント・リンク名設定エリア)
- (2) Phase1 , Phase2 , Phase3 , Phase4 (リンク条件設定エリア)
- (3) Disable (ディスエーブル条件設定エリア)
- (4) Pass Count (パス・カウント設定エリア)
- (5) Event Manager (イベント・マネージャ・エリア)

(1) Link Name (イベント・リンク名設定エリア)

Link Name:

イベント・リンク名の設定を行います。

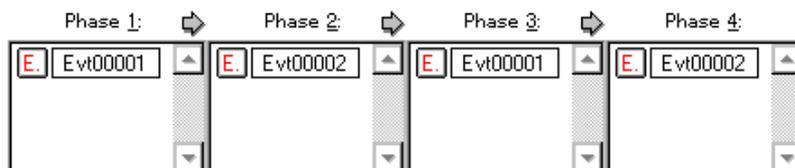
名前は最大 8 文字までの英数字を直接入力してください。

すでに作成してあるイベント・リンク条件の内容を表示するときは、ドロップダウン・リストから選択します。

選択モードでは、選択したイベント・リンク条件を、イベント・リンク・ダイアログを呼び出した元の設定ダイアログのイベント条件設定エリアに設定することができます。

このエリアの左側のマークは、イベント・リンク条件の使用状況を示します (「表 5 - 13 イベント・アイコン」参照)。また、灰色の L . マークは、そのイベント・リンク条件が編集集中で未登録の状態を示しています。

(2) Phase1 , Phase2 , Phase3 , Phase4 (リンク条件設定エリア)



イベント条件およびイベント検出の順序を設定します。

イベント・リンクは 4 段まで設定可能です。ただし、途中でディスエーブル条件を検出した場合には、今まで成立したイベント条件は初期化され最初のイベント条件から検出を始めます。なお、リンク条件とディスエーブル条件が同時に検出された場合、ディスエーブル条件が優先されます。

順序は、Phase 1 Phase 2 Phase 3 Phase 4 の順に設定します。なお、Phase 4 まで設定する必要はなく、その場合には、最終 Phase に設定されたイベント条件を検出したところで、イベントを発生させます。また、Phase1 のみにイベント条件を設定したり、同じイベント条件を複数の Phase に設定することも可能です。

各エリアに設定できるイベント条件数、およびダイアログ全体で設定できるイベント条件の個数は、次の通りです。

表 7 - 24 イベント・リンク・ダイアログでのイベント設定数

製品名	各 Phase	Disable エリア	合計 (実行 / アクセス)
SM plus	10	10	64

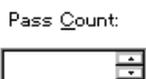
(3) Disable (ディスエーブル条件設定エリア)



今まで成立したイベント条件を、無効にするイベント条件を設定します（「表 7 - 24 イベント・リンク・ダイアログでのイベント設定数」参照）。

イベント条件の設定は、イベント・マネージャ・エリアから、設定するイベント・アイコンをドラッグして、このエリア上にドロップすることにより簡単に行えます。詳細は、「5.13.3 各種イベント条件の設定」を参照してください。

(4) Pass Count (パス・カウント設定エリア)



パス・カウント条件を設定します（設定範囲：1 ~ 32767）。

パス・カウント条件は、ユーザ・プログラム実行中に、このイベント・リンク条件が何回一致したら条件を成立させるかを設定するエリアです。

省略時は、1 を設定したことになります（条件一致とともに条件成立）。

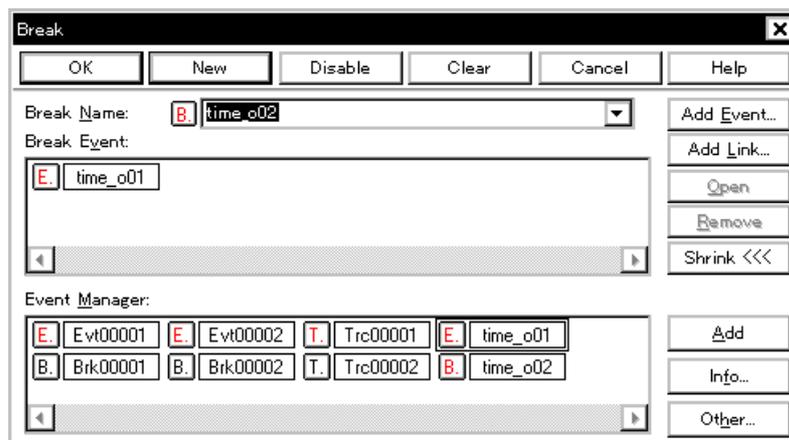
(5) Event Manager (イベント・マネージャ・エリア)

登録されているイベント一覧を表示するエリアです（「表 5 - 13 イベント・アイコン」、「(4) イベント・マネージャ・エリアでの操作」参照）。

ブレイク・ダイアログ

ブレイク・イベント条件の登録、設定、および表示を行います(「5.13 イベント機能」,「5.4 ブレイク機能」参照)。
 ブレイク・イベント条件の登録、設定は、このダイアログ上で各項目を設定し、<OK> ボタンをクリックすることにより行います(最大 256 個)。登録したブレイク・イベント条件は、イベント・マネージャで管理されます。
 なお、同時に設定可能な(有効になる)ブレイク・イベント条件数には制限があります(「5.13.4 各種イベント条件の有効イベント数」参照)。

図 7 - 60 ブレイク・ダイアログ



- オープン方法
- 各エリア説明
- 機能ボタン(イベント関連)

オープン方法

 ボタンをクリック, または [イベント] メニュー [ブレイク ...] を選択

各エリア説明

- (1) Break Name (ブレイク・イベント名設定エリア)
- (2) Break Event (ブレイク条件設定エリア)
- (3) Event Manager (イベント・マネージャ・エリア)

(1) Break Name (ブレイク・イベント名設定エリア)

Break Name:  B | time_o02

ブレイク・イベント名の設定を行います。

名前は最大 8 文字までの英数字を直接入力してください。

すでに作成してあるイベント条件の内容を表示するときは、ドロップダウン・リストから選択します。

このエリアの左側のマークは、イベント条件の使用状況を示します(「表 5 - 13 イベント・アイコン」参照)。また、灰色のマークは、そのイベント条件が編集途中で未登録の状態を示しています。

このマークをクリックすることにより、イベント条件の有効/無効を切り替えることができます。

(2) Break Event (ブレイク条件設定エリア)

Break Event:
 E | time_o01

ブレイク用のイベント条件を設定します。

このエリアに設定できるイベント条件の個数は 64 個、イベント・リンク条件の個数は 16 個までです。

イベント条件の設定は、イベント・マネージャ・エリアから、設定するイベント・アイコンをドラッグして、このエリア上にドロップすることにより簡単に行えます。詳細は、「5.13.3 各種イベント条件の設定」を参照してください。

(3) Event Manager (イベント・マネージャ・エリア)

登録されているイベント一覧を表示するエリアです(「表 5 - 13 イベント・アイコン」,「(4) イベント・マネージャ・エリアでの操作」参照)。

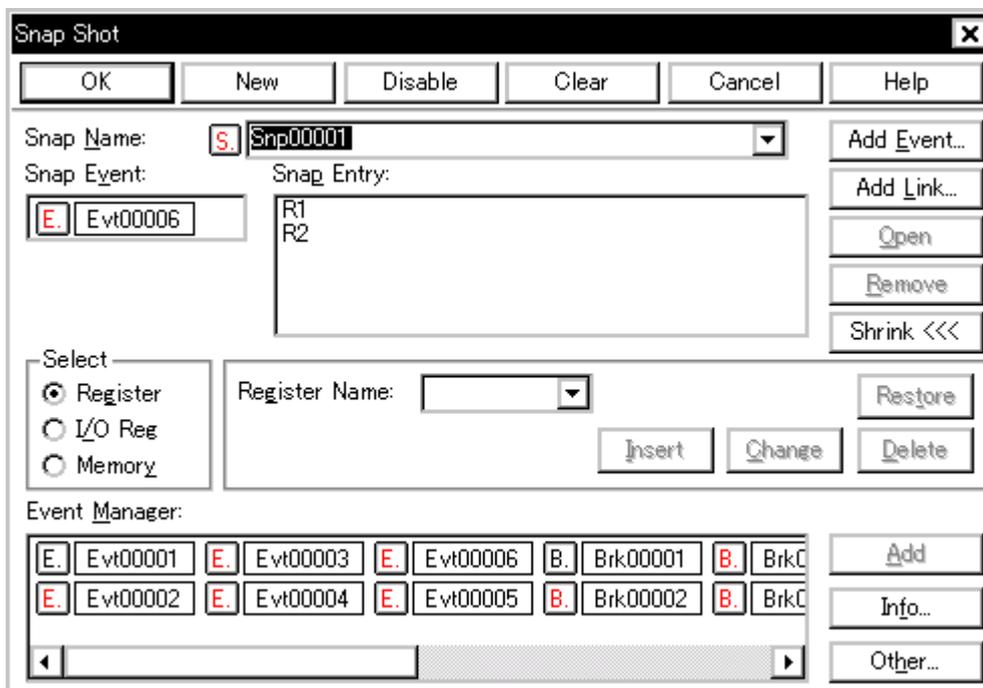
スナップ・ショット・ダイアログ

スナップ・ショット・イベント条件の登録，設定，および表示を行います（「5.13 イベント機能」，「5.14 スナップ・ショット機能」参照）。

スナップ・ショット・イベント条件の登録，設定は，このダイアログ上で各項目を設定し，<OK> ボタンをクリックすることにより行います（最大 256 個）。登録したスナップ・ショット・イベント条件は，イベント・マネージャで管理されます。

なお，同時に設定可能な（有効になる）スナップ・ショット・イベント条件数には制限があります（「5.13.4 各種イベント条件の有効イベント数」参照）。

図 7 - 61 スナップ・ショット・ダイアログ（Register 選択時）



- オープン方法
- 各エリア説明
- 機能ボタン（イベント関連）

オープン方法

[イベント]メニュー [スナップショット...]を選択

各エリア説明

- (1) Snap Name (スナップ・ショット・イベント名設定エリア)
- (2) Snap Event (スナップ・ショット条件設定エリア)
- (3) Select (スナップ・データ選択エリア)
- (4) Snap Entry (スナップ・データ表示エリア)
- (5) Event Manager (イベント・マネージャ・エリア)

(1) Snap Name (スナップ・ショット・イベント名設定エリア)

Snap Name:

スナップ・ショット・イベント名の設定を行います。

名前は最大 8 文字までの英数字を直接入力してください。

すでに作成してあるイベント条件の内容を表示するときは、ドロップダウン・リストから選択します。

このエリアの左側のマークは、イベント条件の使用状況を示します(「表 5 - 13 イベント・アイコン」参照)。また、灰色のマークは、そのイベント条件が編集中で未登録の状態を示しています。

このマークをクリックすることにより、イベント条件の有効 / 無効を切り替えることができます。

(2) Snap Event (スナップ・ショット条件設定エリア)

Snap Event:

スナップ・ショット用のイベント条件を設定します。

このエリアに設定できるイベント条件、およびイベント・リンク条件の個数は 1 つです。イベント条件の設定は、イベント・マネージャ・エリアから、設定するイベント・アイコンをドラッグして、このエリア上にドロップすることにより簡単に行えます。詳細は、「5.13.3 各種イベント条件の設定」を参照してください。

(3) Select (スナップ・データ選択エリア)

Select

Register Register Name:

I/O Reg

Memory

スナップ・ショットを行うデータの種別を選択し、スナップ・データの登録 / 変更 / 削除を行います。

データ種別を選択することにより、エリアの右に表示される設定項目が切り替わります。

スナップ・データとして、レジスタ、周辺 I/O レジスタ、メモリを登録することができ、最大 48 個まで (各 16 個まで) を設定することができます。

ここで登録 / 変更 / 削除されたスナップ・データは、(4) Snap Entry (スナップ・データ表示エリア) に反映されます。(4) Snap Entry (スナップ・データ表示エリア) 上で選択したスナップ・データの内容がこのエリアに表示されます。

(a) Register

スナップ・データとしてレジスタを設定する際、選択します。

(i) Register Name (レジスタ名設定エリア)

ドロップダウン・リストからレジスタ名を選択します。

プログラム・レジスタ, システム・レジスタの指定が可能です。大文字, 小文字は区別しません。

また, 機能名称, および絶対名称の指定が可能です。

なお, [トレース・ウィンドウ](#)ではすべて大文字に統一され, '絶対名称 (機能名称)' の形式で表示されます。

(b) I/OReg

スナップ・データとして周辺 I/O レジスタを設定する際、選択します。

(i) I/O Reg Name (周辺 I/O レジスタ名設定エリア)

ドロップダウン・リスト, または直接入力により, 周辺 I/O レジスタ名を指定します。

読み出し可能な周辺 I/O レジスタのみ指定できます。大文字, 小文字は区別しません。

また, 周辺 I/O ビット名, および [I/O ポート追加ダイアログ](#)で登録した I/O ポート名は指定できません。

なお, [トレース・ウィンドウ](#)ではすべて大文字に統一されて表示されます。

(b) Memory

スナップ・データとしてメモリを設定する際、選択します。

(i) Memory Address (メモリ・アドレス設定エリア)

開始アドレス - 終了アドレスの順にアドレス範囲を指定します (設定範囲: 0 アドレス 0xFFFFFFFF)。

開始アドレスのみに値を入力し, 終了アドレスを省略した場合は, 終了アドレスに開始アドレスと同じ値が指定されたものとします。また, 指定したアドレス範囲がアクセス・サイズで割り切れない場合, アドレス範囲を切り上げアクセス・サイズで割り切れる範囲に補正されます。

数値入力時のデフォルト進数は 16 進数です。シンボルや式での指定も可能です ([「表 7 - 10 シンボルでの指定方法」](#) 参照)。

このエリアで式やシンボルを指定して登録, 変更を行った場合, 指定した式やシンボルと一緒に変換されたアドレス値が (4) [Snap Entry \(スナップ・データ表示エリア\)](#) に表示されます。

[トレース・ウィンドウ](#)には変換されたアドレス値のみが表示されます。

(ii) Memory Display (メモリ表示サイズ設定エリア)

ドロップダウン・リスト,または直接入力により,メモリ・スナップ・データのアクセス・サイズを指定します。大文字,小文字は区別しません。

アクセス・サイズ	短縮形	内容
Byte	B	8ビット単位でメモリのスナップ・ショットを行います。
Half Word	HW	16ビット単位でメモリのスナップ・ショットを行います。
Word	W	32ビット単位でメモリのスナップ・ショットを行います。

(c) スナップ・データ操作ボタン

スナップ・データの登録/変更/削除等を行います。

Insert	スナップ・データとして登録します。 登録されたスナップ・データは,(4) Snap Entry (スナップ・データ表示エリア)の選択位置に挿入され,表示されます。
Change	(4) Snap Entry (スナップ・データ表示エリア)で選択しているスナップ・データの内容を,このエリアで指定しているスナップ・データの内容に変更します。
Delete	(4) Snap Entry (スナップ・データ表示エリア)で選択しているスナップ・データを削除します。 DEL キーでも同様な動作を行うことができます。
Restore	(4) Snap Entry (スナップ・データ表示エリア)の内容を元に戻します。

(4) Snap Entry (スナップ・データ表示エリア)

Snap Entry:

R1
P2

登録したスナップ・データの一覧を表示します。

登録したスナップ・データは,スナップ・ショット・イベント発生時にトレーサに書き込まれます。

このエリアでスナップ・データを選択すると,選択したスナップ・データの内容を,各設定エリアに表示します。

スナップ・データはそれぞれ次のように表示されます。

表 7 - 25 スナップ・データ表示形式

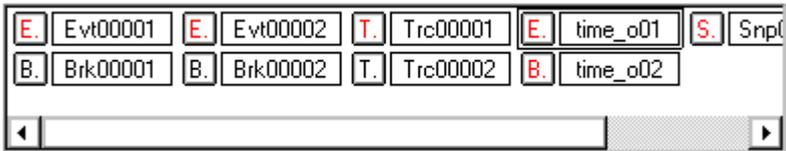
表示形式	内容
レジスタ・スナップ・データの場合	
R1 R3(SP)	レジスタ名
周辺 I/O レジスタ・スナップ・データの場合	
P0 P1	周辺 I/O レジスタ名

表 7 - 25 スナップ・データ表示形式

表示形式	内容
メモリ・スナップ・データの場合	
0xFFE000,HW 0xFFE100-0xFFE10f	開始アドレス <シンボル式> - 終了アドレス <シンボル式> , アクセス・サイズ

(5) Event Manager (イベント・マネージャ・エリア)

Event Manager:



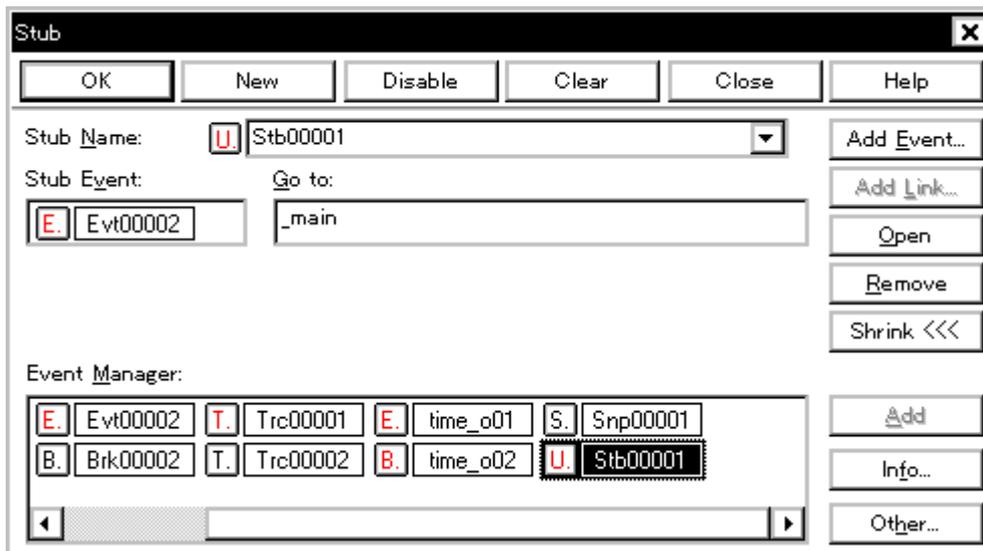
登録されているイベント一覧を表示するエリアです (「表 5 - 13 イベント・アイコン」, 「(4) イベント・マネージャ・エリアでの操作」参照)。

スタブ・ダイアログ

スタブ・イベント条件の登録，設定，および表示を行います（「5.13 イベント機能」，「5.15 スタブ機能」参照）。スタブ・イベント条件の登録，設定は，このダイアログ上で各項目を設定し，<OK> ボタンをクリックすることにより行います（最大 256 個）。登録したスタブ・イベント条件は，イベント・マネージャで管理されます。

なお，同時に設定可能な（有効になる）スタブ・イベント条件数には制限があります（「5.13.4 各種イベント条件の有効イベント数」参照）。

図 7 - 62 スタブ・ダイアログ



- オープン方法
- 各エリア説明
- 機能ボタン（イベント関連）

オープン方法

[イベント] メニュー [スタブ ...] を選択

各エリア説明

- (1) Stub Name（スタブ・イベント名設定エリア）
- (2) Stub Event（スタブ条件設定エリア）
- (3) Go to（ジャンプ・アドレス設定エリア）
- (4) Event Manager（イベント・マネージャ・エリア）

(1) Stub Name (スタブ・イベント名設定エリア)

Stub Name:

スタブ・イベント名の設定を行います。

名前は最大 8 文字までの英数字を直接入力してください。

すでに作成してあるイベント条件の内容を表示するときは、ドロップダウン・リストから選択します。

このエリアの左側のマークは、イベント条件の使用状況を示します(「表 5 - 13 イベント・アイコン」参照)。また、灰色のマークは、そのイベント条件が編集途中で未登録の状態を示しています。

このマークをクリックすることにより、イベント条件の有効/無効を切り替えることができます。

(2) Stub Event (スタブ条件設定エリア)

Stub Event:

スタブ用のイベント条件を設定します。

このエリアに設定できるイベント条件、およびイベント・リンク条件の個数は 1 つです。イベント条件の設定は、イベント・マネージャ・エリアから、設定するイベント・アイコンをドラッグして、このエリア上にドロップすることにより簡単に行えます。詳細は、「5.13.3 各種イベント条件の設定」を参照してください。

(3) Go to (ジャンプ・アドレス設定エリア)

Go to:

スタブ・イベント発生時に実行する、関数の先頭アドレスを指定します(「表 5 - 14 実行関数の先頭アドレス(スタブ機能)」参照)。

数値入力時のデフォルト進数は 16 進数です。シンボルや式での指定も可能です(「表 7 - 10 シンボルでの指定方法」参照)。

(4) Event Manager (イベント・マネージャ・エリア)

登録されているイベント一覧を表示するエリアです(「表 5 - 13 イベント・アイコン」, 「(4) イベント・マネージャ・エリアでの操作」参照)。

表示ファイル・セーブ・ダイアログ

カレント・ウィンドウの現在の表示情報を表示ファイルに保存するダイアログです（「5.17.2 ウィンドウの表示情報（表示ファイル）」参照）。

図7 - 63 表示ファイル・セーブ・ダイアログ（例：逆アセンブル・ウィンドウを保存する場合）



- ・ [オープン方法](#)
- ・ [各エリア説明](#)
- ・ [機能ボタン](#)

オープン方法

保存するウィンドウをカレント・ウィンドウにし、[ファイル]メニュー [名前を付けて保存...]を選択

各エリア説明

- (1) 保存する場所，ファイル名
- (2) ファイルの種類
- (3) Save range

(1) 保存する場所，ファイル名

保存するファイル名を指定します。キーボードから入力するか，エリアの上欄の一覧中から選択します。

(2) ファイルの種類

保存するファイルの種類（拡張子）を指定します（「表5 - 19 表示ファイルの種類」参照）。

カレント・ウィンドウに対応した拡張子が表示されます。

(3) Save range

カレント・ウィンドウが、[逆アセンブル・ウィンドウ](#)、[メモリ・ウィンドウ](#)、[カバレッジ・ウィンドウ](#)、[ソース・テキスト・ウィンドウ](#)、[トレース・ウィンドウ](#)の場合、セーブ範囲を指定するエリアです。

(a) All

最初の行から最後の行まで、全領域を保存する場合、選択します。

(b) Screen shot

画面の最上行から最下行までの画面に見える領域を保存する場合、選択します。

ただし、[ソース・テキスト・ウィンドウ](#)が混合表示している場合は、画面に見える領域を含むソース行から保存されます。

(c) Specify Line / Specify Frame / Specify Address

保存する領域の開始行 / 終了行を指定する場合、選択します。

開始行 / 終了行を省略したときは、それぞれ、最初の行 / 最後の行を指定したとみなします。

カレント・ウィンドウに応じて次のいずれが表示されます。

100 行 / 100 フレーム / 256 バイト以上の範囲を指定した場合、メッセージ・ダイアログによりセーブ状況の把握が可能です。また、<Stop> ボタンによりセーブの中止も可能です。

Specify Line	保存する行番号の範囲を指定します。 数値入力時のデフォルトの進数は 10 進です。 ソース・テキスト・ウィンドウ が混合表示モードのときは、指定した行の混合表示部分も一緒に保存されます。
Specify Frame	保存するフレームの範囲を指定します（ 「表 7 - 17 フレーム番号の指定形式」 参照）。 数値入力時のデフォルトの進数は 10 進です。
Specify Address	保存するアドレス範囲を指定します。 アドレス指定はシンボルや式での指定も可能です（ 「表 7 - 10 シンボルでの指定方法」 参照）。数値入力時のデフォルトの進数は 16 進です。

機能ボタン

保存	選択したファイルにカレント・ウィンドウの表示情報を保存します。セーブ後、ダイアログをクローズします。
キャンセル	ファイルをセーブせずに、このダイアログをクローズします。
ヘルプ	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。
Restore	このダイアログをオープンする前の状態に戻します。

表示ファイル・ロード・ダイアログ

表示ファイルをロードするダイアログです（「5.17.2 ウィンドウの表示情報（表示ファイル）」参照）。

表示ファイルをロードすることにより、参照用ウィンドウ（スタティック状態のソース・テキスト・ウィンドウ）がオープンし、保存時の表示情報が表示されます。

ロードするファイルによって、オープンするウィンドウ / 状態が次のように異なります。

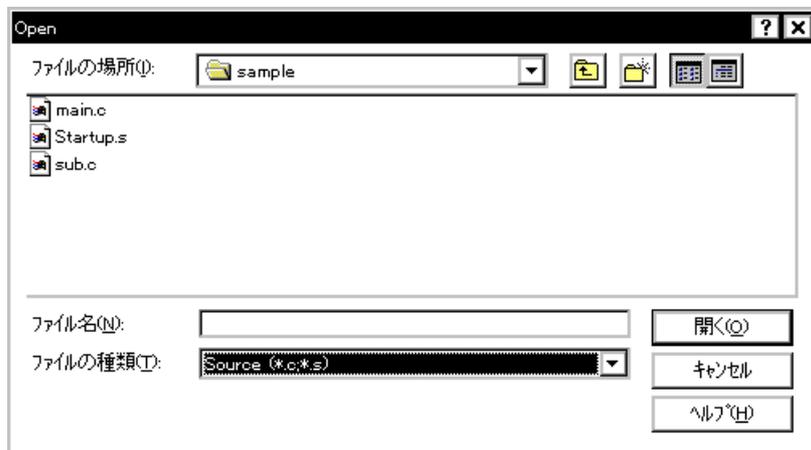
- ・シンボル情報が読み込まれているソース・ファイルをロードした場合

アクティブ状態のソース・テキスト・ウィンドウがあればスタティック状態で、なければアクティブ状態のソース・テキスト・ウィンドウとしてオープンされます。

- ・シンボル情報が読み込まれていないソース・ファイル、または表示ファイルをロードした場合

スタティック状態のソース・テキスト・ウィンドウにテキスト形式のファイルとしてオープンされます。

図 7 - 64 表示ファイル・ロード・ダイアログ



- ・ オープン方法
- ・ 各エリア説明
- ・ 機能ボタン

オープン方法



ボタンをクリック、または[ファイル]メニュー [開く]を選択

各エリア説明

(1) ファイルの場所, ファイル名

(2) ファイルの種類

(1) ファイルの場所, ファイル名

ファイル名を指定します。一覧からの選択, または直接入力により指定します。

指定できる文字数は, 拡張子を含めて 64 文字までです。

(2) ファイルの種類

ロードするファイルの種類 (拡張子) を指定します (「5.17.2 ウィンドウの表示情報 (表示ファイル)」参照)。

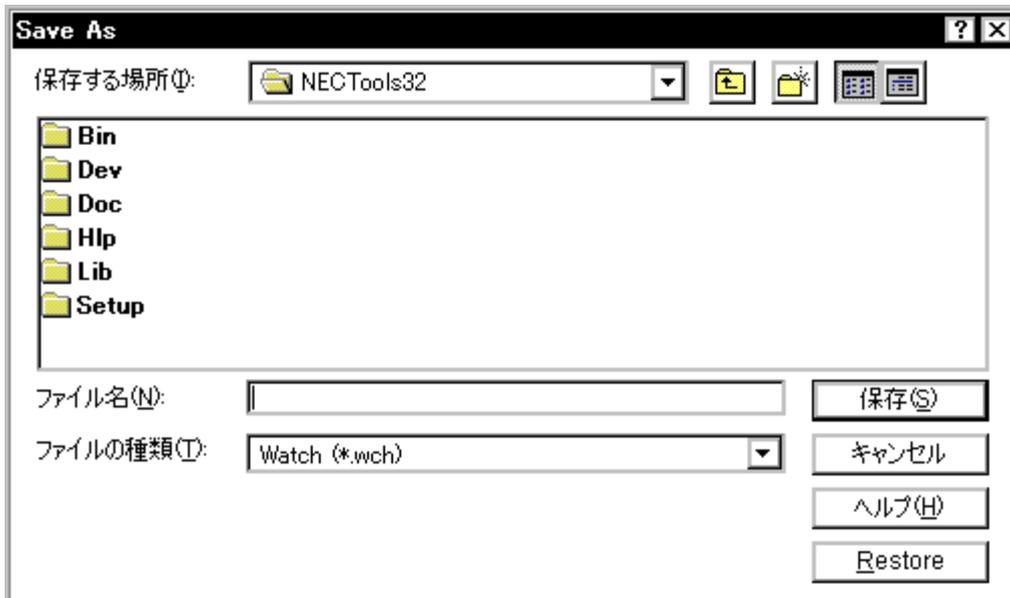
機能ボタン

開く	選択したファイルをロードします。ロード後, ダイアログをクローズします。
キャンセル	何もせずにこのダイアログをクローズします。
ヘルプ	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

環境設定ファイル・セーブ・ダイアログ

カレント・ウィンドウの設定内容を設定ファイルに保存します (「5.17.3 ウィンドウの設定情報 (設定ファイル)」参照)。

図7 - 65 環境設定ファイル・セーブ・ダイアログ



- [オープン方法](#)
- [各エリア説明](#)
- [機能ボタン](#)

オープン方法

保存するウィンドウをカレント・ウィンドウにし [ファイル]メニュー [環境] [名前を付けて保存...]を選択

各エリア説明

(1) 保存する場所、ファイル名

(2) ファイルの種類

(1) 保存する場所、ファイル名

保存するファイル名を指定します。キーボードから入力するか、エリアの上欄の一覧中から選択します。

(2) ファイルの種類

保存するファイルの種類（拡張子）を指定します（「表 5 - 20 設定ファイルの種類」参照）。

カレント・ウィンドウに対応した拡張子が表示されます。

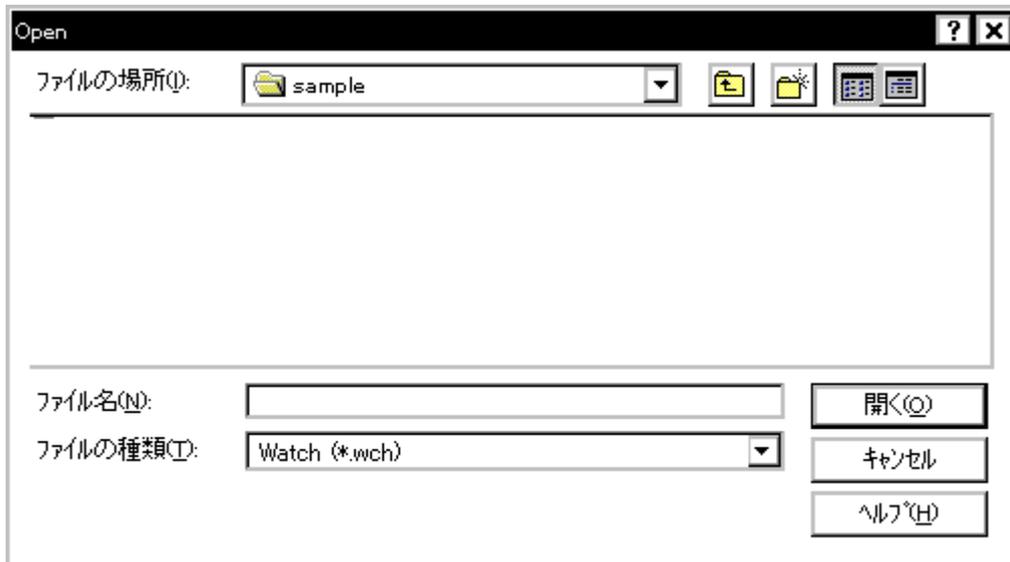
機能ボタン

保存	選択したファイルにカレント・ウィンドウの設定情報を保存します。セーブ後、ダイアログをクローズします。
キャンセル	ファイルをセーブせずに、このダイアログをクローズします。
ヘルプ	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。
Restore	このダイアログをオープンする前の状態に戻します。

環境設定ファイル・ロード・ダイアログ

設定ファイルをロードするダイアログです（「5.17.3 ウィンドウの設定情報（設定ファイル）」参照）。
設定ファイルをロードすることにより、対象ウィンドウがオープンし保存時の設定情報が復元されます。

図7 - 66 環境設定ファイル・ロード・ダイアログ



- ・ オープン方法
- ・ 各エリア説明
- ・ 機能ボタン

オープン方法

 ボタンをクリック，または[ファイル]メニュー [開く]を選択

各エリア説明

- (1) ファイルの場所，ファイル名
- (2) ファイルの種類

(1) ファイルの場所，ファイル名

ファイル名を指定します。一覧からの選択，または直接入力により指定します。
指定できる文字数は，拡張子を含めて64文字までです。

(2) ファイルの種類

ロードするファイルの種類（拡張子）を指定します（「表5 - 20 設定ファイルの種類」参照）。

機能ボタン

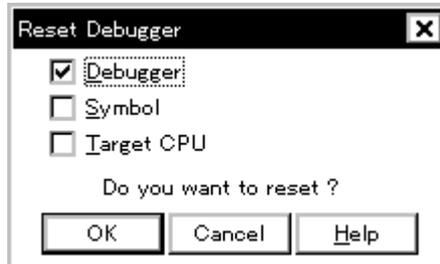
開く	選択したファイルをロードします。ロード後、ダイアログをクローズします。
キャンセル	何もせずにこのダイアログをクローズします。
ヘルプ	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

リセット確認ダイアログ

SM plus 本体，CPU，およびシンボル情報の初期化を行います。

初期化する対象を指定します。デフォルトでは，SM plus の初期化が指定されています。

図 7 - 67 リセット確認ダイアログ



- [オープン方法](#)
- [各エリア説明](#)
- [機能ボタン](#)

オープン方法

[ファイル]メニュー [デバッガリセット...]を選択

各エリア説明

(1) リセット対象選択エリア

- Debugger
- Symbol
- Target CPU

初期化する対象を選択するエリアです。

(a) Debugger

SM plus を初期化する際，選択します（デフォルト）

(b) Symbol

シンボル情報を初期化する際，選択します。

(c) Target CPU

CPU を初期化する際，選択します。

機能ボタン

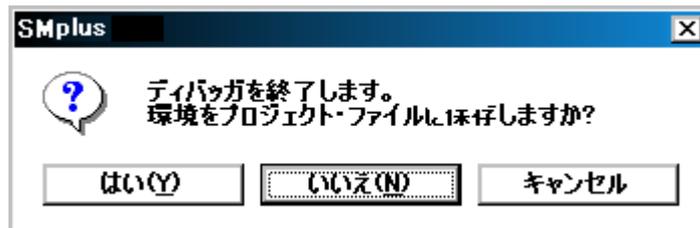
OK	選択した項目にしたがって、初期化を行います。
Cancel	設定を無視して、このダイアログをクローズします。
Help	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

終了確認ダイアログ

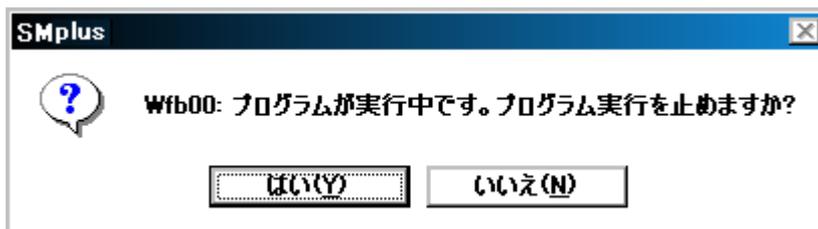
SM plus 終了時、現在のデバッグ環境をプロジェクト・ファイルに保存してから終了するか、保存せずに終了するかを選択します。

デバッガ・オプション設定ダイアログで、終了確認ダイアログをオープンせずに SM plus を終了するように設定することもできます。

図 7 - 68 終了確認ダイアログ



備考 ユーザ・プログラム実行中に SM plus を終了させようとする時、次のようなメッセージが表示されます。



<はい (Y)> ボタンを選択した場合

ユーザ・プログラムの実行を停止してから、終了確認ダイアログを表示します。

ただし、デバッガ・オプション設定ダイアログで終了確認ダイアログを表示しない設定にしている場合には、SM plus を終了します。

<いいえ (N)> ボタンを選択した場合

ユーザ・プログラムの実行は停止せず、終了確認ダイアログも表示しません。SM plus の終了も行いません。

- ・ [オープン方法](#)
- ・ [機能ボタン](#)

オープン方法

- ・ [ファイル]メニュー [終了]を選択、または Alt+F4 キーを押す
- ・ Windows を終了させるタスク・リストで、アプリケーションを終了させるなどの強制終了を行った時

機能ボタン

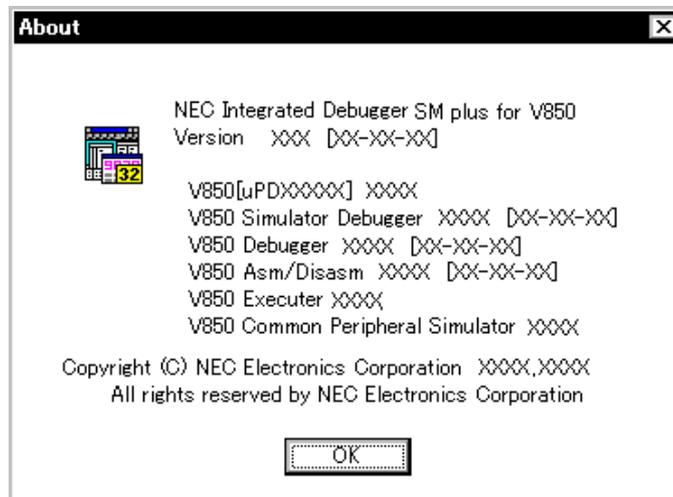
はい	<p>現在のディバグ環境をプロジェクト・ファイルに保存した後、すべてのウィンドウをクローズし、SM plus を終了します。</p> <p>プロジェクト・ファイル名が未定の場合には、プロジェクト・ファイル・セーブ・ダイアログがオープンします。また、プロジェクト・ファイル・セーブ・ダイアログで<キャンセル> ボタンを選択した際は、プロジェクト・ファイルの保存も SM plus の終了も行いません。</p> <p>ディバグ・オペレーション中にプロジェクト・ファイルをロード、またはセーブした場合には、このボタンがデフォルト・フォーカスを持ちます。</p>
いいえ	<p>すべてのウィンドウをクローズし、SM plus をクローズします。</p> <p>ディバグ・オペレーション中にプロジェクト・ファイルのロード、またはセーブをしなかった場合には、このボタンがデフォルト・フォーカスを持ちます。</p>
キャンセル	<p>何も行わず、このダイアログをクローズします。</p>

バージョン表示ダイアログ

SM plus のバージョン情報を表示します（西暦は4桁表示）。表示されるバージョン情報は次の通りです。

- SM plus の製品バージョン
- デバイス・ファイルのバージョン
- GUI のバージョン
- ディバッガ DLL のバージョン
- アセンブラ DLL のバージョン
- エグゼキュータのバージョン
- 共通周辺シミュレーション DLL のバージョン

図7 - 69 バージョン表示ダイアログ



- オープン方法
- 機能ボタン

オープン方法

[ヘルプ]メニュー [バージョン情報...]を選択

機能ボタン

OK	このダイアログをクローズします。
----	------------------

コンソール・ウィンドウ

SM plus を制御するためのコマンドを入力するウィンドウです。

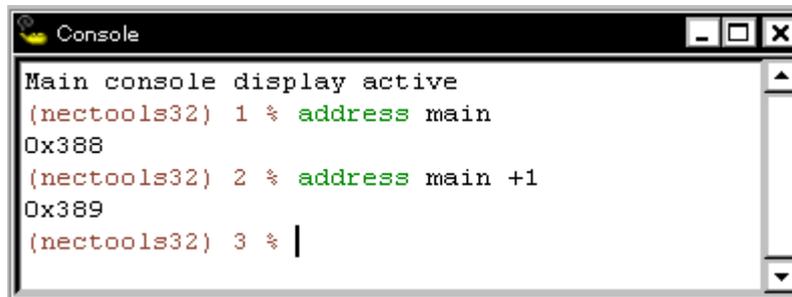
キーバインドは、Emacs ライクとなっているため、コンソール・ウィンドウが、アクティブ状態の時は、アクセラレータ・キーを受け付けません。

ただし、F1 キーは、コンソール・ウィンドウのヘルプを表示します。

また、コンソール・ウィンドウが開いているときは、<OK> ボタンのみエラー・メッセージはコンソール・ウィンドウに表示します。

なお、コマンド仕様に関しては、「[第8章 コマンド・レファレンス](#)」を参照してください。

図7 - 70 コンソール・ウィンドウ



・ オープン方法

オープン方法

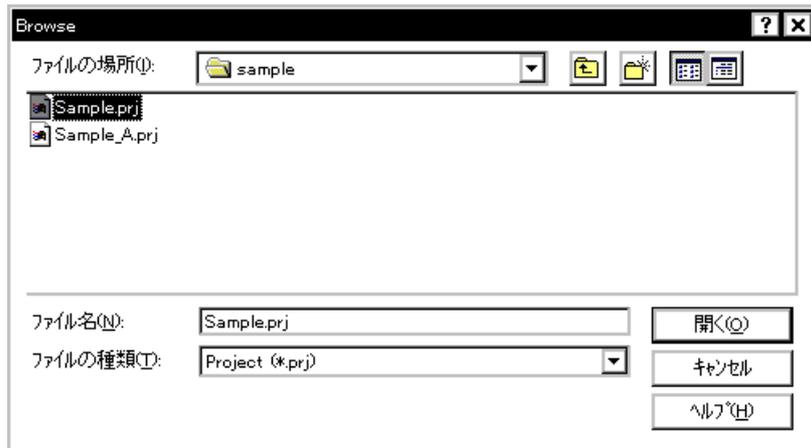
[ブラウザ]メニュー [コンソール]を選択

ソース・ファイル選択ダイアログ

[ソース・サーチ・ダイアログ](#)，または[ソース指定ダイアログ](#)へ設定するファイルを選択します。

備考 起動後，はじめてこのダイアログをオープンした場合には，ソース・パスで最初に指定しているディレクトリを表示します。2 度目以降の場合には，以前に表示したディレクトリを記憶して表示します。ただし，<キャンセル>した場合には記憶しません。

図 7 - 71 ソース・ファイル選択ダイアログ



- [オープン方法](#)
- [各エリア説明](#)
- [機能ボタン](#)

オープン方法

対象ダイアログ上の <Browse...> ボタンをクリック

各エリア説明

- (1) [ファイルの場所](#)，[ファイル名](#)（[ファイル選択エリア](#)）
- (2) [ファイルの種類](#)（[拡張子選択エリア](#)）

(1) ファイルの場所, ファイル名 (ファイル選択エリア)

ファイル名を指定するエリアです。一覧から選択するか, 直接入力により指定します。

指定可能文字数は拡張子を含めて 64 文字までです。

(2) ファイルの種類 (拡張子選択エリア)

オープンするファイルの種類 (拡張子) を指定するエリアです。

表 7 - 26 ソース・ファイル選択ダイアログで表示できるファイルの種類

ファイルの種類 (拡張子)	意味
Source (*.c, *.s)	ソース・ファイル ソースの拡張子 (c, s) は, デバッガ・オプション設定ダイアログ にて変更することができます。
Text (*.txt)	テキスト・ファイル
All (*.*)	すべてのファイル

機能ボタン

開く	選択したファイルを設定します。設定後ダイアログをクローズします。
キャンセル	ファイルを設定せず, このダイアログをクローズします。
ヘルプ	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

信号データ・エディタ・ウィンドウ

入力端子に対して任意のタイミングでの入力信号データを数値で設定するウィンドウです（「6.1 端子入出力機能」参照）。

このウィンドウでは、次のデータの表示 / 編集が可能です。

- 新規に作成する信号データ
- 以前に作成した信号データ・ファイル
- 以前にシミュレーションし、出力信号データとして保存した信号データ・ファイル

編集した信号データは、[編集]メニュー [信号入力]の選択により、シミュレーション中の入力端子への入力が可能です。また、[シミュレータ]メニュー [上書き保存 / 名前を付けて保存 ...]の選択により、信号データ・ファイルとして保存可能です（「6.1.5 信号データ・ファイル (*.wvi, *.wvo)」参照）。また、保存したファイル内容は[シミュレータ]メニュー [開く ...]により復元可能です。

図7 - 72 信号データ・エディタ・ウィンドウ



	Mark	Wait	P00	P01	RXD0	ANIO
1		1024	2	2	2	0
2		128	1	1	0	0
3		128	1	1	0	0
4	16	128	1	1	0	1250
5		128	0	0	1	2500
6		128	1	0	1	4800
7		128	0	0	1	4900
8		128	1	1	1	5000
9		128	0	1	0	5000

- オープン方法
- 各エリア説明
- 専用メニュー（信号データ・エディタ・ウィンドウ）
- [信号データエディタ]ツールバー
- コンテキスト・メニュー
- 関連操作

オープン方法

 ボタンをクリック、または[シミュレータ]メニュー [信号データエディタ]を選択

各エリア説明

- (1) インフォメーション・バー
- (2) クライアント・エリア

(1) インフォメーション・バー

このエリアは[表示]メニュー [インフォメーションバー]により、表示/非表示の選択が可能です。

	ウェイト時間の単位を表示します。 ウェイト時間の単位は、[編集]メニュー [時間単位]により変更可能です。
---	--

(2) クライアント・エリア

	Mark	Wait	PO0	PO1	RXDO	ANTD
1		1024	Z	Z	Z	0
2		128	1	1	0	0
3		128	1	1	0	0
4	↺16	128	1	1	0	1250
5		128	0	0	1	2500
6		128	1	0	1	4800
7		128	0	0	1	4900
8		128	1	1	1	5000
9	↵	128	0	1	0	5000

行番号エリア Mark エリア Wait エリア

(a) 端子エリア

このウィンドウで編集する端子名を表示します。

端子の選択は、[編集]メニュー [端子選択...]によりオープンする端子選択ダイアログで行います。

また、[編集]メニュー [端子状態]により端子へのデータ入力の有効/無効の制御が可能です。

(b) 行番号エリア

行番号を表示します。

このエリアは行単位で編集する際に使用します。

(c) Mark エリア

ループ情報を表示します。

[編集]メニュー [マーク設定]によりループ情報の編集が可能です。

ループ情報は、下記のように表示されます。

↺	ループの開始位置 (無限ループ)
↺n	ループの開始位置 (ループカウント付き)
↵	ループの終了位置

(d) Wait エリア

(e) **データ・エリア**に設定したデータが端子に入力されるタイミングをウェイト時間として表示します。ウェイト時間の編集は、枠内に直接数値を書き込むことにより行います。

ウェイト時間の単位は、[編集]メニュー [時間単位]により選択可能です。

(e) データ・エリア

端子に入力するデータを表示します。

データの編集は、枠内に直接数値を書き込むことにより行います。

専用メニュー（信号データ・エディタ・ウィンドウ）

(1) [編集]メニュー

元に戻す	選択不可
やり直し	選択不可
切り取り	選択範囲を切り取りクリップボードに保存します。
コピー	選択範囲をコピーしクリップボードに保存します。
貼り付け	クリップボードの内容を選択位置に貼り付けます。
削除	選択範囲を削除します。
すべて選択	すべての表示データを選択します。
検索	選択不可
端子選択 ...	端子選択ダイアログ をオープンします。データを作成 / 編集する端子を選択します。
時間単位	ウェイト時間の単位を選択します。
メインクロック	ウェイト時間の単位をメイン・クロックとします（デフォルト）。
マイクロ秒	ウェイト時間の単位をマイクロ秒とします。
ミリ秒	ウェイト時間の単位をミリ秒とします。
端子状態	選択端子の入力状態を選択します。
有効	端子へのデータ入力を有効にします（デフォルト）。
無効	端子へのデータ入力を無効にします。
マーク設定	選択した (c) Mark エリア にマークを設定します。
ループ開始	ループ開始マークを設定します。
ループ終了	ループ終了マークを設定します。
ループ詳細設定	ループ設定ダイアログ をオープンします。ループ情報を詳細に設定します。
信号入力	信号データをシミュレータに入力します。
開始	信号入力を開始します。
停止	信号入力を停止します。
リセット	信号入力のカレント行を先頭に戻します。

(2) [表示]メニュー

インフォメーションバー	インフォメーション・バーの表示 / 非表示を切り替えます。
-------------	-------------------------------

(3) [オプション]メニュー

ウィンドウのカスタマイズ...	ウィンドウの書式設定ダイアログをオープンします。
-----------------	--------------------------

[信号データエディタ]ツールバー

	端子選択ダイアログをオープンします。データを作成 / 編集する端子を選択します。
	信号入力を開始します。
	信号入力を停止します。
	信号入力のカレント行を先頭に戻します。

コンテキスト・メニュー

このウィンドウでは、(2) クライアント・エリア内の各エリアにおいて以下に示すコンテキスト・メニューを表示します。

(1) 端子エリア

有効	端子へのデータ入力を有効にします (デフォルト)。
無効	端子へのデータ入力を無効にします。
端子選択	端子選択ダイアログをオープンします。データを作成 / 編集する端子を選択します。

(2) 行番号

切り取り	選択行を切り取りクリップボードに保存します。
コピー	選択行をコピーしクリップボードに保存します。
貼り付け	クリップボードの内容を選択位置 (直前) に貼り付けます。
削除	選択行を削除します。

(3) Mark エリア

切り取り	選択セルを切り取りクリップボードに保存します。
コピー	選択セルをコピーしクリップボードに保存します。
貼り付け	クリップボードの内容を選択位置に貼り付けます。
削除	選択セルを削除します。
ループ開始	ループ開始マークを設定します。
ループ終了	ループ終了マークを設定します。
ループ詳細設定	ループ設定ダイアログ をオープンします。ループ情報の詳細を設定します。

(4) Wait エリア

切り取り	選択セルのデータを切り取りクリップボードに保存します。 切り取られたデータは '0' になります。
コピー	選択セルのデータをコピーしクリップボードに保存します。
貼り付け	クリップボードの内容を選択位置に貼り付けます。
削除	選択セルのデータを削除します。 削除されたデータは 0 になります。

(5) データ・エリア

切り取り	選択セルのデータを切り取りクリップボードに保存します。 切り取られたデータは 'Z (Hi-Z)' になります。
コピー	選択セルのデータをコピーしクリップボードに保存します。
貼り付け	クリップボードの内容を選択位置に貼り付けます。
削除	選択セルのデータを削除します。 削除されたデータは 'Z (Hi-Z)' になります。
信号入力開始	信号入力を開始します。
信号入力停止	信号入力を停止します。
信号入力リセット	信号入力のカレント行を先頭に戻します。

関連操作

- (1) 端子選択
- (2) データ入力
- (3) データのコピーと貼り付け編集
- (4) 行単位の編集
- (5) 信号入力
- (6) CPU リセット時の動作

(1) 端子選択

信号データを編集するためには、最初に編集する端子を選択する必要があります。

端子選択は、[編集]メニュー [端子選択]の選択によりオープンする[端子選択ダイアログ](#)で行います。

これにより、(a) [端子エリア](#)に選択した端子名が表示されます。

(2) データ入力

各エリアにおけるデータの入力方法は以下のとおりです。

最大 1,048,576 (= 1M) 行までの入力が可能です。

(a) Mark エリア

データ入力は、コンテキスト・メニューにより行います。

入力データをループ処理させたい場合は、ループ開始位置で[ループ開始]を選択し、ループ終了位置で[ループ終了]を選択することにより、ループの開始/終了マークを設定します。

ループ・カウントを指定する場合は、[ループ詳細設定...]の選択によりオープンする[ループ設定ダイアログ](#)で行います。

(b) Wait エリア

データ入力は、該当の枠内に直接数値を入力することにより行います。

0 ~ 4,294,967,295 までの整数値 (10 進数) が指定可能です。なお、4,294,967,295 を超える数値を設定する場合にはもう 1 段を使用することで設定可能です。

(c) データ・エリア

データ入力は、該当の枠内に直接数値を入力することにより行います。

端子の種類によって次のように入力規則が異なります。

デジタル端子の場合	‘0’ (=LOW), ‘1’ (=HIGH), ‘Z’ (=Hi-Z), ‘z’ (=Hi-Z)のいずれかの文字のみ入力可能。
アナログ端子の場合	0 ~ 5000 の範囲の値 (10 進数) の入力が可能。 単位は mV (ミリ・ボルト)。

(3) データのコピーと貼り付け編集

(c) Mark エリア / (d) Wait エリア / (e) データ・エリア上の設定値に対して、コピーと貼り付け編集が可能です。ただし、コピーしたデータは同一エリア内でのみの貼り付けとなります。また、以下の操作は、ツールバーの該当ボタンによっても可能です。

(a) コピー

1つ、または複数（範囲）のセルを選択した状態で、[編集]メニュー [コピー]の選択（またはCtrlキー+Cの入力）により行います。

(b) 貼り付け

1つ、または複数（範囲）のセルを選択した状態で、[編集]メニュー [貼り付け]の選択（またはCtrlキー+Vの入力）により行います。

複数（範囲）のセルを選択した場合は、コピーしたデータを繰り返して貼り付けます。

(4) 行単位の編集

行単位の編集は、(b) 行番号エリアを選択することにより行います。

方法は「(3) データのコピーと貼り付け編集」と同様です。

なお、行の貼り付け（挿入）時に貼り付けられるデータは選択行の直前に挿入されます。

(5) 信号入力

作成した信号データは、シミュレーション実行時にシミュレータの入力端子への入力が可能です。

また、CPU ブレーク時に現在信号入力中の行（カレント行）が黄色く強調表示され（[ウィンドウの書式設定ダイアログ](#)で変更可能）信号入力の進捗表示を行います。

信号データの入力操作には以下の種類があります。

(a) 信号入力の開始

[編集]メニュー [信号入力] [開始]を選択します。

これにより、信号入力のカレント行（強調表示されている行）から信号入力が始まります。

(b) 信号入力の停止

[編集]メニュー [信号入力] [停止]を選択します。

これにより信号入力が停止されます。

(c) 信号のリセット

[編集]メニュー [信号入力] [リセット]を選択します。

これにより信号入力のカレント行が先頭に戻ります。なお、信号入力中に信号のリセットを行った場合には先頭から引き続き入力が継続されます。

(6) CPU リセット時の動作

CPU リセットが発生した場合、信号入力のカレント行は先頭に戻ります。

信号入力中に CPU リセットが発生した場合は、先頭から引き続き入力が継続されます（「(c) 信号のリセット」時の動作と同じです）。

ループ設定ダイアログ

信号データ・エディタ・ウィンドウのループ情報に関する詳細設定（ループ開始 / 終了，ループ・カウント）を行うダイアログです（「6.1 端子入出力機能」参照）。

図7 - 73 ループ設定ダイアログ



- [オープン方法](#)
- [各エリア説明](#)
- [機能ボタン](#)

オープン方法

信号データ・エディタ・ウィンドウで[編集]メニュー [マーク設定] [ループ詳細設定]を選択，または同ウィンドウ上の Mark エリアをダブルクリック

各エリア説明

- (1) [ループ開始](#)
- (2) [ループ終了](#)

(1) ループ開始

ループ開始を設定する場合、チェックします。

(a) 無限ループ

無限ループを設定する場合、選択します。

(b) ループカウント

ループ・カウントを設定する場合、選択します。

スピン・ボタンにより、カウント値を指定します。

0 指定	ループをスキップします。
1 - 99 指定	指定カウント分のループをします。

(2) ループ終了

ループ終了を設定する場合、チェックします。

機能ボタン

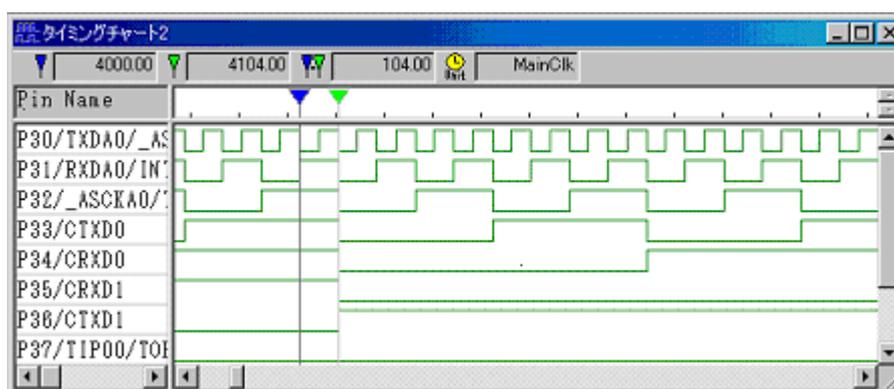
OK	設定を有効にし、このダイアログをクローズします。
キャンセル	設定を無視し、このダイアログをクローズします。

タイミング・チャート・ウィンドウ

端子に対する入力信号と出力信号をタイミング・チャート表示するウィンドウです（「6.1 端子入出力機能」）。このウィンドウでは、メイン・クロック単位で時間計測が可能です。

ブラウズした信号データは、[シミュレータ]メニュー [上書き保存/名前を付けて保存...]により、信号データ・ファイルとして保存可能です。また、保存したファイル内容は[シミュレータ]メニュー [開く...]により復元可能です。（「6.1.5 信号データ・ファイル (*.wvi, *.wvo)」参照）

図7 - 74 タイミング・チャート・ウィンドウ



- オープン方法
- 各エリア説明
- 専用メニュー（タイミング・チャート・ウィンドウ）
- [タイミングチャート]ツールバー
- コンテキスト・メニュー
- 操作方法

オープン方法

 ボタンをクリック，または[シミュレータ]メニュー [タイミングチャート]を選択

各エリア説明

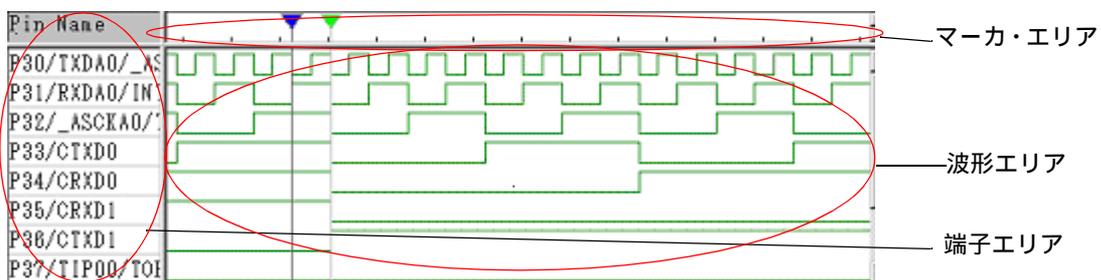
- (1) インフォメーション・バー
- (2) クライアント・エリア

(1) インフォメーション・バー

このエリアは[表示]メニュー [インフォメーションバー]により、表示/非表示の選択が可能です。

 4000.00	シミュレーション開始からマーカ A の位置までの時間を表示します。
 4104.00	シミュレーション開始からマーカ B の位置までの時間を表示します。
 104.00	マーカ AB 間の時間を絶対値で表示します。
 MainClk	時間情報の単位を表示します。 時間情報の単位は、[編集]メニュー [時間単位]により変更可能です。

(2) クライアント・エリア



(a) 端子エリア

このウィンドウで表示する端子名を表示します。

端子の選択は、[編集]メニュー [端子選択...]によりオープンする[端子選択ダイアログ](#)で行います。

(b) マーカ・エリア

2つのマーカ(AとB)のヘッド部分を表示します。

これらのマーカはドラッグにより移動可能です。

	マーカ A
	マーカ B

(c) 波形エリア

(a) [端子エリア](#)に指定した端子のデータをタイミング・チャート表示します。

信号により、次のように色分けされています。

緑	端子の HIGH, LOW 信号
中央に赤	ハイ・インピーダンス信号
中央に青	未サンプリング状態の信号

端子のデータを格納するバッファはリング・バッファ形式のため、バッファがいっぱいになると最古のデータは、最新のデータによって上書きされます。なお、バッファのサイズは 4096 端子変化点数です。

参考 (2) [クライアント・エリア](#)内の色変更は、[オプション]メニュー [ウィンドウのカスタマイズ]の選択によりオープンする[ウィンドウの書式設定ダイアログ](#)で可能です。

専用メニュー（タイミング・チャート・ウィンドウ）

(1) [編集]メニュー

クリア	すべての波形データを削除します。
検索	データ検索ダイアログがオープンします。データの検索を行います。
後方検索	選択端子の変化点を後方（左方向）に検索します。
前方検索	選択端子の変化点を前方（右方向）に検索します。
端子選択 ...	端子選択ダイアログをオープンします。データを表示する端子を選択します。
時間単位	時間の単位を選択します。
メインクロック	時間の単位をメイン・クロックとします。
マイクロ秒	時間の単位をマイクロ秒とします。
ミリ秒	時間の単位をミリ秒とします。

(2) [表示]メニュー

波形表示	(b) マーカ・エリアと (c) 波形エリアの表示 / 非表示を切り替えます。
インフォメーション バー	(1) インフォメーション・バーの表示 / 非表示を切り替えます。
ズーム	波形データの表示倍率を選択します。
x 1/32	表示倍率を 1/32 倍にします。
x 1/16	表示倍率を 1/16 倍にします。
x 1/8	表示倍率を 1/8 倍にします。
x 1/4	表示倍率を 1/4 倍にします。
x 1/2	表示倍率を 1/2 倍にします。
x 1	表示倍率を 1 倍にします。
x 2	表示倍率を 2 倍にします。
x 4	表示倍率を 4 倍にします。
x 8	表示倍率を 8 倍にします。
x 16	表示倍率を 16 倍にします。
x 32	表示倍率を 32 倍にします。

(3) [オプション]メニュー

ウィンドウのカスタマイズ ...	ウィンドウの書式設定ダイアログをオープンします。
------------------	--------------------------

[タイミングチャート] ツールバー

	すべての波形データを削除します。
	選択端子の変化点を後方（左方向）に検索します。
	選択端子の変化点を前方（右方向）に検索します。
	端子選択ダイアログ をオープンします。データを表示する端子を選択します。
	波形データの表示倍率をドロップダウン・リストから選択します。

コンテキスト・メニュー

このウィンドウでは、(b) マーカ・エリア、および (c) 波形エリアにおいて以下に示すコンテキスト・メニューを表示します。

クリア	すべての波形データを削除します。
検索	データ検索ダイアログ がオープンします。データの検索を行います。
後方検索	選択端子の変化点を後方（左方向）に検索します。
前方検索	選択端子の変化点を前方（右方向）に検索します。
端子選択 ...	端子選択ダイアログ をオープンします。データを表示する端子を選択します。
波形表示	(b) マーカ・エリアと (c) 波形エリアの表示 / 非表示を切り替えます。
マーカ A の配置	マーカ A をマウス・カーソル位置に配置します。 Shift キー + クリックでも同様の操作が可能です。
マーカ B の配置	マーカ B をマウス・カーソル位置に配置します。 Ctrl キー + クリックでも同様の操作が可能です。

操作方法

- (1) 端子選択
- (2) タイミング・チャート表示
- (3) タイミング・チャートのクリア
- (4) タイミング・チャートのタイミング計測
- (5) データ検索機能
- (6) リセット時の動作

(1) 端子選択

タイミング・チャートを表示するためには、最初に表示する端子を選択する必要があります。
端子選択は、[編集]メニュー [端子選択]の選択によりオープンする[端子選択ダイアログ](#)で行います。
これにより、(a) [端子エリア](#)に選択した端子名が表示されます。

(2) タイミング・チャート表示

ユーザ・プログラムの実行により、選択端子の波形がタイミング・チャート形式で表示されます。

参考 タイミング・チャートを非表示にすることでシミュレーション速度を速めることができます。
非表示にするには、[表示]メニュー [波形表示]を選択します(チェックなしにする)。
(非表示時は、(b) [マーカ・エリア](#)、および(c) [波形エリア](#)はグレー表示され、中央に " Display OFF " と表示されます。)

(3) タイミング・チャートのクリア

CPU リセットにより、タイミング・チャートの表示はクリアされます。
また [編集]メニュー [クリア]の選択によってもクリアされます。

(4) タイミング・チャートのタイミング計測

用意されているマーカ(A, B)を使用し2ヶ所をマーキングすることで2点間のタイミング計測が可能です。
各マーカの時間、およびマーカ間の時間は(1) [インフォメーション・バー](#)に表示されます。
マーカの配置は、コンテキスト・メニュー [マーカAの配置/マーカBの配置]の選択により行います。
これによりマーカA, マーカBがマウス・カーソルの位置に配置されます。
なお、配置したマーカは、マーカ・ヘッドをドラッグすることにより目的の位置への移動が可能です。
また、最後にクリックしたマーカは選択マーカとなり、キー操作が可能となります。なお、選択マーカは「(5) [データ検索機能](#)」で使用します。

図7 - 75 マーカA, B



(5) データ検索機能

タイミング・チャートのデータ検索機能には、次の2種類があります。

(a) 単純検索

単純検索は1つの端子の変化点を検索する機能です。

検索したい端子名を (a) [端子エリア](#) で1つ選択し、[編集]メニュー [後方検索/前方検索]を選択します。

これにより、変化点が検索されたデータ位置に選択マークが移動します。

(b) 詳細検索

詳細検索では複数端子の様々なデータの組み合わせによる検索が可能です。

検索データの設定は、[編集]メニュー [検索...]の選択によりオープンする [データ検索ダイアログ](#) により行います。検索結果は単純検索と同様にヒットしたデータ位置に選択マークが移動します。

(6) リセット時の動作

ディバग्ガ、およびシミュレータのリセットが発生した場合、タイミング・チャートの表示波形はすべてクリアされます。

端子選択ダイアログ

信号データ・エディタ・ウィンドウ，およびタイミング・チャート・ウィンドウで表示する端子を選択するダイアログです（「6.1 端子入出力機能」）。

このダイアログ上で設定した端子情報は，< 保存 > ボタンにより端子情報ファイル（*.pin）として保存可能です。また，保存したファイル内容は< 読み込み > ボタンにより復元可能です。

図 7 - 76 端子選択ダイアログ



- ・ オープン方法
- ・ 各エリア説明
- ・ 機能ボタン

オープン方法

対象ウィンドウをカレント・ウィンドウにし

 ボタンをクリック，または [編集] メニュー [端子選択 ...] を選択

各エリア説明

- (1) 接続端子名
- (2) アナログ
- (3) 機能名

(1) 接続端子名

接続する端子を指定するエリアです。

接続する端子をドロップダウン・リストからの選択、または直接入力により指定します。

エリアの右側にあるスクロール・バーを操作することにより、最大 256 端子が設定可能です。

注意 指定する端子名に関しては、使用するデバイスのユーザーズ・マニュアルを参照してください。

(2) アナログ

(1) [接続端子名](#)で指定した端子をアナログ端子として使用する場合、このエリアにチェックします。

(3) 機能名

(1) [接続端子名](#)で指定した端子に機能名を設定するエリアです。

このエリアに文字列を入力すると、その文字列が機能名として端子名の部分に表示されます。

何も指定しない場合、端子名が表示されます。

機能ボタン

OK	設定を有効にし、このダイアログをクローズします。 このダイアログを呼び出したウィンドウの Pin 欄に端子名（または表示名）が表示されます。
保存	名前を付けて保存ダイアログ をオープンします。 表示内容を端子情報ファイル (*.pin) に保存します。
読み込み	ファイルを開くダイアログ をオープンします。 指定した端子情報ファイル (*.pin) を読み込みます。
クリア	設定内容をすべて削除します。
キャンセル	設定を無視し、このダイアログをクローズします。

データ検索ダイアログ

タイミング・チャート・ウィンドウで表示されている信号データを詳細検索します（「6.1 端子入出力機能」）。

注意 アナログ入出力信号は検索できません。

図7 - 77 データ検索ダイアログ



- ・ オープン方法
- ・ 各エリア説明
- ・ 機能ボタン

オープン方法

タイミング・チャート・ウィンドウをカレント・ウィンドウにし、

 ボタンをクリック、または [編集] メニュー [検索 ...] を選択

各エリア説明

- (1) 検索端子
- (2) 検索データ
- (3) 検索する方向

(1) 検索端子

検索する端子を指定します。

ドロップダウン・リストからの選択、または直接入力が可能です。

空白を入力するとデータ検索の対象外となり (2) 検索データを入力不可にします。

(2) 検索データ

(1) 検索端子で指定した端子で検索するデータをドロップダウン・リストから選択します。

右側のスクロール・バーを操作することにより、検索条件は最大 48 個指定できます。

検索条件を複数個指定した場合、すべての検索条件を満たす信号データを検索します。

-----	Don't care
Rise Edge	信号データの立ち上がりを検索します。
Fall Edge	信号データの立ち下がりを検索します。
Rise/Fall Edge	信号データの立ち上がり / 立ち下がりを検索します。
High	信号データが HIGH の状態を検索します。
Low	信号データが LOW の状態を検索します。
Hi Z	信号データがハイ・インピーダンスの状態を検索します。

(3) 検索する方向

データ検索する方向をラジオ・ボタンにより選択します。

<次を検索> ボタンをクリックした際、このエリアで選択した方向へ検索を行います。

後方 (B)	後方 (現在位置より古い時間) のデータを検索します。
前方 (F)	前方 (現在位置より新しい時間) のデータを検索します (デフォルト)。

機能ボタン

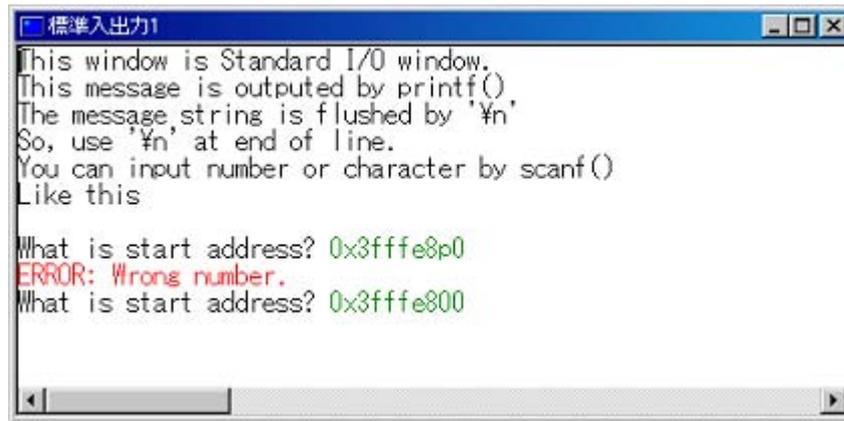
次を検索	(3) 検索する方向で選択されている方向へ検索を行います。 検索終了後、再度クリックすることにより次のデータを検索します。
キャンセル	データ検索を中止し、このダイアログをクローズします。

標準入出力ウィンドウ

シミュレータの標準入出力機能を利用する際に使用するウィンドウです（「6.2 標準入出力機能」参照）。このウィンドウでは、標準出力データのテキスト表示、および標準入力データの直接入力が可能です。

表示データは、[シミュレータ]メニュー [上書き保存/名前を付けて保存...]の選択により、TEXT形式のファイル(*.log)に保存可能です。

図7 - 78 標準入出力ウィンドウ



- オープン方法
- 各エリア説明
- 専用メニュー（標準入出力ウィンドウ）
- コンテキスト・メニュー
- 関連操作

オープン方法

 ボタンをクリック，または[シミュレータ]メニュー [標準入出力]を選択

各エリア説明

(1) 標準入出力表示エリア

このエリアでは、シミュレータからの標準出力データのテキスト表示とシミュレータへ入力する標準入力データの直接入力を行います。

表示可能な最大行数はデフォルトで500行です（[標準入出力バッファサイズ変更ダイアログ](#)で変更可能）。

出力データが最大行数を超えた場合、最古のデータから上書きされます。なお、上書きにより消去されたデータは復元できません。

専用メニュー（標準入出力ウィンドウ）

(1) [編集]メニュー

コピー	選択範囲の文字列をコピーしクリップボードに保存します。
貼り付け	クリップボードの内容を貼り付けます（(1) 標準入出力表示エリア の表示データの最後尾に貼り付けられ、その内容は標準入力データとして扱われます）。
クリア	すべての表示データを削除します。
すべて選択	すべての表示データを選択します。

(2) [オプション]メニュー

シミュレータオプション ...	シミュレータ・オプション・ダイアログ をオープンします。
ウィンドウのカスタマイズ...	ウィンドウの書式設定ダイアログ をオープンします。
バッファサイズの設定 ...	標準入出力バッファサイズ変更ダイアログ をオープンします。

コンテキスト・メニュー

コピー	選択範囲の文字列をコピーしクリップボードに保存します。
貼り付け	クリップボードの内容を貼り付けます（(1) 標準入出力表示エリア の表示データの最後尾に貼り付けられ、その内容は標準入力データとして扱われます）。
クリア	すべての表示データを削除します。

関連操作

- (1) 標準出力
- (2) 標準入力
- (3) 表示エリアのクリア
- (4) 標準ライブラリの利用方法

(1) 標準出力

標準出力データは、(1) [標準入出力表示エリア](#)の表示データの最後尾から表示されます。

(2) 標準入力

標準入力操作は、(1) [標準入出力表示エリア](#)へ直接入力することにより行います。

入力データは最後尾から表示されます。なお、貼り付けによる入力も可能です。

(3) 表示エリアのクリア

(1) [標準入出力表示エリア](#)のクリアは、[編集]メニュー [クリア]の選択により行います。

(4) 標準ライブラリの利用方法

標準ライブラリを利用するには、標準ライブラリとのインタフェース領域（外部メモリ領域内）の先頭アドレス（インタフェース・アドレス）を設定する必要があります（「[6.2.1 機能利用方法](#)」参照）。

標準入出力バッファサイズ変更ダイアログ

標準入出力ウィンドウの最大表示行数（バッファ・サイズ）を指定するダイアログです（「6.2 標準入出力機能」参照）。

図7 - 79 標準入出力バッファサイズ変更ダイアログ



- ・ オープン方法
- ・ 各エリア説明
- ・ 機能ボタン

オープン方法

標準入出力ウィンドウをカレント・ウィンドウにし、[オプション]メニュー [バッファサイズ...]を選択

各エリア説明

(1) 最大行数

標準入出力ウィンドウの最大表示行数（バッファ・サイズ）をドロップダウン・リストから選択し指定します。

機能ボタン

OK	設定を有効にし、このダイアログをクローズします。
キャンセル	設定を無視し、このダイアログをクローズします。

シミュレータ・オプション・ダイアログ

シミュレータの各種オプション設定を行うダイアログです。

[標準ライブラリインタフェース]タブでは、標準入出力ウィンドウで使用する標準ライブラリ・インタフェースに関する各種情報の設定 / 変更を行います (「6.2 標準入出力機能」参照)。

図7 - 80 シミュレータ・オプション・ダイアログ ([標準ライブラリインタフェース]タブ選択時)



- オープン方法
- [標準ライブラリインタフェース]タブ
- 機能ボタン

オープン方法

[オプション]メニュー [シミュレータオプション...]を選択

[標準ライブラリインタフェース]タブ

- (1) インタフェースアドレス:
- (2) 入出力ファイルパス:

(1) インタフェースアドレス:

標準ライブラリとインタフェースを取るためのインタフェース領域（外部メモリ領域内）の先頭アドレス（インタフェース・アドレス）を指定するエリアです。

(2) 入出力ファイルパス:

ファイル入出力ライブラリを利用する際のファイル検索パスを指定するエリアです。

カンマで区切ることにより複数のパス指定が可能です。

機能ボタン

OK	設定を有効にし、このダイアログをクローズします。
キャンセル	設定を無視し、このダイアログをクローズします。
適用	選択不可
ヘルプ	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

シリアル・ウィンドウ

CPU に搭載されているシリアル・インタフェースと通信を行うウィンドウです（「6.3 シリアル入出力機能」参照）。

このウィンドウは CPU の他局側のシリアル・インタフェースとして動作するため、CPU からの送信データがこのウィンドウでの受信データに、このウィンドウからの送信データが CPU での受信データになります。

このウィンドウでは、2 種類のファイルを扱うことができます。

ウィンドウ上部エリアで表示された受信データ / 送信データは、[シミュレータ]メニュー [上書き保存 / 名前を付けて保存 ...] の選択により、CSV 形式のテキスト・ファイルとして保存可能です（「6.3.2 シリアル・ログデータ・ファイル (*.log)」参照）。

また、ウィンドウ下部エリアで作成した送信データは、<保存> ボタンにより CSV 形式のテキスト・ファイルに保存可能です。また <読み込み> ボタンにより内容復元が可能です（「6.3.3 シリアル送信データ・ファイル (*.ser)」参照）。

注意 このウィンドウは複数オープン可能です。

ウィンドウのオープン後に (1) シリアル選択エリアで検証したいシリアル・インタフェースを選択してください。

図 7 - 81 シリアル・ウィンドウ



- オープン方法
- 各エリア説明
- 専用メニュー（シリアル・ウィンドウ）
- コンテキスト・メニュー

オープン方法

 ボタンをクリック，または [シミュレータ] メニュー [シリアル...] を選択

各エリア説明

- (1) シリアル選択エリア
- (2) ログ表示エリア
- (3) シリアル・エディタ・エリア

(1) シリアル選択エリア

通信するシリアル・インタフェースを選択します。

	搭載されているシリアル・インタフェースの一覧（ドロップダウン・リスト）から通信するシリアル・インタフェースを選択します。 注意： 一旦選択すると変更できません。
	時間情報の単位を表示します。 時間情報の単位は，[編集]メニュー [時間単位] により変更可能です。

(2) ログ表示エリア

Time	Send Data	Receive Data	Status
256	0x8e	0x5a	
256	0xe5	0xb1	
256	0xaa	0x76	
256	0xb6	0x82	
256	0x99	0x65	F
256	0x45	0x11	
256	0x11	0xe4	
256	0x10	0xd8	
256	0xb3	0x7f	
256	0x...	0x...	

受信，および送信データを表示します。

表示タイミングは，データを構成する全ビットの受信，または送信が完了した時点です。

このエリアには，スタート・ビット，ストップ・ビット，およびパリティ・ビットを削除したデータのみが表示されます。

データの表示方法は [表示] メニュー [数値表現] [2進表示 / 16進表示] の選択により変更可能です。

ディバッガ，またはシミュレータのリセット発生により，ログ表示はクリアされます。

(a) Time

前データの受信 / 送信終了から今回の受信 / 送信終了までの時間を表示します。

時間情報の単位は，[編集]メニュー [時間単位] により選択した単位となります。

(b) Send Data

このウィンドウが送信したデータ（CPU側が受信したデータ）を表示します。

(c) Receive Data

このウィンドウが受信したデータ（CPU側が送信したデータ）を表示します。

(d) Status

データ受信時の状態を表示します。

エラーが発生時には次のマークを表示します。正常時は何も表示されません。

P	パリティ・エラー (パリティ・ビットの不一致)
F	フレーミング・エラー (ストップビットが検出されない)

(3) シリアル・エディタ・エリア

送信データを作成するエリアです。

このエリアは[表示]メニュー [シリアル・エディタ]により表示/非表示の選択が可能です。

[機能ボタン](#)はこのエリアの操作に使用します。



(a) No

先頭からシーケンシャルに付けられている行番号です。直接書き込みはできません。

最大 9999 行まで設定可能です。

(b) Wait

ひとつ前のデータ送信完了から右側のデータを送信開始したい間の時間を指定します。

<自動送信> ボタンでの送信時に有効です。

時間情報の単位は、[編集]メニュー [時間単位]により選択した単位となります。

Wait 値の入力は、編集を行う Wait 欄にカーソルを置きダブルクリックすることにより行います。

1 回の操作で 1 つ分の Wait 値の書き込みが可能です。

(c) Data

送信データを編集するエリアです。

Data 欄にカーソルを置きダブルクリックすることにより、直接書き込み可能です。

先頭に "0x" と付けると 16 進数として, "0b" を付けると 2 進数として扱われます。デフォルト進数は 16 進数です。

[フォーマット設定ダイアログ \(UART\)](#) , または [フォーマット設定ダイアログ \(CSI\)](#) で設定したビット長と異なるビット長を指定した場合、下位ビットからのデータが有効になります。

1 回の操作で 1 つ分の Data 書き込みが可能です。

(d) 機能ボタン

フォーマット	フォーマット設定ダイアログ (UART), またはフォーマット設定ダイアログ (CSI) をオープンします。
全てクリア	データ作成エリアをすべて空白にします。
読み込み	ファイルを開くダイアログをオープンします。指定したファイル (*.ser) の内容を読み込み, (3) シリアル・エディタ・エリアに表示します。
保存	名前を付けて保存ダイアログをオープンします。データの設定内容を指定したファイル (*.ser) に CSV 形式で保存します。
送信	(3) シリアル・エディタ・エリアで選択されているデータを 1 つ送信します。送信の完了により次のデータが選択状態になります。データが選択されていない場合, 先頭のデータを送信します。
自動送信	(3) シリアル・エディタ・エリアで選択されているデータを先頭にし, 下方方向にデータを自動送信します。データ送信の時間間隔は Wait に指定した時間となります。

専用メニュー (シリアル・ウィンドウ)

(1) [編集]メニュー

挿入	選択行の直前に新しい行を挿入します。
切り取り	選択範囲を切り取りクリップボードに保存します。
コピー	選択範囲をコピーしクリップボードに保存します。
貼り付け	クリップボードの内容を選択位置に貼り付けます。
削除	選択範囲を削除します。
時間単位	時間の単位を選択します。
メインクロック	時間の単位をメイン・クロックとします (デフォルト)。
マイクロ秒	時間の単位をマイクロ秒とします。
ミリ秒	時間の単位をミリ秒とします。
フォーマット設定 ...	フォーマット設定ダイアログ (UART), またはフォーマット設定ダイアログ (CSI) をオープンします。

(2) [表示]メニュー

シリアル・エディタ	(3) シリアル・エディタ・エリアの表示 / 非表示を切り換えます。
数値表現	(2) ログ表示エリアの表示方法を変更します。
2 進数表示	2 進数表示します。
16 進数表示	16 進数表示します。

(3) [オプション]メニュー

ウィンドウのカスタマイズ...	ウィンドウの書式設定ダイアログをオープンします。
-----------------	--------------------------

コンテキスト・メニュー

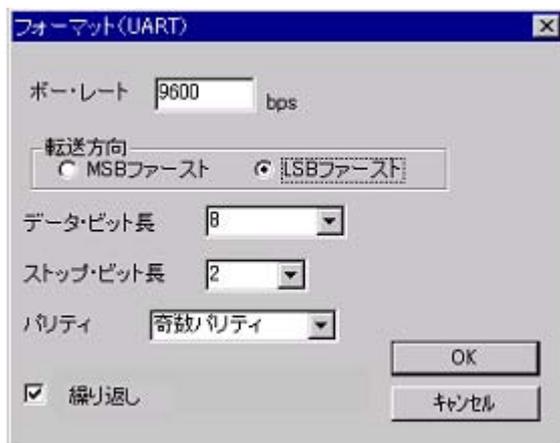
(3) シリアル・エディタ・エリアにおいて以下に示すコンテキスト・メニューを表示します。

挿入	選択行の直前に新しい行を挿入します。
切り取り	選択範囲を切り取りクリップボードに保存します。
コピー	選択範囲をコピーしクリップボードに保存します。
貼り付け	クリップボードの内容を選択位置に貼り付けます。
削除	選択範囲を削除します。

フォーマット設定ダイアログ (UART)

アシンクロナス・シリアル・インタフェース (UART) 用のシリアル・フォーマットを設定するダイアログです (「6.3 シリアル入出力機能」参照)。

図 7 - 82 フォーマット設定ダイアログ (UART)



- オープン方法
- 各エリア説明
- 機能ボタン

オープン方法

シリアル・ウィンドウで UART 系のシリアル・インタフェースが選択されている時、[編集]メニュー [フォーマット ...] を選択、または同ウィンドウ上の <フォーマット ...> ボタンをクリック

各エリア説明

- (1) ボー・レート
- (2) 転送方向
- (3) データ・ビット長
- (4) ストップ・ビット長
- (5) パリティ
- (6) 繰り返し

(1) ボー・レート

シリアルのボー・レート値を整数で直接入力します（単位：bps）。

注意 選択可能な範囲は、使用デバイスのユーザズ・マニュアルを参照してください。

(2) 転送方向

転送方向を選択します。

MSB ファースト	転送方向を MSB ファーストとします。
LSB ファースト	転送方向を LSB ファーストとします（デフォルト）。

(3) データ・ビット長

送信データのビット長をドロップダウン・リストからの選択、または直接入力により指定します。

デフォルトは 8 で、最大 32 まで指定可能です。

(4) ストップ・ビット長

ストップ・ビット長をドロップダウン・リストからの選択します。

デフォルトは 1 です。

(5) パリティ

パリティ情報（パリティなし / 奇数パリティ / 偶数パリティ / 0 パリティ）を選択します。

デフォルトはパリティなしです。

(6) 繰り返し

シリアル・ウィンドウの < 自動送信 > ボタンをクリックした際に、データ転送の繰り返しを行う場合、チェックします。

チェックあり	自動送信で最後のデータを送信した後、データの先頭に戻って自動送信を続けます。
チェックなし	自動送信で最後のデータを送信した後、送信を停止します。

機能ボタン

OK	設定を有効にし、このダイアログをクローズします。
キャンセル	設定を無視し、このダイアログをクローズします。

フォーマット設定ダイアログ (CSI)

3 線式シリアル・インタフェース (CSI) 用のシリアル・フォーマットを設定するダイアログです (「6.3 シリアル入出力機能」参照)。

図 7 - 83 フォーマット設定ダイアログ (CSI)



- ・ オープン方法
- ・ 各エリア説明
- ・ 機能ボタン

オープン方法

シリアル・ウィンドウで CSI 系のシリアル・インタフェースが選択されている時、[編集]メニュー [フォーマット ...] を選択、または同ウィンドウ上の <フォーマット ...> ボタンをクリック

各エリア説明

- (1) マスタ, スレーブ
- (2) 転送クロック
- (3) 転送方向
- (4) データ・ビット長
- (5) 繰り返し

(1) マスタ、スレーブ

転送モードを選択します。

マスタ	このウィンドウ側をマスタとして動作します。 通信の際クロックを生成するため (2) 転送クロックの設定が必要です。
スレーブ	このウィンドウ側をスレーブとして動作します (デフォルト)。 CPU 搭載のシリアル・インタフェースのクロックで通信します。

(2) 転送クロック

転送クロック値を直接入力します (単位: kHz)。

小数点付き数値の設定も可能です。

(1) マスタ、スレーブでマスタを選択時には必ず設定します。

注意 設定可能な範囲は、使用デバイスのユーザーズ・マニュアルを参照してください。

(3) 転送方向

転送方向を選択します。

MSB ファースト	転送方向を MSB ファーストとします。
LSB ファースト	転送方向を LSB ファーストとします (デフォルト)。

(4) データ・ビット長

送信データのビット長をドロップダウン・リストから選択、または直接入力により指定します。

デフォルトは 8 で、最大 32 まで指定可能です。

(5) 繰り返し

シリアル・ウィンドウの < 自動送信 > ボタンをクリックした際に、データ転送の繰り返しを行う場合、チェックします。

チェックあり	自動送信で最後のデータを送信した後、データの先頭に戻って自動送信を続けます。
チェックなし	自動送信で最後のデータを送信した後、送信を停止します。

機能ボタン

OK	設定を有効にし、このダイアログをクローズします。
キャンセル	設定を無視し、このダイアログをクローズします。

入出力パネル・ウィンドウ

擬似的なターゲット・システムを構築する際に使用するウィンドウです。接続部品の表示、操作を行います（「6.4 パネル機能」参照）。

入出力パネル・ウィンドウでは、接続部品の設定を行うことで擬似的なターゲット・システムを構築することができます。設定を行った接続部品はこのウィンドウ内に表示され、シミュレーション中における信号の切り口となります。

また、これらの部品はウィンドウ内の任意の位置への移動も可能です。

ウィンドウ内に配置した部品の情報は、[シミュレータ]メニュー [上書き保存/名前を付けて保存...]によりファイル (*.pnl) への保存が可能です。また、保存したファイル内容は[シミュレータ]メニュー [開く...]により復元可能です。

図7 - 84 入出力パネル・ウィンドウ



- オープン方法
- メニュー・バー/ツールバー
- コンテキスト・メニュー
- 操作方法

オープン方法

 ボタンをクリック，または[シミュレータ]メニュー [入出力パネル...]を選択

メニュー・バー/ツールバー

[部品] メニュー , および [図形] メニューの中には , ツールバー上のボタンにより同様な動作が可能なものもあります。

- (1) [編集] メニュー
- (2) [表示] メニュー
- (3) [部品] メニュー / ツールバー (部品)
- (4) [図形] メニュー / ツールバー (図形)

(1) [編集] メニュー

[図形] メニュー / ツールバー (図形) により作成した図形オブジェクト , および [部品] メニュー / ツールバー (部品) により作成した部品オブジェクトに対して基本的な編集操作を行う場合に選択します。

元に戻す	オブジェクトの移動など直前に行った動作を元に戻します。 変更内容の復帰は、5 回前の状態まで可能です。
やり直し	[元に戻す] で戻した状態を復帰します。
切り取り	選択範囲を切り取りクリップ・ボードに保存します。
コピー	選択範囲をコピーしクリップ・ボードに保存します。
貼り付け	クリップボードの内容を貼り付けます。
削除	選択範囲を削除します。
すべて選択	ウィンドウ上のすべてのオブジェクトを選択します。
グループ化	選択しているオブジェクトをグループ化します。
グループ解除	選択しているオブジェクトのグループ状態を解除します。
最前面へ移動	選択しているオブジェクトをパネルの最前面に移動します。
最背面へ移動	選択しているオブジェクトをパネルの最背面へ移動します。
前面へ移動	選択しているオブジェクトを一つ前面へ移動します。
背面へ移動	選択しているオブジェクトを一つ背面へ移動します。

(2) [表示] メニュー

ツールバー , ステータス・バーの表示状態の切り替え , およびウィンドウ内の各種情報を表示 / 非表示する場合に選択します。

ツールバー	2 種類のツールバー (図形 / 部品) の表示 / 非表示を切り替えます。
ステータスバー	ステータス・バーの表示 / 非表示を切り替えます。
接続部品一覧 ...	オブジェクト一覧ダイアログ をオープンします。 入出力パネル・ウィンドウ上に存在するすべての図形 / 部品オブジェクトの一覧表示をします。
グリッド	グリッドの表示 / 非表示をします。
プロパティ	選択している図形 / 部品オブジェクトのプロパティ・ダイアログをオープンします (「表 6 - 6 接続部品」 参照) 。

(3) [部品]メニュー/ツールバー (部品)

SM plus が提供する接続部品を新規作成，または配置する際に選択します。

カスケード・メニューの選択によりマウス・カーソルが十字(+)になり部品の新規作成 / 配置が可能になります。

新規作成の場合，この状態でウィンドウ上の任意の位置をクリックすることにより，対応する部品が作成されます。その後，部品上をダブルクリックすることによりオープンする各プロパティ・ダイアログで端子との接続，およびスタイルを設定してください(「表 6 - 6 接続部品」参照)。

ボタン	ボタンの作成を可能にします。  ボタンのクリックと同様です。
キー マトリクス	キーマトリクスの作成を可能にします。  ボタンのクリックと同様です。
レベルゲージ	レベルゲージの作成を可能にします。  ボタンのクリックと同様です。
LED	LED の作成を可能にします。  ボタンのクリックと同様です。
7 セグメント LED	7 セグメント LED の作成を可能にします。  ボタンのクリックと同様です。
14 セグメント LED	14 セグメント LED の作成を可能にします。  ボタンのクリックと同様です。
マトリクス LED	マトリクス LED の作成を可能にします。  ボタンのクリックと同様です。
ブザー	ブザーの作成を可能にします。  ボタンのクリックと同様です。
プルアップ / プルダウン 設定	プルアップ / プルダウン設定ダイアログ をオープンします。  ボタンのクリックと同様です。

(4) [図形]メニュー/ツールバー (図形)

入出力パネル・ウィンドウ上で，図形，ビットマップ，文字などのオブジェクトを作成 / 編集する場合に選択します。

選択	マウス・カーソルが矢印になり，オブジェクトの選択を可能にします。 この状態でオブジェクトをクリックすることによりオブジェクトが選択状態になります。  ボタンのクリックと同様です。
入力シミュレーション	マウス・カーソルが手の形になり，接続部品への入力シミュレーションを可能にします。  ボタンのクリックと同様です。
線	マウス・カーソルが十字(+)になり，線の作画を可能にします。  ボタンのクリックと同様です。

四角形	マウス・カーソルが十字 (+) になり、四角形の作画を可能にします。  ボタンのクリックと同様です。
丸四角形	マウス・カーソルが十字 (+) になり、丸みを帯びた四角形の作画を可能にします。  ボタンのクリックと同様です。
楕円	マウス・カーソルが十字 (+) になり、楕円の作画を可能にします。  ボタンのクリックと同様です。
多角形	マウス・カーソルが十字 (+) になり、多角形の作画を可能にします。  ボタンのクリックと同様です。
扇型	マウス・カーソルが十字 (+) になり、扇型の作画を可能にします。  ボタンのクリックと同様です。
文字	マウス・カーソルが十字 (+) になり、文字の作成を可能にします。  ボタンのクリックと同様です。
ビットマップの貼り付け ...	ファイルを開くダイアログ をオープンします。 選択しているビットマップ・ファイルを入出力パネル・ウィンドウに貼り付けます。
線の色 ...	色の設定ダイアログ をオープンします。 選択しているオブジェクトの線の色を、選択した色に変更します。  ボタンのクリックと同様です。
塗りつぶしの色 ...	色の設定ダイアログ をオープンします。 選択しているオブジェクトの塗りつぶしの色を、選択した色に変更します。  ボタンのクリックと同様です。
フォントの指定 ...	フォントの指定ダイアログ をオープンします。 選択しているオブジェクトのフォントを、選択したフォントに変更します。
線のスタイル	選択しているオブジェクトの線のスタイルを変更します。  ボタンのクリックと同様です。
16pt	線の太さを 16pt に設定します。
12pt	線の太さを 12pt に設定します。
8pt	線の太さを 8pt に設定します。
4pt	線の太さを 4pt に設定します。
2pt	線の太さを 2pt に設定します。
1pt	線の太さを 1pt に設定します。
なし	線を描画しません。
点線のスタイル	選択しているオブジェクトの線のスタイルを変更します。  ボタンのクリックと同様です。

実線	実線を描画します。
破線	破線を描画します。
点線	点線を描画します。
一点鎖線	一点鎖線を描画します。
二点鎖線	二点鎖線を描画します。

コンテキスト・メニュー

編集モード時（[図形]メニュー [選択]の選択時），入出力パネル・ウィンドウ上で右クリックすることにより表示されます。

コピー	選択しているオブジェクトをコピーします。
貼り付け	クリップボードの内容を貼り付けます。
削除	選択しているオブジェクトを削除します。
グループ化	カスケード・メニューより選択します。
グループ化	選択しているオブジェクトをグループ化します。
グループ解除	選択しているオブジェクトのグループ状態を解除します。
順序	カスケード・メニューより選択します。
最前面へ移動	選択しているオブジェクトをパネルの最前面に移動します。
最背面へ移動	選択しているオブジェクトをパネルの最背面へ移動します。
前面へ移動	選択しているオブジェクトを一つ前面へ移動します。
背面へ移動	選択しているオブジェクトを一つ背面へ移動します。
プロパティ	選択している図形 / 部品オブジェクトのプロパティ・ダイアログをオープンします。

操作方法

- (1) 図形オブジェクトの描画
- (2) 図形オブジェクトのスタイル変更
- (3) 文字の入力
- (4) ビットマップの貼り付け
- (5) 部品オブジェクトの新規作成
- (6) 編集モード
- (7) オブジェクトの選択
- (8) オブジェクトの移動
- (9) オブジェクトのサイズ変更
- (10) オブジェクトの切り取り / コピー / 貼り付け / 削除 / グループ化 / グループ解除
- (11) オブジェクトの順序変更 (最前面へ移動 / 最背面へ移動 / 前面へ移動 / 背面へ移動)
- (12) 接続部品 / 図形オブジェクトの一覧表示
- (13) グリッドの表示
- (14) オブジェクトのプロパティ表示
- (15) 接続部品の入力操作

(1) 図形オブジェクトの描画

線の描画

- 1) [図形]メニュー [線]を選択,またはツールバーの該当ボタンをクリックします。
マウス・カーソルが十字 (+) に変わり,線の描画が可能になります。
- 2) 線の開始位置からドラッグし,終了位置でドロップします。
線の開始位置と終了位置が直線で結ばれます (線の太さ,形状はデフォルトになります)。

四角形 / 楕円 / 丸四角 / 扇型の描画

- 1) [図形]メニュー [四角形 / 楕円 / 丸四角 / 扇型]を選択,またはツールバーの該当ボタンをクリックします。
マウス・カーソルが十字 (+) に変わり,それぞれの描画が可能になります。
- 2) 描画領域 (長方形領域) の左上隅から右下隅の方向へドラッグします。
マウス位置を右下隅とする描画領域に該当図形が表示されます。
- 3) ドロップすることで図形のサイズが確定されます。
四角形は長方形領域と同じサイズに,その他の図形は長方形領域に納まるサイズで描画されます (線の太さ,形状はデフォルトになります)。

多角形の描画

- 1) [図形]メニュー [多角形]を選択,またはツールバーの該当ボタンをクリックします。
マウス・カーソルが十字(+)に変わり,多角形の描画が可能になります。
- 2) 多角形の各頂点を描画したい位置でクリックします。
クリックした順番に各頂点が直線で結ばれます。
- 3) ダブルクリックすることで多角形の描画が終了します。
多角形の線の太さ,形状はデフォルトになります。

(2) 図形オブジェクトのスタイル変更

次のいずれかの方法により行います。

- 該当図形を選択し,右クリックによりオープンするプロパティ・ダイアログ,[スタイル]タブ上で操作
- [図形]メニュー [線の色/塗りつぶしの色/線のスタイル/点線のスタイル]のいずれかを選択(,またはツールバーの該当ボタンをクリック)し,操作

(3) 文字の入力

- 1) [図形]メニュー [文字]を選択,またはツールバーの該当ボタンをクリックします。
マウス・カーソルが十字(+)に変わります。
- 2) 文字描画領域(長方形領域)の左上隅からドラッグし右下隅でドロップします。
この長方形領域が文字描画領域となります。
- 3) 文字描画領域内をクリックします。
カーソルが表示され,文字入力が可能になります。

(4) ビットマップの貼り付け

- 1) [図形]メニュー [ビットマップの貼り付け...]を選択します。
[ファイルを開くダイアログ](#)がオープンします。
- 2) 貼り付けたいビットマップ・ファイル(*.bmp)を選択します。
入出力パネル・ウィンドウ上のデフォルト位置に該当ビットマップ・ファイルが貼り付けられます。

(5) 部品オブジェクトの新規作成

- 1) [部品]メニュー,またはツールバーから作成する部品を選択します。
マウス・カーソルが十字(+)に変わります。
- 2) 任意の位置をクリックします。
クリック位置を左上隅の位置として該当部品が作成,配置されます(デフォルト・サイズ)。

(6) 編集モード

入出力パネル・ウィンドウでの編集は,編集モード時に行います。

編集モードへの移行には次の方法があります。

- [図形]メニュー [選択]を選択
- 図形ツールバーの該当 ボタンをクリック
- [図形]メニュー [入力シミュレーション]が選択されていない時,入出力パネル・ウィンドウ上の任意の位置をクリック
- [編集]メニュー [すべて選択]を選択

(7) オブジェクトの選択

個別選択 選択したいオブジェクトをクリック

複数選択 Shift キーを押しながら選択したいオブジェクトをクリック

範囲選択 選択したいオブジェクトを含む領域の左上隅からドラッグし、右下隅でドロップ

すべてを選択 [編集]メニュー [すべて選択]を選択

なお、選択されたオブジェクトには、周囲に選択状態を示すトラッカーが表示されます。

(8) オブジェクトの移動

1) 移動したいオブジェクトを選択します（複数選択可能）。

該当オブジェクトの周囲に、選択状態を示すトラッカーが表示されます。

2) そのままドラッグし、移動先でドロップします。

該当オブジェクトが移動されます。

(9) オブジェクトのサイズ変更

1) サイズ変更したいオブジェクトを選択します。

該当オブジェクトの周囲に、選択状態を示すトラッカーが表示されます。

2) トラッカーをクリックします。

マウス・カーソルがサイズ変更可能な方向の形状（ ）になります。

3) そのままドラッグします。

オブジェクトのサイズが変わります。

(10) オブジェクトの切り取り/コピー/貼り付け/削除/グループ化/グループ解除

対象オブジェクトを選択した後、(1) [編集]メニューから該当項目を選択することで行います。

(11) オブジェクトの順序変更（最前面へ移動/最背面へ移動/前面へ移動/背面へ移動）

対象オブジェクトを選択した後、(1) [編集]メニューから該当項目を選択することで行います。

(12) 接続部品/図形オブジェクトの一覧表示

入出力パネル・ウィンドウ上で作成したオブジェクトは、入出力パネル・ウィンドウ上での表示以外に [表示]メニュー [接続部品一覧...]の選択により、一覧表示することができます。

(13) グリッドの表示

[表示]メニュー [グリッド]の選択により、入出力パネル・ウィンドウ上にグリッドが表示されます。

(14) オブジェクトのプロパティ表示

該当オブジェクトのプロパティ・ダイアログをオープンするには、次のいずれかの方法により行います。

- ・ 該当オブジェクトをダブルクリック
- ・ 該当オブジェクト上で右クリックし、[プロパティ...]を選択
- ・ 該当オブジェクトを選択し、[表示]メニュー [プロパティ...]を選択

(15) 接続部品の入力操作

[図形]メニュー [入力シミュレーション]の選択により、マウス・カーソルが手の形になり、接続部品への入力操作が可能になります。

入力の詳細は、各接続部品のプロパティ・ダイアログを参照してください（「表 6 - 6 接続部品」参照）。

ボタン端子接続ダイアログ

入出力パネル・ウィンドウの接続部品の一つであるボタンの端子接続情報を設定 / 変更するプロパティ・ダイアログです（「6.4 パネル機能」参照）。

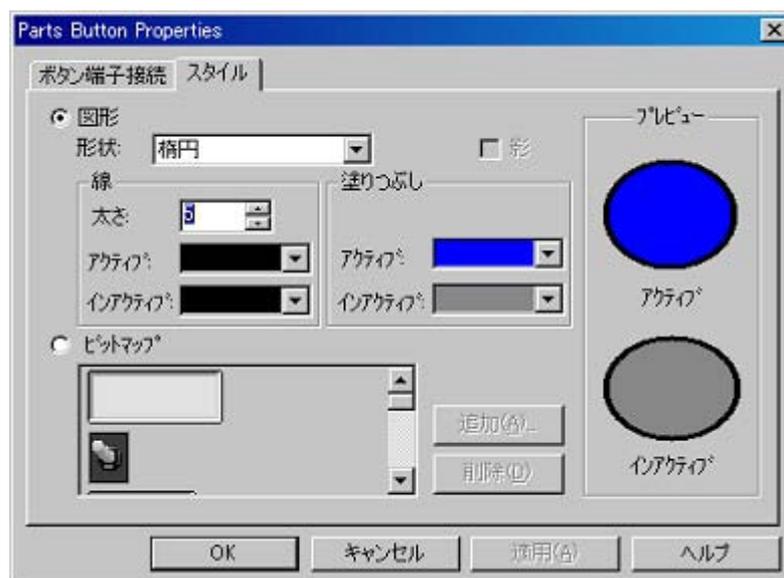
端子と接続したボタンからは、シミュレータに対して入力操作が可能になります。

ボタンの表示スタイルには、図形とビットマップの2種類があり、これらスタイルの変更は[スタイル]タブで行います。

図7 - 85 ボタン端子接続ダイアログ（[ボタン端子接続]タブ選択時）



図7 - 86 ボタン端子接続ダイアログ（[スタイル]タブ選択時（標準））



- オープン方法
- [ボタン端子接続] タブ
- [スタイル] タブ (標準)
- 機能ボタン
- 表示例と操作方法

オープン方法

入出力パネル・ウィンドウで、作成した該当接続部品 (ボタン) をダブルクリック、または該当接続部品 (ボタン) を選択し、[表示] メニュー [プロパティ ...] を選択。

[ボタン端子接続] タブ

- (1) ラベル:
- (2) 接続端子:
- (3) アクティブレベル:
- (4) 種類:
- (5) グループ名:
- (6) 保有時間:

(1) ラベル:

部品に名前を付ける際に指定します。

ここで指定した名前はボタン上に表示されます。また、[オブジェクト一覧ダイアログ](#)上でラベルとして表示されます。

(2) 接続端子:

接続する端子名を指定するエリアです。

指定は、ドロップダウン・リストからの選択、または直接入力により行います。

注意 端子名に関しては、使用デバイスのユーザーズ・マニュアルを参照してください。

(3) アクティブレベル:

ボタンのアクティブ状態をラジオ・ボタンにより選択します。

LOW	アクティブ・レベルを LOW に設定します。
HIGH	アクティブ・レベルを HIGH に設定しません (デフォルト)。

(4) 種類:

ボタンの種類をラジオ・ボタンにより選択します。

プッシュ	プッシュ・ボタンにします。(6) 保有時間: での指定が必要です。
トグル	トグル・ボタンにします。
グループ	グループ・ボタンにします。(5) グループ名: での指定が必要です。

(5) グループ名:

ボタンのグループ名を入力します。

このエリアは、(4) 種類: で "グループ" を選択した時のみ有効です。

(6) 保有時間:

入力した値を保持させる時間 (保有時間) を指定します (範囲: 0.001msec-999msec)。

デフォルト値は 0.5msec です。

このエリアは、(4) 種類: で "プッシュ" を選択した時のみ有効です。

[スタイル] タブ (標準)

この [スタイル] タブ (標準) は、ボタン端子接続ダイアログ、キーマトリクス端子接続ダイアログ、LED 端子接続ダイアログ、マトリクス LED 端子接続ダイアログ、ブザー端子接続ダイアログの [スタイル] タブとして共通に使用されます。

(1) 図形**(2) ビットマップ****(3) プレビュー****(1) 図形**

部品の表示スタイルとして図形を選択する場合、このラジオ・ボタンをクリックします。

(a) 形状:

図形の形状 (四角、楕円のいずれか) を選択します。

(b) 影:

選択不可

(c) 線:

図形の線に関する指定、変更を行います。

太さ:	線の太さを指定します。 指定は、スピン・ボタンでの選択、または直接入力により行います。 1 から 100 までの範囲での指定が可能です。
アクティブ:	アクティブ表示時の線の色を指定します。 エリアをクリックすることによりドロップダウンするカラー選択パレットにより行います。

インアクティブ:	インアクティブ表示時の線の色を指定します。 エリアをクリックすることによりドロップダウンするカラー選択パレットにより行います。
----------	--

(d) 塗りつぶし:

図形の塗りつぶしに関する指定, 変更を行います。

アクティブ:	アクティブ表示時の塗りつぶしの色を指定します。 エリアをクリックすることによりドロップダウンするカラー選択パレットにより行います。
インアクティブ:	インアクティブ表示時の塗りつぶしの色を指定します。 エリアをクリックすることによりドロップダウンするカラー選択パレットにより行います。

(2) ビットマップ

部品の表示スタイルとしてビットマップを選択する場合, このラジオ・ボタンをクリックします。

(a) ビットマップ選択リスト

選択可能なビットマップを表示します。

(b) <追加> ボタン

このボタンをクリックすることにより, [ビットマップの追加ダイアログ](#)をオープンし, [\(a\) ビットマップ選択リスト](#)に対するビットマップの追加を行います。

(c) <削除> ボタン

[\(a\) ビットマップ選択リスト](#)で該当ビットマップを選択し, このボタンをクリックすることにより, リストからのビットマップの削除を行います。

(3) プレビュー

[\(1\) 図形](#), [\(2\) ビットマップ](#)で選択した表示スタイルをプレビューします。

アクティブ	アクティブ時のプレビュー
インアクティブ	インアクティブ時のプレビュー

機能ボタン

OK	設定を有効にし, このダイアログをクローズします。
キャンセル	設定を無視し, このダイアログをクローズします。
適用	選択不可
ヘルプ	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

表示例と操作方法

ボタンを押下することにより、接続した端子へのデータ入力が可能になります。
なお、ボタンの種類により入力形態が異なります。

図7 - 87 接続部品表示例（ボタン）



(1) プッシュ・ボタン

ボタンの押下により、接続した端子にはアクティブ値が取り込まれます。
アクティブ値は、保有時間の間、保持され、保有時間を過ぎると元に戻ります。

(2) トグル・ボタン

ボタンの押下により、接続した端子にはアクティブ値が取り込まれます。
アクティブ値は、再度同一のボタンが押されるまでの間、保持されます。

(3) グループ・ボタン

ボタンの押下により、接続した端子にはアクティブ値が取り込まれます。
同じグループ名を持つグループ・ボタンの値は元に戻ります。

キーマトリクス端子接続ダイアログ

入出力パネル・ウィンドウの接続部品の一つであるキーマトリクスの端子接続情報を設定、変更するプロパティ・ダイアログです（「6.4 パネル機能」参照）。

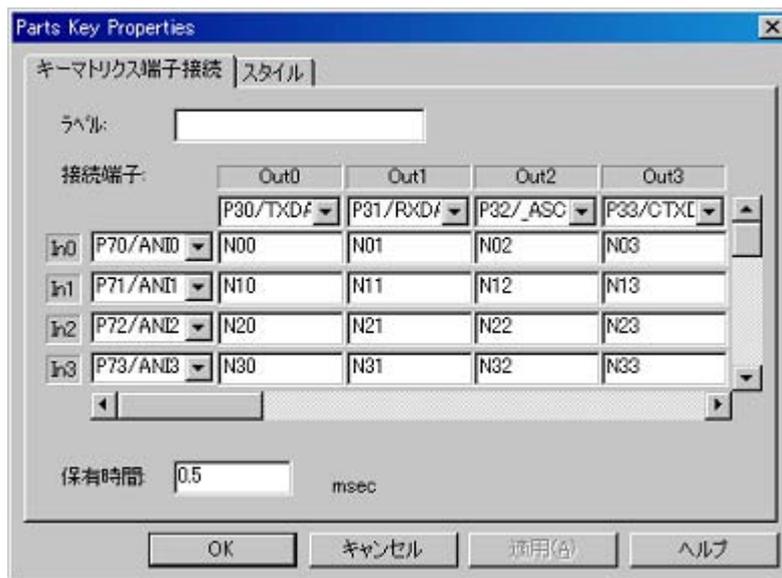
端子と接続したキーからは、シミュレータに対して入力操作が可能になります。

入力端子と出力端子によるキーマトリクスは、最大 16 × 16 まで設定可能です。

キーマトリクスの表示スタイルには、図形とビットマップの 2 種類があり、これらスタイルの変更は [スタイル] タブで行います。

注意 キーマトリクスを端子に接続する際は、接続端子のプルアップ / プルダウン設定も合わせて行う必要があります。キーの押下時、キーと接続された入力端子には、該当キーに接続された出力端子の出力値が入力されます。なお、キーの非押下時の値は、プルアップ / プルダウン設定ダイアログで指定した値になります（プルアップ / プルダウンの設定を行わない場合は、シミュレータではキーの非押下時の値を 0 として処理します）。

図 7 - 88 キーマトリクス端子接続ダイアログ（[キーマトリクス端子接続] タブ選択時）



- オープン方法
- [キーマトリクス端子接続] タブ
- [スタイル] タブ（標準）
- 機能ボタン
- 表示例と操作方法

オープン方法

入出力パネル・ウィンドウで、作成した該当接続部品（キーマトリックス）をダブルクリック，または該当接続部品（キーマトリックス）を選択し，[表示]メニュー [プロパティ...]を選択。

[キーマトリックス端子接続] タブ

- (1) ラベル：
- (2) 接続端子設定エリア（ In0 In1 In2.... Out0 Out1 Out2..... ）
- (3) キー・ラベル設定エリア（ N00 N01 N02... ）
- (4) 保有時間：

(1) ラベル：

部品に名前を付ける際に指定します。

ここで指定した名前はオブジェクト一覧ダイアログ上にラベルとして表示されます。

(2) 接続端子設定エリア（ In0 In1 In2.... Out0 Out1 Out2..... ）

接続する端子（入力端子，出力端子）を指定するエリアです。

接続する端子名をドロップダウン・リストからの選択，または直接入力により指定します。

In0 - In15	入力端子を指定します。
Out0 - Out15	出力端子を指定します。

このエリアは，(3) キー・ラベル設定エリア（ N00 N01 N02... ）とともに，スクロール・バーにより 16 × 16 端子の設定が可能です。

注意 端子名に関しては，使用デバイスのユーザーズ・マニュアルを参照してください。

(3) キー・ラベル設定エリア（ N00 N01 N02... ）

キーマトリックス上に表示する文字列を直接入力により指定します。任意の長さの文字列が指定可能です。

デフォルトの記述文字列（N 数字）は，キー上には表示されません。

このエリアは，(2) 接続端子設定エリア（ In0 In1 In2.... Out0 Out1 Out2..... ）とともに，スクロール・バーにより 16 × 16 端子の設定が可能です。

(4) 保有時間：

入力した値を保持させる時間（保有時間）を指定します（デフォルト：0.5 msec）

指定可能範囲は 0.001 - 999 です。

なお，保有時間内に同じ入力端子に入力されるキーを複数個，押下した場合には，最後にクリックしたキーが有効になります。

機能ボタン

OK	設定を有効にし、このダイアログをクローズします。
キャンセル	設定を無視し、このダイアログをクローズします。
適用	選択不可
ヘルプ	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

表示例と操作方法

(1) 同時に複数個のキーを操作する

(2) キーの入力値をロックする

(1) 同時に複数個のキーを操作する

同時に入力したいキーの片方をマウスの右ボタンでクリックし、待ち状態にします。続いて残りのキーをクリックすることにより、先の待ち状態が解除され両方のキーを同時に入力することができます。複数のキーを待ち状態にすることにより、複数のキーの同時入力が可能になります。

ただし、同じ入力端子への入力になる場合には、後から入力したキーが有効となります。

(2) キーの入力値をロックする

任意のキーに対してマウスの右ボタンを押しながら、マウスの左ボタンをクリックすることにより、その時のキーの入力値がロックされます。ロック状態中に、ロックされたキーと同じ入力端子への入力になるキーがクリックされた場合には、後から入力したキーの入力値が有効になりますが、そのキーの保有時間が経過すると再度ロック状態時の入力値になります。

ロック状態のキーをクリックすることによりロックが解除され、右ボタンでクリックすることにより待ち状態になります。

図7 - 89 接続部品表示例（キーマトリクス）

1	2	3
4	5	6
7	8	9
10	11	12
+	-	予約
<<	再生	>>
多重	停止	録画
ポーズ	取消	電源

レベルゲージ端子接続ダイアログ

入出力パネル・ウィンドウの接続部品の一つであるレベルゲージの端子接続情報を設定、変更するプロパティ・ダイアログです（「6.4 パネル機能」参照）。

端子と接続したレベルゲージからは、シミュレータに対して入力操作が可能になります。

ただし、接続する端子はアナログ入力用端子に限ります。

レベルゲージの表示スタイルには、スライド式とダイヤル式の2種類があり、これらスタイルの変更は[スタイル]タブで行います。

図7 - 90 レベルゲージ端子接続ダイアログ（[レベルゲージ端子接続]タブ選択時）



図7 - 91 レベルゲージ端子接続ダイアログ（[スタイル]タブ選択時）



- オープン方法
- [レベルゲージ端子接続] タブ
- [スタイル] タブ (レベルゲージ専用)
- 機能ボタン
- 表示例と操作方法

オープン方法

入出力パネル・ウィンドウで、作成した該当接続部品（レベルゲージ）をダブルクリック，または該当接続部品（レベルゲージ）を選択し，[表示]メニュー [プロパティ ...] を選択。

[レベルゲージ端子接続] タブ

- (1) ラベル：
- (2) 接続端子：
- (3) 最大入力値：

(1) ラベル：

部品に名前を付ける際に指定します。

ここで指定した名前は**オブジェクト一覧ダイアログ**上にラベルとして表示されます。

(2) 接続端子：

接続する端子を指定するエリアです。

接続する端子名をドロップダウン・リストからの選択，または直接入力により指定します。

注意 端子名に関しては，使用デバイスのユーザーズ・マニュアルを参照してください。

(3) 最大入力値：

レベルゲージ入力の最大値を指定します（デフォルト：5000mV）

指定可能範囲は0 - 65535 です。

この指定値により，**入出力パネル・ウィンドウ**に表示されたレベルゲージの動作範囲が決定します。

[スタイル] タブ (レベルゲージ専用)

- (1) スライド式
- (2) ダイアル式
- (3) プレビュー

(1) スライド式

スライド式レベルゲージを選択する場合、このラジオ・ボタンを選択します。

(a) 方向

スライド方向 (垂直, 水平) をドロップダウン・リストから選択します。

(b) 色

スライドの色を指定, 変更します。エリアをクリックすることによりドロップダウンするカラー選択パレットにより行います。

(2) ダイアル式

ダイアル式レベルゲージを選択する場合、このラジオ・ボタンを選択します。

(a) マークの色

動作点を示すマークの色を指定, 変更します。エリアをクリックすることによりドロップダウンするカラー選択パレットにより行います。

(b) ビットマップ選択リスト

現在, 選択可能なダイアル式レベルゲージのビットマップを表示します。

(c) <追加> ボタン, <削除> ボタン

ビットマップ選択リストに対する追加, 削除を行います。

(3) プレビュー

選択した部品スタイルのプレビュー表示をします。

部品のアクティブ時, インアクティブ時の表示スタイルをプレビューします。

機能ボタン

OK	設定を有効にし, このダイアログをクローズします。
キャンセル	設定を無視し, このダイアログをクローズします。
適用	選択不可
ヘルプ	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

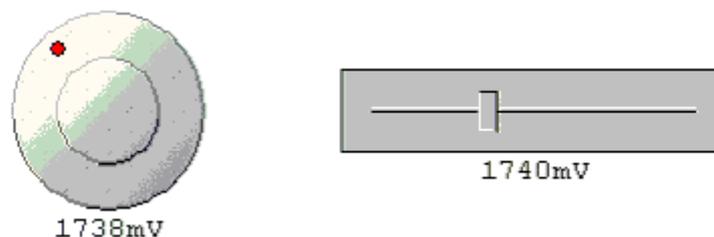
表示例と操作方法

表示されたスライダ、またはダイヤルを操作することにより、レベルゲージからのアナログ入力を行います。

(3) **最大入力値** : で指定した値が入力できる最大値になります。

なお、入力操作は、[図形] メニュー [入力シミュレーション] を選択することにより可能になります。

図7 - 92 接続部品表示例 (レベルゲージ)



(1) スライド式レベルゲージ

スライダのつまみをドラッグし動かすことにより表示しているアナログ値が変化します。このアナログ値が入力したい値になった時、つまみからマウスを離します。これにより、表示しているアナログ値の入力が可能になります。なお、つまみの移動は任意の位置をクリックすることによっても可能です。

(2) ダイヤル式レベル・ゲージ

ダイヤル上の動作点 (赤い丸) をドラッグすることにより、表示しているアナログ値が変化します。このアナログ値が入力したい値になった時、動作点からマウスを離します。これにより、表示しているアナログ値を入力が可能になります。なお、動作点の移動は任意の位置をクリックすることによっても可能です。

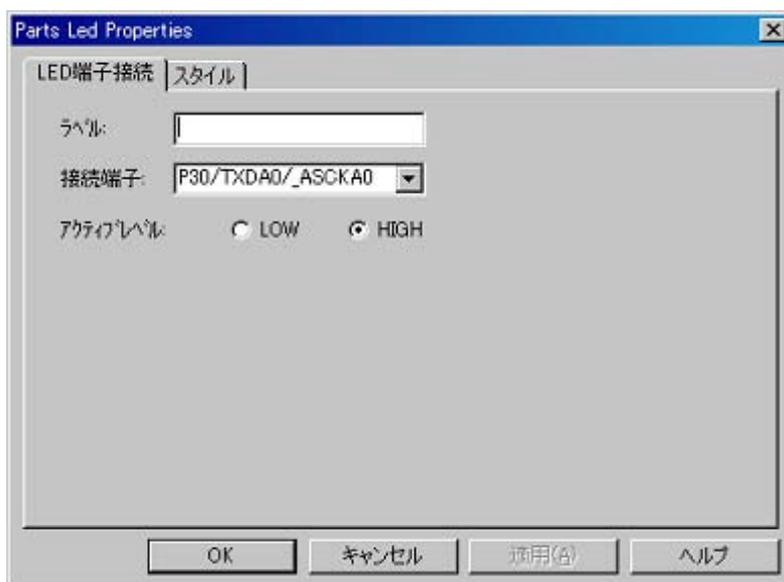
LED 端子接続ダイアログ

入出力パネル・ウィンドウの接続部品の一つである LED の端子接続情報を設定、変更するプロパティ・ダイアログです（「6.4 パネル機能」参照）。

端子と接続した LED は、シミュレータからの出力情報を点灯 / 消灯で表示します。

LED の表示スタイルには、図形とビットマップの 2 種類があり、これらスタイルの変更は [スタイル] タブで行います。

図 7 - 93 LED 端子接続ダイアログ ([LED 端子接続] タブ選択時)



- オープン方法
- [LED 端子接続] タブ
- [スタイル] タブ (標準)
- 機能ボタン
- 表示例と操作方法

オープン方法

入出力パネル・ウィンドウで、作成した該当接続部品 (LED) をダブルクリック、または該当接続部品 (LED) を選択し、[表示]メニュー [プロパティ...] を選択。

[LED 端子接続] タブ

- (1) ラベル:
- (2) 接続端子:
- (3) アクティブレベル:

(1) ラベル:

部品に名前を付ける際に指定します。

ここで指定した名前は**オブジェクト一覧ダイアログ**上にラベルとして表示されます。

(2) 接続端子:

接続する端子（出力端子）を指定するエリアです。

接続する端子名をドロップダウン・リストからの選択，または直接入力により指定します。

注意 端子名に関しては，使用デバイスのユーザーズ・マニュアルを参照してください。

(3) アクティブレベル:

アクティブ状態をラジオ・ボタンにより選択します。

LOW	アクティブ・レベルを LOW に設定します。
HIGH	アクティブ・レベルを HIGH に設定します（デフォルト）。

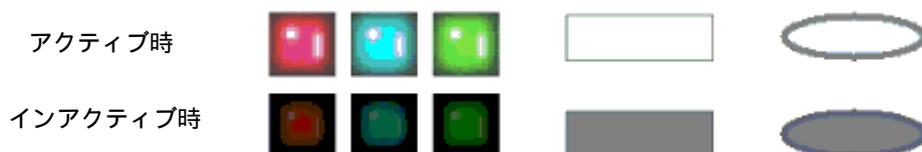
機能ボタン

OK	設定を有効にし，このダイアログをクローズします。
キャンセル	設定を無視し，このダイアログをクローズします。
適用	選択不可
ヘルプ	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

表示例と操作方法

接続した端子の出力状態（アクティブ/インアクティブ）を 2 種類のビットマップ，または図形でリアルタイムに表示します。

図 7 - 94 接続部品表示例（LED）



セグメント LED 端子接続ダイアログ

入出力パネル・ウィンドウの接続部品の一つである7セグメントLED, および14セグメントLEDの端子接続情報を設定, 変更するプロパティ・ダイアログです(「6.4 パネル機能」参照)。

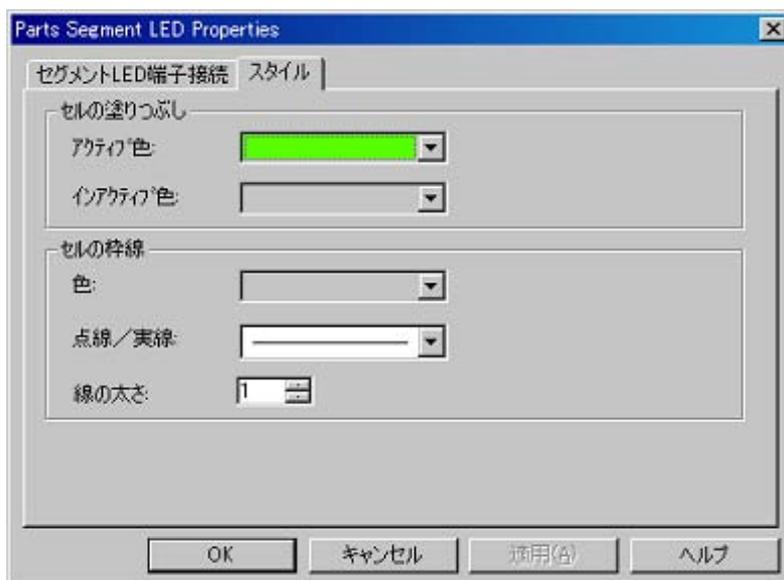
端子と接続した各LEDは, シミュレータからの出力情報を表示します。

LEDの表示スタイルには, 図形とビットマップの2種類があり, これらスタイルの変更は[スタイル]タブで行います。

図7 - 95 セグメントLED端子接続ダイアログ([セグメントLED端子接続]タブ選択時)



図7 - 96 セグメントLED端子接続ダイアログ([スタイル]タブ選択時)



- オープン方法
- [セグメント LED 端子接続] タブ
- [スタイル] タブ (セグメント LED 専用)
- 機能ボタン
- 表示例と操作方法

オープン方法

入出力パネル・ウィンドウで、作成した該当接続部品(7セグメントLED / 14セグメントLED)をダブルクリック、または該当接続部品(7セグメントLED / 14セグメントLED)を選択し [表示]メニュー [プロパティ...]を選択。

[セグメント LED 端子接続] タブ

- (1) ラベル:
- (2) グリッドの割り当て
- (3) セグメント信号 (セグメント信号設定エリア)
- (4) 桁 / グリッド信号 (桁 / グリッド信号設定エリア)

(1) ラベル:

部品に名前を付ける際に指定します。

ここで指定した名前はオブジェクト一覧ダイアログ上にラベルとして表示されます。

(2) グリッドの割り当て

グリッド信号の割り当て方法を次の中から選択します。

この選択により、(4) 桁 / グリッド信号 (桁 / グリッド信号設定エリア) での設定が変化します。

桁	セグメントLEDの1桁を1つのグリッド端子と接続します。 (4) 桁 / グリッド信号 (桁 / グリッド信号設定エリア) では、桁信号の設定を行います。グリッド信号は16桁の指定が可能で、1つのセグメントLED部品で最大16桁のセグメントLEDを作成可能です。
カスタマイズ	選択不可。

(3) セグメント信号 (セグメント信号設定エリア)

7/14 セグメントLEDのセグメント信号と接続する端子(出力端子)、およびアクティブ・レベルを指定するエリアです。

(a) 接続端子:

接続する端子をドロップダウン・リストからの選択、または直接入力により指定します。

接続するセグメント端子数は、7セグメントLEDでは8個、14セグメントLEDでは15個となります。

なお、右側にあるスクロール・バーを操作することにより、すべてのセグメント端子に接続可能です。

注意 端子名に関しては、使用デバイスのユーザズ・マニュアルを参照してください。

(b) 図示

左上には7/14 セグメント LED のビットマップを表示しています。

(a) 接続端子: を入力する際、対応する位置を示しています。

(c) アクティブレベル:

7/14 セグメント LED のセグメント信号のアクティブ状態をラジオ・ボタンにより選択します。

LOW	アクティブ・レベルを LOW に設定します。
HIGH	アクティブ・レベルを HIGH に設定します (デフォルト)。

(4) 桁/グリッド信号 (桁/グリッド信号設定エリア)

7/14 セグメント LED の桁、またはグリッド信号と接続する端子 (出力端子)、およびアクティブ・レベルを指定するエリアです。

(2) グリッドの割り当てでの指定により、接続の仕方が次のように変化します。

[桁] 選択時	桁信号の設定を行います。 接続する桁端子の数は最大 16 です。 エリア右側にあるスクロール・バーを操作することにより、すべての桁端子に接続可能です。
[カスタマイズ] 選択時	選択不可

(a) 接続端子:

接続する端子名をドロップダウン・リストからの選択、または直接入力により指定します。

なお、設定信号は、最下位桁からの連続端子を指定してください。

注意 端子名に関しては、使用デバイスのユーザーズ・マニュアルを参照してください。

(b) アクティブレベル:

7/14 セグメント LED の桁、またはグリッド信号のアクティブ状態をラジオ・ボタンにより選択します。

LOW	アクティブ・レベルを LOW に設定します。
HIGH	アクティブ・レベルを HIGH に設定します (デフォルト)。

[スタイル] タブ (セグメント LED 専用)

(1) セルの塗りつぶし

(2) セルの枠線

(1) セルの塗りつぶし

各セルの塗りつぶしに関する設定、変更を行うエリアです。

(a) アクティブ色:

アクティブ表示時の塗りつぶしの色を指定します。

エリアをクリックすることによりドロップダウンするカラー選択パレットにより行います。

(b) インアクティブ色：

インアクティブ表示時の塗りつぶしの色を指定します。

エリアをクリックすることによりドロップダウンするカラー選択パレットにより行います。

(2) セルの枠線

セルの枠線の形状に関する設定，変更を行うエリアです。

(a) 色：

線の色を指定，変更します。

エリアをクリックすることによりドロップダウンするカラー選択パレットにより行います。

(b) 点線／実線：

線の形状（点線／実線）を指定，変更します。

ドロップダウン・リストからの選択により行います。

(c) 線の太さ：での指定が"1"の時のみ指定可能です。

(c) 線の太さ：

線の太さを指定，変更します。

スピン・ボタンでの選択，または直接入力により行います。

1 から 100 までの範囲での指定が可能です。

機能ボタン

OK	設定を有効にし，このダイアログをクローズします。
キャンセル	設定を無視し，このダイアログをクローズします。
適用	選択不可
ヘルプ	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

表示例と操作方法

1 シミュレーションの結果，接続端子の出力情報を受け取りその値にしたがって表示します。

桁／グリッド信号，およびセグメント信号ともにアクティブ出力の際，対応する桁／グリッドのセグメント LED が点灯します。

図 7 - 97 接続部品表示例（7セグメント LED）



マトリクス LED 端子接続ダイアログ

入出力パネル・ウィンドウの接続部品の一つであるマトリクス LED の端子接続情報を設定、変更するプロパティ・ダイアログです（「6.4 パネル機能」参照）。

端子と接続したマトリクス LED は、シミュレータからの出力情報を点灯/消灯で表示します。

マトリクス LED の表示スタイルには、図形とビットマップの2種類があり、これらスタイルの変更は[スタイル]タブで行います。

図7 - 98 マトリクス LED 端子接続ダイアログ（[マトリクス LED 端子接続]タブ選択時）



- オープン方法
- [マトリクス LED 端子接続] タブ
- [スタイル] タブ（標準）
- 機能ボタン
- 表示例と操作方法

オープン方法

入出力パネル・ウィンドウで、作成した該当接続部品（マトリクス LED）をダブルクリック、または該当接続部品（マトリクス LED）を選択し、[表示]メニュー [プロパティ...] を選択。

[マトリクス LED 端子接続] タブ

- (1) ラベル:
- (2) 行方向信号 (行方向信号設定エリア)
- (3) 列方向 (列方向信号設定エリア)

(1) ラベル:

部品に名前を付ける際に指定します。

ここで指定した名前は**オブジェクト一覧ダイアログ**上にラベルとして表示されます。

(2) 行方向信号 (行方向信号設定エリア)

マトリクス LED の行方向の信号と接続する端子(出力端子),およびアクティブ・レベルを指定するエリアです。

(a) 接続端子:

接続する端子名をドロップダウン・リストからの選択,または直接入力により指定します。

接続する端子数は最大 16 です。

右側にあるスクロール・バーを操作することにより,すべての行方向信号に接続可能です。

注意 端子名に関しては,使用デバイスのユーザーズ・マニュアルを参照してください。

(b) アクティブレベル:

マトリクス LED の行方向信号のアクティブ状態をラジオ・ボタンにより選択します。

LOW	アクティブ・レベルを LOW に設定します。
HIGH	アクティブ・レベルを HIGH に設定します (デフォルト)。

(3) 列方向 (列方向信号設定エリア)

マトリクス LED の列方向信号と接続する端子 (出力端子), およびアクティブ・レベルを指定するエリアです。

(a) 接続端子:

接続する端子名をドロップダウン・リストからの選択,または直接入力により指定します。

接続する端子数は最大 16 です。

右側にあるスクロール・バーを操作することにより,すべての行方向信号に接続可能です。

注意 端子名に関しては,使用デバイスのユーザーズ・マニュアルを参照してください。

(b) アクティブレベル:

マトリクス LED の行方向信号のアクティブ状態をラジオ・ボタンにより選択します。

LOW	アクティブ・レベルを LOW に設定します。
HIGH	アクティブ・レベルを HIGH に設定します (デフォルト)。

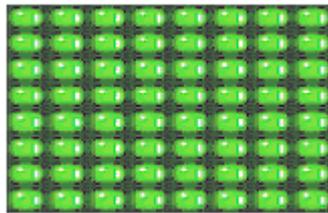
機能ボタン

OK	設定を有効にし、このダイアログをクローズします。
キャンセル	設定を無視し、このダイアログをクローズします。
適用	選択不可
ヘルプ	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

表示例と操作方法

1 シミュレーションの結果、接続端子の出力情報を受け取りその値にしたがって表示します。
行方向端子と列方向端子のマトリクス上での交点で、両方の端子がアクティブの際、対応する LED が点灯します。

図7 - 99 接続部品表示例（マトリクス LED）



ブザー端子接続ダイアログ

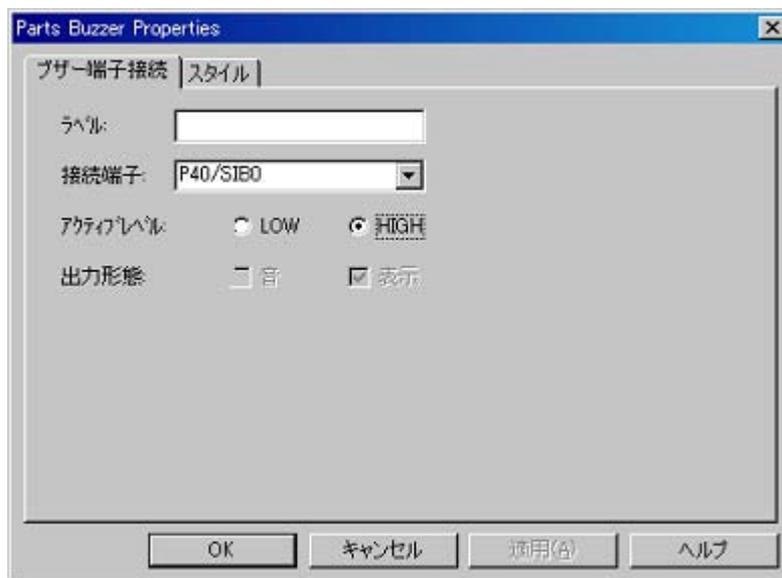
入出力パネル・ウィンドウの接続部品の一つであるブザーの端子接続情報を設定、変更するプロパティ・ダイアログです（「6.4 パネル機能」参照）。

端子と接続したブザーは、接続した端子からの出力情報をビットマップやブザー音で表します。

ブザー出力は表示と音で確認できます。

ブザーの表示スタイルには、図形とビットマップの2種類があり、これらスタイルの変更は[スタイル]タブで行います。

図7 - 100 ブザー端子接続ダイアログ（[ブザー端子接続]タブ選択時）



- オープン方法
- [ブザー端子接続]タブ
- [スタイル]タブ（標準）
- 機能ボタン
- 表示例と操作方法

オープン方法

入出力パネル・ウィンドウで、作成した該当接続部品（ブザー）をダブルクリック、または該当接続部品（ブザー）を選択し、[表示]メニュー [プロパティ...]を選択。

[ブザー端子接続] タブ

- (1) ラベル:
- (2) 接続端子:
- (3) アクティブレベル:
- (4) 出力形態:

(1) ラベル:

部品に名前を付ける際に指定します。

ここで指定した名前は**オブジェクト一覧ダイアログ**上にラベルとして表示されます。

(2) 接続端子:

接続する端子（出力端子）を指定するエリアです。

接続する端子名をドロップダウン・リストからの選択、または直接入力により指定します。

注意 端子名に関しては、使用デバイスのユーザーズ・マニュアルを参照してください。

(3) アクティブレベル:

アクティブ状態をラジオ・ボタンにより選択します。

LOW	アクティブ・レベルを LOW に設定します。
HIGH	アクティブ・レベルを HIGH に設定します（デフォルト）。

(4) 出力形態:

出力形態をチェック・ボックスにより指定します。

音	チェックにより端子からの出力を音で表します。 サウンド・ボードとスピーカが必要になります。
表示	チェックにより端子からの出力をビットマップで表示します。

機能ボタン

OK	設定を有効にし、このダイアログをクローズします。
キャンセル	設定を無視し、このダイアログをクローズします。
適用	選択不可
ヘルプ	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

表示例と操作方法

接続した端子のアクティブ・レベル出力をビットマップやブザー音で表します。

端子の出力値（アクティブ/インアクティブ）により、次のようなビットマップを表示します。

ブザー音出力では、接続端子がアクティブ・レベルの値を出力している時（インアクティブ時からアクティブ・レベルへ変化した時）ブザー音を出します。

図7 - 101 接続部品表示例（ブザー）

アクティブ時



インアクティブ時

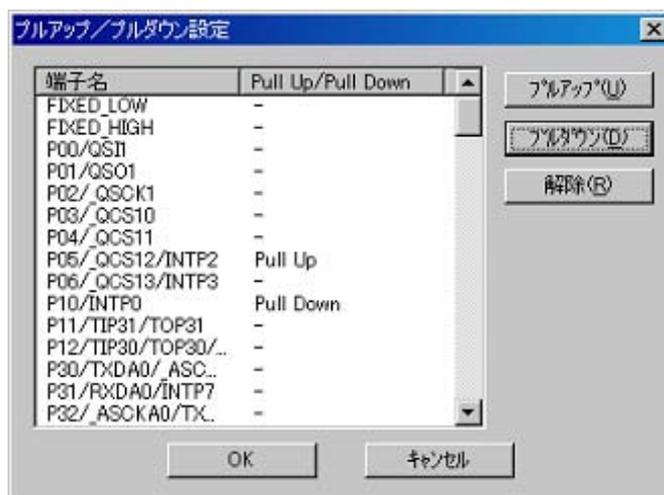


プルアップ / プルダウン設定ダイアログ

入出力パネル・ウィンドウ上の接続部品の一つであるプルアップ / プルダウン抵抗の端子接続情報を設定、変更するダイアログです（「6.4 パネル機能」参照）。

この接続部品の設定方法は他の部品とは異なり、このダイアログで全端子の接続情報を一括管理しています。

図 7 - 102 プルアップ / プルダウン設定ダイアログ



- ・ オープン方法
- ・ 各エリア説明
- ・ 機能ボタン

オープン方法

 ボタンをクリック、または入出力パネル・ウィンドウをカレント・ウィンドウにし、[部品] [プルアップ / プルダウン設定 ...] を選択

各エリア説明

- (1) 端子名
- (2) Pull Up/Pull Down
- (3) ボタン

(1) 端子名

プルアップ / プルダウン抵抗と接続できる端子名を表示します。

(2) Pull Up/Pull Down

端子の接続状態を表示します。

Pull Up	プルアップ抵抗接続状態
Pull Down	プルダウン抵抗接続状態
-	プルアップ抵抗 / プルダウン抵抗未接続状態

(3) ボタン

プルアップ	(1) 端子名で選択した端子をプルアップ抵抗と接続します。 接続が完了すると (2) Pull Up/Pull Down には " Pull Up " が表示されます。
プルダウン	(1) 端子名で選択した端子をプルダウン抵抗と接続します。 接続が完了すると (2) Pull Up/Pull Down には " Pull Down " が表示されます。
解除	(1) 端子名で選択した端子の接続状態を解除します。 解除が完了すると (2) Pull Up/Pull Down には " - " が表示されます。

機能ボタン

OK	設定を有効にし、このダイアログをクローズします。変更をシミュレータに反映します。
キャンセル	設定を無視し、このダイアログをクローズします。変更はシミュレータに反映しません。
ヘルプ	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

端子接続ダイアログ

入出力パネル・ウィンドウの図形 / 文字 / ビットマップの端子への接続情報を設定、変更します（「6.4 パネル機能」参照）。

端子と接続した各オブジェクトは、接続端子の出力状態により、表示 / 非表示を切り替えます。

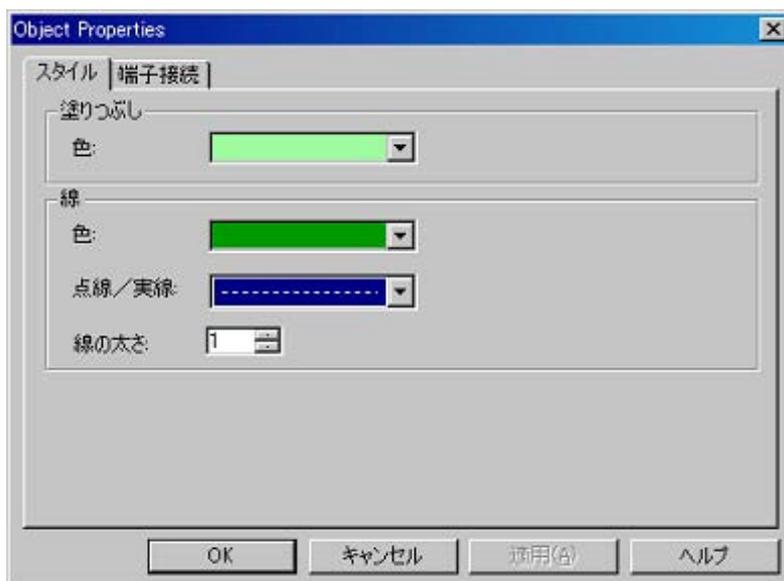
なお、各信号のアクティブ状態は、アクティブ HIGH です。

表示スタイルの変更は [スタイル] タブで行います。

図 7 - 103 端子接続ダイアログ（[端子接続] タブ選択時）



図 7 - 104 端子接続ダイアログ（[スタイル] タブ選択時）



- オープン方法
- [端子接続] タブ
- [スタイル] タブ (端子接続専用)
- 機能ボタン

オープン方法

入出力パネル・ウィンドウで、作成した該当図形/文字/ビットマップをダブルクリック、または該当図形/文字/ビットマップを選択し、[表示]メニュー [プロパティ...]を選択。

[端子接続] タブ

(1) 接続端子:

(2) アクティブレベル:

(1) 接続端子:

オブジェクトと出力端子との接続方法をラジオ・ボタンにより選択し、各出力端子名を指定します。接続することにより、接続した出力端子の ON/OFF 状態で図形の表示が切り替わります。

注意 端子名に関しては、使用デバイスのユーザズ・マニュアルを参照してください。

(a) 接続なし

オブジェクトを端子と接続しません。

端子に接続していないオブジェクトは、常に表示状態です。

(b) スタティック接続

オブジェクトを1つの出力端子と接続します。

出力信号: に、接続する端子名をドロップダウン・リストからの選択、または直接入力により指定します。

シミュレーション中に、指定した端子の出力信号データがアクティブの際、オブジェクトが表示されます。

(c) ダイナミック接続

オブジェクトを2つの出力端子と接続します。

出力信号 1:, 出力信号 2: に接続する端子名をドロップダウン・リストからの選択、または直接入力により指定します。

シミュレーション中に、指定した端子の出力信号データがともにアクティブの際、オブジェクトが表示されます。

(2) アクティブレベル:

各出力信号共通のアクティブ状態をラジオ・ボタンにより選択します。

LOW	アクティブ・レベルを LOW に設定します。
HIGH	アクティブ・レベルを HIGH に設定します (デフォルト)

[スタイル] タブ (端子接続専用)

(1) 塗りつぶし

(2) 線

(1) 塗りつぶし

各オブジェクトの塗りつぶしに関する設定、変更を行うエリアです。

各オブジェクトにより、塗りつぶしをする範囲は次のようになります。

線	対象外
四角, 楕円, 丸四角	輪郭となる線で囲まれた範囲内
多角形	各頂点を結ぶ線で囲まれた範囲内
文字	テキスト・ボックス内
ビットマップ	図形描画領域内 注意: この際, 表示していたビットマップは見えなくなります。

(a) 色:

塗りつぶしの色を指定, 変更します。

エリアをクリックすることによりドロップダウンするカラー選択パレットにより行います。

(2) 線

各オブジェクトの線の形状に関する設定、変更を行うエリアです。

各オブジェクトにより、線の定義は次のようになります。

線	すべて
四角, 楕円, 丸四角	輪郭となる線
多角形	各頂点を結ぶ線
文字	テキスト・ボックスの輪郭線
ビットマップ	図形描画領域の輪郭線

(a) 色:

線の色を指定, 変更します。

エリアをクリックすることによりドロップダウンするカラー選択パレットにより行います。

(b) 点線 / 実線:

線の形状 (点線 / 実線) を指定, 変更します。

ドロップダウン・リストからの選択により行います。

(c) 線の太さ: での指定が "1" の時のみ指定可能です。

(c) 線の太さ:

線の太さを指定, 変更します。

スピン・ボタンでの選択, または直接入力により行います。

指定可能範囲は 1 - 100 です。

機能ボタン

OK	設定を有効にし、このダイアログをクローズします。
キャンセル	設定を無視し、このダイアログをクローズします。
適用	選択不可
ヘルプ	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

オブジェクト一覧ダイアログ

入出力パネル・ウィンドウ上に作成したすべての図形オブジェクト，および部品オブジェクトの端子接続状況を一覧表示します（「6.4 パネル機能」参照）。

入出力パネル・ウィンドウ上で選択状態のオブジェクトは強調表示されます。

なお，各オブジェクトの端子接続の設定内容を変更するには，該当オブジェクト上をダブルクリックすることによりオープンする，[プロパティ]タブで行います。

図7 - 105 オブジェクト一覧ダイアログ



- ・ オープン方法
- ・ 各エリア説明
- ・ 機能ボタン

オープン方法

入出力パネル・ウィンドウをカレント・ウィンドウにし，[表示]メニュー [接続部品一覧...]を選択

各エリア説明

- (1) ラベル
- (2) 部品の種類
- (3) 接続端子
- (4) アクティブ値

(1) ラベル

オブジェクトに付けたラベル（名前）を表示します。ラベルがないオブジェクトでは何も表示されません。

(2) 部品の種類

部品の種類を表示します。

rectangle	直線，四角形，楕円，丸四角，扇型
polygon	多角形
text	テキスト
bitmap	ビットマップ
button	プッシュ・ボタン，トグル・ボタン，グループ・ボタン
key	キーマトリクス
level gauge	レベルゲージ
led	LED
7segment led	7 セグメント LED
14segment led	14 セグメント LED
matrix led	マトリクス LED
buzzer	ブザー

(3) 接続端子

部品と接続されている端子を表示します。

なお，複数端子と接続されている部品では "-" が，接続されていない部品では "(空白)" が表示されます。

(4) アクティブ値

現在，部品に設定されているアクティブ値を表示します。

なお，複数端子と接続されている部品では "-" が，接続されていない部品では "(空白)" が表示されます。

機能ボタン

閉じる	このダイアログをクローズします。
-----	------------------

ビットマップの追加ダイアログ

各接続部品のプロパティ・ダイアログの[スタイル]タブにおいて、ビットマップの追加を行うダイアログです
(「6.4 パネル機能」参照)

図7 - 106 ビットマップの追加ダイアログ



- オープン方法
- 各エリア説明
- 機能ボタン

オープン方法

対象プロパティ・ダイアログの[スタイル]タブ上の<追加>ボタンをクリック

各エリア説明

- (1) アクティブ時のビットマップ:
- (2) インアクティブ時のビットマップ:

(1) アクティブ時のビットマップ:

アクティブ時に表示するビットマップ・ファイル (*.bmp) を指定します。
右横の <...> ボタン (参照ボタン) でのファイル選択, または直接入力により指定します。

(2) インアクティブ時のビットマップ:

インアクティブ時に表示するビットマップ・ファイル (*.bmp) を指定します。
右横の <...> ボタン (参照ボタン) でのファイル選択, または直接入力により指定します。

機能ボタン

OK	設定を有効にし、このダイアログをクローズします。
キャンセル	設定を無視し、このダイアログをクローズします。

色の設定ダイアログ

図形や線などの色指定をするダイアログです。

このダイアログは Windows の標準ダイアログを使用しています。

図7 - 107 色の設定ダイアログ



ウィンドウの書式設定ダイアログ

ウィンドウの色やフォントなどの各種情報の設定、変更を行うダイアログです。

この設定、変更は、シミュレータ部ウィンドウに対して有効です（「表7 - 1 ウィンドウ/ダイアログ一覧」参照）。

図7 - 108 ウィンドウの書式設定ダイアログ（[色]タブ選択時）

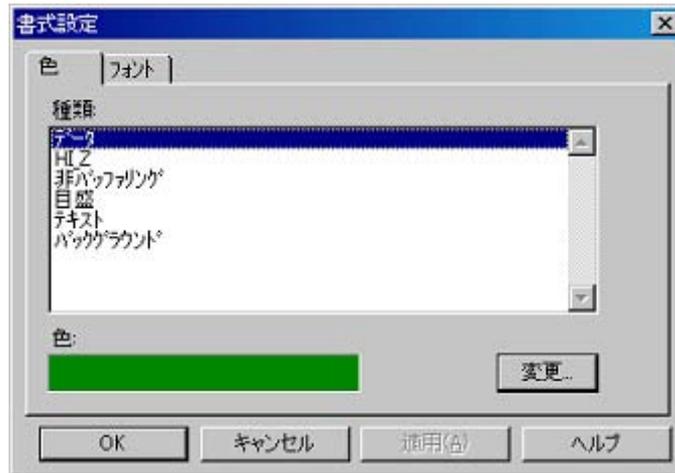


図7 - 109 ウィンドウの書式設定ダイアログ（[フォント]タブ選択時）



- オープン方法
- [色]タブ
- [フォント]タブ
- 機能ボタン

オープン方法

シミュレータ部ウィンドウをオープンし、[オプション]メニュー [ウィンドウのカスタマイズ...]を選択

[色]タブ

該当ウィンドウ内の各部位の色を設定、変更します。

(1) 種類

色の変更が可能な部位がリスト表示されます。

(2) 色

リスト内を選択することにより、該当部位の現在の設定色が表示されます。

(3) <変更...> ボタン

クリックすることにより、色の設定ダイアログがオープンされ、(1)種類リスト内の該当部位の現在の設定色が変更されます。

[フォント]タブ

該当ウィンドウ内で使用する各部位のテキストのフォントを設定、変更します。

(1) 種類

フォントの変更が可能な部位がリスト表示されます。

(2) フォント

リスト内を選択することにより、該当部位の現在のフォント名が表示されます。

(3) サイズ

リスト内を選択することにより、該当部位の現在のフォント・サイズが表示されます。

(4) <変更...> ボタン

クリックすることにより、フォントの指定ダイアログがオープンされ、リスト内の該当部位の現在の設定フォントが変更されます。

機能ボタン

OK	設定を有効にし、このダイアログをクローズします。 各設定は、該当ウィンドウに反映されます。
キャンセル	設定を無視し、このダイアログをクローズします。 各設定は、該当ウィンドウに反映されません。
適用	このダイアログをオープンしたまま、設定を有効にします。 各設定は、対象ウィンドウに反映されます。
ヘルプ	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。

フォントの指定ダイアログ

表示するテキストのフォントを選択するダイアログです。

このダイアログは Windows の標準ダイアログを使用しています。

図7 - 110 フォントの指定ダイアログ

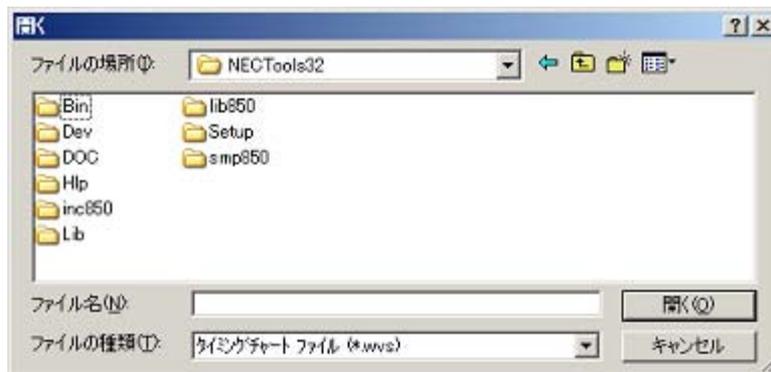


ファイルを開くダイアログ

動作の対象となるファイルを指定 / 選択するためのダイアログです。

このダイアログは Windows の標準ダイアログを使用しています。

図7 - 111 ファイルを開くダイアログ

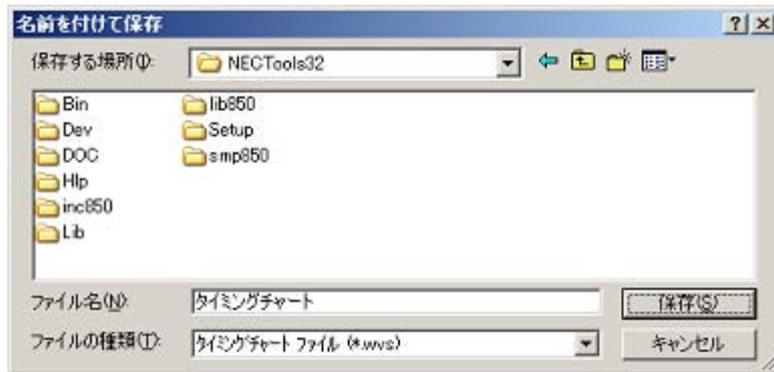


名前を付けて保存ダイアログ

保存の対象となるファイルを指定 / 選択するためのダイアログです。

このダイアログは Windows の標準ダイアログを使用しています。

図7 - 112 名前を付けて保存ダイアログ



第 8 章 コマンド・レファレンス

この章では、SM plus が持つコマンドの機能の詳細について解説します。

- [コマンド・ライン規約](#)
- [コマンド一覧](#)
- [変数一覧](#)
- [パッケージ一覧](#)
- [キー・バインド](#)
- [拡張ウィンドウ](#)
- [コールバック・プロシジャ](#)
- [フック・プロシジャ](#)
- [関連ファイル](#)
- [注意事項](#)
- [コマンドの説明](#)
- [サンプル \(電卓スクリプト \)](#)

8.1 コマンド・ライン規約

コマンド・ラインの指定には、次の規約があります。

- コマンド・ラインには、コマンド名、オプション、引数を指定します。
- 単語の区切りには、空白文字 (スペース、または タブ) を使います。
- 行末には、改行文字、またはセミコロンを使います。
- コマンド名とオプションは識別可能なところまで入力すると認識します。
- スクリプト内では、コマンド名をすべて入力しなければなりません。

コマンド形式

```
command -options arg1 arg2 arg3 ...
```

8.2 コマンド一覧

表 8 - 1 SM plus 制御コマンド一覧

コマンド名	機能
address	アドレス式の評価 expression 指定したアドレス式をアドレスに変換します。
assemble	逆アセンブル / ライン・アセンブル (a) code で指定した文字列を, address で指定したアドレスからアセンブルします。
batch	バッチ実行 (エコー付き) scriptname で指定したファイルを画面に表示しながら一括実行します。
breakpoint	ブレーク・ポイントの設定 / 削除 (b) options と address で指定したブレーク・ポイントを操作します。
dbgexit	SM plus の終了 SM plus を終了します。
download	ファイルのダウンロード (l) filename で指定したファイルを options にしたがってダウンロードします。
extwin	拡張ウィンドウの作成 scriptfile で拡張ウィンドウを作成します。
finish	関数から戻る 現在の関数を呼び出したプログラムに戻るまで実行します。
go	継続して実行 (g) プログラムの実行を継続します。
help	ヘルプの表示 Dcl のヘルプを表示します。
hook	フックの設定 scriptfile でフック用プロシジャを設定します。
jump	ウィンドウへのジャンプ (j) options で指定したウィンドウを表示します。
map	メモリ・マッピングの設定 / 削除 メモリ・マッピングの設定 / 削除 / 表示を行います。
mdi	拡張ウィンドウの設定 拡張ウィンドウのサイズとタイトル名を設定します。
memory	メモリの表示 / 設定 (m) address で指定したアドレスのメモリに options にしたがって value を設定します。
module	ファイル一覧, 関数一覧の表示 programe で指定したロード・モジュールのファイル一覧 / 関数一覧を表示します。
next	プロシジャ・ステップ (n) プロシジャ・ステップ実行を行います。
refresh	ウィンドウの再描画 ウィンドウを再描画し, 最新のデータに更新します。
register	レジスタ値, I/O レジスタ値の表示 / 設定 regname で指定したレジスタに value を設定します。

表 8 - 1 SM plus 制御コマンド一覧

コマンド名	機能
reset	リセット SM plus, CPU, またはシンボルをリセットします。
run	CPU リセット & 実行 (r) プログラムをリセット後実行します。
step	ステップ実行 (s) ステップ実行を行います。
stop	実行停止 プログラムを強制的に停止します。
upload	アップロード 指定したアドレス範囲のメモリ・データまたはカバレッジ・データをファイルに保存します。
version	バージョンの表示 SM plus のバージョンを表示します。
watch	変数値の表示 / 設定 (w) 変数値の表示と設定をします。
where	スタックのトレース スタックのバック・トレースをします。
wish	Tclet の起動 Tk を使ったスクリプト (Tclet) を起動します。
xcoverage	カバレッジの操作 カバレッジの操作をします。
xtime	タイマの操作 タイマの操作をします。
xtrace	トレーサの操作 トレーサの操作をします。

表 8 - 2 コンソール / Tcl コマンド一覧

コマンド名	機能
alias	別名作成
cd	ディレクトリ変更
clear	画面消去
echo	エコー
exit	閉じる / 終了する
history	履歴表示
ls	ファイル表示
pwd	ディレクトリ確認
source	バッチ実行
time	コマンドの時間測定

表 8 - 2 コンソール / Tcl コマンド一覧

コマンド名	機能
tkcon	コンソール制御
unalias	別名削除
which	コマンド・パスまたは別名の表示
その他	Tcl / Tk 8.1 に準拠

8.3 変数一覧

- dcl(chip) - チップ名 read only
- dcl(prjfile) - プロジェクト・ファイル名 read only
- dcl(srcpath) - ソース・パス read only
- dcl(ieid) - IE タイプ read only
- dcl(iestat) - IE ステータス read only
- dcl(bkstat) - ブレーク・ステータス read only
- env(LANG) - 言語
- dcl_version - Dcl バージョン read only

8.4 パッケージ一覧

- tcltest - 回帰テスト
- cwind - ウィンドウ自動制御
- BWidjet - ツールキット

8.5 キー・バインド

- tcsh + emacs ライク
- コマンド名の補完 [Tab]
- ファイル名の補完 [Tab]
- HTML ヘルプ [F1]

8.6 拡張ウィンドウ

Tk を使うと拡張ウィンドウを作成することができます。

拡張ウィンドウは, '.' の代わりに '.dcl' をルートとして Widget を配置します。

以下のスクリプト・ファイルを bin/idtcl/tools/ に置くことにより, [ブラウズ]メニュー [その他] 選択時に拡張ウィンドウが追加されます。

拡張ウィンドウには拡張ウィンドウ専用の mdi コマンドが追加されます。

```
# Sample.tcl
wm protocol .dcl WM_DELETE_WINDOW { exit }
mdi geometry 100 50
button .dcl.b -text Push -command exit
pack .dcl.b
```

注意 拡張ウィンドウでは, MDI ウィンドウの制約から Tk の menu コマンドを使うことはできません。

8.7 コールバック・プロシジャ

拡張ウィンドウは, 非同期のメッセージによって呼び出される dcl_asyncproc プロシジャを持つことができます。

```
proc dcl_asyncproc {mid} {
  if {$mid == 19} {
    redraw
  }
}
```

dcl_asyncproc プロシジャの引数には, 非同期メッセージ ID が渡されます。

メッセージ ID には以下のものがあります。

表 8 - 3 メッセージ ID

メッセージ ID	意味
9	コンフィグレーション変更後
10	イベント登録後
11	イベント削除後
12	実行開始前
13	ブレーク後
14	CPU リセット後
15	SM plus リセット後
17	拡張オプション変更後
18	ディバッガ・オプション変更後
19	ダウンロード後

表 8 - 3 メッセージ ID

メッセージ ID	意味
20	メモリ, またはレジスタ変更後
36	トレーサ開始前
37	トレーサ停止後
38	カバレッジ開始前
39	カバレッジ停止後
40	タイマ開始前
41	タイマ停止後
42	トレース・クリア後
45	シンボル・リセット後

8.8 フック・プロシジャ

フック・プロシジャを使用して, SM plus にフックを設定できます。

フック・プロシジャには以下のものがあります。

- BeforeDownload (ダウンロード前のフック)
- AfterDownload (ダウンロード後のフック)
- AfterCpuReset (CPU リセット後のフック)
- BeforeCpuRun (実行開始前のフック)
- AfterCpuStop (ブレーク後のフック)

フック・プロシジャを使用することで, プログラムのダウンロード前や CPU リセット後に, レジスタの値を変更することが可能です。

下記に手順の具体例を示します。なお, フックは SM plus を終了させるまで有効となります。

[SM plus 制御コマンドでフックを設定する場合]

- 1) エディタでスクリプト・ファイルを作成します。
- 2) SM plus を起動し [ブラウザ]メニュー [コンソール]を選択し, [コンソール・ウィンドウ](#)をオープンします。
- 3) ウィンドウ上で, 以下のようにスクリプト・ファイルを実行すると, スクリプト・ファイル内のフックが設定されます。

```
%hook test.tcl
```

【プロジェクト・ファイルのダウンロード時にフックを設定する場合】

- 1) エディタでスクリプト・ファイルを作成します。

注意 スクリプト・ファイル名は、プロジェクト・ファイルと同じにしてください。

例)

test.prj に対応したスクリプト・ファイルは test.tcl になります。

test.prj, test.pri, test.tcl は同じディレクトリへ置いてください。

- 2) SM plus を起動し、test.prj を読み込んでください。スクリプト・ファイル内のフックが設定されます。

スクリプト・ファイルの内容例 (V850E/MS1 接続時)

```
proc BeforeDownload {} {
    register MM 0x7
    register PMC8 0xff
    register PMC9 0xff
    register PMCX 0xe0
}

proc AfterCpuReset {} {
    register MM 0x7
    register PMC8 0xff
    register PMC9 0xff
    register PMCX 0xe0
}
```

8.9 関連ファイル

- aliases.tcl コンソールを開く時に実行
デフォルトの alias などを設定します。
- プロジェクトファイル名 .tcl プロジェクトを開く時に実行
BeforeDownload, AfterDownload, AfterCpuReset, BeforeCpuRun, AfterCpuStop のフックが使えます。
- ロード・モジュール名 .tcl ロード・モジュールをダウンロードする時に実行
BeforeDownload, AfterDownload, AfterCpuReset, BeforeCpuRun, AfterCpuStop のフックが使えます。

8.10 注意事項

- ファイル・パスのセパレータ文字はスラッシュ (/) を使います。
- コンソール、または拡張ウィンドウがアクティブ状態の時は、アクセラレータ・キーを受け付けません。
- コンソールが開いている時は、エラー・メッセージをコンソールに出力します。
- コマンドを強制終了させたい場合は、コンソールを閉じてください。
- 外部コマンド (DOS コマンド) の実行は、デフォルトで OFF になっています。

8.11 コマンドの説明

この節では、各コマンドについて次のような形式で解説します。

コマンド名

名称を英語 - 日本語で記述します。

入力形式

コマンドの入力形式を記述します。

イタリック書体の引数は、ユーザが該当値を記述する引数であることを、'?' で囲まれた引数は省略可能であることを示しています。

なお、コマンド名とオプションは識別可能なところまで入力すると認識します。

機能説明

コマンドの機能を説明します。

使用例

コマンドの使用例を示します。

address

address - アドレス式の評価

入力形式

address *expression*

機能説明

expression で指定したアドレス式をアドレスに変換します。

使用例

(IDCON) 1 % address main
0xaa
(IDCON) 2 % address main+1
0xab

assemble

assemble - 逆アセンブル / ライン・アセンブル

入力形式

assemble *?options? address ?code?*

機能説明

code で指定した文字列を, *address* で指定したアドレスからアセンブルします。

address に '.' を指定した場合は, 直前のアセンブルの続きのアドレスと解釈します。

code を省略した場合は, *address* で指定したアドレスから逆アセンブルします。

options には, 以下のものがあります。アセンブルの場合は無視します。

- code** 命令コードも表示します。アセンブルの場合は無視します。
- number *number*** *number* 行表示します。アセンブルの場合は無視します。

使用例

```
(IDCON) 1 % assemble -n 5 main
0x000000aa B7        PUSH HL
0x000000ab B1        PUSH AX
0x000000ac 891C      MOVW AX,SP
0x000000ae D6        MOVW HL,AX
0x000000af A100      MOV A,#0H
(IDCON) 2 % assemble main mov a,b
(IDCON) 3 % assemble . mov a,b
```

batch

batch - バッチ実行 (エコー付き)

入力形式

`batch scriptname`

機能説明

`scriptname` で指定したファイルを画面に表示しながら一括実行します。

ネスト可能です。

使用例

```
(IDCON) 1 % clear
(IDCON) 2 % batch bat_file.tcl
(IDCON) 3 % tkcon save a:/log.txt
```

breakpoint

breakpoint - ブレーク・ポイントの設定 / 削除

入力形式

breakpoint *?options? ?address1? ?address2?*

breakpoint -delete *brkno*

breakpoint -enable *brkno*

breakpoint -disable *brkno*

breakpoint -information

機能説明

options と *address* で指定したブレーク・ポイントを操作します。

ブレーク・ポイントを正常に設定できると、ブレーク・ポイント番号を返します。

options には、以下のものがあります。

-software	ソフトウェア・ブレークを指定する。
-hardware	ハードウェア・ブレークを指定する (デフォルト)。
-execute	<i>address</i> 実行ブレークを設定する (デフォルト)。
-beforeexecute	<i>address</i> 実行前ブレークを設定する。
-read	<i>address</i> データ・リード・ブレークを設定する。
-write	<i>address</i> データ・ライト・ブレークを設定する。
-access	<i>address</i> データ・アクセス・ブレークを設定する。
-size size	アクセス・サイズ (8, 16, 32 のいずれか) を設定する (単位: ビット)。
-data value	データ条件を設定する。
-datamask value	データ・マスクを設定する。
-pass value	パス・カウントを設定する。
-information	ブレーク・ポイントの一覧を表示する。
-delete	指定した番号のブレーク・ポイントを削除する。
-disable	指定した番号のブレーク・ポイントを無効にする。
-enable	指定した番号のブレーク・ポイントを有効にする。

使用例

```
(IDCON) 1 % breakpoint main
1
```

(IDCON) 2 % breakpoint -i
1 Brk00001 enable rammon.c#17

(IDCON) 3 % breakpoint -software sub
2

(IDCON) 4 % breakpoint -i
1 Brk00001 enable rammon.c#17
2 Brk00001 enable rammon.c#8

(IDCON) 5 % breakpoint -disable 2
(IDCON) 6 % breakpoint -i
1 Brk00001 enable rammon.c#17
2 Brk00001 disable rammon.c#8

(IDCON) 7 % breakpoint -delete 1
2 Brk00001 disable rammon.c#8

dbgexit

dbgexit - SM plus の終了

入力形式

dbgexit *?options?*

機能説明

SM plus を終了します。

options には以下のものがあります。

-saveprj SM plus 終了時にプロジェクトを保存します。

使用例

(IDCON) 1 % dbgexit -saveprj

download

download - ファイルのダウンロード

入力形式

download *?options? filename ?offset?*

機能説明

filename で指定したファイルを *options* にしたがってダウンロードします。

offset を指定すると *offset* だけアドレスをずらします (バイナリ形式のデータの場合は、*offset* にロード開始アドレスを指定します)。

-binary	バイナリ形式のデータをダウンロードします。
-coverage	カバレッジ・データをダウンロードします。
-append	追加ダウンロードします。
-nosymbol	ダウンロードします。シンボル情報は読み込みません。
-reset	ダウンロード後に CPU リセットをします。
-information	ダウンロード情報を表示します。
-symbolonly	シンボル情報のみを読み込みます。

使用例

(IDCON) 1 % download test.lmf

extwin

extwin - 拡張ウィンドウの作成

入力形式

`extwin scriptfile`

機能説明

`scriptfile` で拡張ウィンドウを作成します。

使用例

(IDCON) 1 % extwin d:/foo.tcl

finish

finish - 関数から戻る

入力形式

finish

機能説明

現在の関数を呼び出したプログラムに戻るまで実行します。

使用例

(IDCON) 1 % finish

go

go - 継続して実行

入力形式

go *?options?*

機能説明

プログラムの実行を継続します。-waitbreak を指定すると、プログラムが停止するのを待ちます。

options には、以下のものがあります。

- | | |
|--------------|-------------------|
| -ignorebreak | ブレーク・ポイントを無視します。 |
| -waitbreak | プログラムが停止するまで待ちます。 |

使用例

(IDCON) 1 % go -w

help

help - ヘルプの表示

入力形式

help

機能説明

Dcl のヘルプを表示します。

使用例

(IDCON) 1 % help

hook

hook - フックの設定

入力形式

`hook scriptfile`

機能説明

`scriptfile` でフック用プロシジャを設定します。

フック設定はプロジェクト・ファイルのロード時と SM plus リセット時に初期化されます。

使用例

(IDCON) 1 % hook d:/foo.tcl

jump

jump - ウィンドウへのジャンプ

入力形式

jump -source -line *filename* ?*line*?

jump ?*options*? *address*

機能説明

options で指定したウインドウを表示します。

- | | |
|------------------|--|
| -source | <i>address</i> で指定したアドレスからソース・ウインドウを表示します。 |
| -assemble | <i>address</i> で指定したアドレスからアセンブル・ウインドウを表示します。 |
| -memory | <i>address</i> で指定したアドレスからメモリ・ウインドウを表示します。 |
| -coverage | address で指定したアドレスからカバレッジ・ウインドウを表示します。 |
| -line | <i>line</i> で指定した行に移動します。 |

使用例

(IDCON) 1 % jump -s main
(IDCON) 2 % jump -s -l mainfile.c 10
(IDCON) 3 % jump -m array

map

map - メモリ・マッピングの設定 / 削除

入力形式

`map options address1 address2 ?accsize?`

機能説明

メモリ・マッピングの設定 / 削除 / 表示を行います。

`accsize` に 8, 16, 32 のいずれかのアクセス・サイズ (単位: バイト, デフォルトは 8) を指定します。

`options` には, 以下のものがあります。

<code>-erom</code>	代替 ROM をマッピングします。
<code>-eram</code>	代替 RAM をマッピングします。
<code>-extrom</code>	シミュレータ代替 ROM をマッピングします。
<code>-extram</code>	シミュレータ代替 RAM をマッピングします。
<code>-target</code>	ターゲット領域をマッピングします。
<code>-protect</code>	I/O プロテクト領域をマッピングします。
<code>-clear</code>	すべてのマッピング設定を削除します。
<code>-information</code>	マッピング設定を参照します。

使用例

```
(IDCON) 1 % map -i
1: 0 0x7fff 8 {IROM}
2: 0x8000 0x87ff 8 {Target RRM}
3: 0x8800 0x9fff 8 {Target}
4: 0xa000 0xf7ff 8 {NonMap}
5: 0xf800 0xfaff - {NonMap}
6: 0xfb00 0xfedf 8 {Saddr}
7: 0xfef0 0xfeff 8 {Register}
8: 0xff00 0xffff 8 {SFR}
(IDCON) 2 % map -erom 0x100000 0x10ffff
(IDCON) 3 % map -c
```

mdi

mdi - 拡張ウィンドウの設定

入力形式

mdi geometry *?x y? width height*

mdi title *string*

機能説明

拡張ウィンドウのサイズとタイトル名を設定します。

拡張ウィンドウからのみ使用できます。

使用例

(IDCON) 1 % mdi geometry 0 0 100 100

(IDCON) 2 % mdi title foo

memory

memory - メモリの表示 / 設定

入力形式

memory *?options?* *address* *?value?*

memory *?options?* -fill *address1* *address2* *value*

memory *?options?* -copy *address1* *address2* *address3*

機能説明

address で指定したアドレスのメモリに *options* にしたがって *value* を設定します。

value を省略すると *address* で指定した アドレスのメモリの値を表示します。

-fill を指定すると *address1* から *address2* の間を *value* で充填します。

-copy を指定すると *address1* から *address2* の間を *address3* に複写します。

options には、以下のものがあります。

-byte	1 バイト単位で表示 / 設定します (デフォルト)。
-halfword	1 ハーフ・ワード単位で表示 / 設定します。
-word	1 ワード単位で表示 / 設定します。
-fill	データを充填します。
-copy	データを複写します。
-noverify	書き込み時にベリファイをしません。

使用例

(IDCON) 1 % memory 100

0x10

(IDCON) 2 % memory 100 2

(IDCON) 3 % memory 100

0x02

(IDCON) 4 % memory -fill 0 1ff 0

module

module - ファイル一覧, 関数一覧の表示

入力形式

`module progame ?filename?`

機能説明

progame で指定したロード・モジュールのファイル一覧 / 関数一覧を表示します。

filename を指定しない場合はファイルの一覧を表示します。

filename を指定した場合は指定したファイルの関数の一覧を表示します。

使用例

```
(IDCON) 1 % module rammon.lmf
1: rammon.c
(IDCON) 2 % module rammon.lmf rammon.c
1: rammon.c sub1
2: rammon.c main
```

next

next - プロシジャ・ステップ

入力形式

next ?options?

機能説明

プロシジャ・ステップ実行を行います。関数呼び出しを行っている場合は、関数実行後停止します。
options には、以下のものがあります。

- | | |
|---------------------|------------------------|
| -source | ソースの行単位で実行します (デフォルト)。 |
| -instruction | 命令単位で実行します。 |

使用例

(IDCON) 1 % next -i
(IDCON) 2 % next -s

refresh

refresh - ウィンドウの再描画

入力形式

refresh

機能説明

ウィンドウを再描画し、最新のデータに更新します。

使用例

(IDCON) 1 % batch foo.tcl
(IDCON) 2 % refresh

register

register - レジスタ値, I/O レジスタ値の表示 / 設定

入力形式

`register ?options? regname ?value?`

機能説明

`regname` で指定したレジスタに `value` を設定します。

`value` を省略した場合は `regname` で指定したレジスタの値を表示します。

`options` には、以下のものがあります。

-force 強制読み込みをします。

使用例

```
(IDCON) 1 % register pc
0x100
(IDCON) 2 % register pc 200
(IDCON) 3 % register pc
0x200
```

reset

reset - リセット

入力形式

reset ?options?

機能説明

SM plus , CPU , またはシンボルをリセットします。

オプションを省略した場合は , CPU リセットをします。

options には , 以下のものがあります。

-cpu	CPU をリセットします (デフォルト) 。
-debugger	SM plus をリセットします。
-symbol	シンボルをリセットします。
-event	イベントをリセットします。

使用例

(IDCON) 1 % reset

run

run - CPU リセット & 実行

入力形式

run *?options?*

機能説明

プログラムをリセット後実行します。

-waitbreak を指定していなければ、プログラムの停止を待ちません。

options には、以下のものがあります。

-waitbreak プログラムが停止するまで待ちます。

使用例

(IDCON) 1 % run

(IDCON) 2 % run -w

step

step - ステップ実行

入力形式

step *?options?*

機能説明

ステップ実行を行います。

関数呼び出しを行っている場合は、関数の先頭で停止します。

options には、以下のものがあります。

- | | |
|---------------------|------------------------|
| -source | ソースの行単位で実行します (デフォルト)。 |
| -instruction | 命令単位で実行します。 |

使用例

(IDCON) 1 % step -i
(IDCON) 2 % step -s

stop

stop - 実行停止

入力形式

stop

機能説明

プログラムを強制的に停止します。

使用例

(IDCON) 1 % run
(IDCON) 2 % stop

upload

upload - アップロード

入力形式

`upload ?options? filename address1 address2`

機能説明

指定したアドレス範囲のメモリ・データ、またはカバレッジ・データをファイルに保存します。

options には、以下のものがあります。

-binary	バイナリ形式で保存します。
-coverage	カバレッジ・データを保存します。
-intel	インテル・ヘキサ形式で保存します (デフォルト)。
-motorola	モトローラ・ヘキサ形式で保存します。
-tektronix	テクトロニクス (テック)・ヘキサ形式で保存します。
-force	ファイルを上書きします。

使用例

(IDCON) 1 % `upload -b foo.hex 0 0xffff`

version

version - バージョンの表示

入力形式

version

機能説明

SM plus のバージョンを表示します。

使用例

```
(IDCON) 1 % version
GUI           : E2.00y [31-May-99]
Devicefile    : 78K0[uPD780034] E1.01a
Debugger      : 78K/0 Debugger E2.50c [02-Apr-99]
Executer      : 78K/0 Executer E1.3c
Packet translator : 78K/0 Packet E2.00w
Assembler     : 78K/0 Asm/Disasm E1.15a [01-Apr-99]
Tcl/Tk        : 8.1.1
```

watch

watch - 変数値の表示 / 設定

入力形式

watch *?options? variable ?value?*

機能説明

変数値の表示と設定をします。

options には、以下のものがあります。

-binary	値を 2 進数で表示します。
-octal	値を 8 進数で表示します。
-decimal	値を 10 進数で表示します。
-hexdecimal	値を 16 進数で表示します。
-string	値を文字列で表示します。
-sizeof	値の代わりに変数のサイズを 10 進数で表示します。

使用例

```
(IDCON) 1 % watch var
0x10
(IDCON) 2 % watch -d var
16
(IDCON) 3 % watch array[0] 0xa
```

where

where - スタックのトレース

入力形式

where

機能説明

スタックをバック・トレースします。

使用例

```
(IDCON) 1 % where
1: test2.c#sub2(int i)#13
2: test.c#num(int i)#71
3: test.c#main()#82
```

wish

wish - Tclet の起動

入力形式

wish *scriptname*

機能説明

Tk を使ったスクリプト (Tclet) を起動します。

Tclet で拡張ウィンドウを作成できます。

使用例

(IDCON) 1 % wish test.tcl

xcoverage

xcoverage - カバレッジの操作

入力形式

xcoverage *option*

機能説明

カバレッジの操作をします。

option には、以下のものがあります。

- | | |
|---------------|-----------------------|
| -start | プログラム実行中にカバレッジを開始します。 |
| -stop | プログラム実行中にカバレッジを停止します。 |
| -clear | カバレッジ・メモリをクリアします。 |

使用例

```
(IDCON) 1 % xcoverage -start  
(IDCON) 2 % xcoverage -stop  
(IDCON) 3 % xcoverage -clear
```

xtime

xtime - タイマの操作

入力形式

xtime *option*

機能説明

タイマの操作をします。

option には、以下のものがあります。

- | | |
|-----------------|----------------------------|
| -start | プログラム実行中にタイマを開始します。 |
| -stop | プログラム実行中にタイマを停止します。 |
| -gobreak | Go-Break 間の時間をクロック数で表示します。 |

使用例

(IDCON) 1 % xtime -start
(IDCON) 2 % xtime -stop

xtrace

xtrace - トレーサの操作

入力形式

xtrace -dump *?-append?* *frameno* *?filename?*

xtrace -start

xtrace -stop

xtrace -clear

xtrace -mode *mode*

機能説明

トレーサの操作をします。

option には、以下のものがあります。

-start	プログラム実行中にトレーサを開始します。
-stop	プログラム実行中にトレーサを停止します。
-clear	トレース・データをダンプします(デフォルト)。
-dump	ダンプ結果はコンソール・ウィンドウにリダイレクトされます。 ファイル名を指定した際は、ダンプ結果をファイルに書き込みます。
-append	ダンプ結果をファイルに追加します。
-mode <i>mode</i>	トレース制御モードを選択 (all, cond, nonstop, fullstop, fullbreak, delaystop, delaybreak, machine, event のいずれか) します。

使用例

```
(IDCON) 1 % xtrace -start
(IDCON) 2 % xtrace -stop
(IDCON) 3 % xtrace -dump 3
_ 01685 2 000000BC M1 br _sub2+0x2
_ 01686 4 0000009A BRM1 st.w r6, 0x8[sp]
_ 01687 3 0000009E BRM1 st.w r0, 0x0[sp]
(IDCON) 4 % xtrace -clear
(IDCON) 5 % xtrace -addup true
```

8.12 サンプル (電卓スクリプト)

次に、電卓スクリプトを記述した拡張ウィンドウのスクリプトとその実行画面を示します。

拡張ウィンドウのスクリプト

```
# Calculator.tcl
mdi geometry 100 100
set top .dcl
entry $top.e -relief sunken -textvariable v
frame $top.f -height 120 -width 120; pack $top.e -fill x; pack $top.f -fill both -expand 1 set i 0; set v {}; set r
0.25
foreach n {7 8 9 / 4 5 6 * 1 2 3 - 0 = + C} {
    if {$n == "=" || $n == "C"} {
        button $top.f.b$n -text $n
    } else {
        button $top.f.b$n -text $n -command "$top.e insert end $n"
    }
    place $top.f.b$n -relx [expr ($i%4)*$r] -rely [expr ($i/4)*$r] -relw $r -relh $r    incr i
}
bind $top.f.bC <1> {$top.e delete 0 end}
bind $top.f.b= <1> {catch {expr $v} v}
```

図 8 - 1 実行画面



付録 A 拡張ウィンドウ

- [拡張ウィンドウ概要](#)
- [サンプル・ウィンドウ一覧](#)
- [サンプル・ウィンドウの起動](#)
- [各サンプルウィンドウの説明](#)

A.1 拡張ウィンドウ概要

SM plus では、既存のウィンドウに加えユーザ自身でカスタム・ウィンドウの作成が可能です。

SM plus には、Tcl (Tool Command Language) のインタプリタとデバッガ制御用のコマンドが組み込まれており、カスタム・ウィンドウはこの Tcl により作成します。

SM plus には、いくつかの拡張ウィンドウのサンプルが同梱されています。

A.2 サンプル・ウィンドウ一覧

表 A - 1 拡張ウィンドウのサンプル一覧

ウィンドウ名	機能概要
List ウィンドウ	ソース・ファイルと関数名の一覧を表示します。
Grep ウィンドウ	文字列を検索します。
RRM ウィンドウ	リアルタイム RAM モニタ用のメモリ・ウィンドウです。
Hook ウィンドウ	フック・プロシジャの設定を行います。
Memory Mapped I/O ウィンドウ	指定したアドレスの書き込み、または読み込みを行います。

A.3 サンプル・ウィンドウの起動

[ブラウズ] メニュー [その他] [List/Grep/RRM/Hook/Memory] を選択。

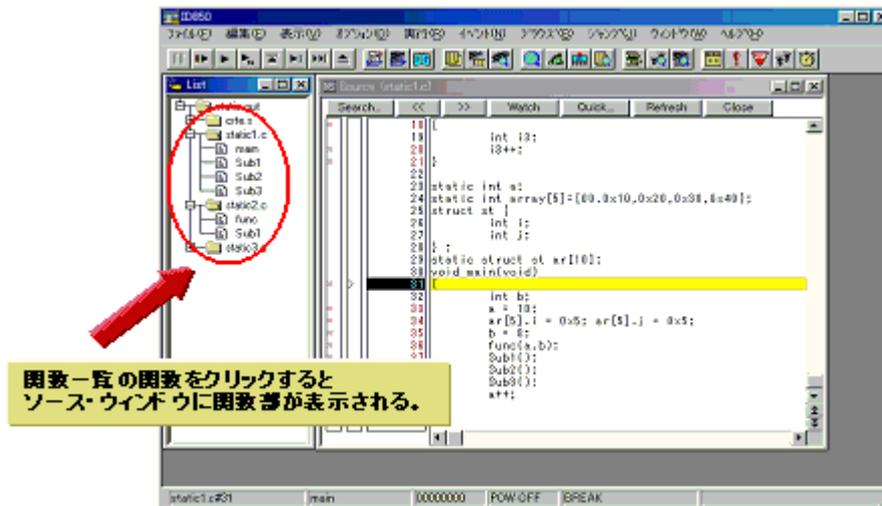
備考 これらの .tcl ファイルは NECTools32\BIN\idctl\tools にインストールされています。

A.4 各サンプルウィンドウの説明

List ウィンドウ

ソース・ファイルと関数の一覧をツリー表示します。また、一覧表示をクリックすると対応したソースを表示します。

図 A - 1 List ウィンドウ

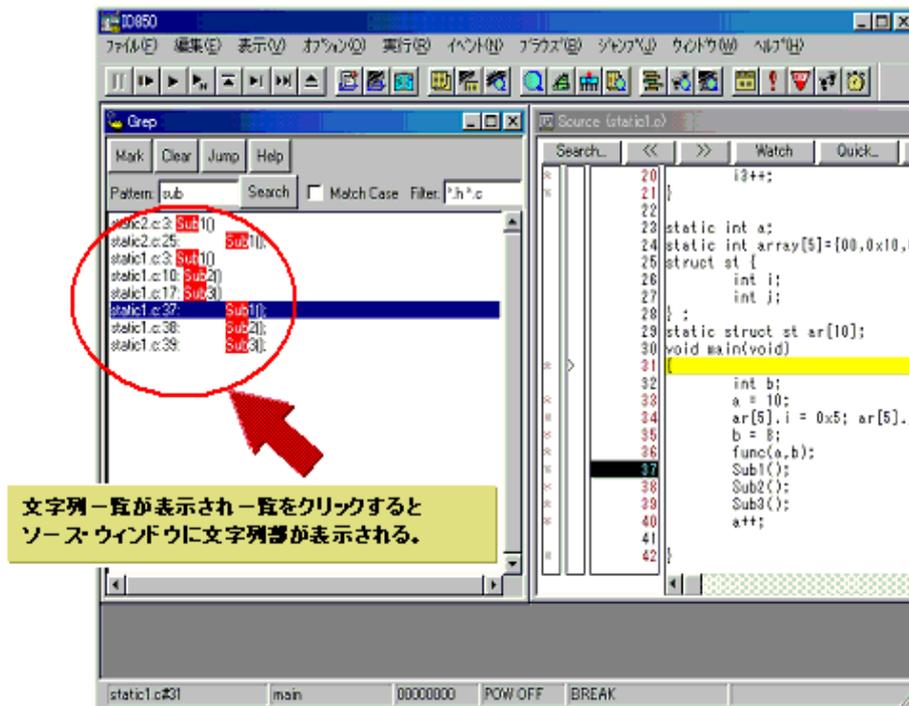


Grep ウィンドウ

ソース・パスのファイルから文字列検索を行います。

また、検索結果からクリックすると対応したソース・ファイルを表示します。

図 A - 2 Grep ウィンドウ



オブジェクト	機能
Pattern	検索したい文字列を入力します。
<Mark> ボタン	検索した文字列をマークします。
<Clear> ボタン	マークをクリアします。
<Jump> ボタン	検索箇所にカーソルを置き、このボタンをクリックすることにより、対応したファイルを開きます。
Match Case	大文字 / 小文字の区別の有無を指定します。
Filter	検索するファイル・タイプを指定します。

RRM ウィンドウ

RAM モニタ専用のウィンドウです。

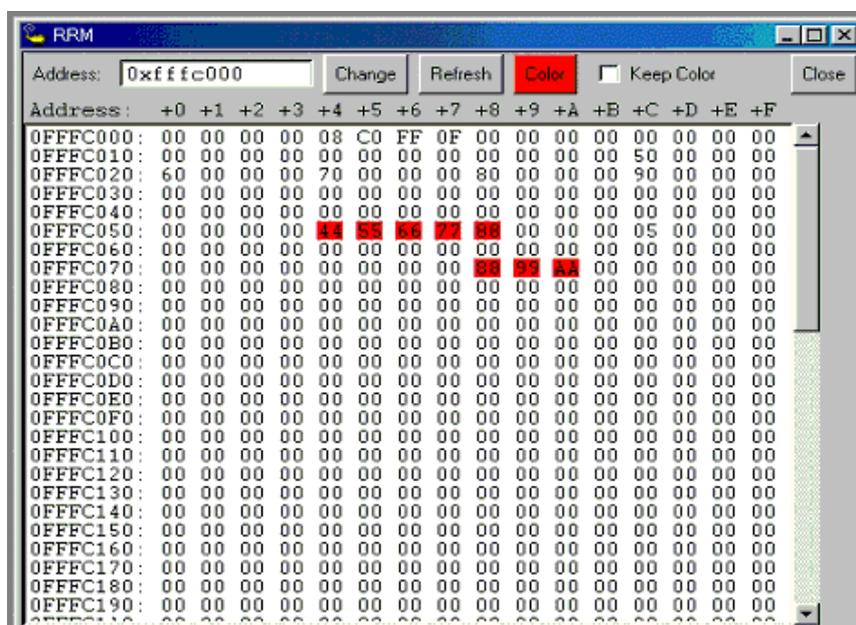
RAM 領域にて、実行中に値が変化したアドレスの領域に色付けをし表示します。表示範囲は 1K バイトです。また、RAM を読み出す際にはユーザ・プログラムの実行を一瞬ブレイクしています。

なお、このウィンドウ上では、ユーザ・プログラム実行中に RAM 領域の開始アドレス変更が可能です。

注意 1 すべてのデータは、同一の時間には読み出されません (1K バイトをワード単位に分割して読み出しているため)。

注意 2 拡張オプション設定ダイアログで RAM モニタ機能 OFF の場合でも動作します。

図 A - 3 RRM ウィンドウ



オブジェクト	機能
Address	表示開始アドレスを入力します (自動的に 1K バイトアラインします)。
<Change> ボタン	開始アドレスの表示切り替えを行います。
<Refresh> ボタン	メモリの読み出しを行います。
<Color> ボタン	色のカスタマイズをします (デフォルトは赤)。
Keep Color	色表示の継続の有無を指定します。 チェックあり: 一度でも値の変化があれば、ブレイクするまで色表示を継続 チェックなし: 値が変化しなければ色表示が消える (デフォルト)
<Close> ボタン	このウィンドウをクローズします。

Hook ウィンドウ

フック・プロシジャを使用し、ディバッガにフックを設定するためのウィンドウです。

フック・プロシジャを使用することで、ロード・モジュールのダウンロード前や CPU リセット後に、レジスタの値を変更することができます。

このウィンドウでは、次の 4 つのタブでフック設定が可能です。

- [BeforeDownload] タブ (ダウンロード前のフック)
- [AfterCpuReset] タブ (CPU リセット後のフック)
- [BeforeCpuRun] タブ (実行開始前のフック)
- [AfterCpuStop] タブ (ブレーク後のフック)

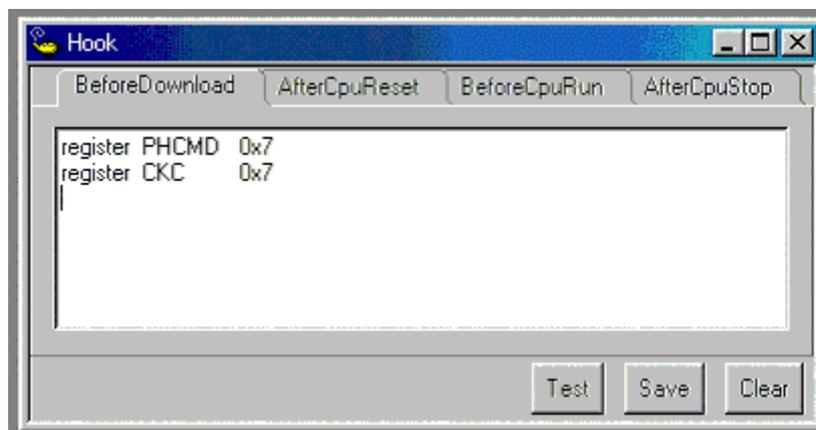
例えば、ロード・モジュールのダウンロード前に、[BeforeDownload] タブで周辺 I/O レジスタを設定することにより、ダウンロードを高速に行うことができます。また、外部メモリへのアクセスもこのタブを設定することで容易になります。

なお、周辺 I/O レジスタの設定に関しては、下記 URL (マイコン・ホームページ FAQ) を参考にしてください。

<http://www.necel.com/micro/>

また、このウィンドウの設定を、プロジェクトのあるディレクトリに "プロジェクト・ファイル名.tcl" で保存することにより、プロジェクトを開くときに同時に実行させることができます。

図 A - 4 Hook ウィンドウ



オブジェクト	機能
[BeforeDownload] タブ	ダウンロード前のフック。 ロード・モジュール・ファイルをダウンロードする前に、タブに記述したレジスタの値を指示した値に自動的に書き替えます。
[AfterCpuReset] タブ	CPU リセット後のフック。 CPU リセット後に、タブに記述したレジスタの値を指示した値に自動的に書き替えます。

オブジェクト	機能
[BeforeCpuRun] タブ	実行開始前のフック。 実行開始前にタブに記述したレジスタの値を指示した値に自動的に書き替えます。
[AfterCpuStop] タブ	ブレーク後のフック。 ブレーク後にタブに記述したレジスタの値を指示した値に自動的に書き替えます。
<Test> ボタン	すべてのタブに記述したコマンドをテスト実行します。
<Save> ボタン	すべてのタブの内容をファイルにセーブします。 プロジェクト・ファイルから SM plus を起動した場合, " プロジェクト・ファイル名 .tcl " で保存します。
<Clear> ボタン	すべてのタブの記述をクリアします。

注意 レジスタ名はプログラム・レジスタと周辺 I/O レジスタを指定します。

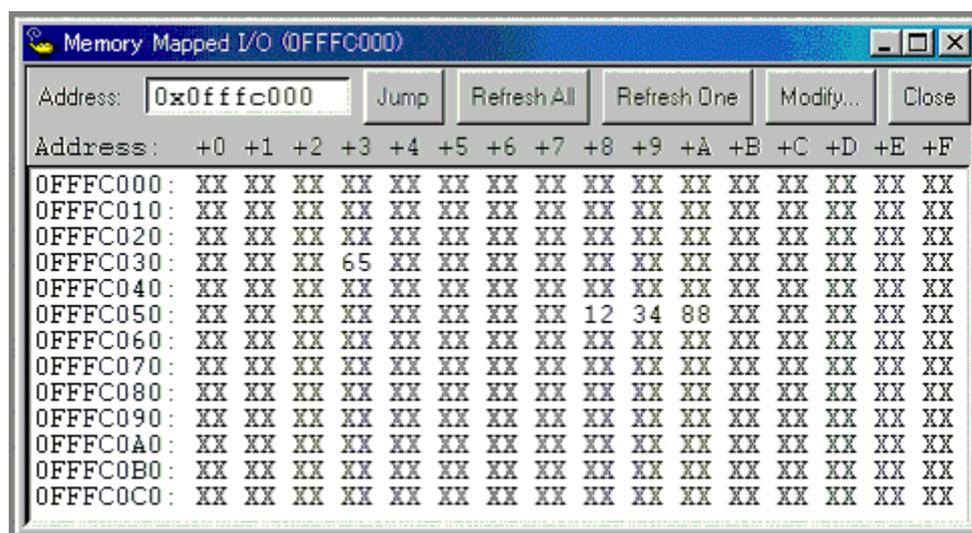
Memory Mapped I/O ウィンドウ

指定のアドレスに対してデータの読み込み、および書き込みを明示的に行います。

通常、メモリ・ウィンドウ上で書き込みを行った場合、SM plus が内部的にデータ内容を読み込みベリファイを行っています。また、メモリ・ウィンドウ上ではスクロール操作をするだけでもメモリは読み込まれます。一方、このウィンドウでは上記の動作は行われません。このため、任意のアドレスのみの読み込み、および書き込みをしたい場合このウィンドウが有効です。

なお、ユーザ・プログラム実行中の書き込みは、一瞬ブレークさせたあとに行っています。

図 A - 5 Memory Mapped I/O ウィンドウ



オブジェクト	機能
Address	表示したいアドレスを入力します。 Enter キーの押下、または <Jump> ボタンのクリックにより表示対象アドレスが変化します。この時、データ内容は読み出されないため、アドレス表示部には数値が表示されませんがデータ部には "XX" が表示されます。
<Jump> ボタン	Address 欄に入力したアドレスの表示を変更します。
<Refresh All> ボタン	表示しているすべての領域のデータを一回だけ読み込みます。 ノンマップ領域を読み込もうとした場合や、読み込み時にエラーが発生した場合には、データ部に "ZZ" が表示されます。
<Refresh One> ボタン	カーソルのあるアドレスのメモリ・データを一回だけ読み込みます。 読み込むデータ・サイズは表示形式に依存します。 ノンマップ領域を読み込もうとした場合や、読み込み時にエラーが発生した場合には、データ部に "ZZ" が表示されます。
<Modify...> ボタン	Memory Mapped I/O 入力ダイアログをオープンします。 カーソルの位置が Memory Mapped I/O 入力ダイアログに表示される入力アドレスとなります。Memory Mapped I/O 入力ダイアログがオープンしている時に本ウィンドウのカーソル位置を変更し、このボタンをクリックすると、Memory Mapped I/O 入力ダイアログの Address も変化します。
<Close> ボタン	このウィンドウをクローズします。
コンテキスト・メニュー	表示形式を Byte/HalfWord/Word のいずれかに変更します。

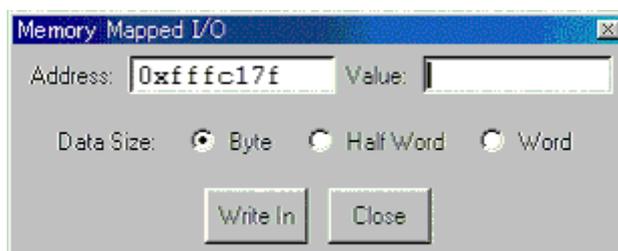
Memory Mapped I/O 入力ダイアログ

Memory Mapped I/O ウィンドウの <Modify...> ボタンをクリックすることによりオープンし、任意のアドレスへの書き込みを行います。

注意 1 データを書き込む領域をメモリ・ウィンドウやウォッチ・ウィンドウで表示している場合、<Write in> ボタンのクリック後に、これらのウィンドウのデータが読み込まれます。

注意 2 Data Size が、[コンフィグレーション・ダイアログ](#)で指定されている Access Size より小さい場合、SM plus は、一度 Access Size でデータを読み込んだ後、読み込んだデータの該当部分を変更し、変更したデータを Access Size で書き込みます。

図 A - 6 Memory Mapped I/O 入力ダイアログ



オブジェクト	機能
Address	書き込みを行うアドレスを入力します。 デフォルトでは、 Memory Mapped I/O ウィンドウ でのカーソル位置のデータに対応するアドレスが表示されています。
Value	書き込む値を入力します。
Data Size	書き込みを行うデータ・サイズを選択します。 デフォルトでは、Memory Mapped I/O ウィンドウで指定されている表示サイズが選択されています。
<Write in> ボタン	指定したアドレス、データ・サイズでデータを書き込みます。
<Close> ボタン	このダイアログをクローズします。

付録 B 入力規約

- 使用可能文字一覧
- シンボル規定
- 数値規定
- 式と演算子に関する規定

B.1 使用可能文字一覧

表 B - 1 使用文字セット一覧

分類	使用文字
英文字	大文字 : ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ 小文字 : abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
数字	0123456789
英字相当文字	@_

表 B - 2 使用特殊文字一覧

文字	名称	主な用途
(左かっこ	演算順序の変更
)	右かっこ	演算順序の変更
+	プラス	加算演算子, または正符号
-	マイナス	減算演算子, または負符号
*	アスタリスク	乗算演算子, または間接参照演算子
/	スラッシュ	除算演算子
%	パーセント	剰余演算子
~	チルダ	補数演算子
	縦線	ビット和演算子
^	やま	ビット差演算子
&	アンド	ビット積演算子, またはアドレス演算子
[左ブラケット	配列添字演算子, またはベース・レジスタ指定記号
]	右ブラケット	配列添字演算子, またはベース・レジスタ指定記号
.	ピリオド	直接メンバ演算子, またはビット位置指定子
,	カンマ	オペランド間の区切り記号

B.2 シンボル規定

- (a) シンボルは A-Z, a-z, @, _ (アンダバー), . (ピリオド), 0-9 のいずれかの文字で構成されます。
- (b) シンボルの先頭は, 0-9 の数字以外の文字でなければなりません。
- (c) 英大文字 (A-Z), 英小文字 (a-z) は区別されます。
- (d) シンボル名は最大 2048 文字です (2048 文字以上のシンボルを定義した場合, 先頭から 2048 文字までが有効)。
- (e) シンボルは, ロード・モジュール・ファイルをロードすることにより定義されます。
- (f) シンボルには有効範囲ごとに次の種類があります。
 - ・グローバル・シンボル (アセンブリ言語, C 言語)
 - ・スタティック・シンボル (C 言語)
 - ファイル内スタティック・シンボル
 - 関数内スタティック・シンボル
 - ・ローカル・シンボル (C 言語)
 - ファイル内ローカル・シンボル
 - 関数内ローカル・シンボル
 - ブロック内ローカル・シンボル
- (g) 使用する言語ごとに, 次のシンボルが存在します。
 - ・アセンブリ言語
 - ラベル名
 - ・C 言語
 - 変数名 (ポインタ関数名, 列挙型変数名, 配列名, 構造体名, 共用体名を含む)
 - 関数名, ラベル名
 - 配列要素, 構造体要素, 共用体要素, ビット・フィールド (ただしシンボルが配列, 構造体, 共用体の場合)
- (h) シンボルはアドレスと数値の代わりに記述することができます。
- (i) シンボルの有効範囲は, アセンブル, またはコンパイルされた際のソース・ディバグ情報に基づいて決定されます。
- (j) グローバル・シンボルは, シンボル名だけを記述します。
- (k) ローカル・シンボルは, ファイル名と対にして表現します。

B.3 数値規定

数値として次の種類が使用できます。それぞれ入力形式は次の通りです。

なお、サフィックス（太字），および 16 進数の英字は，大文字でも小文字でも構いません。また，先頭文字が A - F の場合，先頭に 0 をつけなければなりません。

SM plus 上での入力欄は，デフォルトの進数に応じて，10 進数と 16 進数が切り替わります。

表 B - 3 数値の入力形式

数値	入力形式
2 進数	n Y n...n Y (n=0,1)
8 進数	n O n...n O (n=0,1,2,3,4,5,6,7) n Q n...n Q (n=0,1,2,3,4,5,6,7)
10 進数	n n...n n T n...n T (n=0,1,2,3,4,5,6,7,8,9)
16 進数	n n...n n H n...n H 0xn 0xn ...n (n=0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,A,B,C,D,E,F)

B.4 式と演算子に関する規定

(1) 式

式とは，定数，レジスタ名，IOR 名，シンボル，およびこれらを演算子で結合したものをいいます。

また，シンボルとして，IOR 名，ラベル名，関数名，変数名が記述された場合は，アドレスをシンボルの値として演算します。

なお，式を構成する演算子以外の要素を，項（定数，ラベル）といい，記述された左側から順に，第 1 項，第 2 項 ... と呼びます。

(2) 演算子

演算子は C 言語の演算子から次に示すものが利用できます。

表 B - 4 演算子一覧

記号	意味	説明
算術演算子		
+	加算	第 1 項と第 2 項との値の和を返します。
-	減算	第 1 項と第 2 項との値の差を返します。
*	乗算	第 1 項と第 2 項との値の積を返します。
/	除算	第 1 項の値を第 2 項の値で割り、結果の整数部を返します。
MOD %	剰余	第 1 項の値を第 2 項の値で割り、結果の余りを返します。
- 符号	単項演算 (負)	項の値の 2 の補数をとった値を返します。
+ 符号	単項演算 (正)	項の値を返します。
論理演算子		
NOT ~	否定	項のビットごとの論理否定を取り、その値を返します。
AND &	論理積	第 1 項の値と第 2 項の値とのビットごとの論理積を取り、その値を返します。
OR 	論理和	第 1 項の値と第 2 項の値とのビットごとの論理和を取り、その値を返します。
XOR ^	排他的論理和	第 1 項の値と第 2 項の値とのビットごとの排他的論理和を取り、その値を返します。
シフト演算子		
SHR >>	右シフト	第 1 項の値を第 2 項の値で示す値 (ビット数) 分だけ右シフトし、その値を返します。上位ビットには、シフトされたビット数だけ 0 が挿入されます。
SHL <<	左シフト	第 1 項の値を第 2 項の値で示す値 (ビット数) 分だけ左シフトし、その値を返します。下位ビットには、シフトされたビット数だけ 0 が挿入されます。
バイト分離演算子		
HIGH	上位バイト	項の最下位 16 ビット中、上位 8 ビットを返します。
LOW	下位バイト	項の最下位 16 ビット中、下位 8 ビットを返します。
ワード分離演算子		
HIGHW	上位ワード	項の 32 ビット中上位 16 ビットを返します。
LOWW	下位ワード	項の 32 ビット中下位 16 ビットを返します。
その他		
(左かっこ	() 内の演算を () 外の演算に先立って行います。 '(' と ')' は常に対で使用されます。
)	右かっこ	

(3) 演算の規則

演算の順序は演算子の優先順序に従います。

表 B - 5 演算子の優先順位

優先順位	演算子
1 高い	(,)
2	+ 符号, - 符号, NOT, ~, HIGHT, LOW, HIGHW, LOWW
3	* , / , MOD , % , SHR , >> , SHL , <<
4	+ , -
5	AND , &
6 低い	OR , , XOR , ^

- 同じ優先順位の場合は、左から右へ演算を行います。
- () 内の演算は、() 外の演算を先に立って行います。
- 演算における各項は、すべて符号なしの 32 ビット・データとして扱われます。
- 演算結果は、すべて符号なしの 32 ビット・データとして扱われます。
- 演算中にオーバーフローした場合、下位 32 ビットを有効とし、オーバーフローの検出は行いません。

(4) 項

項に定数を記述する場合、次の数値を記述することができます。

表 B - 6 進数の範囲

進数	範囲
2 進数	0Y 数値 11111111111111111111111111111111Y (32 桁)
8 進数	0O 数値 37777777777O
10 進数	-2147483648 数値 4294967295 (負の 10 進数は内部で 2 の補数に変換します。)
16 進数	0H 数値 0FFFFFFFH

付録 C キー機能一覧

表 C - 1 キー機能一覧

キー	機能
BackSpace	カーソルの前 1 文字を削除し、カーソルは消した文字の位置に移動します。 このとき、カーソルの後ろの文字列は前に詰められます。
Delete	<ul style="list-style-type: none"> カーソル位置の 1 文字を削除し、あとの文字列を前に詰めます。 イベント・マネージャ、各種イベント・ダイアログにて選択された各種イベント条件を削除します。 ウォッチ・ウィンドウにて、選択されたデータを削除します。
Insert	ソース・テキスト・ウィンドウ、逆アセンブル・ウィンドウにて、挿入モード/上書きモードを切り替えます。ただし、メモリ・ウィンドウとレジスタ・ウィンドウ、周辺 I/O レジスタ・ウィンドウにおいては、このキーは無効であり、入力モードは上書きモードだけとなります。
PrintScreen	画面表示全体をビット・マップ・イメージでクリップ・ボードに取り込みます (Windows の機能)。
Esc	<ul style="list-style-type: none"> プルダウン・メニューをクローズします。 モーダル・ダイアログをクローズします。 入力データの Restore を行います。
Alt	メニュー・バーにカーソルを移動します。
End	カーソルを行末へ移動します。
Home	カーソルを行頭へ移動します。
PageUp	画面を 1 画面分スクロール・アップします。 カーソルも同時に画面の一番上へ移動します。
PageDown	画面を 1 画面分スクロール・ダウンします。 カーソルも同時に画面の一番上へ移動します。
Space	空白 1 文字を挿入します
Tab	カーソルを次の項目へ移動します。
	カーソルを上へ移動します。 カーソルが画面の一番上にある場合には、画面を 1 行ずつスクロール・ダウンします。
	カーソルを下へ移動します。 カーソルが画面の一番下にある場合には、画面を 1 行ずつスクロール・アップします。
	カーソルを左へ移動します。 カーソルが画面の一番左にある場合には、画面を 1 項目分右へスクロールします。
	カーソルを右へ移動します。 カーソルが画面の一番右にある場合には、画面を 1 項目分左へスクロールします。
Enter	<ul style="list-style-type: none"> 入力データを確定します。 デフォルト・プッシュ・ボタンを押します。
F1	ヘルプ・ウィンドウをオープンします。
F2	プログラム実行を強制的に停止させます。 [実行]メニュー [ストップ]選択時と同様の動作です。
F3	CPU をリセットします。 [実行]メニュー [CPU リセット]選択時と同様の動作です。

表 C - 1 キー機能一覧

キー	機能
F4	CPU をリセットしてからプログラム実行します。 [実行]メニュー [リスタート]選択時と同様の動作です。
F5	プログラム実行します。 [実行]メニュー [継続して実行]選択時と同様の動作です。
F6	ソース・テキスト・ウィンドウ,または逆アセンブル・ウィンドウのカーソル位置までプログラムを実行します。 [実行]メニュー [カーソル位置まで実行]選択時と同様の動作です。
F7	呼び出し元に戻るまで実行します。 [実行]メニュー [リターンアウト]選択時と同様の動作です。
F8	ステップ実行します。 [実行]メニュー [ステップイン]選択時と同様の動作です。
F9	ソース・テキスト・ウィンドウ,または逆アセンブル・ウィンドウのカーソル位置にブレーク・ポイントを設定します。 [実行]メニュー [ブレークポイント]選択時と同様の動作です。
F10	Next ステップ実行します。 [実行]メニュー [ネクストオーバー]選択時と同様の動作です。
Sfift+End	選択範囲を行末まで広げます。
Sfift+Home	選択範囲を行頭まで広げます
Sfift+	選択範囲を一文字左へ広げます。
Sfift+	選択範囲を一文字右へ広げます。
Sfift+F6	ソース・テキスト・ウィンドウ,または逆アセンブル・ウィンドウのカーソル位置からプログラム実行します。 [実行]メニュー [カーソル位置から実行]選択時と同様の動作です。
Sfift+F9	CPU をリセットします。 [実行]メニュー [CPU リセット]選択時と同様の動作です。
Ctrl+End	最終行を表示します。 カーソルも同時に最終行の行末へ移動します。
Ctrl+Home	先頭行を表示します。 カーソルも同時に先頭行の行頭へ移動します。
Ctrl+	カーソルを 1 語左へ移動します。 カーソルが画面の一番左にある場合には,画面を 1 項目分右へスクロールします。
Ctrl+	カーソルを 1 語右へ移動します。 カーソルが画面の一番右にある場合には,画面を 1 項目分左へスクロールします。
Ctrl+F5	設定されているブレーク・ポイントを無視してプログラムを実行します。 [実行]メニュー [ブレークせずに実行]と同じ機能です。
Ctrl+F9	ソース・テキスト・ウィンドウ,または逆アセンブル・ウィンドウのカーソル位置のアドレスを PC に設定します。 [実行]メニュー [PC 値変更]選択時と同様の動作です。
Ctrl+A	イベント・マネージャに登録されているすべてのイベントを選択します。 [表示]メニュー [すべてのイベントを選択]選択時と同様の動作です。
Ctrl+C	選択した文字列をコピーして,クリップ・ボード・バッファに入れます。

表 C - 1 キー機能一覧

キー	機能
Ctrl+D	カレント・ウィンドウで選択しているデータ値をジャンプ先アドレスとして、そのアドレスから逆アセンブル表示します。逆アセンブル・ウィンドウをオープンします。 [ジャンプ]メニュー [アセンブル]選択時と同様の動作です。
Ctrl+E	PM plus を動作している場合、アクティブなソース・テキスト・ウィンドウで表示しているソース・ファイルを、PM plus で指定されたエディタでオープンします。 [編集]メニュー [ソースの修正]選択時と同様の動作です。
Ctrl+G	検索を行います。カレント・ウィンドウに応じて、各サーチ・ダイアログをオープンします。 [表示]メニュー [検索...]選択時と同様の動作です。
Ctrl+I	カレント・ウィンドウで選択しているデータ値をジャンプ先アドレスとして、そのアドレスからメモリ内容を表示します。カバレッジ・ウィンドウをオープンします。 [ジャンプ]メニュー [カバレッジ]選択時と同様の動作です。
Ctrl+J	表示位置を移動します。カレント・ウィンドウに応じて、各指定ダイアログをオープンします。 [表示]メニュー [移動...]選択時と同様の動作です。
Ctrl+M	カレント・ウィンドウで選択しているデータ値をジャンプ先アドレスとして、そのアドレスからメモリ内容を表示します。メモリ・ウィンドウオープンします。 [ジャンプ]メニュー [メモリ...]選択時と同様の動作です。
Ctrl+O	表示ファイルまたは、ソース・ファイルやテキスト・ファイルをロードします。表示ファイル・ロード・ダイアログをオープンします。ファイルの拡張子によって動作が異なります。 表示ファイルのとき：該当するウィンドウに表示します。 それ以外るとき：ソース・テキスト・ウィンドウに表示します。 [ファイル]メニュー [開く...]選択時と同様の動作です。
Ctrl+S	カレント・ウィンドウの表示内容を表示ファイルにセーブします。 [ファイル]メニュー [名前を付けて保存...]選択時と同様の動作です。
Ctrl+U	カレント・ウィンドウで選択しているデータ値をジャンプ先アドレスとして、該当するソース・テキスト、およびソース行を表示します。ソース・テキスト・ウィンドウをオープンします。 [ジャンプ]メニュー [ソース]選択時と同様の動作です。
Ctrl+V	クリップ・ボード・バッファの内容をテキスト・カーソル位置に貼り付けます。
Ctrl+W	指定したデータの内容を一時的に表示します。 クイック・ウォッチ・ダイアログをオープンします。 [表示]メニュー [クイックウォッチ...]選択時と同様の動作です。
Ctrl+X	選択した文字列を切り取ってクリップ・ボード・バッファに入れます。 [編集]メニュー [切り取り...]選択時と同様の動作です。
Ctrl+Shift+	選択範囲を 1 語左へ広げます。
Ctrl+Shift+	選択範囲を 1 語右へ広げます。

付録 D メッセージ

- メッセージ表示形式
- メッセージの種類
- メッセージ一覧

D.1 メッセージ表示形式

メッセージは、エラー/ワーニング・ダイアログに出力されます。

なお、エラー/ワーニング・ダイアログのオープン中に F1 キーを押すことにより、関連するオンライン・ヘルプの内容が表示されます。

図 D - 1 エラー/ワーニング・メッセージ



D.2 メッセージの種類

SM plus が出力するメッセージには次の種類があります。

表 D - 1 メッセージの種類

エラー種別	意味
ディバッガ部出力メッセージ (エラー種別 + エラー番号 4 桁)	
Axxxx	致命的なエラー (Abort Error) 処理を中断し、ディバッガを終了します。 このエラーが発生した場合には、デバッグ作業を続行することはできません。
Fxxxx	文法的なエラー (Fatal Error) 処理を中断し、このときオープンしているウィンドウ/ダイアログをクローズします。
Wxxxx	ワーニング、質問メッセージ (Warning) 処理は中断しますがこのときオープンしているウィンドウ/ダイアログはクローズしません。
シミュレータ部出力メッセージ (エラー種別 + エラー番号 5 桁)	
Exxxxx	エラー・メッセージ メッセージを出力後、処理を中断します。

表 D - 1 メッセージの種類

エラー種別	意味
Wxxxxx	ワーニング・メッセージ メッセージを出力後、処理を中断しません。

D.3 メッセージ一覧

<X0000~> <X1000~> <X2000~> <X3000~> <X4000~> <X5000~> <X6000~> <X7000~> <X8000~> <X9000~> <Xa000~> <Xb000~> <Xc000~> <Xd000~> <Xe000~> <Xf000~> <X10000~>

(1) X0000~

F0002: この機能はサポートしていません。

F0100: インサーキット・エミュレータと通信できません。インタフェース・ボード用のデバイス・ドライバが正しくインストールされているか確認してください。

- 1) ドライバが正常にインストールされていない可能性があります。ドライバの再インストールをしてください。

A0101: イニシャライズ・ファイル (EXPC.INI) が見つかりません。

A0102: ホスト名が見つかりません。

F0103: インサーキット・エミュレータへの送信ができません。インサーキット・エミュレータの電源、ケーブルの接続、I/O アドレスの設定などを確認してください。

F0104: インサーキット・エミュレータから応答がありません。インサーキット・エミュレータの電源、ケーブルの接続、I/O アドレスの設定などを確認してください。

A0105: デバイス・ファイル (dxxxx.800) を正しく読めませんでした。

- 1) 必要なファイルが壊れている可能性がありますので、デバイス・ファイルを再インストールしてください。

A0106: 受信データに異常がありました。

- 1) インサーキット・エミュレータの電源、ケーブルの接続、インタフェース・ボードの設定などを確認して、ディバग्ガを再起動してください。

A01a0: エバチップから応答がありません。RESET, WAIT, HLDRQ などの信号やクロック信号に異常がないか確認してください。(IECUBE)

CPU から応答がありません。RESET, WAIT, HLDRQ などの信号やクロック信号に異常がないか確認してください。(IE-V850E1-CD-NW)

A01a1: ie703000.ie を正しく読めませんでした。

A01a2: BK ボードが接続されていません。

A01a3: エミュレーション・ボードが接続されていません。

A01a4: インサーキット・エミュレータ内のボード構成に矛盾があります。

A01a5: POD/EM1 ボードが接続されていません。

A01a6: イグゼキュタ起動中です。

A01a8: イニシャライズ・ファイル (EXPC.INI) を正しく読めません。

A01ad: インタフェース・ボード用のデバイス・ドライバを更新して下さい。

1) デバイス・ドライバが古い可能性があります。最新のデバイス・ドライバをインストールしてください。

A01d0: シミュレータの起動に失敗しました。

A01d1: シミュレータ起動時のメモリが不足しています。

F0200: ベリファイ・エラーが起きました。メモリに書き込みができません。

1) 外部メモリが設定されていないため、外部メモリに対してアクセスができませんでした。ダウンロードする前に、[周辺 I/O レジスタ・ウィンドウ](#)、または[フック・プロシジャ](#)を使用して、外部メモリのアクセスに必要なレジスタの値を変更してください。

F02a0: バス・ホールド中です。

1) CPU がバス・ホールド状態です。ディバッガのリセットを行ってください。

F02a2: 強制ブレークはできません。

F02a3: リセットが継続中です。

F02d2: トレースフレームのメモリが不足しています。

F0300: ユーザ・プログラム実行中です。

F0301: ユーザ・プログラム停止中です。

F0302: ユーザ・プログラム・トレース中です。

F0303: トレース測定は行われていません。

F0304: トレーサは OFF になっています。

F0306: トレース・ブロックはありません。

F0307: イベント条件がありません。

F0308: タイマ測定は行われていません。

F0309: トリガ・フレームはありません。

F030a: トレーサ停止中です。

F030b: 参照・削除しようとしたスナップ・イベントが未登録です。

F030c: 参照・削除しようとしたスタブ・イベントが未登録です。

F030d: タイマ動作中です。

F030e: メモリ・コピー範囲が重なっています。

F030f: トレースはすでに ON 状態です。

F0310: イベント条件が設定されていません。

F0311: 有効タイマ・イベント条件の最大個数を越えました。

F0312: このタイマ・イベントは設定されていません。

F0313: マッピング設定に誤りがあります。

- 1) [コンフィグレーション・ダイアログ](#)でマッピング設定を確認してください。また、外部メモリに対してマッピングを行った際には、ダウンロードする前に、[周辺 I/O レジスタ・ウィンドウ](#)、または[フック・プロシジャ](#)を使用して、外部メモリのアクセスに必要なレジスタの値を変更してください。

F0314: デイレイ・トリガ条件が設定されているので、トレース・デイレイ・モード以外は使用できません。

F0315: デイレイ・トリガ条件は、トレース・デイレイ・モード以外では設定できません。

F03a0: ターゲットの電源が OFF です。

- 1) ターゲット電源を確認してください。インサーキット・エミュレータとターゲット・ボードの接続ケーブルを確認してください。または、ターゲット・ボードのコネクタに VDD 信号が来ているかを確認してください。

W0c22: NO READY 状態をキャンセルしました。

F03a1: ステップ実行中です。

F03a2: タイマ, トレーサ動作中です。

F03d0: バックトレース実行中です。

F03d1: バックトレース停止中です。

F03d2: バックトレース実行停止位置がバックトレース可能な範囲を越えました。

F03d3: 統合イベントの Phase1 以外に Register ステータス, または, Memory ステータスは設定できません。

F03d4: バックトレース情報がありません。

F03d5: 最後の命令でバックステップができません。

F0400: 指定した条件が不正です。

- 1) 使用しているインサーキット・エミュレータと[コンフィグレーション・ダイアログ](#)の設定が合っていない可能性があります。Chip 選択を確認してください。

F0401: タイマ測定結果がオーバーフローしました。

F0402: パス・カウントを設定したイベント条件の数が多すぎます。

F0403: アドレス範囲指定条件の最大個数を越えています。

F0404: 同時に使用可能なイベント条件の設定個数を越えています。

F0405: スナップ・イベント条件の最大個数を越えています。

F0406: スタブ・イベント条件の最大個数を越えています。

F0407: 初期化データ数が初期化領域を越えています。

F0408: 検索データが 16 バイトを越えています。

F0409: 検索データのサイズが検索範囲のサイズを越えています。

F040a: 統合イベント設定数の最大個数を越えました。

F04a0: ソフトウェア・ブレーク条件の最大個数を越えました。

A04a1: エミュレーション用のメモリが足りません。

F04a2: バス・サイズの区切りが最大数を越えました。

F04a3: 実行イベント条件の最大個数を越えました。

F04a4: バス・イベント条件の最大個数を越えました。

A0600: バッファ用のメモリが足りません。

- 1) システムのメモリが不足しています。実行中のアプリケーションや、開いているファイルなどを閉じてください。

F0b61: セクショントレースイベント条件の最大個数を越えました。

F0c00: モニタ・ファイルの読み込みに失敗。

- 1) 必要なファイルが壊れている可能性がありますので、デバッグを再インストールしてください。

A0c01: レジスタのアクセス中に CPU からの応答がなくなりました。

- 1) クロック信号などを確認してください。レジスタ値が正しくない可能性があります。

A0c02: メモリのアクセス中に CPU からの応答がなくなりました。

- 1) HOLD 信号, WAIT 信号, クロック信号などを確認してください。メモリの値は正しくない可能性があります。

A0c03: I/O レジスタのアクセス中に CPU からの応答がなくなりました。

- 1) HOLD 信号, WAIT 信号, クロック信号などを確認してください。I/O レジスタ値は正しくない可能性があります。

F0c20: ガード・エリア領域にアクセスしようとしてしました。

F0c21: メモリが NO READY 状態です。

F0c22: NO READY 状態をキャンセルしました。

F0c23: バスホールドが継続中です。

- 1) ターゲット・ボードの設定が正しいか否かを確認してください。または HOLD 端子をマスクしてください。

F0c24: デバッグモードに移行できません。

- 1) クロック信号を確認してください。クロック停止, 低速クロックが考えられます。

F0c25: フラッシュ・マクロ・サービス用 ROM をアクセス, またはステップ実行しました。

- 1) 継続実行, または CPU リセットを行ってください。

F0c26: FLMD 端子が書き込み禁止状態です。

- 1) FLMD の状態が書き込み許可状態になっていません。FLMD0 ,FLMD1 端子の状態を確認してください。

F0c27: セキュリティ・フラグが書き込み禁止状態です。

- 1) フラッシュ・メモリのセキュリティ・フラグで書き込み禁止, ブロック消去禁止, チップ消去禁止になっています。フラッシュ・メモリに書き込むことはできません。

F0c28: 内部 RAM が不足しているためフラッシュ・メモリの書き込みができません。

- 1) 内部 RAM サイズが 4K バイト未満のため, フラッシュ・セルフ書き込みができません。

F0c29: フラッシュ・メモリのブランクチェックに失敗しました。

F0c2a: フラッシュ・メモリの消去に失敗しました。

F0c2b: フラッシュ・メモリの書き込みに失敗しました。

F0c2c: フラッシュ・メモリの内部ベリファイに失敗しました。

F0c2d: フラッシュ・メモリの書き込みに失敗しました。

F0c2e: フラッシュ・マクロ・サービスからの応答がありません。

F0c2f: フラッシュ・マクロ・サービスからの応答が正しくありません。

F0c30: フラッシュ I/O レジスタ操作禁止の設定を解除する必要があります。

F0c31: STOP モードが継続中です。強制ブレークはできません。STOP モードを解除するか CPU リセットして下さい。

F0c40: 有効なイベント条件のステータスは変更できません。

F0c41: カバレッジ実行中です。

F0c42: デバッグモードへの移行に失敗しています。CPU リセットして下さい。

F0c43: インサーキット・エミュレータと通信できません。(IE-V850E1-CD-NW)

インサーキット・エミュレータと通信できません。インサーキット・エミュレータの電源、ケーブルの接続などを確認してください。(IECUBE)

- 1) デスクトップ・パソコン使用で、PC カードを複数枚挿入している場合の切り替え設定ミスの可能性があります。設定を確認してください。または故障の可能性があります (IE-V850E1-CD-NW 接続時)
- 2) エミュレータの電源とケーブルの接続を確認してください。デスクトップ・パソコン使用で、PC カードを複数枚挿入している場合の切り替え設定ミスの可能性があります。設定を確認してください (IECUBE 接続時)

F0c44: トレース・パケット・データの取りこぼしが発生しました。

F0c45: パワー OFF リセットエミュレーション中はプログラムの実行はできません。

F0c60: 実行前イベントはブレーク条件以外に設定できません。

F0c61: ハードウェア・ブレークで使用できないイベント番号の登録はできません。

F0c62: ハードウェア・ブレークで使用するイベント番号は使用できません。

F0c63: 統合イベント条件は設定できません。

F0c64: ROM エミュレーション RAM 領域は複数設定できません。

F0c67: フラッシュ・メモリのブロック間の書き込みはできません。

F0c70: DCU にアクセスできません。

- 1) チップの電源を確認してください。信号線 (DCK,DMS,DDI,DDO,DRSTZ) の接続を確認してください。N-Wire Checker の DCK wave form test でノイズ・レベルを確認してください (IE-V850E1-CD-NW 接続時)
- 2) IE が故障している可能性があります (IECUBE 接続時)

F0c71: リセットができません。

- 1) クロック信号を確認してください。クロック停止，低速クロックが考えられます。

F0c72: モニタメモリにアクセスできません。

- 1) **コンフィグレーション・ダイアログ**のメイン・クロックの設定，および N-Wire Checker の DCK wave form test でノイズ・レベルを確認してください。また，チップ内部に問題がある可能性もあります (IE-V850E1-CD-NW，IECUBE 接続時)。

F0c73: モニタ実行できません。

- 1) N-Wire Checker の DCK wave form test でノイズ・レベルを確認してください。または，チップ内部に問題がある可能性もあります (IE-V850E1-CD-NW 接続時)。
- 2) IE が故障している可能性があります (IECUBE 接続時)。

F0c74: CPU レジスタにアクセスできません。

- 1) N-Wire Checker の DCK wave form test でノイズ・レベルを確認してください。または，チップ内部に問題がある可能性もあります (IE-V850E1-CD-NW 接続時)。
- 2) IE が故障している可能性があります (IECUBE 接続時)。

F0c75: デバッグモードへの移行に失敗しています。CPU リセットして下さい。

F0c76 : DCU アクセス開始時の初期状態異常です。

- 1) DCU アクセス開始時の初期状態異常です (リセット状態で立ち上がらない)。
信号線 (DCK,DMS,DDI,DDO,DRSTZ)の接続を確認してください。N-Wire CheckerのDCK wave form test でノイズ・レベルを確認してください (IE-V850E1-CD-NW 接続時)。
- 2) IE が故障している可能性があります (IECUBE 接続時)。

F0c77 : DCU アクセス異常です。

- 1) DCU アクセス異常です (ベリファイ・エラー)。
信号線 (DCK,DMS,DDI,DDO,DRSTZ)の接続を確認してください。N-Wire CheckerのDCK wave form test でノイズ・レベルを確認してください (IE-V850E1-CD-NW 接続時)。
- 2) IE が故障している可能性があります (IECUBE 接続時)。

F0c78: トレース・データの読み込みに失敗しました。

F0ca0: インサーキット・エミュレータと通信ができません。インサーキット・エミュレータの電源，ケーブルの接続，I/O アドレスの設定などを確認してください。

- 1) インサーキット・エミュレータと通信できません。インサーキット・エミュレータの電源，ケーブルの接続，インタフェース・ボードの設定などを確認してください。

F0ca1: モニタ・ファイルが見つかりません。

- 1) 必要なファイルが壊れている可能性がありますので、デバッグを再インストールしてください。

F0ca2: オンチップ・デバッグに対応していないデバイス・ファイルです。

- 1) オンチップ・デバッグ非対応のデバイス・ファイルで起動しようとした。デバイス・ファイルが古い可能性があります。最新のデバイス・ファイルをインストールしてください (IE-V850E1-CD-NW 接続時)。
- 2) IE が故障している可能性があります (IECUBE 接続時)。

F0ca3: デバイス・ファイルのオンチップ・デバッグ情報に未サポートの情報が含まれています。

- 1) デバイス・ファイルのオンチップ・デバッグ情報に不明フラグがあります。EXEC モジュールが古い可能性があります。最新の EXEC モジュールをインストールしてください。

F0ca4: IECUBE に対応していないデバイス・ファイルです。

- 1) IECUBE 非対応のデバイス・ファイルで起動しようとした。デバイス・ファイルが古い可能性があります。最新のデバイス・ファイルをインストールしてください (IECUBE 接続時)。

F0caf: トレース・ブロックを越えた移動はできません。

(2) X1000~

A1000: インサーキット・エミュレータの初期化に失敗しました。

A1001: 指定番号のエントリが存在しません。

A1002: 内部 RAM がリロケートできません。

F1003: リロケーションアドレスが不正です。

F1004: 指定条件が不正です。

A1005: 属性が無効です。

F1006: アドレスが不正です。

A1007: インサーキット・エミュレータの代替メモリが不足しています。

A1008: テーブル用のメモリが不足しています。

- 1) システムのメモリが不足しています。実行中のアプリケーションや、開いているファイルなどを閉じてください。

A1009: すでに初期化済みです。

A100a: まだ初期化されていません。

F100b: ユーザ・プログラム実行中です。

F100c: バス・サイズの異なる領域に重複設定しようとした。

F100d: バス・サイズの定義可能な最大値を越えています。

F100e: バス・サイズの区切りが最大値を越えました。

F100f: ターゲットの電源が OFF です。

F1010: マップの範囲指定に誤りがあります。

F1011: 内蔵 ROM , RAM の設定に失敗しました。

F1012: この機能はサポートしていません。

F1013: 端子名が存在しません。

W1014: 値が登録されていません。

A1015: プログラマブル IOR がありません。

F1016: プログラマブル IOR は移動できません。

- 1) 必要なファイルが壊れている可能性がありますので、最新のデバイス・ファイルを再インストールしてください。

F1017: I/O Protect マッピングができるのは、ターゲット属性のみです。

F1018: Internal ROM サイズが不正です。

F1019: Internal ROM サイズ、または Internal RAM サイズが不正です。

A10ff: 通信エラーです。インサーキット・エミュレータとの通信ができません。

A1dbe: デイバグ内部でエラーが発生しました。

(3) X2000~

F2000: I/O レジスタ名が不正です。

A2001: アドレスが不正です。

F2002: ユーザ・プログラム実行中です。

F2003: I/O レジスタ数に誤りがあります。

F2004: ビット位置が不正です。

W2005: Read Protect 属性の I/O レジスタが指定されました。

F2006: 非公開の I/O レジスタが指定されました。

F2007: 書き込み / 読み出し禁止の I/O レジスタが指定されました。

F2008: 指定された I/O レジスタは存在しません。

A2009: デバイス・ファイルが破損しているか、ファイルに誤りがあります。

F200a: I/O レジスタに対する設定値に誤りがあります。

A200b: コピーに失敗しました。

A200c: メモリが足りません。

- 1) システムのメモリが不足しています。実行中のアプリケーションや、開いているファイルなどを閉じてください。

W200d: この I/O レジスタには初期値の設定がありません。

A20ff: 通信エラーです。インサーキット・エミュレータとの通信ができません。

A2222: 指定条件が不正です。

(4) X3000~

F3000: マッピングされていないアドレスにアクセスしようとしてしました。

- 1) プログラムの配置アドレスと、ディバッガのアドレスの設定が合っていないと考えられます。コンパイル時のリンク・ディレクティブ・ファイルで指定したプログラムの配置アドレスに合わせて、[コンフィグレーション・ダイアログ](#)で、外部メモリのマッピング設定をしてください。また、外部メモリに対してマッピングを行った際には、ダウンロードする前に、[周辺 I/O レジスタ・ウィンドウ](#)、または[フック・プロシジャ](#)を使用して、外部メモリのアクセスに必要なレジスタの値を変更してください。

F3001: メモリ内容が一致しませんでした。

F3002: 開始アドレスが不正です。

F3003: 終了アドレスが不正です。

F3004: 開始、終了アドレスともに不正です。

F3005: 指定条件が不正です。

F3006: ユーザ・プログラム実行中です。

F3007: ベリファイ・エラーです。

F3008: 指定条件がありません。

F3009: パラメータ・サイズがアクセス・サイズ・アライメントになっていません。

F300a: 指定アドレスがアクセス・サイズ・アライメントになっていません。

F300b: 指定アドレス (Source) がアクセス・サイズ・アライメントになっていません。

F300c: 指定アドレス (Destination) がアクセス・サイズ・アライメントになっていません。

F300d: 終了アドレスが不正です。

F300e: 指定範囲内でアクセス・サイズが異なります。

F300f: 指定範囲内 (Source) でアクセス・サイズが異なります。

F3010: 指定範囲内 (Destination) でアクセス・サイズが異なります。

F3011: 指定範囲 (Source) と指定範囲 (Destination) でアクセス・サイズが異なります。

A3012: メモリが足りません。

- 1) システムのメモリが不足しています。実行中のアプリケーションや、開いているファイルなどを閉じてください。

F3013: DMM の書き込みに失敗しました。

F3014: マッピング領域を越えました。

F3015: 処理が中断されました。

F3016: この機能はサポートしていません。

A30ff: 通信エラーです。インサーキット・エミュレータとの通信ができません。

(5) X4000~

F4000: 指定されたイベントは削除できません。

- 1) 指定されたイベントは他の条件で使用されているため、削除できません。他での使用を無効にしてから削除してください。

F4001: 指定したテーブル番号が不正です。

F4002: 開始アドレスが不正です。

F4003: 終了アドレスが不正です。

F4004: ステータスが不正です。

F4005: データが不正です。

F4006: すでに使用済みのイベント番号を指定しようとしてしました。

F4007: 同じ種類のイベント最大登録個数を越えています。

F4008: 指定したイベントは登録されていません。

F4009: データ・サイズが不正です。

F400a: モードが不正です。

F400b: 設定値が不正です。

F400c: セクション・トレース条件に統合イベント条件は使用できません。

F400d: 同一イベントを 32,767 個以上登録しようとしてしました。

F400e: イベント条件の指定がありません。

F400f: 統合イベント条件が不正です。

F4010: 指定した関数が見つかりません。

A4011: メモリが足りません。

- 1) システムのメモリが不足しています。実行中のアプリケーションや、開いているファイルなどを閉じてください。

F4012: タイマが無効になっています。

W4013: アクセス・サイズとマッピングしているバス・サイズが異なります。

F4014: ソフトウェア・ブレークが使用できません。

F4015: アドレス範囲指定しているイベント条件は使用できません。

F4016: イベント条件の変更ができません。

F4017: 奇数番地のワード・アクセスはできません。

A4018: メモリが足りません。

- 1) システムのメモリが不足しています。実行中のアプリケーションや、開いているファイルなどを閉じてください。

F4019: この機能はサポートしていません。

F401a: イベントがありません。

F401b: タグイベントは使用できません。

W401c: その領域にソフトウェア・ブレークは設定できません。

F401d: タイマの開始イベントと終了イベントを同じ設定にはできません。

F401e: トレース条件の最大個数を越えました。

F401f: パス・カウントは設定できません。

F4020: 実行前イベントではアドレス範囲を設定できません。

F4021: イベント条件の最大個数を越えました。

F4022: ソフトウェア・DMM 条件の最大個数を越えました。

F4023: リアルタイム・コール条件の最大個数を越えました。

F4024: ソフトウェア・ブレーク条件の最大個数を越えました。

F4025: スナップの条件が不完全です。

F4026: 統合イベント条件の Phase1 と Phase2 にはイベント条件を複数設定できません。

F4027: 内蔵 ROM 領域に設定できるソフトウェア・ブレーク条件の最大個数を越えました。

F4318: メモリバンクの設定が不正です。

(6) X5000~

A5000: デバイス・ファイルが不正です。

A5001: メモリが足りません。

- 1) システムのメモリが不足しています。実行中のアプリケーションや、開いているファイルなどを閉じてください。

A5002: デバイス・ファイルのオープンに失敗しました。

A5003: デバイス・ファイルの読み込みに失敗しました。

A5004: デバイス・ファイルのクローズに失敗しました。

A5005: デバイス・ファイルの形式が違います。

- 1) 必要なファイルが壊れている可能性がありますので、デバイス・ファイルを再インストールしてください。

A5006: インサーキット・エミュレータの初期化に失敗しました。

A5007: デバイス・ファイルが壊れているか、ファイルに誤りがあります。

F5008: 指定したデバイス・ファイルをオープンできません。

- 1) 必要なファイルが壊れている可能性がありますので、デバイス・ファイルを再インストールしてください。

F5009: ie703000.ie をオープンできません。

F500a: デバイス・ファイルのバージョンが不正です。

- 1) 必要なファイルが壊れている可能性がありますので、デバイス・ファイルを再インストールしてください。

W500b: このデバイス・ファイルは IRAM をリロケートしません。

A500c: イニシャライズ・ファイル (EXPC.INI) を正しく読めません。

A500d: メモリが足りません。

- 1) システムのメモリが不足しています。実行中のアプリケーションや、開いているファイルなどを閉じてください。

W500e: デバイス・ファイルに参照しようとしたタグ情報はありません。

A5300: デバイス・ファイルが不正です。

A5301: メモリが足りません。

- 1) システムのメモリが不足しています。実行中のアプリケーションや、開いているファイルなどを閉じてください。

A5302: データベース・ファイルのオープンに失敗しました。

- 1) 必要なファイルが壊れている可能性がありますので、ディバッガを再インストールしてください。デバイス・ファイルも再インストールしてください。

A5303: データベース・ファイルの読み込みに失敗しました。

A5304: データベース・ファイルのクローズに失敗しました。

A5305: データベース・ファイルの形式が違います。

- 1) 必要なファイルが壊れている可能性がありますので、ディバग्ガを再インストールしてください。データベース・ファイルも再インストールしてください。

A5306: データベース情報は初期化済です。

A5307: データベース情報がありません。

F5308: 指定したデータベース・ファイルをオープンできません。

- 1) 必要なファイルが壊れている可能性がありますので、ディバग्ガを再インストールしてください。

F5309: データベース・ファイルのバージョンが不正です。

- 1) 必要なファイルが壊れている可能性がありますので、ディバग्ガを再インストールしてください。データベース・ファイルも再インストールしてください。

(7) X6000~

F6000: カレント関数が存在しません。

F6001: シンボル名が不正です。

F6002: 指定条件が不正です。

F6003: 関数名が不正です。

F6004: 出力バッファのサイズを越えています。

F6005: 式が不正です。

(8) X7000~

F7000: モード指定に誤りがあります。

F7001: ユーザ・プログラム実行中です。

F7002: ユーザプログラム停止中です。

F7003: トレース実行中です。

F7004: トレース・メモリが OFF になっています。

F7005: 関数リターン・アドレスがありません。ステップ実行が行えません。

W7010: ソース情報がありません。

W7011: ステップ実行結果不明。

A7012: メモリが足りません。

- 1) システムのメモリが不足しています。実行中のアプリケーションや、開いているファイルなどを閉じてください。

A70fe: バス・ホールド中です。

- 1) CPU がバス・ホールド状態です。ディバッガのリセットを行ってください。

A70ff: 通信エラーです。インサーキット・エミュレータとの通信ができません。

F7801: ステップ実行の終了待ち状態をキャンセルしました。

F7802: ステップ実行が中断しました。

F7f00: ステップ実行を強制終了しました。

F7f02: ステップ実行を中断しました。

A7f03: 実行 / ステップ実行のキャンセルに失敗しました。

F7f04: マッピングされていない領域を実行しようとしてしました。

F7f05: この機能はサポートしていません。

(9) X8000~

F8000: 指定したファイルは見つかりませんでした。

F8001: 行番号が不正です。

F8002: カレント情報がセットされていません。

F8003: アドレスが不正です。

F8004: この機能はサポートしていません。

(10) X9000~

A9000: 指定したレジスタ・シンボルは存在しません。

A9001: 指定したレジスタ・シンボル ID は存在しません。

F9002: 設定値が不正です。

A9003: 指定条件が不正です。

A9004: レジスタのサイズが大きすぎます。

F9005: この機能はサポートしていません。

(11) Xa000~

Fa001: 式が不正です。

Fa002: 開始 / 終了アドレスの指定が逆です。

Fa003: 指定したソース・バス情報が不正です。

Fa004: 式が長すぎます。

Aa005: メモリが足りません。

- 1) システムのメモリが不足しています。実行中のアプリケーションや、開いているファイルなどを閉じてください。

Fa006: 引数が不正です。

Fa007: プログラム番号が不正です。

Fa008: ソース・バスがセットされていません。

Fa009: ファイルは見つかりませんでした。

Fa00a: ファイルのオープンに失敗しました。

- 1) ファイルが壊れているか、またはファイルが存在しません。ファイルを作成し直してください。

Aa00b: ファイルのクローズに失敗しました。

Aa00c: ファイルの読み込みに失敗しました。

1) ファイルが壊れているか、またはファイルが存在しません。ファイルを作成し直してください。

Fa00d: ロード・モジュールのソース・ファイルではありません。

Fa00e: 行番号が不正です。

Fa00f: 変数が存在しません。

Aa010: 通信エラーです。インサーキット・エミュレータとの通信できません。

Fa011: レジスタにアクセスできません。

Fa012: メモリ(変数)にアクセスできません。

Aa013: ファイルの読み込みに失敗しました。

Fa014: バイナリ・ファイルを開こうとしました。

Fa015: テンポラリ・バスの取得に失敗しました。

1) ディスクがいっぱいです。不要なファイルを削除または移動して、ディスクの空き容量を増やしてください。

Fa016: テンポラリ・ファイルの作成に失敗しました。

1) ディスクがいっぱいです。不要なファイルを削除または移動して、ディスクの空き容量を増やしてください。

Fa017: テンポラリ・ファイルの削除に失敗しました。

Fa020: この機能はサポートしていません。

Fa021: レジスタに割り当てられたシンボルは指定できません。

(12) Xb000~

Fb000: コマンド行が不正です。

Fb001: ロード・モジュール・ファイルにプログラム情報がありません。

Fb002: ファイルは見つかりませんでした。

Fb003: 関数が見つかりません。

Fb004: 選択した品種 (チップ) と異なるロード・モジュールをロードしました。

Fb005: シンボルが見つかりません。

1) アドレスを求めることができませんでした。アドレス情報のある場所を指定してください。

Fb008: 式が不正です。

Ab009: メモリが足りません。

1) システムのメモリが不足しています。実行中のアプリケーションや、開いているファイルなどを閉じてください。

Fb00a: ロード・モジュール・ファイル内に不正なシンボルがあります。

Fb00b: カレント・プログラムが存在しません。

Fb00c: カレント・ファイルが存在しません。

Ab00d: カレント関数が存在しません。

Ab00e: カレント行が存在しません。

Ab00f: タグが見つかりません。

Ab010: シンボル・テーブルのロードに失敗しました。

Ab011: 行番号が不正です。

Fb012: 行番号が大きすぎます。

Ab015: ファイルの読み込みに失敗しました。

1) ファイルが壊れているか、またはファイルが存在しません。ファイルを作成し直してください。

Ab016: ファイルのオープンに失敗しました。

1) ファイルが壊れているか、またはファイルが存在しません。ファイルを作成し直してください。

Ab017: ファイルの書き込みに失敗しました。

1) ファイルが壊れているか、またはファイルが存在しません。ファイルを作成し直してください。

Ab019: ファイルの読み込みに失敗しました。

Ab01a: ファイルのクローズに失敗しました。

Fb01b: ロード・モジュールのファイル名が長すぎます。

Ab01c: タスク種別のエントリ数が多すぎます。

Fb01d: アドレスが存在しません。

Wb01e: デバッグ情報がありません (Debug Build モードでコンパイルされていません)。

Wb036: 現在の PC では指定された変数は参照できません。

Wb042: SYM モジュールは初期化されていません。

Wb335: シンボル情報が長すぎます。

Fb01f: 構造体のメンバが見つかりません。

Fb020: 値が見つかりません。

Fb021: ロード・モジュール・ファイルにデバッグ情報がありません。

- 1) シンボル情報が付加されたロード・モジュールを作成するには、Debug Build のビルド・モードでビルドを行ってください。

Fb022: 行番号が不正です。

Ab023: カレント・スタック・フレームがアクティブではありません。

Ab024: セクションが違います。

Fb026: 表示する配列が 4 次元を越えています。

Fb027: ファイルが途中までしかありません。

- 1) 指定したファイルが壊れている可能性があります。ファイルを作成し直してください。

Fb028: この機能はサポートしていません。

Fb029: アドレスが不正です。

Ab02a: 通信エラーです。インサーキット・エミュレータとの通信ができません。

Fb02b: 現在の PC 値では、スタック・トレースはできません。

Fb02c: 1 関数内の最大ブロック数を越えています。

Fb02d: 関数に渡した引数が不正です。

Fb02e: 指定したファイルがソース・パスから見つかりませんでした。

- 1) プログラムを停止した際、デバッガがソースを表示しようとしたときにソースが見つかりませんでした。 [デバッガ・オプション設定ダイアログ](#)でソースに対してパスが通っているか確認、もしくは、ソースが .out ファイルと同じディレクトリにあるか確認してください。また、エラー・メッセージが表示される場所で [逆アセンブル・ウィンドウ](#)を参照し、対応するソースにパスが通っているか否か確認してください。

Fb02f: 最適化により情報が削除されました。

Ab030: モニタがタイム・アウトしました。

- 1) インサーキット・エミュレータの電源、ケーブルの接続、インタフェース・ボードの設定などを確認して、デバッガを再起動してください。

Ab031: すでにメモリ上に設定されています。

Ab032: スコープ外です。

Ab033: LP をストアしていません。

Fb034: 現在の PC 値からのリターン実行はできません。

Fb037: 行情報が多すぎます。

Fb038: 未対応のコンパイラバージョンのため、デバッグ情報のロードができません。

- 1) 最新のコンパイラでロード・モジュールを作成し直してください。

Ab039: デバッグ情報のロードに失敗しました。

Ab03a: セクション情報がありません。

Fb040: ロード・モジュール形式ではありません。

- 1) リンカの実出力ファイルではありません。リンカの実出力前のロード・モジュールではソース・デバッグはできません。リンカの実出力後のロード・モジュールを指定してください。

Ab041: ロード・モジュールに含まれるファイル数がデバッガで扱える上限値を越えました。

Fb32e: 不正なポート番号です。

Fb32f: 不正なポート名です。

Fb330: 指定されたポートのビット位置が不正です。

Fb331: 指定されたインクリメント数が不正です。

Fb332: メモリバンク用ポートが未設定です。

Fb333: 不正なバンク番号が指定されました。

Fb334: メモリバンク用エリアが未設定です。

(13) Xc000~

Fc001: ファイルのオープンに失敗しました。

- 1) ファイルが壊れているか、またはファイルが存在しません。ファイルを作成し直してください。

Ac002: ファイルのクローズに失敗しました。

Ac003: ファイルの読み込みに失敗しました。

- 1) ファイルが壊れているか、またはファイルが存在しません。ファイルを作成し直してください。

Ac004: ファイルの読み込みに失敗しました。

Fc005: 不正な形式のファイルを指定しました。

Fc006: 選択した品種（チップ）と異なるロード・モジュールをロードしました。

Fc007: ロード・モジュールの形式ではありません。

- 1) リンカの実出力ファイルではありません。リンカの実出力前のロード・モジュールではソース・デバッグはできません。リンカの実出力後のロード・モジュールを指定してください。

Fc008: 古いバージョンのロード・モジュール・ファイル（ELF）です。

Ac009: メモリが足りません。

- 1) システムのメモリが不足しています。実行中のアプリケーションや、開いているファイルなどを閉じてください。

Fc00a: マッピングされていないアドレスにアクセスしようとしてしました。

Fc00b: ロード・モジュールがロードされていません。

Fc00c: 引数が不正です。

Fc00d: ユーザ・プログラムを実行中です。

Fc00e: ユーザ・プログラムのトレース中です。

Fc00f: 処理中です。

Ac010: 通信エラーです。インサーキット・エミュレータとの通信ができません。

Fc011: ロード・モジュール・ファイルの形式が違います。

Fc012: チェックサム・エラーが発生しました。

Fc013: アップロードするアドレス範囲が 1M バイトを越えています。

Fc014: ファイルの書き込みに失敗しました。

- 1) ファイルが壊れているか、またはファイルが存在しません。ファイルを作成し直してください。

Fc015: プログラム番号が不正です。

Fc016: ロード情報がいっぱいです。

Wc017: シンボル情報が重複しています。シンボルのリセットをしてください。

Fc018: ロード・モジュール形式ではありません。

- 1) リンカの出力ファイルではありません。リンカの出力前のロード・モジュールではソース・ディバグはできません。リンカの出力後のロード・モジュールを指定してください。

Fc019: メモリへの書き込みに失敗しました。

Wc01a: BSS 領域がマッピングされていない領域に割り当てられています。

- 1) プログラムを実行すると、ノンマップ・ブレイクが発生する可能性があります。CA のリンク・ディレクトティブで内部 RAM に BSS 領域を割り当てるか、デバッグの [コンフィグレーション・ダイアログ](#) で BSS 領域にエミュレーション・メモリ、あるいはターゲット・メモリをマッピングしてください。

Fc01b: プログラマブル IOR のアドレスがありません。

- 1) 必要なファイルが壊れている可能性がありますので、デバッグを再インストールしてください。

Wc01c: プログラマブル IOR のアドレスが設定と異なります。

- 1) 必要なファイルが壊れている可能性がありますので、デバッグを再インストールしてください。

Wc01d: 選択した品種 (チップ) と異なるロード・モジュールをロードしました。

Fc101e: フラッシュの消去は IECUBE ではサポートしていません。 .

Fc100: この機能はサポートしていません。

(14) Xd000~

Ad000: デバッグ内部でエラーが発生しました。

Ad001: メモリが足りません。

- 1) システムのメモリが不足しています。実行中のアプリケーションや、開いているファイルなどを閉じてください。

Ad002: イニシャライズ・ファイル (EXPC.INI) を正しく読めません。

Ad003: インサーキット・エミュレータにまだ接続されていません。

Fd004: ダイナミックリンクライブラリが見つかりません。

(15) Xe000~

Fe000: 引数が不正です。

Fe001: 開始アドレスが不正です。

Fe002: 終了アドレスが不正です。

Fe003: サイズが大き過ぎます。

Fe004: ファイルのオープンに失敗しました。

1) ファイルが壊れているか、またはファイルが存在しません。ファイルを作成し直してください。

Fe005: ファイルの読み込みに失敗しました。

1) ファイルが壊れているか、またはファイルが存在しません。ファイルを作成し直してください。

Fe006: ファイルの読み込みに失敗しました。

Fe007: ファイルの書き込みに失敗しました。

1) ファイルが壊れているか、またはファイルが存在しません。ファイルを作成し直してください。

Ae008: メモリが足りません。

1) システムのメモリが不足しています。実行中のアプリケーションや、開いているファイルなどを閉じてください。

Fe009: ファイルの形式が違います。

Fe00a: ベリファイ・エラーです。

Fe010: この機能はサポートしていません。

(16) Xf000~

Af000: メモリが足りません。

1) システムのメモリが不足しています。実行中のアプリケーションや、開いているファイルなどを閉じてください。

Ff000: メモリが足りません。

Ff001: [XXX] は見つかりませんでした。

Wf002: [XXX] は見つかりませんでした。最初から探しますか？

Wf003: 既にサーチ範囲を越えています。

Ff004: 不正なパラメータです。

Ff005: 不正な関数名です。

Ff006: 不正な数値です。

Ff007: 開始 / 終了アドレスの指定が逆です。

Ff008: 不正なシンボルまたはアドレス式です。

Ff009: [XXX] このファイルは不正な形式です。

Ff100: ディスクに書き込みができないか一杯です。

Ff101: ファイルは見つかりませんでした。

Ff102: ファイルは生成できませんでした。

Ff103: 旧版のプロジェクト・ファイルです。

Ff104: 不正なプロジェクト・ファイル形式です。

Ff105: このプロジェクト・ファイルは [XXX] 用のファイルです。正しいファイルを指定してください。

Wf106: プロジェクトの CPU が変更されています。設定を有効にするにはデバッグを一旦終了しなければなりません。終了しますか？

Wf107: プロジェクトの CPU が変更されています。変更後の CPU で起動しますか？

Wf108: 選択した品種 [XXX] と異なるプロジェクト・ファイル [YYY] を開きました。品種を変更することはできませんが開きますか？

Wf109: このバージョンのデバッグでは、プロジェクト・マネージャを使用できません。PM plus をお使いください。

Wf200: 違いはありませんでした。

Ff201: 不正なメモリ・アドレス範囲です。

Ff202: ベリファイ・エラーです。

- 1) 外部メモリが設定されていないため、外部メモリに対してアクセスができませんでした。ダウンロードする前に、[周辺 I/O レジスタ・ウィンドウ](#)、または[フック・プロシジャ](#)を使用して、外部メモリのアクセスに必要なレジスタの値を変更してください。

Wf203: プログラム実行中の場合、メモリを書き換える間プログラム実行が一瞬止まります。よろしいですか？

Wf300: [XXX] の変更内容を保存しますか？

- Ff301: イベント条件で使用されているシンボルは評価できませんでした。
- Wf302: [XXX] を削除しますか？
- Wf303: [XXX] は編集集中ですが、[YYY] を削除しますか？
- Wf304: [XXX] は編集集中ですが、[YYY] を保存しますか？
- Wf305: [XXX] は既に存在しますが、置き換えますか？
- Ff306: 名前が長すぎます。
- Ff307: 他の条件に同じ名前が使われています。
- Ff308: アドレスは省略できません。
- Ff309: 不正なアドレス・マスクです。
- Ff30a: 不正なデータ・マスクです。
- Ff30b: 不正な外部プローブ・マスクです。
- Ff30c: 不正な外部プローブ・データです。
- Ff30d: 不正なパス・カウントです。
- Ff30e: 不正なレジスタ名です。
- Ff310: 不正なディレイ・カウントです。
- Wf311: [XXX] イベント条件は 1 つしか有効にできませんが、[YYY] を有効にしますか？
- Ff312: [XXX] は既に存在します。
- Ff313: イベント番号は既に存在します。
- Ff314: イベント名が設定されていません。
- Ff315: [XXX] は既に存在します。

- Ff316: 有効な [XXX] イベント条件の最大数を越えました。他の [YYY] イベント条件を無効にしてください。
- Ff317: イベント条件の最大設定数を越えました。
- Ff31e: 不正な開始アドレスです。
- Ff31f: 不正な終了アドレスです。
- Wf325: プログラムが実行中です。プログラムを一瞬止めて設定しますか？
- Wf326: プログラムが実行中です。プログラムを一瞬止めて解除しますか？
- Ff350: 途中のフェーズにイベント条件が設定されていません。
- Ff351: リンク条件とディスエーブル条件で同じイベント条件が使われています。
- Ff352: イベント条件が設定されていません。
- Ff400: 不正なカバレッジ・アドレス範囲です。
- Wf401: カバレッジをクリアしますか？
- Ff500: 不正なシンボルです。
- Ff501: 不正な値です。
- Ff502: 不正なパラメータです。
- Ff503: 表示できる変数の最大個数を越えました。
- Ff504: この変数にブレークは設定できません。
- 1) 以下の変数にブレークは設定できません。
- ・ローカル変数, スタティック変数
 - ・配列変数, 構造体 / 共用体のメンバー変数
 - ・レジスタ / 周辺 IOR
 - ・変数式
- Wf600: プロジェクト・ファイルを保存しますか？
- Wf601: ターゲットを接続している場合は, ターゲットの電源を ON にしてください。

1) ターゲットを接続していない場合は、そのままボタンをクリックして先に進んでください。

Wf602: MODE 端子をマスクするか、ターゲットを接続するようにしてください。

Ff603: ID コードが間違っています。

1) 以下のことが考えられます。

- ・ ID コードが間違っている場合

正しい ID コードを入力してください。

- ・ FLMD0 端子が High になっているため、内蔵フラッシュ・メモリが書き込みモードになっている場合
FLMD0 端子を Low にしてください。

- ・ ID コード (0x79 番地の bit7) が 0 になっているため、エミュレータ接続禁止モードになっている場合
内蔵フラッシュ・メモリを一旦 Erase(消去) してください。

Af604: ID コードが間違っています。デバッグを終了します。

1) 以下のことが考えられます。

- ・ ID コードが間違っている場合

正しい ID コードを入力してください。

- ・ FLMD0 端子が High になっているため、内蔵フラッシュ・メモリが書き込みモードになっている場合
FLMD0 端子を Low にしてください。

- ・ ID コード (0x79 番地の bit7) が 0 になっているため、エミュレータ接続禁止モードになっている場合
内蔵フラッシュ・メモリを一旦 Erase(消去) してください。

Ff606: プローブの接続を確認し、ターゲットの電源を入れてください。

Wf607: 変換アダプタの接続を確認してください。

1) 変換アダプタ (EA) の接続を確認してください。

ターゲットの接続をしない場合には、変換アダプタの装着を推奨しています。

Ff608: ターゲットを外してください。

1) IE の内部電源からターゲットに電源が流れ込む可能性があります。ターゲット・コネクタ (TC) と変換アダプタ (EA) の間を外してください。ターゲットの接続をしない場合には、[コンフィグレーション・ダイアログ](#)での設定を見直してください。

Ff609: ターゲットの電源を切り、ターゲットを外してください。

Wf700: ロード・モジュール・ファイルをダウンロードしますか？

Wf701: シンボル情報だけロードしますか？

- Ff802: 外部ブロープが変更されたので、全てのイベント条件は削除されます。
- Ff803: このイベント条件のアドレスは不正です。
- Ff804: 不正な PC 値です。
- Ff805: このアドレスにテンポラリブレイクを設定できません。
- Ff806: 外部データはデバッガに使われています。
- Ff900: 不正な I/O ポート名です。
- Ff901: メモリ・マッピング違反です。
1) アドレスの指定が不正です。指定できるアドレスは、[I/O ポート追加ダイアログ](#)で確認してください。
- Ff902: 不正なアクセス・サイズです。
- Ff903: 不正なアクセス属性です。
- Ff904: 同じ名前は登録できません。
- Wf905: [XXX] は既に存在しますが、置き換えますか？
- Wf906: [XXX] への変更内容を登録しますか？
- Ffa00: PC 位置のプログラムの [XXX] 関数が見つかりませんでした。
1) [デバッグ・オプション設定ダイアログ](#)で main() label: に指定したシンボルが見つかりません。プログラムのメイン・ルーチンのシンボルを設定してください。デフォルトは `_main` になっています。
- Ffa01: PC 位置の行番号が見つかりませんでした。
1) プログラム停止時のプログラム・カウンタ (PC) 値に対応するソース・ファイルが見つかりません。原因としては、以下のようなことが考えられます。
- ソース・ファイルがソース・パスの通っていない場所に存在する。
- ライブラリ、RX など、ソース・ファイルが存在していないところでプログラムを停止した。
- プログラムが暴走し、プログラムで使用していないアドレスへ実行が移り、そこで停止した。
- Wfb00: プログラムが実行中です。プログラム実行を止めますか？
- Ffc00: Help ウィンドウが起動できません。ユーザーズ・マニュアルを参照して HTML Help 環境をインストールしてください。

(17) X10000~

E10000: メモリを確保できません。

- 1) 処理に必要なメモリを確保できません。

他のアプリケーションを終了するか、Windows の仮想メモリを増やしてメモリを確保してください。

E10001: ファイルをオープンできません。

- 1) 指定したファイルをオープンすることができません。

ファイルの存在、およびファイルの属性を確認してください。

E10002: ファイルのフォーマットが不正です。

- 1) 指定したファイルのフォーマットが正しくありません。

指定ファイル属性（ファイルを開くダイアログ）が正しいか、またはファイルの内容を確認してください。

E10003: ファイルに書き込みできません。

- 1) 指定したファイルに書き込むことができません。

ファイルの存在、ファイルの属性、およびディスク容量を確認してください。

E10180: ユーザ・モデル・ファイルが指定されていません。

- 1) コンフィギュレーション・ファイルのユーザ・モデル組み込みにおいて、ユーザ・モデル・ファイルが指定されてません。

-f オプションでユーザ・モデル・ファイルを指定してください。

E10181: ユーザ・モデル・ファイルをオープンできません。

- 1) 指定したユーザ・モデル・ファイルをオープンすることができないか、MakeUserModel 関数が存在しません。

ファイルの存在、およびファイルの属性と MakeUserModel 関数の存在を確認してください。

E10200: 端子名が正しくありません。

- 1) 指定した端子名は正しくありません（対象デバイスに存在しません）。

対象デバイスに存在する端子名を指定してください。

E10440: プログラム実行中です。

- 1) **タイミング・チャート・ウィンドウ**において、プログラム実行中のため処理を行うことができません。
プログラム実行を停止し操作してください。

E10500: ループの対応が正しくありません。

- 1) **信号データ・エディタ・ウィンドウ**において、ループ開始とループ終了の対応が正しくありません。

ループ開始とループ終了の対応が正しくなるように修正してください。

E10501: データ番号が最大値を越えました。

- 1) **信号データ・エディタ・ウィンドウ**において、データ番号(行番号)が最大値(1,048,576)を越えました。最大値を越えないように修正してください。

E10502: 端子名が正しくありません。

- 1) **信号データ・エディタ・ウィンドウ**において、指定した端子名は正しくありません(対象デバイスに存在しません)。対象デバイスに存在する端子名を指定してください。

E10700: 端子名が正しくありません。

- 1) **入出力パネル・ウィンドウ**の端子指定において、指定した端子名は正しくありません(対象デバイスに存在しません)。対象デバイスに存在する端子名を指定してください。

E10702: 線の太さが正しくありません。

- 1) **入出力パネル・ウィンドウ**のスタイル設定において、指定した線の太さが不正な数値、または有効範囲(1 ~ 100)外の値です。正しい値を指定してください。

E10703: 保有時間が正しくありません。

- 1) **入出力パネル・ウィンドウ**の入力系部品設定において、指定した保有時間が不正な数値、または有効範囲(0.001 ~ 999)外の値です。正しい値を指定してください。

E10704: 最大入力値が正しくありません。

- 1) **入出力パネル・ウィンドウ**のレベルゲージ設定において、指定した最大入力値が不正な数値、または有効範囲(1 ~ 65535)外の値です。正しい値を指定してください。

E10710: ビットマップのパスが指定されていません。

- 1) **入出力パネル・ウィンドウ**のビットマップ追加において、アクティブ/インアクティブ時のビットマップの一方、または両方が指定されていません。ビットマップ・ファイルを指定してください。

E10711: ビットマップのパスが正しくありません。

- 1) **入出力パネル・ウィンドウ**のビットマップ追加において、指定ビットマップ・ファイルが正しくありません。ファイルの存在、およびファイルの属性を確認してください。

E10740: プログラム実行中です。

- 1) **入出力パネル・ウィンドウ**において、プログラム実行中のため処理を行うことができません。
プログラム実行を停止し操作してください。

E10800: インタフェース・アドレスの値が不正です。

- 1) **シミュレータ・オプション・ダイアログ**において、設定したインタフェース・アドレスが正しくありません。
正しい値を設定してください。

E10900: ボー・レート値が正しくありません。

- 1) **フォーマット設定ダイアログ(UART)**において、指定したボー・レート値が正しい数値ではありません。
デバイスのユーザズ・マニュアルを参照し、適切な範囲内の整数値を指定してください。

E10901: 転送クロック値が正しくありません。

- 1) **フォーマット設定ダイアログ(CSI)**において、指定した転送クロック値が正しい数値ではありません。
デバイスのユーザズ・マニュアルを参照し、適切な範囲内の整数値を指定してください。

E10902: データ・ビット長の設定が正しくありません。

- 1) **フォーマット設定ダイアログ(UART)**、または**フォーマット設定ダイアログ(CSI)**において、指定したデータ・ビット長の設定が有効範囲(32以下の整数値)外の値です。
有効範囲内の整数値を指定してください。

E1ffff: 内部エラーが発生しました。

- 1) 内部エラーが発生しました。製造元に通知してください。

付録 E 総合索引

C

- CPU リセット時の動作
 - 信号データ・エディタ ... 305
 - 接続部品 ... 101
- リセット時の動作
 - タイミング・チャート ... 313

D

- DMM ダイアログ ... 199

G

- g オプション ... 22

I

- I/O ポート追加ダイアログ ... 213

L

- LED 端子接続ダイアログ ... 353

P

- PM plus ... 26

R

- RAM サンプリング機能 ... 67
- Run-Break イベント ... 51

【あ行】

- アクティブ状態とスタティック状態 ... 73
- アスキー表示 ... 171, 185
- アップロード・ダイアログ ... 144
- アドレス指定ダイアログ ... 165
- イベント管理 ... 62
- イベント機能 ... 59
 - イベント設定 ... 60
 - イベント・マネージャ・エリア ... 61
 - 各種イベント条件 ... 59
 - 有効イベント数 ... 62
- イベント詳細表示 ... 259
- イベント・アイコン ... 63
- イベント・ダイアログ ... 264
- イベント・マネージャ ... 258
- イベント・リンク・ダイアログ ... 271
- イベント設定状態 ... 149
- 色の設定ダイアログ ... 374
- インタフェースアドレス ... 323
- ウィンドウ一覧 ... 102
- ウィンドウの書式設定ダイアログ ... 375
- ウィンドウの連結 ... 75
- ウィンドウ・レファレンス ... 102
- ウォッチ機能

一時的表示, 変更 ... 44

データ登録, 削除 ... 43

ウォッチ登録ダイアログ ... 177

ウォッチ変更ダイアログ ... 180

ウォッチ・ウィンドウ ... 169

エラー ... 437

演算子 ... 432

オブジェクト一覧ダイアログ ... 371

オフセット設定 ... 143

【か行】

カーソル位置から実行 ... 41

カーソル位置まで実行 ... 37, 41

拡張ウィンドウ ... 421

拡張オプション設定ダイアログ ... 127

カバレッジ効率 ... 57

カバレッジ効率表示ダイアログ ... 256

カバレッジ条件設定ダイアログ ... 254

カバレッジ測定機能 ... 56

カバレッジ測定範囲 ... 56

カバレッジ範囲選択ダイアログ ... 253

カバレッジ・ウィンドウ ... 245

カバレッジ・クリア・ダイアログ ... 252

カバレッジ・サーチ・ダイアログ ... 249

環境設定ファイル・セーブ・ダイアログ ... 287

環境設定ファイル・ロード・ダイアログ ... 289

キー機能一覧 ... 434

キーマトリクス端子接続ダイアログ ... 346

逆アセンブル・ウィンドウ ... 159

逆アセンブル・サーチ・ダイアログ ... 163

強制読み込み ... 48

クイック・ウォッチ・ダイアログ ... 174

クオリファイ・トレース ... 55, 243

コールバック・プロシジャ ... 384

コマンド ... 296

address ... 388

assemble ... 389

batch ... 390

breakpoint ... 391

dbgexit ... 393

download ... 394

extwin ... 395

finish ... 396

go ... 397

help ... 398

hook ... 399

jump ... 400

map ... 401

mdi ... 402

memory ... 403

module ... 404

next ... 405

refresh ... 406

register ... 407

reset ... 408

run ... 409

step ... 410
 stop ... 411
 upload ... 412
 version ... 413
 watch ... 414
 where ... 415
 wish ... 416
 xcoverage ... 417
 xtime ... 418
 xtrace ... 419
 コマンド一覧 ... 381
 コマンド・ライン ... 380
 コマンド・レファレンス ... 380
 混合表示モード
 ソース・テキスト・ウィンドウ ... 36
 トレース・ウィンドウ ... 53
 コンソール・ウィンドウ ... 296
 コンテキスト・メニュー ... 106
 コンフィグレーション・ダイアログ ... 122

【さ行】

式 ... 431
 システム・レジスタ ... 202
 シミュレーション機能 ... 78
 シミュレーション機能一覧 ... 78
 シミュレーション・モード ... 125
 シミュレータ・オプション・ダイアログ ... 322
 ジャンプ機能 ... 74
 ジャンプ・アドレス ... 282
 周辺 I/O レジスタ選択ダイアログ ... 210
 周辺 I/O レジスタ・ウィンドウ ... 206
 終了確認ダイアログ ... 293
 条件トレース ... 53
 初期化 ... 291
 シリアル送信データ・ファイル (*.ser) ... 93
 シリアル入出力機能 ... 90
 シリアル・ウィンドウ ... 324
 シリアル・ログデータ・ファイル (*.log) ... 91
 信号データ・エディタ・ウィンドウ ... 299
 信号データ・ファイル (*.wvi, *.wvo) ... 81
 進数の範囲 ... 433
 シンボル ... 430
 シンボルの指定方法 ... 166
 シンボル変換ダイアログ ... 166
 スタートアップ・シンボル ... 134
 スタック・トレース表示機能 ... 49
 スタック・トレース・ウィンドウ ... 216
 スタック・フレーム ... 49
 スタブ機能 ... 65
 スタブ機能の流れ ... 66
 スタブ・イベント条件 ... 65
 スタブ・ダイアログ ... 281
 ステータス・バー ... 120
 スナップ・ショット機能 ... 64
 スナップ・ショット・イベント条件 ... 64
 スナップ・ショット・ダイアログ ... 276
 スナップ・データ ... 64
 セクション・トレース ... 55, 242
 セグメント LED 端子接続ダイアログ ... 355
 接続部品の種類 ... 99
 設定ファイル ... 72
 設定ファイルの種類 ... 72

選択モード ... 261, 265, 272
 ソース指定ダイアログ ... 155
 ソース・サーチ・ダイアログ ... 153
 ソース・テキスト・ウィンドウ ... 148
 ソース・パス ... 131
 ソース・ファイル選択ダイアログ ... 297
 測定可能時間 ... 51

【た行】

タイマ機能 ... 50
 タイマ測定結果ダイアログ ... 223
 タイマ・イベント条件 ... 50
 タイマ・ダイアログ ... 220
 タイミング・チャート・ウィンドウ ... 308
 タイムタグ ... 128, 226
 ダウンロード/アップロード機能 ... 34
 ファイルの種類 ... 34
 ロード済みファイルの確認 ... 34
 ダウンロード・ダイアログ ... 141
 タブ・サイズ ... 133
 端子接続ダイアログ ... 367
 端子選択ダイアログ ... 314
 端子入出力機能 ... 79
 端子出力 ... 80
 端子選択 ... 80
 データ検索 ... 81
 通常モード ... 264, 272
 ツール・バー ... 116
 信号データエディタ ... 302
 図形 ... 335
 タイミングチャート ... 311
 部品 ... 335
 ディスエーブル条件 ... 273
 デバッグ環境の設定 ... 32
 マッピング設定 ... 33
 デバッグ機能一覧 ... 31
 デバッガ・オプション設定ダイアログ ... 130
 デイレイ・カウンタ ... 244
 デイレイ・トリガ ... 242
 デイレイ・トリガ・トレース ... 55
 データ検索ダイアログ ... 316
 ドラッグ & ドロップ機能 ... 76
 トレーサ制御モード ... 54
 トレース機能 ... 52
 トレース表示選択ダイアログ ... 236
 トレース・ウィンドウ ... 224
 トレース・サーチ・ダイアログ ... 231
 トレース・ダイアログ ... 241
 トレース・メモリ ... 52
 トレース・モード ... 53

【な行】

名前を付けて保存ダイアログ ... 379
 入出力パネル・ウィンドウ ... 333
 入力規約 ... 429
 入力シミュレーション ... 100

【は行】

バージョン表示ダイアログ ... 295
 パスカウント ... 273

パネル機能 ... 98
 バルーン・ウォッチ機能 ... 44
 ピックアップ ... 238
 ビットマップの追加ダイアログ ... 373
 表示ファイル ... 71
 表示ファイルの種類 ... 71
 表示ファイル・セーブ・ダイアログ ... 283
 表示ファイル・ロード・ダイアログ ... 285
 標準スタイル・タブ ... 343
 標準入出力ウィンドウ ... 318
 標準入出力バッファサイズ変更ダイアログ ... 321
 標準入出力機能 ... 85
 ファイルを開くダイアログ ... 378
 フォーマット設定ダイアログ (CSI) ... 331
 フォーマット設定ダイアログ (UART) ... 329
 フォント選択ダイアログ ... 157
 フォントの指定ダイアログ ... 377
 ブザー端子接続ダイアログ ... 362
 フック・プロシジャ ... 385
 ブルアップ/ブルダウン設定ダイアログ ... 365
 ブレーク
 ブレークの種類 ... 37
 ブレーク・ポイントの設定 ... 38
 変数へのブレーク設定 ... 39
 ブレーク・ダイアログ ... 274
 ブレーク・モード ... 128
 フレーム指定ダイアログ ... 239
 プログラム実行機能 ... 40
 プログラム・コード ... 151
 プログラム・レジスタ ... 202
 プロジェクト・セーブ・レベル ... 129
 プロジェクト・ファイル ... 68, 293
 プロジェクト・ファイルの保存内容 ... 69
 プロジェクト・ファイル・セーブ・ダイアログ ... 137
 プロジェクト・ファイル・ロード・ダイアログ ... 139
 ベリファイ・チェック ... 129
 編集モード ... 339
 ポイント・マーク・エリア ... 149, 160
 ボタン端子接続ダイアログ ... 341

【ま行】

マトリクス LED 端子接続ダイアログ ... 359
 右クリック・メニュー ... 106
 無条件トレース ... 53
 メイン・ウィンドウ ... 107
 メッセージ ... 437
 メッセージの種類 ... 437
 メニュー・バー ... 108
 メモリ操作機能 ... 45
 DMM ... 45
 メモリ比較結果ダイアログ ... 197
 メモリ比較ダイアログ ... 195
 メモリ・ウィンドウ ... 184
 メモリ・コピー・ダイアログ ... 193
 メモリ・サーチ・ダイアログ ... 188
 メモリ・フィル・ダイアログ ... 191
 文字セット ... 429

【や行】

有効イベント数 ... 62

【ら行】

リセット確認ダイアログ ... 291
 ループ設定ダイアログ ... 306
 レジスタ選択ダイアログ ... 204
 レジスタ操作機能 ... 47
 I/O ポート ... 48
 周辺 I/O レジスタ ... 48
 レジスタ ... 47
 レジスタ・ウィンドウ ... 201
 レベルゲージ端子接続ダイアログ ... 349
 ローカル変数ウィンドウ ... 181
 ロード/セーブ機能 ... 68
 ロード・モジュール一覧ダイアログ ... 146

【発 行】

NECエレクトロニクス株式会社

〒211-8668 神奈川県川崎市中原区下沼部1753

電話（代表）：044(435)5111

—— お問い合わせ先 ——

【ホームページ】

NECエレクトロニクスの情報がインターネットでご覧になれます。

URL(アドレス) <http://www.necel.co.jp/>

【営業関係、技術関係お問い合わせ先】

半導体ホットライン

(電話：午前 9:00～12:00, 午後 1:00～5:00)

電 話 : 044-435-9494

E-mail : info@necel.com

【資料請求先】

NECエレクトロニクスのホームページよりダウンロードいただくか、NECエレクトロニクス特約店へお申し付けください。
